一般財団法人米子市文化財団
埋蔵文化財発掘調査報告書 2

一般国道180号（南部バイパス）道路改良工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ

鳥取県西伯郡南部町

# 境北井埼遺跡

２０１３
一般財団法人　米子市文化財団

調査地から大山を臨む

２区ＳＳ２出土赤色塗彩土器

２区ＳＳ９出土ガラス玉

遺構外出土青磁

巻頭図版２

調査地全景（上空から）

# 序

鳥取県西部、秀峰大山の西に位置する南部町は豊かな自然に恵まれた美しい町であります。さらに、古代からの遺跡の宝庫として知られており、山陰屈指の規模を誇る三崎殿山古墳、三角縁神獣鏡の出土した普段寺古墳群など古代人の生活や当時の活発な交流を物語る貴重な遺跡・遺物が数多く存在しています。

当財団では、平成21年度に鳥取県の委託を受け、一般国道180号（南部バイパス）の改良工事に伴い境北井埼遺跡の発掘調査を実施いたしました。

調査の結果、弥生時代後期から古代にかけての集落跡など、数多くの遺構・遺物が確認されました。これらはこの地域の歴史を解明するための貴重な資料になると思われます。

この度、この調査成果をまとめ、発掘調査報告書として刊行することができました。本報告書が、今後、郷土の歴史を解き明かしていく一助となり、埋蔵文化財に対する理解、関心がより深まることを期待しております。

最後になりましたが、今回の発掘調査にあたり、ご理解とご協力をいただきました地元の皆様をはじめ、ご指導・ご助言をいただきました鳥取県西部総合事務所県土整備局ならびに関係各位に対し、心から感謝し、厚く御礼申し上げます。

平成２５年１２月

一般財団法人　米子市文化財団
理　事　長　　杉　原　弘一郎

# 例　　言

1．本報告書は一般国道180号（南部バイパス）道路改良工事に伴い実施した境北井埒遺跡の発掘調査報告書である。

2．発掘調査は、鳥取県の委託を受けて財団法人 米子市教育文化事業団（現　一般財団法人 米子市文化財団）が実施した。

3．本報告書における方位は公共座標北を示し、X、Y、Zの数値は世界測地系に準拠した公共座標第Ⅴ系の座標値である。また、レベルは海抜標高を示す。

4．本報告書に掲載した地図は、国土地理院発行の１／50,000地形図「米子」、及び鳥取県西部総合事務所県土整備局作成の１／1,000「一般国道180号（南部バイパス）道路改良工事平面図」を加筆して使用した。

5．本報告にあたり、剥片石器の鑑定を公益財団法人 鳥取県教育文化財団　北浩明氏に、石器の石材鑑定を鳥取県埋蔵文化財センター　高橋章司氏にお願いした。記して感謝いたします。

6．出土鉄製品のX線写真撮影については、鳥取県埋蔵文化財センターの協力を得た。記して感謝いたします。

7．発掘調査にあたり、調査後の空中写真撮影と地形測量を測量業者に委託した。

8．本報告書に掲載した遺物の実測、浄書は、一般財団法人 米子市文化財団 埋蔵文化財調査室で行った。

9．本報告書で使用した遺構・遺物写真は調査担当職員が撮影した。

10．本報告書の執筆及び編集は高橋が行った。

11．発掘調査によって作成された図面、写真などの記録類は米子市教育委員会、出土遺物は南部町教育委員会で保管している。

12．発掘調査及び報告書作成にあたっては、南部町教育委員会にご指導、ご協力いただいた。明記して深謝いたします。

# 凡　　例

1．遺跡の略称は「ＳＫＺ」とした。

2．本報告書で用いた遺構の略称は以下のとおりであるが、竪穴住居跡の一部には調査時のＳＳを用いた。

ＳＩ、ＳＳ：竪穴住居跡　ＳＳ：段状遺構　ＳＤ：溝状遺構　ＳＫ：土坑、竪穴状遺構

3．本報告書における遺構番号（新）は、発掘調査時のもの（旧）と一部変更した。新旧の遺構名・番号の対応は、目次末尾に付した新旧遺構名対照表に示した。

4．本報告書における遺物の掲載記号、縮尺は以下のとおりである。

番号のみ：土器、土製品　１／４　　Ｓ：石器　１／１、１／４　　Ｆ：鉄製品　１／４

Ｊ：ガラス玉　１／１

5．本文中、挿図中、遺物観察表中及び写真図版中の遺物番号は一致する。

6．遺構図、遺物実測図に用いた網掛け及び記号は、特に説明がない限り以下のとおりである。

：地山　：貼床　：焼土　：赤色塗彩範囲　：石器被熱範囲

●：土器出土ポイント　▲：石器出土ポイント　■：ガラス玉出土ポイント

7．遺物実測図のうち、須恵器は断面黒塗りとし、それ以外は白抜きで示した。また、遺物実測図中における記号は以下のとおりである。

→：ケズリの方向　　↔：研磨範囲

8．ピット計測表の法量記載における（　）は現存値を示す。

9．遺物観察表の法量記載における※は推定復元値、△は現存値を示す。

10．本報告書における遺構、遺物の時期決定には下記の参考文献を参照した。

参考文献

清水真一 1992「因幡・伯耆地域」『弥生土器の様式と編年－山陽・山陰編－』木耳社

牧本哲夫 1999「古墳時代の土器について」『長瀬高浜遺跡Ⅷ・園第６遺跡』財団法人鳥取県教育文化財団

田辺昭三 1966『陶邑古窯址群』平安学園考古学クラブ

角田徳幸 2003「奈良・平安時代の施設群」『史跡出雲国府跡１』島根県教育委員会

# 目　　次

序
例　言
凡　例
目　次

第１章　調査の経緯と経過
第１節　調査に至る経緯 …… 1
第２節　調査の経過と方法 …… 2
１．調査区の名称 …… 2
２．調査の経過 …… 2
３．調査の方法 …… 3
第３節　整理作業の経過 …… 4
第４節　調査体制 …… 4

第２章　位置と環境
第１節　地理的環境 …… 5
第２節　歴史的環境 …… 6

第３章　調査の成果
第１節　遺跡の立地と調査地内の土層堆積 …… 10
１．遺跡の立地 …… 10
２．調査地内の土層堆積 …… 10
第２節　縄文時代の調査 …… 17
１．概　　要 …… 17
２．検出した遺構と遺物 …… 17
第３節　弥生時代後期から古墳時代前期の調査 …… 18
１．概　　要 …… 18
２．検出した遺構と遺物 …… 18
（１）Ａ群 …… 18
（２）Ｂ群 …… 26
（３）Ｃ群 …… 30
（４）Ｄ群 …… 32
（５）Ｅ群 …… 40

第４節　古墳時代後期の調査 …… 46
１．概　　要 …… 46
２．検出した遺構と遺物 …… 46
（１）竪穴住居跡 …… 46
（２）段状遺構 …… 62
（３）掘立柱建物跡 …… 77
（４）土　　坑 …… 79
第５節　古代の調査 …… 80
１．概　　要 …… 80
２．検出した遺構と遺物 …… 80
（１）竪穴住居跡 …… 80
（２）段状遺構 …… 83
（３）掘立柱建物跡 …… 86
第６節　時期不明の遺構 …… 87
第７節　ピット出土遺物 …… 87
第８節　遺構外出土遺物 …… 88

第４章　総　　括 …… 95

遺物観察表 ……102
写真図版 …… 図版１～53

**新旧遺構対照表**

| 新 | 旧 |
|---|---|
| 2区　SI7 | 2区　SI2 |
| 2区　SI8 | 2区　SI2 |
| 2区　SS11 | 2区　SD3 |
| 3区　SS3 | 3区　SI4 |
| 3区　SS3 | 3区　SI5 |
| 3区　SS3 | 3区　SI6 |

# 挿図目次


第１図　調査地位置図 …… 1
第２図　調査区配置図 …… 2
第３図　３区グリッド設定図 …… 3
第４図　遺跡位置図 …… 5
第５図　周辺遺跡分布図 …… 9
第６図　調査前地形測量図 …… 11
第７図　２区土層図 …… 12
第８図　３区土層図 …… 14
第９図　遺構全体図 …… 15
第10図　縄文時代の遺構分布図 …… 16
第11図　２区ＳＫ５ …… 17
第12図　２区ＳＫ５出土遺物 …… 17
第13図　弥生時代後期～古墳時代前期の遺構分布図 …… 19
第14図　２区ＳＳ１８ …… 20
第15図　２区ＳＩ１ …… 20
第16図　２区ＳＩ１出土遺物 …… 20
第17図　２区ＳＩ３ …… 21
第18図　２区ＳＩ３出土遺物 …… 22
第19図　２区ＳＩ７ …… 23
第20図　２区ＳＩ７出土遺物 …… 24
第21図　２区ＳＩ８ …… 25
第22図　２区ＳＩ８出土遺物 …… 26
第23図　２区ＳＳ３ …… 27
第24図　２区ＳＳ３出土遺物 …… 28
第25図　２区ＳＫ１ …… 28
第26図　２区ＳＫ１出土遺物 …… 29
第27図　２区ＳＫ２・３、ＳＤ２ …… 29
第28図　２区ＳＫ２出土遺物 …… 30
第29図　２区ＳＳ４・５ …… 31
第30図　２区ＳＳ４・５出土遺物 …… 31
第31図　２区ＳＳ１ …… 33
第32図　２区ＳＳ１出土遺物 …… 34
第33図　２区ＳＳ１７、ＳＢ５ …… 35
第34図　２区ＳＳ１７出土遺物 …… 36
第35図　２区ＳＳ１５・１６、ＳＩ１３ …… 37
第36図　２区ＳＳ１５出土遺物 …… 38
第37図　２区ＳＳ１６出土遺物 …… 39
第38図　２区ＳＩ１３変遷図 …… 39
第39図　３区ＳＩ３Ａ …… 41
第40図　３区ＳＩ３Ａ出土遺物 …… 41
第41図　３区ＳＩ３Ｂ …… 42
第42図　３区ＳＩ３Ｂ出土遺物（１）…… 43
第43図　３区ＳＩ３Ｂ出土遺物（２）…… 44
第44図　３区ＳＩ８・１２ …… 45
第45図　３区ＳＩ８出土遺物 …… 45
第46図　古墳時代後期の遺構分布図 …… 47
第47図　２区ＳＩ６ …… 48
第48図　２区ＳＩ６出土遺物 …… 48
第49図　２区ＳＩ１４ …… 49
第50図　２区ＳＩ１４出土遺物 …… 50
第51図　２区ＳＩ５・１２ …… 51
第52図　２区ＳＩ５出土遺物 …… 51
第53図　２区ＳＩ９・１０ …… 53
第54図　２区ＳＩ９出土遺物 …… 53
第55図　２区ＳＩ１０出土遺物 …… 53
第56図　２区ＳＩ１５ …… 54
第57図　２区ＳＳ１３ …… 54
第58図　２区ＳＳ１３出土遺物 …… 55
第59図　３区ＳＩ１・２ …… 56
第60図　３区ＳＩ１出土遺物 …… 56
第61図　３区ＳＩ２出土遺物 …… 57
第62図　３区ＳＩ１０ …… 58
第63図　３区ＳＩ１０出土遺物 …… 58
第64図　３区ＳＩ７・９ …… 59
第65図　３区ＳＩ７出土遺物 …… 60
第66図　３区ＳＩ９出土遺物 …… 61
第67図　３区ＳＩ１２出土遺物 …… 62
第68図　２区ＳＳ１０・１４ …… 63

第69図　２区ＳＳ１０出土遺物 …… 63
第70図　２区ＳＳ１４出土遺物 …… 63
第71図　２区ＳＳ６・９ …… 64
第72図　２区ＳＳ６出土遺物 …… 65
第73図　２区ＳＳ７ …… 66
第74図　２区ＳＳ７出土遺物 …… 66
第75図　２区ＳＳ８ …… 67
第76図　２区ＳＳ８出土遺物（１）…… 69
第77図　２区ＳＳ８出土遺物（２）…… 70
第78図　２区ＳＳ９出土遺物 …… 71
第79図　２区ＳＳ１１・１２ …… 73
第80図　２区ＳＳ１１出土遺物 …… 73
第81図　３区ＳＳ１ …… 74
第82図　３区ＳＳ１出土遺物 …… 74
第83図　３区ＳＳ２・３、ＳＢ１・２…… 75
第84図　３区ＳＳ２出土遺物 …… 77
第85図　３区ＳＳ３出土遺物 …… 78
第86図　３区ＳＢ１出土遺物 …… 79
第87図　３区ＳＢ２出土遺物 …… 79
第88図　３区ＳＫ１ …… 79
第89図　３区ＳＫ１出土遺物 …… 79
第90図　古代の遺構分布図 …… 81
第91図　２区ＳＩ１１ …… 82
第92図　２区ＳＩ１１出土遺物 …… 82
第93図　２区ＳＳ２、ＳＢ１～４ …… 84
第94図　２区ＳＳ２出土遺物 …… 85
第95図　２区ＳＤ４ …… 87
第96図　ピット出土遺物 …… 87
第97図　遺構外出土遺物（１）…… 89
第98図　遺構外出土遺物（２）…… 90
第99図　遺構外出土遺物（３）…… 91
第100図 遺構外出土遺物（４）…… 92
第101図 遺構外出土遺物（５）…… 93
第102図 遺構外出土遺物（６）…… 94
第103図 弥生時代後期～古墳時代前期の
遺構変遷図 …… 96
第104図 古墳時代後期の遺構変遷図 …… 99

# 挿表目次

第１表　２区ＳＩ３ピット計測表 …… 21
第２表　２区ＳＩ７ピット計測表 …… 24
第３表　２区ＳＩ８ピット計測表 …… 25
第４表　２区ＳＳ３ピット計測表 …… 26
第５表　２区ＳＫ１ピット計測表 …… 28
第６表　２区ＳＳ１ピット計測表 …… 33
第７表　２区ＳＳ17ピット計測表 …… 35
第８表　２区ＳＳ15ピット計測表 …… 38
第９表　２区ＳＳ16ピット計測表 …… 38
第10表　２区ＳＩ13ピット計測表 …… 40
第11表　３区ＳＩ３Ａピット計測表 …… 41
第12表　３区ＳＩ３Ｂピット計測表 …… 41
第13表　２区ＳＩ６ピット計測表 …… 46
第14表　２区ＳＩ14ピット計測表 …… 49
第15表　２区ＳＩ５ピット計測表 …… 52
第16表　２区ＳＩ12ピット計測表 …… 52
第17表　２区ＳＩ10ピット計測表 …… 53
第18表　２区ＳＩ15ピット計測表 …… 54
第19表　２区ＳＳ13ピット計測表 …… 54
第20表　３区ＳＩ１ピット計測表 …… 55
第21表　３区ＳＩ２ピット計測表 …… 57
第22表　３区ＳＩ10ピット計測表 …… 57
第23表　３区ＳＩ７ピット計測表 …… 58
第24表　３区ＳＩ９ピット計測表 …… 61
第25表　２区ＳＳ10・14ピット計測表 … 62
第26表　２区ＳＳ６ピット計測表 …… 63
第27表　２区ＳＳ７ピット計測表 …… 66
第28表　２区ＳＳ８ピット計測表 …… 68

第29表　２区ＳＳ９ピット計測表　…… 72
第30表　２区ＳＳ11ピット計測表　…… 73
第31表　２区ＳＳ12ピット計測表　…… 73
第32表　３区ＳＳ１ピット計測表　…… 74
第33表　３区ＳＳ２・３ピット計測表　… 76
第34表　２区ＳＩ11ピット計測表　…… 80
第35表　２区ＳＳ２ピット計測表　…… 83
第36表　土器・土製品・磁器観察表　…… 102
第37表　石器観察表　…… 119
第38表　鉄製品観察表　…… 119

# 図版目次

巻頭図版１　調査地から大山を臨む
２区ＳＳ２出土赤色塗彩土器
２区ＳＳ９出土ガラス玉
遺構外出土青磁
巻頭図版２　調査地全景
図版１　２・３区調査前
２区調査前
図版２　２区調査前
３区調査前
図版３　２区調査前
２区調査前
図版４　調査地遠景
調査地遠景
図版５　調査地全景
調査地全景
図版６　２区ＳＩ１・３・７・８、ＳＳ３・４・５・18、ＳＫ１・２・３、ＳＤ２
２区ＳＩ６、ＳＳ３・４・５、ＳＫ１・２・３、ＳＤ２
図版７　２区東側斜面全景
２区ＳＩ13、ＳＳ１・15・16・17
図版８　２区ＳＩ５・11・12、ＳＳ２
２区ＳＩ９・10・15、ＳＳ６～９・11・12・13
図版９　３区全景
３区全景
図版10　２区ＳＫ５
２区ＳＩ１
２区ＳＩ３
図版11　２区ＳＩ７・８
２区ＳＩ７
２区ＳＩ８
図版12　２区ＳＫ１
２区ＳＫ２・３、ＳＤ２
２区ＳＫ３
図版13　２区ＳＳ４・５
２区ＳＳ４土器出土状況
２区ＳＳ１・15・16・17、ＳＩ13
２区ＳＳ１
図版14　２区ＳＳ17
２区ＳＳ15・16、ＳＩ13
２区ＳＳ16、ＳＩ13
図版15　３区ＳＩ３Ａ
３区ＳＩ３Ｂ
３区ＳＩ３Ｂ
図版16　３区ＳＩ３Ｂ特殊ピット土器出土状況
３区ＳＩ３Ｂ特殊ピット土器出土状況
３区ＳＩ３Ｂ特殊ピット完掘
図版17　２区ＳＩ６
２区ＳＩ14
２区ＳＩ14Ｐ５～７

図版18　２区ＳＩ５
　　２区ＳＩ５・12
　　２区ＳＩ12
図版19　３区ＳＩ１
　　３区ＳＩ１・２
　　３区ＳＩ１・２・10
図版20　３区ＳＩ７・９
　　３区ＳＩ７
　　３区ＳＩ７土器出土状況
　　３区ＳＩ９
図版21　３区ＳＩ12
　　２区ＳＳ10
　　２区ＳＳ10・14
図版22　２区ＳＳ６～９
　　２区ＳＳ６～９
図版23　２区ＳＳ７
　　２区ＳＳ８
　　２区ＳＳ11・12
図版24　３区ＳＳ２・３、ＳＩ７・９
　　３区ＳＳ２・３、ＳＩ７・９
図版25　３区ＳＫ１
　　３区ＳＫ１土器出土状況
　　２区ＳＩ11Ａ
　　２区ＳＩ11Ｂ
図版26　２区ＳＳ２
　　２区ＳＳ２
図版27　２区ＳＢ１～３
　　２区ＳＢ４
　　２区ＳＤ４
図版28　２区ＳＫ５出土遺物
　　２区ＳＩ１出土遺物
　　２区ＳＩ３出土石器
図版29　２区ＳＩ３出土遺物（１）
　　２区ＳＩ３出土遺物（２）
図版30　２区ＳＩ７出土遺物
　　２区ＳＩ８出土遺物
図版31　２区ＳＳ３出土土器
　　２区ＳＳ３出土石器
　　２区ＳＫ１出土土器
　　２区ＳＫ１出土石器
　　２区ＳＫ２出土石器
　　２区ＳＳ４・５出土遺物
図版32　２区ＳＳ１出土土器（１）
　　２区ＳＳ１出土土器（２）
　　２区ＳＳ１出土石器
図版33　２区ＳＳ15出土遺物（１）
　　２区ＳＳ15出土遺物（２）
図版34　２区ＳＳ16出土遺物
　　２区ＳＳ17出土遺物
　　３区ＳＩ３Ａ出土遺物
図版35　３区ＳＩ３Ｂ出土土器（１）
　　３区ＳＩ３Ｂ出土土器（２）
図版36　３区ＳＩ３Ｂ特殊ピット出土遺物
　　３区ＳＩ３Ｂ出土石器
　　３区ＳＩ８出土遺物
図版37　２区ＳＩ６出土遺物
　　２区ＳＩ14出土遺物
　　(154底部穿孔拡大)
　　２区ＳＩ14出土遺物
図版38　２区ＳＩ５出土遺物
　　２区ＳＩ９出土遺物
　　２区ＳＩ10出土遺物
　　２区ＳＳ13出土遺物
図版39　３区ＳＩ１出土遺物
　　３区ＳＩ２出土遺物
　　３区ＳＩ10出土遺物
　　３区ＳＩ７出土遺物（１）
　　３区ＳＩ７出土遺物（２）
　　３区ＳＩ９出土土器
　　３区ＳＩ９出土石器

図版40　３区ＳＩ12出土土器
３区ＳＩ12出土石器
２区ＳＳ10出土遺物
２区ＳＳ14出土遺物
２区ＳＳ６出土遺物（１）
図版41　２区ＳＳ６出土遺物（２）
２区ＳＳ６出土遺物（３）
２区ＳＳ６出土石器
２区ＳＳ７出土遺物
２区ＳＳ８出土尖頭器
図版42　２区ＳＳ８出土遺物（１）
２区ＳＳ８出土遺物（２）
図版43　２区ＳＳ８出土遺物（３）
２区ＳＳ９出土遺物
図版44　２区ＳＳ11出土遺物
３区ＳＳ１出土遺物
３区ＳＳ２出土遺物
図版45　３区ＳＳ３出土遺物（１）
３区ＳＳ３出土遺物（２）
図版46　３区ＳＢ１出土遺物
３区ＳＢ２出土遺物
３区ＳＫ１出土遺物
２区ＳＩ11出土遺物
図版47　２区ＳＳ２出土土器（１）
２区ＳＳ２出土土器（２）
２区ＳＳ２出土土器
(334底部内面線刻拡大)
２区ＳＳ２出土石器
図版48　２区ＳＳ２出土土器（３）
遺構外出土土器（１）
図版49　遺構外出土土器（２）
遺構外出土土器（３）
図版50　遺構外出土土器（４）
遺構外出土土器（５）
図版51　遺構外出土土器（６）
遺構外出土土器（７）
図版52　遺構外出土土器（８）
遺構外出土移動式竈
遺構外出土土玉
遺構外出土青磁
図版53　遺構外出土鉄鑿
鉄鑿Ｘ線写真
鉄鑿柄部拡大
遺構外出土石器（１）
遺構外出土石器（２）
遺構外出土石器（３）

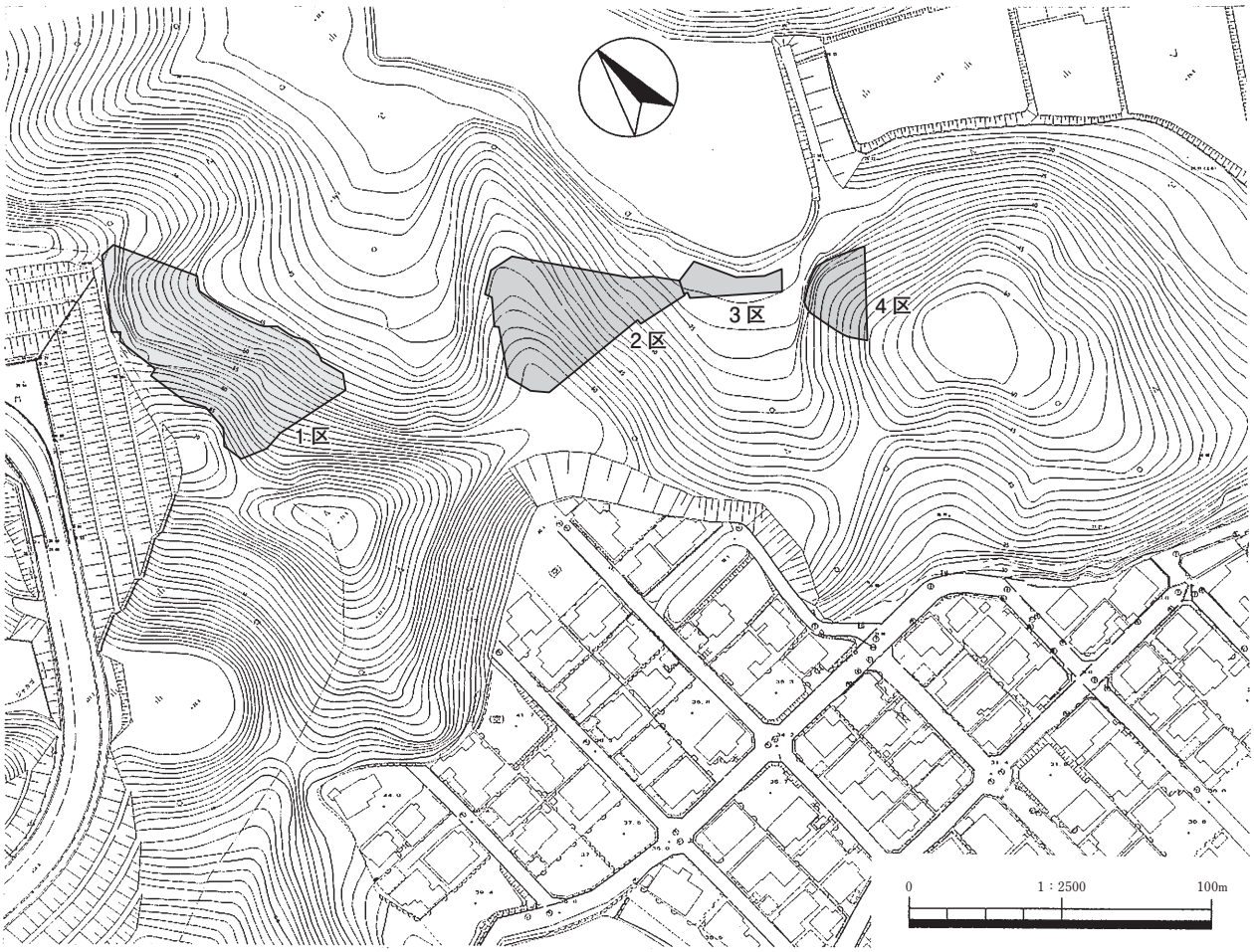
# 第１章　調査の経緯と経過

## 第１節　調査に至る経緯

本発掘調査は、平成21年度に一般国道180号（南部バイパス）道路改良工事を原因とし、鳥取県西伯郡南部町境地内の工事予定地内に存在する埋蔵文化財について実施したものである。

工事予定地内は周知の遺跡として認識されてはいなかったため、工事に先立って工事予定地内の遺跡の有無及びその範囲を確認する必要が生じた。そのため平成19年度に南部町教育委員会が試掘調査を実施したところ、竪穴住居跡と段状遺構が確認され、弥生土器、土師器、須恵器、石器が出土し、遺跡の存在が確認された。

この結果を受け､鳥取県西部総合事務所と南部町教育委員会は遺跡の取り扱いについて協議を行い、発掘調査が必要との判断に至った。このことに基づき、鳥取県西部総合事務所は文化財保護法第94条に基づく発掘通知を鳥取県教育委員会に提出し、事前発掘の指示を受けた。そのため、鳥取県西部総合事務所は発掘調査を南部町教育委員会に依頼したが、南部町教育委員会は、体制上、発掘調査は困難であるという回答を行った。そのため、協議の結果、鳥取県西部総合事務所は、財団法人米子市教育文化事業団（平成25年４月１日に一般財団法人米子市文化財団に改称）に調査を委託することとなり、当財団は鳥取県教育委員会に文化財保護法第92条に基づく発掘届を提出し、当財団埋蔵文化財調査室が調査を実施した。



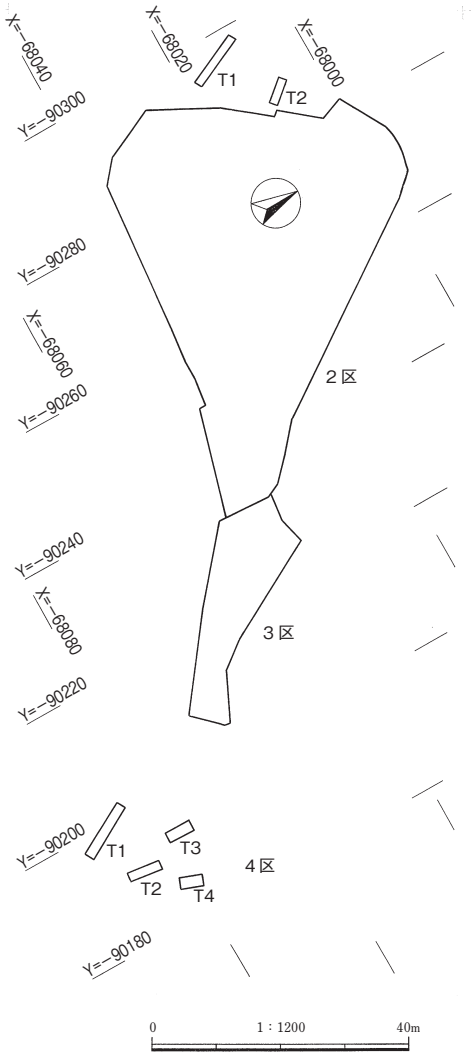

第１図　調査地位置図

## 第２節　調査の経過と方法

### １．調査区の名称

境北井埒遺跡は、南西から北東へ派生する３つの丘陵とこれに挟まれた谷部に位置する。このうち、最も北西側に位置する丘陵は、平成20年度に南部町教育委員会によって発掘調査が行われており、弥生時代後期の段状遺構が確認されている。

今回の調査の対象地は、中央に位置する丘陵と南東側に位置する丘陵、そしてこれらに挟まれた谷部に位置し、調査区名は、南部町教育委員会による調査地を１区、中央の丘陵を２区、南東側の丘陵を４区、２区と４区の丘陵に挟まれた谷部を３区とした。(第１・２図)



第２図　調査区配置図

### ２．調査の経過

調査地は２つの丘陵とこれに挟まれた谷部に位置し、排土の場外搬出ができないため、排土置場を確保する必要が生じた。当初は、事業地内で調査対象地外である２区の北西側の谷部を排土置場予定地としたが、谷奥からの流水が著しく、事業地外への土砂の流出が懸念されたため、この谷を利用することを断念した。

そのため排土置場として２区の北西側斜面を候補地とし、ここにトレンチを２ヶ所設定し（第２図)、調査を行った。その結果、遺構、遺物は検出されず、ここまでは遺跡の範囲が及ばないと判断し、本調査から除外し、この部分を排土置場とした。しかし、この部分だけでは容量が限られており、調査地全体の排土を置くことは不可能であるため、これに加えて３区を排土置場とすることとした。そのため、３区の調査を優先的に進めながら、これと並行して２区の調査も行うこととした。

現地の発掘調査は平成21年10月５日に着手した。

まず、調査に先立ち、調査前の地形測量を調査員と嘱託職員、調査補助員により10月５日から10月13日にかけて行った。

地形測量が終了した後、10月15日から10月22日にかけて重機により３区の表土掘削を行い、10月21日から発掘作業員が稼働した。

まず、排土置場を確保するために、10月21日から10月23日にかけて２区の北西側斜面にトレンチを２ヶ所設定して調査を行った。その結果、遺構、遺物とも検出されなかったので、この部分の調査は終了した。

10月23日からは３区の包含層の掘削及び遺構検出作業に着手した。11月5日には包含層の掘削作業が終了し、11月６日からは遺構検出及び遺構掘削作業に着手した。３区は調査面積が狭く、３区の

調査と並行して11月9日からは２区の包含層の掘削及び遺構検出作業に着手した。

２区の重機による表土掘削は10月28日から行っており、斜面の上部から下部へと表土掘削を行いながら、これと並行して人力による包含層の掘削及び遺構の検出を行った。排土は重機により斜面の上部から下部へと順次送るという方法をとり、最終的には調査が先に終了する３区を排土置場とすることとした。

また、２区と３区の調査と並行して12月15日から12月24日にかけて４区の調査を行った。４区は試掘調査が行われておらず、遺跡の存在が明らかにはなっていなかった。また、急斜面であるうえに斜面裾部が土取りによって大きく改変を受けていたため、トレンチを４ヶ所設定して（第２図）調査を行った。その結果、遺構、遺物とも検出されず、遺跡の範囲が及ばないと判断し、本調査は行わずに４区の調査は終了した。

３区の調査は平成22年1月６日に終了し、その後、３区を２区の排土置場とした。２区の調査は引き続き実施し、３月12日には調査後の空中写真撮影、３月22日から３月23日には業者委託により調査後の地形測量を行い、３月30日にすべての調査が終了した。

なお、３月18日には記者発表を行い、３月20日には現地説明会を実施した。当日は天候にも恵まれ、81名の参加があった。

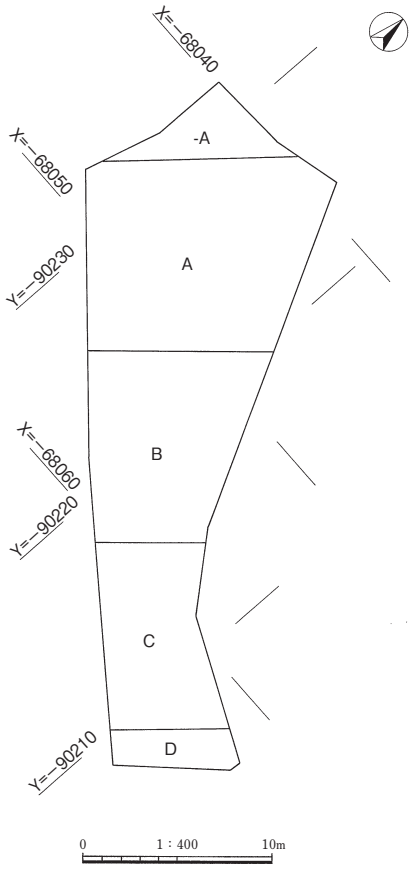
## ３．調査の方法

遺構の検出にあたっては、南部町教育委員会が実施した試掘調査の結果から、２区、３区とも遺構面が１面のみであると判断されたが、３区は谷部に位置し、さらに遺構面の存在が想定されたので、これを再確認するために重機による表土掘削が終了した後、調査区際に排水処理と土層観察を兼ねた溝を掘削した。その結果、試掘調査の結果のとおり遺構面が１面であることを再確認し、遺構面まで人力にて包含層を掘削して遺構を検出した。

検出した遺構は、原則としてトータルステーションを用いて記録、図化し、必要に応じて実測した。

出土遺物は、包含層から出土したものは、２区では斜面地形を反映して遺構外での出土が少なかったため、任意に一括して取り上げた。また、３区は調査区の主軸に沿うように10ｍ画のグリッドを設定し（第３図）、層位及びグリッド毎に一括して取り上げた。グリッド名は、北西から南東にかけて順にアルファベットを付し、－Ａ～Ｄとした。遺構内から出土した遺物は、一括して取り上げたが、時期判断が可能なものや特徴的な遺物については、出土位置を記録して取り上げた。

現地での写真撮影は35mm判カメラを用い、モノクロフィルムとカラーポジフィルムで撮影し、カラーネガフィルムを用いたコンパクトカメラとデジタルカメラで補足撮影した。



第３図　３区グリッド設定図

## 第３節　整理作業の経過

平成21年度は、現地調査と並行して、出土遺物の洗浄の一部を行った。

平成22年度は、出土遺物の洗浄、注記を行った後、遺物を器種、出土遺構、出土層位毎に分別し、接合を行った。その後、実測遺物を抽出し、実測を行った。

平成23年度は、当事業に係る他遺跡の発掘調査とその整理作業を優先させたため、当遺跡の整理作業は実施しなかった。

平成24年度は、遺構及び遺物のトレース、版下の作成、出土遺物の写真撮影を行った。

平成25年度は、原稿の執筆と編集を行い、平成25年12月27日に報告書を刊行した。

## 第４節　調査体制

平成21年度

調査主体　財団法人　米子市教育文化事業団

理　事　長　杉原弘一郎

常 務 理 事　中村智至（財団法人米子市教育文化事業団事務局長）

埋蔵文化財調査室

室　　長　長谷川明洋（米子市教育委員会文化課長）

事　務　長　小原貴樹

非常勤職員　田中昌子（事務員）

調査担当　埋蔵文化財調査室

主任調査員　高橋浩樹

調　査　員　小原貴樹（事務長兼務）

嘱　　託　秦　美香　森田静香

平成22～25年度

事業主体　財団法人　米子市教育文化事業団（平成22～24年度）

一般財団法人　米子市文化財団（平成25年４月１日に改称）

理　事　長　杉原弘一郎

常 務 理 事　中村智至（平成22～24年度：当事業団事務局長）

（平成25年度：当財団事務局長）

埋蔵文化財調査室

室　　長　角　昌之（米子市教育委員会文化課長　～平成24年３月31日）

岡　雄一（米子市教育委員会文化課長　平成24年４月１日～）

事　務　長　小原貴樹

非常勤職員　田中昌子（事務員）

事業担当　埋蔵文化財調査室

主任調査員　高橋浩樹

嘱　　託　秦　美香

# 第２章　位置と環境

## 第１節　地理的環境

境北井埼遺跡は、鳥取県西伯郡南部町境に所在する。平成16年10月１日に西伯町と会見町が合併して誕生した南部町は、鳥取県の西部に位置し、北は米子市、東は伯耆町、南は日野町、日南町、西は島根県安来市に接している。面積は114.03㎢、人口は約11,600人である。

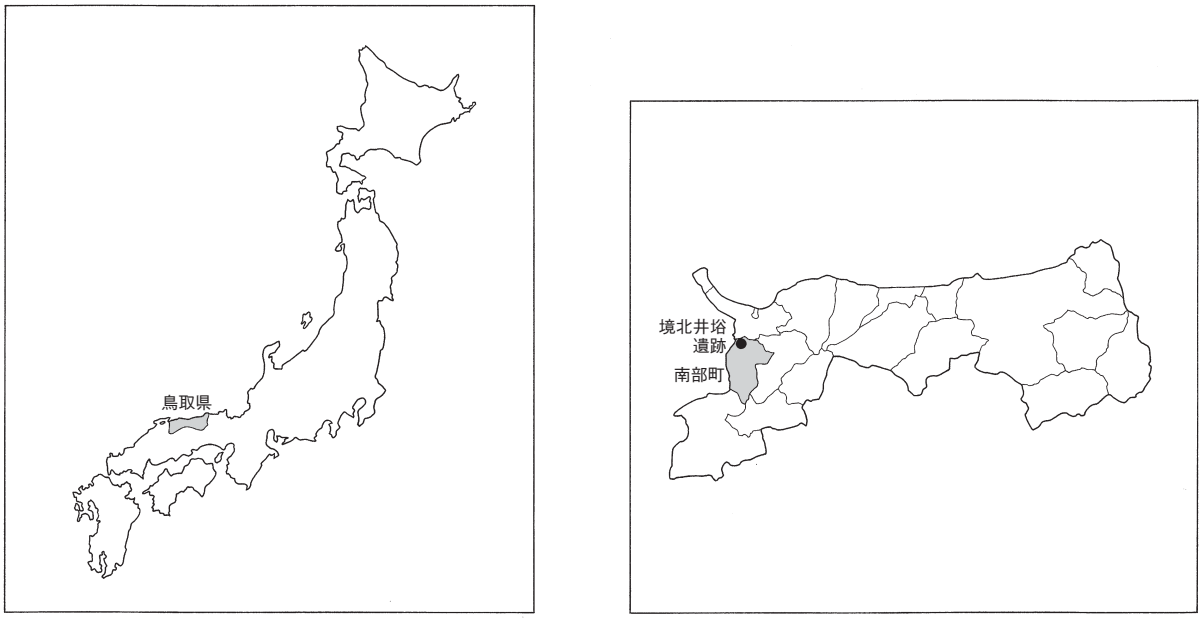
地形的には東、南、西側にある山稜が、法勝寺川及び小松谷川水系をＹ字型に囲み、米子市に接する北側が平野となって開ける南高北低の地形をしており、町域の大部分が山岳地域で、法勝寺川ならびに小松谷川によってもたらされた肥沃な沖積地に集落の大半が形成されている。

法勝寺川は粗粒花崗岩山地に発源し、上流部は急流で浸蝕が進み、中流部の南部町鴨部、能竹の辺りからは、急に緩流となり花崗岩の風化、崩落した砂礫、表土を流送・堆積して中下流部に幅広い河谷低地（法勝寺低地）を発達させている。

法勝寺低地は上流山地から運ばれた花崗岩質粗粒堆積物からなり、水はけがよく、現法勝寺川流路に沿って自然堤防が発達し、耕作地が多い。なお、低地の周縁に青灰色粘土からなる海抜20～30ｍの低い台地があるが、これは大山火山噴出物による堰止湖に由来する湖成段丘である。

低地周縁の支谷では、両側の山腹からでる小河川の小扇状地や崖錐などの流下物が両側の丘陵裾部に並んで陸上堆積物の様相を呈している。

境北井埼遺跡は、法勝寺川中流域の左岸に位置し、鳥取・島根県境の母塚山（標高272ｍ）から北東へのびる丘陵からさらに南東に派生する支丘陵とこれを開折する小谷部に位置している。なお、この支丘陵の先端には境矢石遺跡が位置する。




第４図　遺跡位置図

## 第２節　歴史的環境

### 旧石器時代

南部町域ではこれまでに旧石器時代の遺構は確認されていない。米子平野南縁に位置する長者原台地の諏訪西山ノ後遺跡（73）では、ローム層中から頁岩製のナイフ形石器が１点出土し、古墳の周溝からもナイフ形石器が１点出土している。また、坂長村上遺跡（72）では、ローム漸移層からであるが、黒曜石製のナイフ形石器が１点出土している。

### 縄文時代

草創期には、これまでは大山北、西麓を中心に尖頭器が発見されていたが、法勝寺川左岸の福成石佛前遺跡（20）や境矢石遺跡（17）、境北井埒遺跡（16）、吉谷亀尾ノ上遺跡（３）、奈喜良遺跡（１）、法勝寺川右岸の諸木遺跡（69）などでも発見され、さらに近年、長者原台地や越敷山山麓からも出土しており、その分布範囲は広がりつつある。

早期は、大山西麓の台地上の小河川流域に押形文土器を出土する遺跡が多く分布するが、近年の調査で法勝寺川左岸の清水谷遺跡（24）や新山山田遺跡（７）、東長田川流域の今長龍徳遺跡や八金小ブケ遺跡、八金清水田遺跡などでも押形文土器が出土しており、八金小ブケ遺跡では住居跡も確認されている。

前期には、大山西麓では早期から継続する遺跡が多く、その一方、中海沿岸では早期末～前期初頭になると集落が形成され始め、大山西麓から中海沿岸の低湿地への進出が窺える。南部町域では、法勝寺川最上流域の河岸段丘上に営まれた早田第１遺跡で住居跡が確認され、条痕文土器と爪形文土器が出土している。

中期の様相は明確ではないが、後期になると米子平野周辺の丘陵上に遺跡が形成されるようになる。この時期の遺跡には、早田第２遺跡と口朝金遺跡（61）があり、早田第２遺跡では石器製作段階で生じる多量の安山岩剥片や石囲炉、漆塗土器が出土している。口朝金遺跡では後期と晩期の土器とともに石斧や石鏃が多量に出土している。また、後期から晩期にかけて丘陵や山岳地域では落し穴が多数確認され、青木遺跡（74）では228基、越敷山遺跡群（67）では341基が確認されている。

晩期になると口朝金遺跡や才ノ木遺跡（38）、枇杷谷遺跡（37）、金田堂ノ脇遺跡（57）、三崎遺跡、高姫五反田遺跡、浅井遺跡、絹屋遺跡、馬場遺跡、落合遺跡、福成早里遺跡（19）、福成石佛前遺跡など、丘陵裾部の平野部でも遺跡が確認されるようになる。枇杷谷遺跡ではドングリ貯蔵穴が確認され、口朝金遺跡からは、ほぼ完全な注口土器が出土している。また、田住枕田遺跡からは人面土器が出土している。人面土器は、外面に高い鼻と丸く空いた口を表現し、眉には刻みを入れた粘土紐が貼り付けられている。

### 弥生時代

前期の遺跡としては、諸木遺跡、天王原遺跡（53）、清水谷遺跡が知られており、これらは低丘陵上に立地する集落跡でＶ字状の環濠が巡る。Ｖ字状の環濠は続く中期の宮尾遺跡（43）でも確認されており、当地は県下でも有数の環濠が集中する地域といえる。

中期の遺跡としては宮前遺跡（46）、天万遺跡（44）、浅井土居敷遺跡（48）、清水谷遺跡、境矢石遺跡、

天王原遺跡、越敷山遺跡群、鶴田合清水遺跡などがあり、その立地範囲も拡大し、丘陵や台地上、高原地域にまで見られるようになる。浅井土居敷遺跡では、中期中葉の竪穴住居跡内で検出された方形土坑から丹塗りの台付注口土器をはじめ黒漆塗りの甕、ガラス玉等、玉類約50個体分や焼けただれた土器片が多数出土している。また、柱穴からは銅釧も出土している。清水谷遺跡では３基の土壙墓が確認され、このうちの１基は標石を伴い、15点の石鏃が出土している。宮前遺跡では36基の木棺墓や貯蔵穴が検出され、境矢石遺跡では前期後葉～中期の木棺墓と土壙墓が確認されている。鶴田合清水遺跡からは、中期後葉の土器と石器が住居跡から一括して出土している。

後期の遺跡は中期から継続して営まれるものが多く、青木遺跡や福市遺跡（75）、越敷山遺跡群では住居跡が多数確認されており、拠点的な集落として展開している。また、この時期には遺跡は低地から低丘陵上に移動するようになり、このような遺跡には、前葉の福成石佛前遺跡や中葉以降の清水谷遺跡、北福王寺遺跡（28）、倭孫谷山遺跡（32）、竹山遺跡（29）、北方廣畑遺跡（26）、諸木遺跡、荻名第５遺跡、八金小ブケ遺跡、八金清水田遺跡などがあるが、これらはごく短期間で廃絶する。天萬土井前遺跡（42）では終末期から古墳時代初頭にかけての土器溜りが検出されており、良好な一括資料が出土している。朝金小チヤ遺跡では末葉に比定される墳丘墓が確認され、田住松尾平遺跡（64）からは小型の仿製鏡が出土している。

**古墳時代**

前期の古墳には普段寺古墳群（41）がある。１号墳は全長23ｍの前方後方墳で、その規模はこの時期としては西伯耆最大を誇る。１号墳からは三角縁唐草文帯二神二獣鏡が出土しており、これは島根県安来市大成古墳、大阪府伝鎌足塚古墳出土の鏡と同笵である。２号墳は径22～23ｍの円墳と考えられ、三角縁四神四獣鏡が出土している。

中期になると三崎殿山古墳（39）や浅井11号墳（47）、後埒山古墳（68）、福成春日山古墳（21）など、全長40ｍを越える前方後円墳が築造されている。三崎殿山古墳は全長108ｍ、後円部径58ｍを測り、山陰地方でも最大級の規模を誇る。浅井11号墳は30基近い円墳で構成される浅井古墳群の盟主的な古墳で、全長45ｍを測り、後円部からは画文帯神獣鏡が出土している。後埒山古墳は中期後半の築造で、全長55ｍを測り、三角帽子状の冠を付けた垂髪の人物埴輪が出土している。福成春日山古墳は全長40ｍを測り、後円部に２基の箱式石棺が並び、東側の石棺からはＶ字状石枕と朱塗りの頭蓋骨が出土している。

後期になると、丘陵上に多くの古墳群が形成されるようになり、法勝寺川及び小松谷川流域の平野を取り囲むように境古墳群（６）、福成古墳群（23）、鴨部古墳群、落合古墳群、田住古墳群（66）、朝金古墳群（62）、井上古墳群（52）、御内谷古墳群、高姫古墳群（49）、金田古墳群などの古墳群が築かれている。寺内８号墳（40）からは当地唯一の陶棺が出土している。

６世紀後半になると、横穴墓の造営が開始される。マケン堀横穴墓群（27）では、35基の横穴墓と７基の後背墳丘が確認されている。玄室形態は断面三角形に限定されており、当地域の特殊性を示している。この他に県内で唯一の二室が連結した横穴墓をもつ小堤山横穴墓群（30）や谷川横穴墓群（22）、西横穴墓群（31）、今長龍徳横穴墓群、福成早里横穴墓（19）などがある。

古墳時代の集落は、清水谷遺跡や北方廣畑遺跡、宮尾遺跡、宮前遺跡、高姫根小松遺跡（50）、高姫近藤遺跡（51）などがあり、北方廣畑遺跡、高姫近藤遺跡では前期、宮前遺跡、高姫根小松遺跡

では中期、宮尾遺跡、八金小ブケ遺跡、八金清水田遺跡、福成早里遺跡では後期の竪穴住居跡が確認されている。また、清水谷遺跡では前期から後期の竪穴住居跡が確認されている。

### 古　代

律令制下の町域は『和名類聚抄』によると伯耆国会見郡鴨部郷、天万郷、星川郷に相当する。郡衙は近年の調査により伯耆町坂長に所在する可能性が高まってきた。鴨部郷は古墳群の分布状況などから南部町鴨部の周辺にその中心地が推定されている。鴨部は「賀茂部」とも記されており、神護景雲４年（770）の東大寺文書には賀茂郷住民の賀茂部秋麻呂という青年が僧になったことを記している。天万郷は、南部町天万周辺がその中心地であると考えられ、天平勝宝９年（756）の正倉院文書が初見である。星川郷は、小松谷川の流域が郷域と推定され、他国の同名郷との関連から紀氏の流れをくむ星川臣の一族の居住地と推定されている。金田瓦窯跡（54）は白鳳期の大寺廃寺に葺かれた瓦の生産地とされ、その南東には両部太郎窯跡（56）があり、内面に車輪文を施す須恵器が確認されている。また､朝金天田遺跡（59）からは奈良時代のものと思われる瓦塔（瓦製塔婆）が出土している。瓦塔は須恵質で、丸軒、垂木を粘土紐で写実的に表現している。

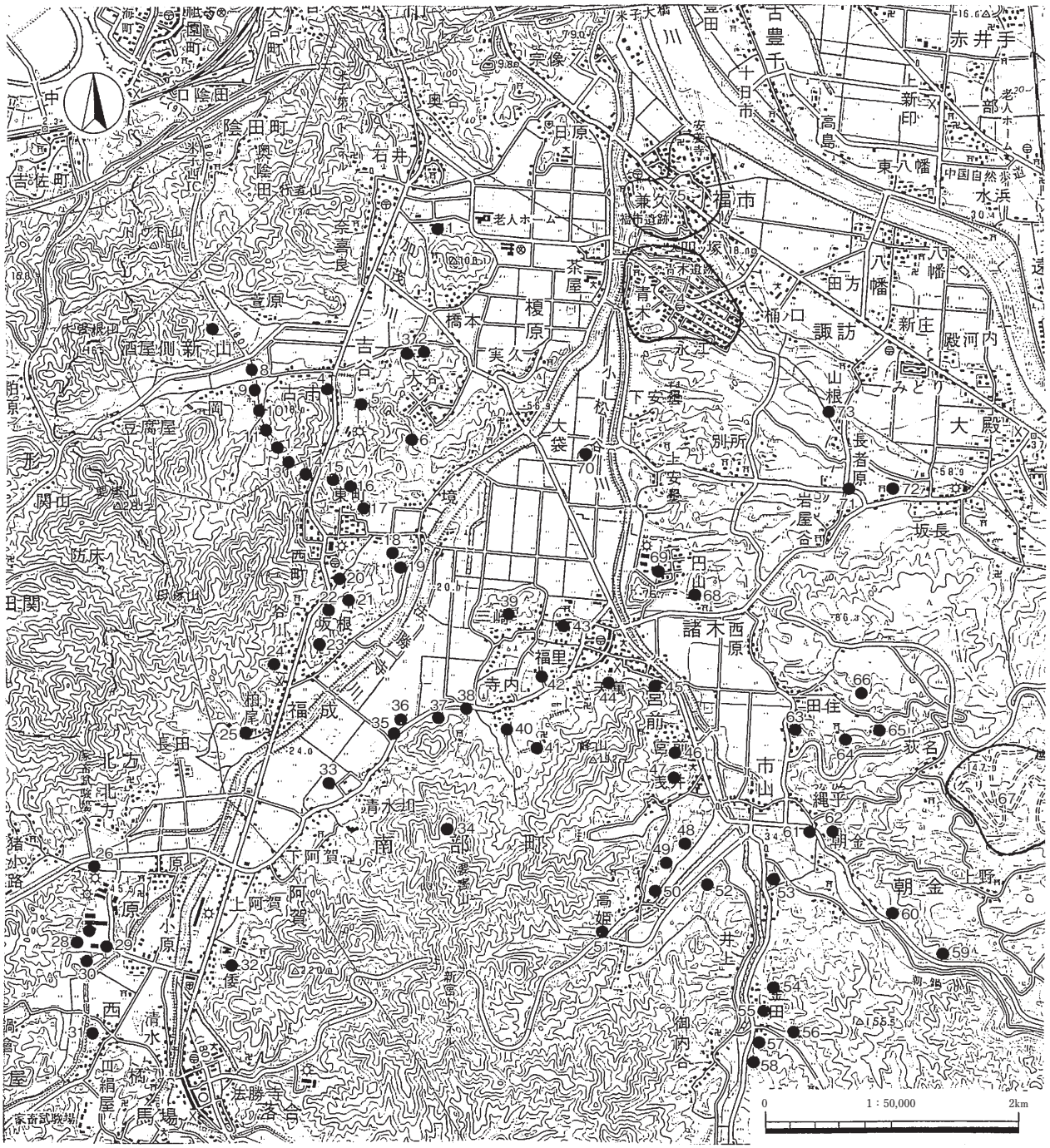
この時期の遺跡は、丘陵上に形成され、奈良時代の北福王寺遺跡や福成早里遺跡、平安時代の倭孫谷山遺跡、福成石佛前遺跡、清水谷遺跡、福成早里遺跡、八金清水田遺跡がある。福成早里遺跡からは、製塩土器や赤色塗彩を施した土師器が出土しており、官衙的な性格が窺える。八金清水田遺跡では９世紀前半の土器溜りが確認されており、「厨」と記された墨書土器とともに良好な一括資料が出土している。また、清水谷遺跡のピットには平安時代後期の和鏡が埋納され、金華山からは平安時代後期のものと考えられる経筒が出土している。

### 中　世

中世の遺跡としては、南北朝時代に塩冶高貞によって攻略されたと伝えられる小松城跡（55）や戦国時代後期の尼子、毛利の対立を背景にして要害山の山頂に築かれた手間要害（34）があり、手間要害は近年の調査で郭配置などが確認されている。また、手間要害の周辺には数多くの郭や堀切が確認され､砦や居館の存在が想定されている。この他､法勝寺城跡､柏尾城跡（小鷹城跡ともいう）(25)、鎌倉城跡、原城山遺跡などの城郭がある。

### 近　世

西伯耆は吉川広家、中村一忠、加藤貞泰と領主が交代し、元和３年（1617）に因幡・伯耆32万石を領する池田光政が鳥取藩主となる｡町域の南部は良質な砂鉄を含む風化花崗岩が広く分布しており、日野郡と同様に古くからたたら製鉄の行われた所で、現在のところ15ケ所のたたら関係の遺跡が確認されている。鎌倉山の山麓に位置する奥山鉄山所たたらは江戸後期（文化年間）に操業された高殿たたらで、近世の代表的なたたら跡である。また、田住桶川遺跡（63）では土葬墓21基が確認されている。




第５図　周辺遺跡分布図

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 1　奈喜良遺跡 | 2　橋本徳道西遺跡 | 3　吉谷亀尾ノ上遺跡 | 4　吉谷上ノ原山遺跡 | 5　吉谷トコ遺跡 |
| 6　境古墳群 | 7　新山山田遺跡 | 8　古市流田遺跡 | 9　古市カワラケ田遺跡 | 10　古市河原田遺跡 |
| 11　古市コガノ木遺跡 | 12　古市宮ノ谷山遺跡 | 13　吉谷屋奈ヶ埆遺跡 | 14　吉谷銭神遺跡 | 15　吉谷中馬場山遺跡 |
| 16　境北井埆遺跡 | 17　境矢石遺跡 | 18　境内海道西遺跡 | 19　福成早里遺跡 | 20　福成石佛前遺跡 |
| 21　福成春日山古墳 | 22　谷川横穴墓群 | 23　福成古墳群 | 24　清水谷遺跡 | 25　柏尾城跡（小鷹城跡） |
| 26　北方廣畑遺跡 | 27　マケン堀古墳群 | 28　北福王寺遺跡 | 29　竹山遺跡 | 30　小堤山横穴墓群 |
| 31　西横穴墓群 | 32　倭孫谷山遺跡 | 33　清水川六反田遺跡 | 34　手間要害 | 35　清水川御崎前遺跡 |
| 36　福成大坪上遺跡 | 37　枇杷谷遺跡 | 38　才ノ木遺跡 | 39　三崎殿山古墳 | 40　寺内８号墳 |
| 41　普段寺古墳群 | 42　天萬土井前遺跡 | 43　宮尾遺跡 | 44　天万遺跡 | 45　宮前古墳群 |
| 46　宮前遺跡 | 47　浅井 11 号墳 | 48　浅井土居敷遺跡 | 49　高姫古墳群 | 50　高姫根小松遺跡 |
| 51　高姫近藤遺跡 | 52　井上古墳群 | 53　天王原遺跡 | 54　金田瓦窯跡 | 55　小松城跡 |
| 56　両部太郎窯跡 | 57　金田堂ノ脇遺跡 | 58　御内谷向田遺跡 | 59　朝金天田遺跡 | 60　朝金小チヤ遺跡 |
| 61　口朝金遺跡 | 62　朝金古墳群 | 63　田住桶川遺跡 | 64　田住松尾平遺跡 | 65　田住滝山遺跡 |
| 66　田住古墳群 | 67　越敷山遺跡群 | 68　後埆山古墳 | 69　諸木遺跡 | 70　大袋丸山遺跡 |
| 71　長者屋敷遺跡 | 72　坂長村上遺跡 | 73　諏訪西山ノ後遺跡 | 74　青木遺跡 | 75　福市遺跡 |

# 第３章　調査の成果

## 第１節　遺跡の立地と調査地内の土層堆積（第７、８図）

### １．遺跡の立地

境北井埒遺跡は、法勝寺川左岸にあり、鳥取・島根県境にある母塚山（標高272ｍ）から北東へのびる丘陵からさらに南東に派生する支丘陵とこれを開折する小谷部に位置する。この支丘陵は２つの小さな谷の開折によってさらに３つの丘陵に分けられている。

１区は最も北西に位置する丘陵の標高46～68ｍの東側斜面に立地する。平成20年度に南部町教育委員会によって調査が実施されており、弥生時代後期の段状遺構が確認されている。また、この丘陵には平成13年度に（財）鳥取県教育文化財団が調査を実施した吉谷中馬場山遺跡２区があり、古墳３基と弥生時代後期の竪穴住居跡と段状遺構などが確認されている。

２区は１区の南東にある標高34～53ｍの丘陵に立地し、東側斜面には調査前でも段状の平坦面が３段程度確認され、さらに調査対象地外にもこの段状の平坦面が続くことが確認された。

３区は２区と４区の丘陵に挟まれた小さな谷部に位置し、その北東側はさらに谷が深くなっており、現在は農業用の溜池として利用され、滞水期には調査地付近まで水面が上昇する。

４区は最も南東に位置する丘陵の標高34～46ｍの北西側斜面に立地し、この丘陵には弥生時代から古代にかけて形成された集落遺跡である境矢石遺跡がある。なお、斜面裾部は溜池の築堤のため、大きく削平されていた。

### ２．調査地内の土層堆積

２区と３区の土層堆積の確認は、２区では南側、３区では南西側の壁面を利用して行った。

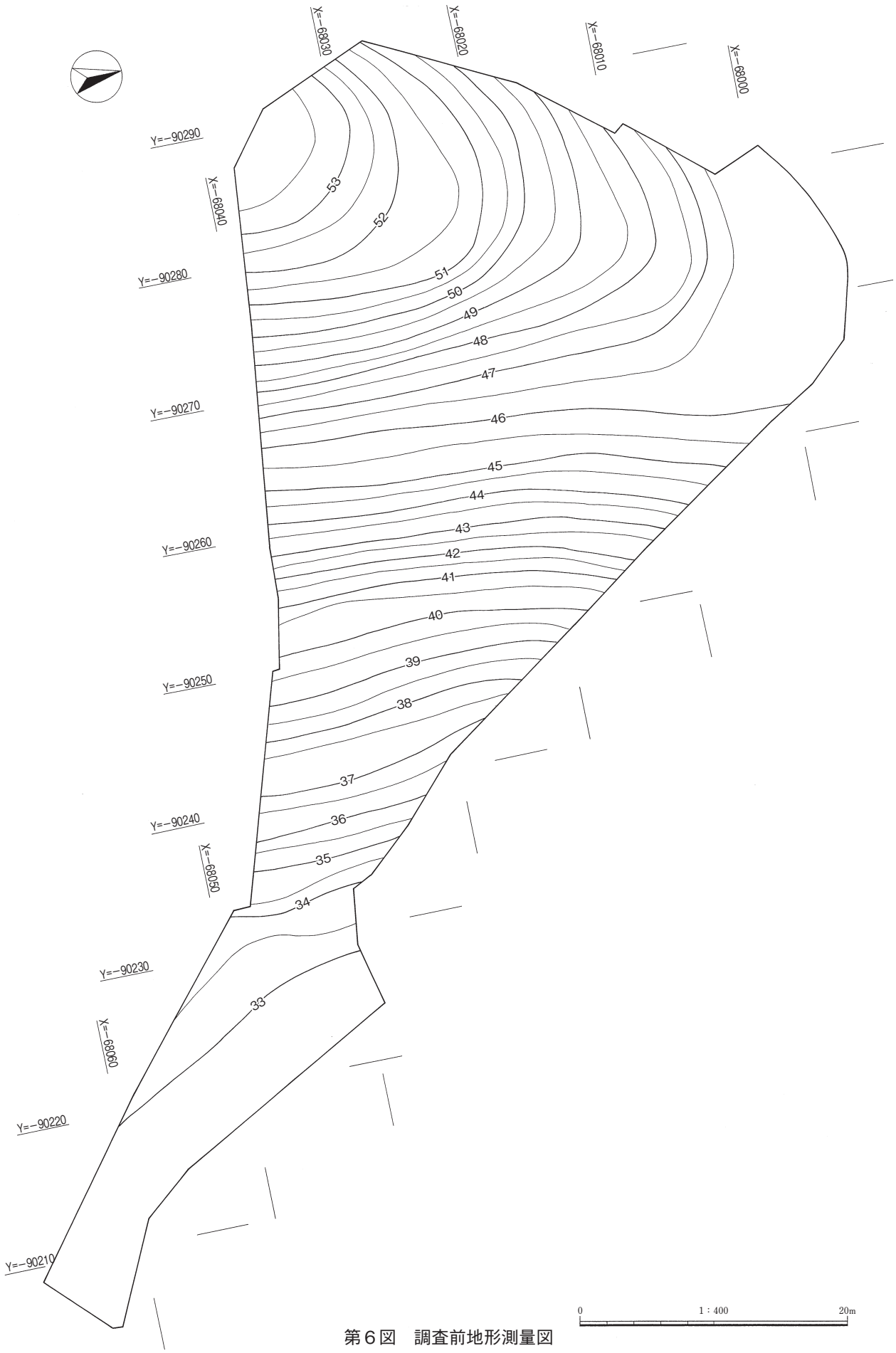
以下、調査区毎に概要を述べる。

#### ２　区

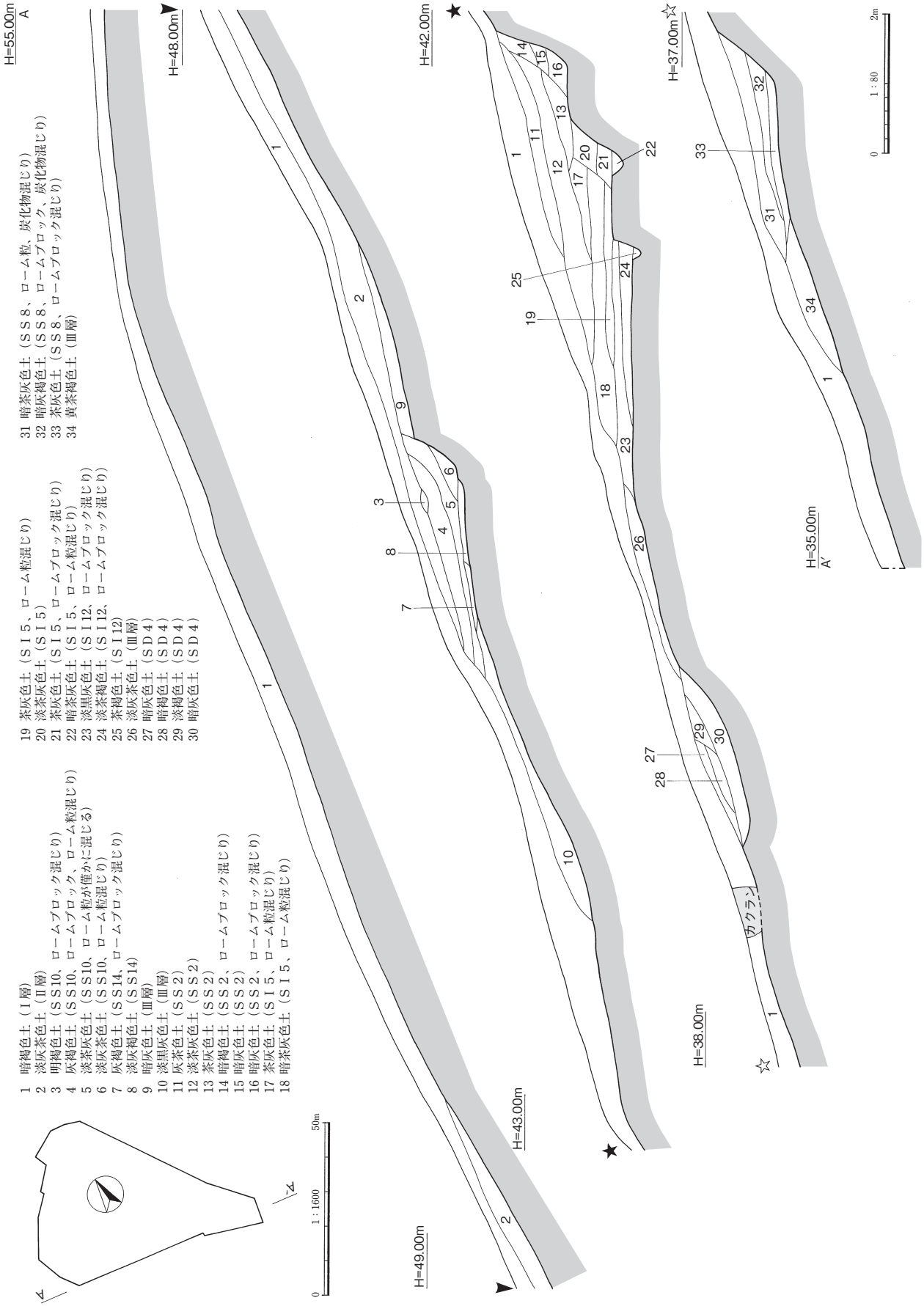
Ⅰ層：Ⅰ層（１層）は暗褐色を呈する表土で、調査区全域に堆積し、層厚は0.1～0.45ｍを測る。標高48.7ｍよりも上部はⅠ層直下が地山のローム層（Ⅳ層）となっている。標高48.7ｍから２区ＳＳ10・14の間には下層にⅡ層が存在し、２区ＳＳ10・14よりも下部では部分的に下層の堆積土（Ⅲ層）や遺構の埋土が認められるが、断続的にⅠ層直下が地山のローム層（Ⅳ層）となっている。

Ⅱ層：Ⅱ層（２層）は淡灰茶色を呈し、層厚は0.1～0.35ｍを測る。標高43.9～48.7ｍにかけて存在し、西側半分は当層直下が地山のローム層（Ⅳ層）となっている。２区ＳＳ10・14の西側では下層に暗灰色土（９層）があり、さらに２区ＳＳ10と２区ＳＳ14の埋土を被覆している。

Ⅲ層：Ⅲ層はⅠ層あるいはⅡ層直下に存在する遺物包含層で、暗灰色土（９層）、淡黒灰色土（10層）、淡灰茶色土（26層）、黄茶褐色土（34層）の４層からなる。さらに細分が可能と考えられるが、これらを一括してⅢ層とした。Ⅰ層あるいはⅡ層に撹乱されているため、遺存状態はあまり良好ではないが、２区ＳＳ10･14の西側には暗灰色土（９層）、東側には淡黒灰色土（10層）、２区ＳＩ12と２区ＳＤ４との間には淡灰茶色土（26層）、２区ＳＳ８の東側には黄茶褐色土




第６図　調査前地形測量図


1 暗褐色土（Ⅰ層）
2 淡灰茶色土（Ⅱ層）
3 明褐色土（ＳＳ10、ローム粒混じり）
4 灰褐色土（ＳＳ10、ローム粒混じり）
5 淡茶灰色土（ＳＳ10、ローム粒が僅かに混じる）
6 淡灰茶色土（ＳＳ10、ローム粒混じり）
7 灰褐色土（ＳＳ14、ローム粒混じり）
8 淡灰褐色土（ＳＳ14）
9 暗灰色土（Ⅲ層）
10 淡黒灰色土（Ⅲ層）
11 灰茶色土（ＳＳ２）
12 淡茶灰色土（ＳＳ２）
13 茶灰色土（ＳＳ２）
14 暗褐色土（ＳＳ２、ローム粒混じり）
15 暗灰色土（ＳＳ２）
16 暗灰色土（ＳＳ２、ローム粒混じり）
17 茶灰色土（ＳＳ２、ローム粒混じり）
18 暗茶灰色土（ＳＳ２、ローム粒混じり）
19 茶灰色土（ＳＩ５、ローム粒混じり）
20 淡茶灰色土（ＳＩ５）
21 茶灰色土（ＳＩ５、ローム粒混じり）
22 暗茶灰色土（ＳＩ５、ローム粒混じり）
23 淡黒灰色土（ＳＩ12、ローム粒混じり）
24 淡茶褐色土（ＳＩ12、ローム粒混じり）
25 茶褐色土（ＳＩ12）
26 淡灰茶色土（Ⅲ層）
27 暗灰色土（ＳＤ４）
28 暗褐色土（ＳＤ４）
29 淡褐色土（ＳＤ４）
30 暗灰色土（ＳＤ４）
31 暗茶灰色土（ＳＳ８、ローム粒、炭化物混じり）
32 暗灰褐色土（ＳＳ８、ローム粒、炭化物混じり）
33 茶灰色土（ＳＳ８、ローム粒混じり）
34 黄茶褐色土（Ⅲ層）
H=55.00m
A
H=48.00m
H=42.00m
H=37.00m
H=49.00m
H=43.00m
H=38.00m
H=35.00m
A′
カクラン
0
50m
1：1600
1：80
2m

第７図　２区土層図

(34層）がある。層厚はそれぞれ0.1～0.3ｍを測る。

Ⅲ層からは量的には少ないものの弥生土器、土師器、須恵器が出土した。

Ⅳ層：Ⅳ層は黄褐色を呈するローム層である。

２区の東側斜面の２区ＳＳ１よりも下の斜面は長さ25ｍ、最大幅20ｍの範囲で小さな谷状地形となっており、上層には黒ボク層に由来する黒褐色土から黒色系土（Ａ層）が、下層にはローム層が崩落し、堆積した層（Ｂ層）が認められる。Ａ層は２区ＳＳ１と２区ＳＳ２との間と２区ＳＳ２の北端の一部に認められ、それよりも下の斜面では、削平、流失したと考えられる。また、縄文時代の落し穴（２区ＳＫ５）は黒ボク層に由来する土で埋没していることから、本来は調査区全域に黒ボク層が堆積していたと考えられるが、削平や流失によって失われたと推測される。なお、遺構の大部分は地山のローム層（Ⅳ層）上面で検出したが、２区ＳＳ１よりも下の斜面の谷状地形部では、その埋土である。Ａ層及びＢ層上面で検出した。

### ３　区

Ⅰ層：Ⅰ層（１層）は淡灰茶色を呈する表土で、調査区全域に堆積し、層厚は0.05～0.1ｍを測る。

Ⅱ層：Ⅱ層（２層）は明黄灰色を呈する造成土で、調査区の南東側約１／３に存在し、層厚は0.1～0.2ｍを測る。

Ⅲ層：Ⅲ層（３層）は旧表土と考えられ、淡灰茶色を呈し、調査区全域に堆積する。層厚は0.1～0.35ｍを測る。

Ⅲ層からは弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器が出土した。

Ⅳ層：Ⅳ層（５～９層）は暗灰色系の遺物包含層で、灰茶色土（５層）、暗灰色土（６層）、暗灰褐色土（７層）、暗灰色土（８層）、暗茶灰色土（９層）の５層からなる。地形的に高い北西側から順次堆積しており、層厚は0.2～0.4ｍを測り、調査区のほぼ全域に堆積する。

Ⅳ層からは弥生土器、土師器、須恵器が出土した。

Ⅴ層：Ⅴ層（10～13層）は遺物包含層で、４層に分層できる。地形的に高い北西側から順次堆積しており、さらに上下２層に大別できる。

上層のⅤ－１層（10・11層）は茶灰色土（10層）と灰褐色土（11層）の２層からなり、いずれも地山のローム粒が混じっている。ＡグリッドからＢグリッドにかけて堆積しており、調査区南東側のＣグリッドではⅣ層に削平されて遺存していない。層厚は0.2～0.4ｍを測る。

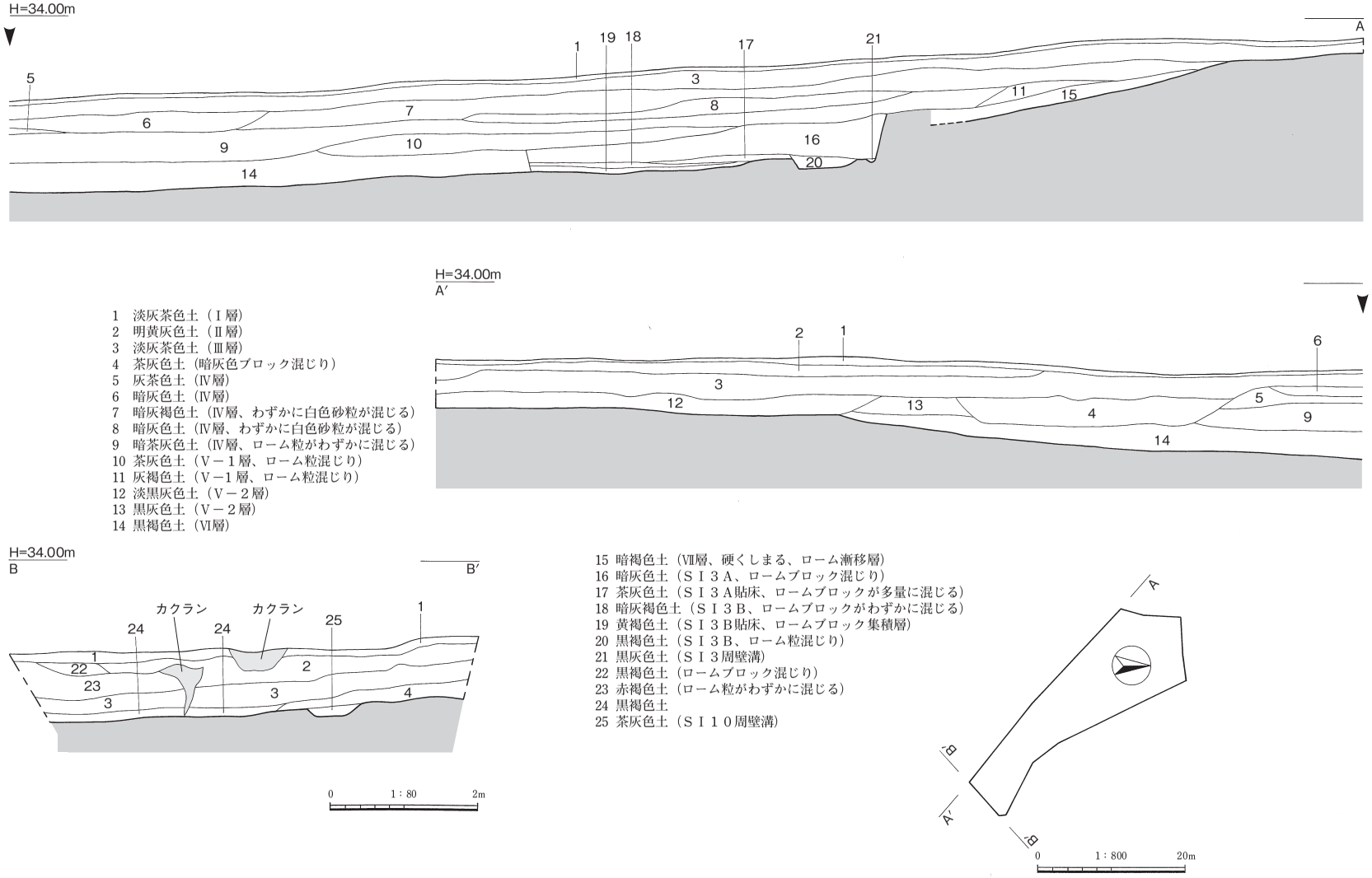
下層のⅤ－２層（12・13層）は淡黒灰色土（12層）と黒灰色土（13層）の２層からなり、Ⅴ－1層に削平されて、ＡグリッドとＢグリッドとの境界付近にのみ認められる。層厚は0.1～0.3ｍを測る。

Ⅴ層からは弥生土器、土師器、須恵器が出土した。

Ⅵ層：Ⅵ層（14層）は黒褐色を呈する遺物包含層で、調査区の中央のやや谷状に窪んだ部分に認められる。層厚は0.1～0.4ｍを測る。

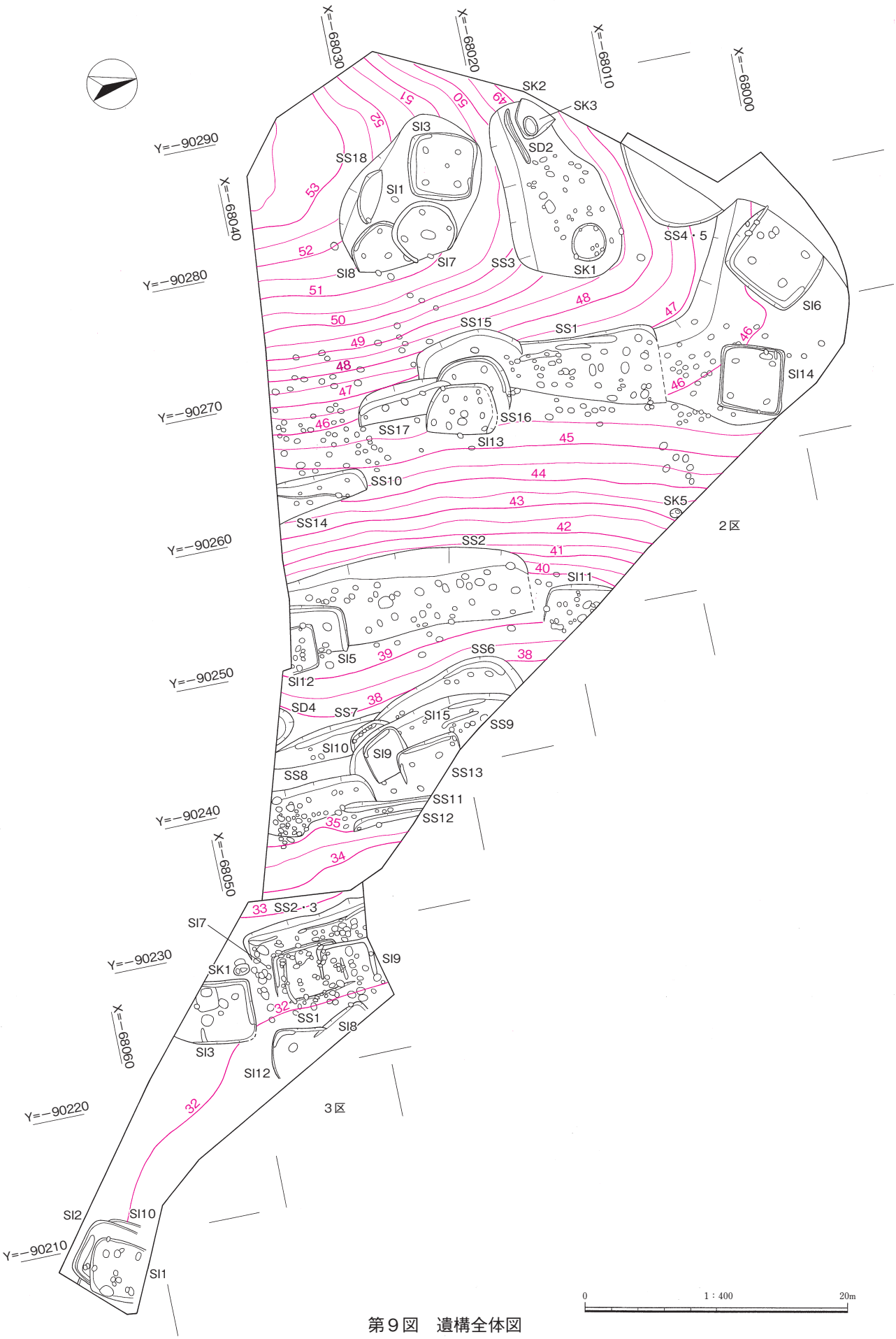
Ⅵ層からは弥生土器、土師器、須恵器が出土した。

Ⅶ層：Ⅶ層（15層）はローム漸移層で、層厚は0.1～0.2ｍを測る。３区ＳＩ３より南東側は削平されており、遺存していない。

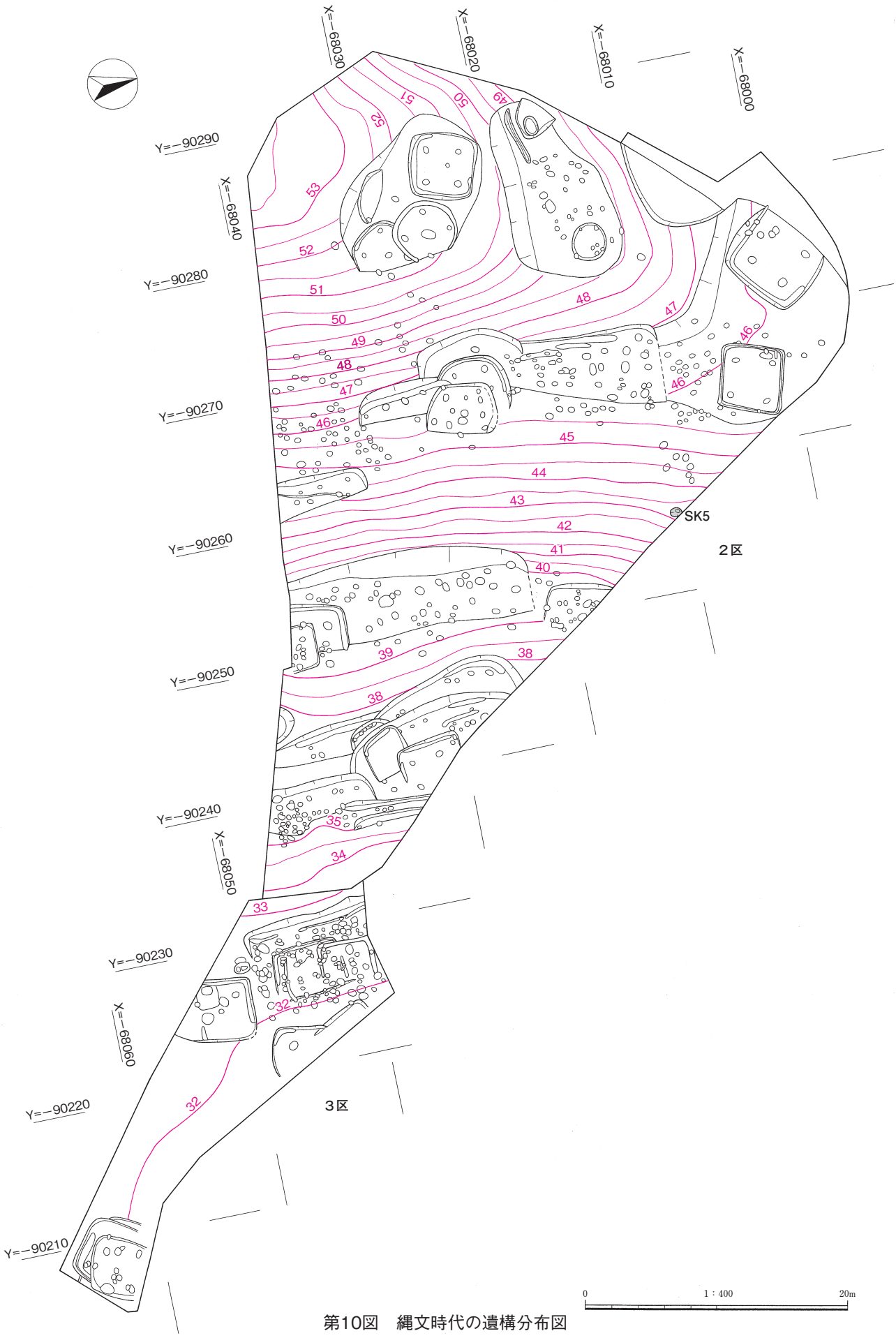



1　淡灰茶色土（Ⅰ層）
2　明黄灰色土（Ⅱ層）
3　淡灰茶色土（Ⅲ層）
4　茶灰色土（暗灰色ブロック混じり）
5　灰茶色土（Ⅳ層）
6　暗灰色土（Ⅳ層）
7　暗灰褐色土（Ⅳ層、わずかに白色砂粒が混じる）
8　暗灰色土（Ⅳ層、わずかに白色砂粒が混じる）
9　暗茶灰色土（Ⅳ層、ローム粒がわずかに混じる）
10　茶灰色土（Ⅴ－１層、ローム粒混じり）
11　灰褐色土（Ⅴ－1層、ローム粒混じり）
12　淡黒灰色土（Ⅴ－２層）
13　黒灰色土（Ⅴ－２層）
14　黒褐色土（Ⅵ層）
15　暗褐色土（Ⅶ層、硬くしまる、ローム漸移層）
16　暗灰色土（ＳＩ３Ａ、ロームブロック混じり）
17　茶灰色土（ＳＩ３Ａ貼床、ロームブロックが多量に混じる）
18　暗灰褐色土（ＳＩ３Ｂ、ロームブロックがわずかに混じる）
19　黄褐色土（ＳＩ３Ｂ貼床、ロームブロック集積層）
20　黒褐色土（ＳＩ３Ｂ、ローム粒混じり）
21　黒灰色土（ＳＩ３周壁溝）
22　黒褐色土（ロームブロック混じり）
23　赤褐色土（ローム粒がわずかに混じる）
24　黒褐色土
25　茶灰色土（ＳＩ１０周壁溝）

第８図　３区土層図


X=−68030
X=−68020
X=−68010
X=−68000
X=−68040
X=−68050
X=−68060
Y=−90290
Y=−90280
Y=−90270
Y=−90260
Y=−90250
Y=−90240
Y=−90230
Y=−90220
Y=−90210
SK2
SK3
SI3
SD2
SS18
SI1
SS4・5
SI7
SS3
SK1
SI8
SI6
SS15
SS1
SI14
SS16
SS17
SI13
SS10
SK5
SS14
2区
SS2
SI11
SI5
SS6
SI12
SD4
SS7
SI15
SS9
SI10
SI9
SS8
SS13
SS11
SS12
SS2・3
SI7
SI9
SK1
SS1
SI8
SI3
SI12
3区
SI2
SI10
SI1
0
1：400
20m

第９図　遺構全体図




第10図　縄文時代の遺構分布図

Ⅷ層：Ⅷ層は黄褐色を呈するローム層である。

３区は谷部に位置し、地山であるローム層の地形は北西側と南東側がやや高く、中央部が低くなっているが、土層の堆積は北西から南東に向かって緩やかに堆積しており、主に北西側から流れ込んで堆積したと考えられる。遺構は３区ＳＩ３はⅥ層上面、それ以外はⅦ層あるいはⅧ層上面で検出した。

## 第２節　縄文時代の調査

### １．概　　要

縄文時代の遺構は、落し穴１基を検出した。調査区北端に位置しており、さらに調査区外に数基の落し穴の存在が推測される。

### ２．検出した遺構と遺物

**２区　ＳＫ５**（第11、12図）

２区ＳＫ５は丘陵東側斜面の標高43.2～43.3ｍに位置する。

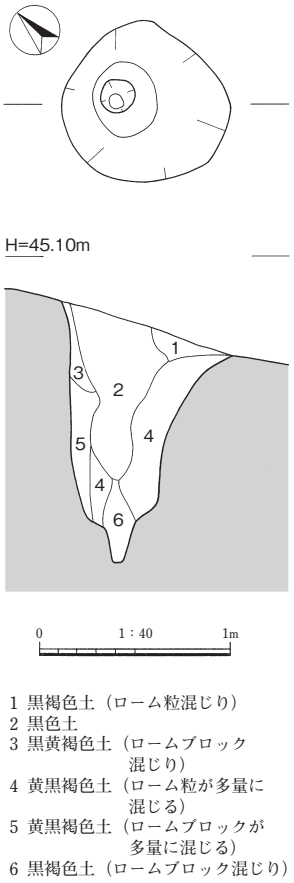
平面形態は不整な円形を呈し、長軸0.9ｍ、短軸0.85ｍを測る。断面は逆台形状を呈し、検出面からの深さは1.2ｍを測る。底面は楕円形を呈し、長軸0.4ｍ、短軸0.35ｍを測る。底面の中央やや北西寄りに径18㎝、深さ22㎝のピットがある。

埋土は６層に分層でき、地山に由来するロームブロックを含む黒褐色系土が主体となって堆積する。

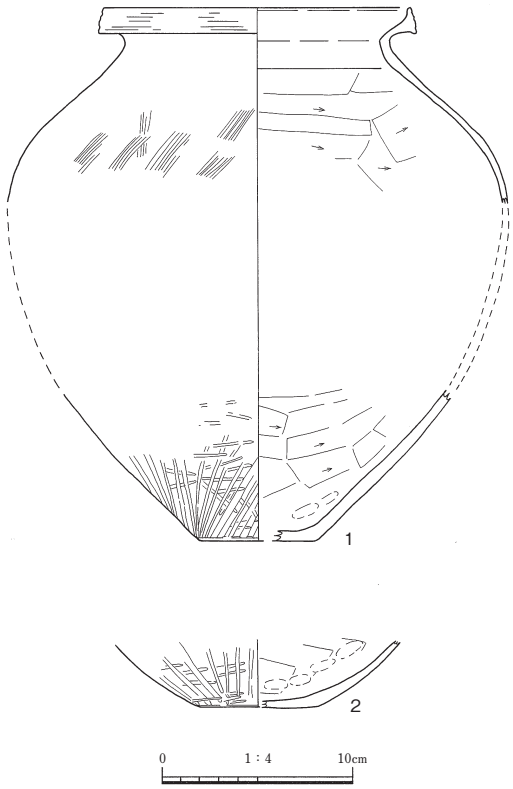
遺物は埋土の上層から中層にかけて出土した。

１、２は弥生土器である。１は甕で、口縁端部を上下につまみ出し、４条の凹線が巡る。２は底部で、外面にヘラミガキ調整が施されている。

本遺構からは、時期を判断する遺物は出土していないが、形態的特徴から縄文時代の落し穴と考えられる。




第11図　２区ＳＫ５




第12図　２区ＳＫ５出土遺物

## 第３節　弥生時代後期から古墳時代前期の調査

### １．概　　要

弥生時代後期から古墳時代前期の遺構は、竪穴住居跡８棟、段状遺構７基、掘立柱建物跡１棟、竪穴状遺構１基、土坑２基、溝状遺構１基を検出した。遺構は２区の丘陵の頂部から斜面の上部にかけてと３区の谷部に位置し、さらに、分布状況から５つの群（Ａ～Ｅ群）に分けることができる。Ａ群～Ｄ群は２区の丘陵の頂部から斜面の上部にかけて位置し、弥生時代後期前葉～古墳時代前期初頭に帰属する。一方、Ｅ群は３区の谷部に位置し、古墳時代前期後葉に帰属する。このことから、古墳時代前期後葉を境に丘陵上部から谷部へと集落が移動したと考えられる。

以下、本節では群毎に報告する。

### ２．検出した遺構と遺物

#### （１）Ａ群

**２区　ＳＳ18**（第14図）

２区ＳＳ18は丘陵頂部の標高50.5～52.7ｍに位置する段状遺構である。東側から北側、西側にかけては流失しているが、規模は長軸12.7ｍ以上、短軸9.0ｍ以上、壁高は0.7ｍを測る。

平坦面の南側には２区ＳＩ１、南東側には２区ＳＩ８、北東側には２区ＳＩ７、北西側には２区ＳＩ８の４棟の竪穴住居跡があり、この他にピットを１基検出したのみで、本遺構に伴う壁溝は認められない。

遺物は図示できないが、弥生土器が出土した。

本遺構の時期は、２区ＳＩ１、７、８との関連から弥生時代後期前葉～中葉と考えられる。

**２区　ＳＩ１**（第15、16図）

２区ＳＩ１は丘陵頂部に構築された２区ＳＳ18内に位置する竪穴住居跡である。本遺構の東には２区ＳＩ８、北東には２区ＳＩ７、北には２区ＳＩ３がある。

平面形態は、北側の大半が流失しているが、円形を呈すると考えられる。規模は長軸4.2ｍ、短軸1.7ｍ以上、壁高は0.15ｍ、床面積は2.6㎡以上を測る。床面ではピット１基（Ｐ１）を検出したのみで、主柱穴及び壁溝は認められなかった。

遺物は埋土中から弥生土器高坏（３）が出土した。３は高坏の坏部で、口縁部が屈曲して立ち上がり、口縁端部は外方へ肥厚する。

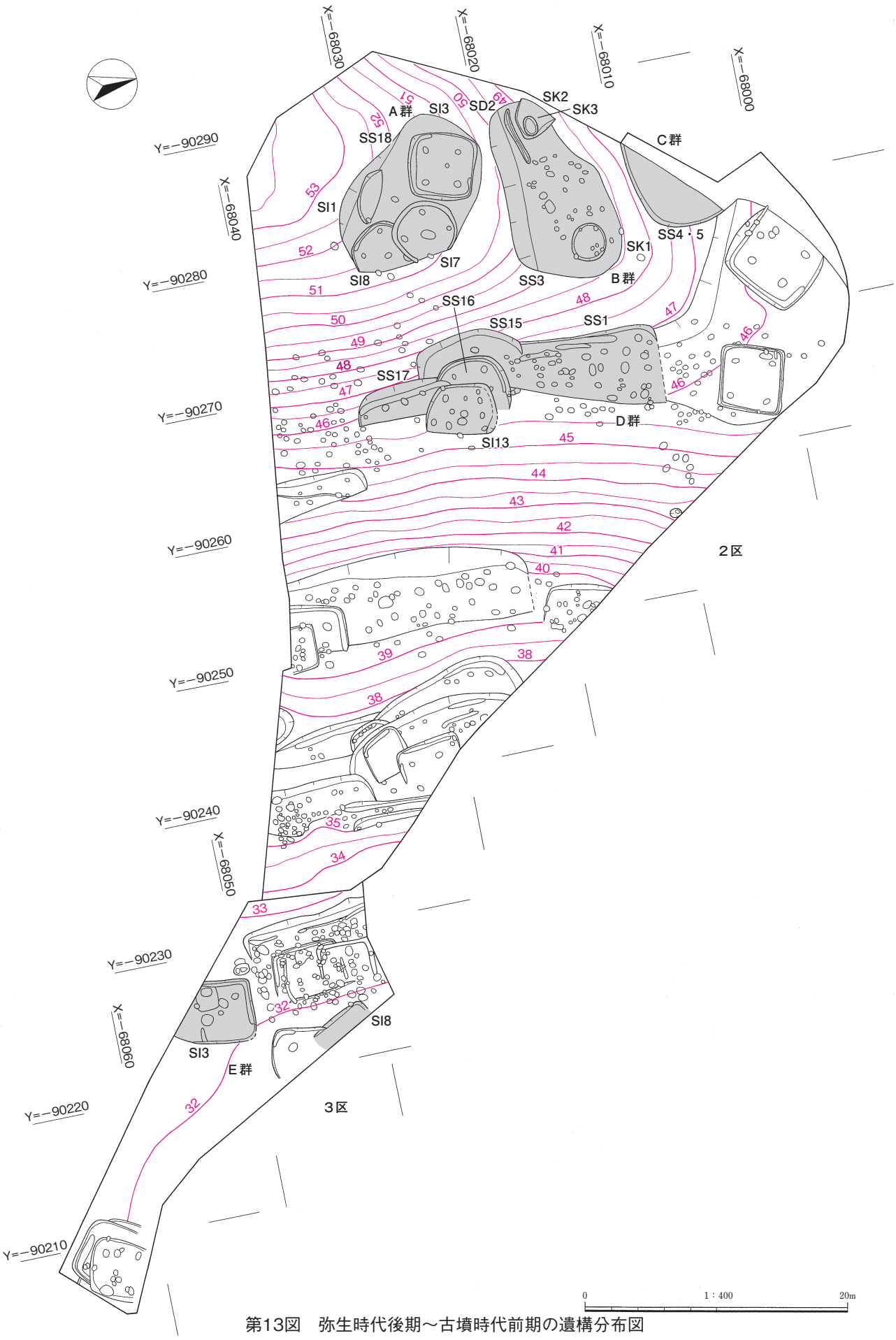
本遺構の時期は、出土遺物から弥生時代後期前葉と考えられる。

**２区　ＳＩ３**（第17、18図）

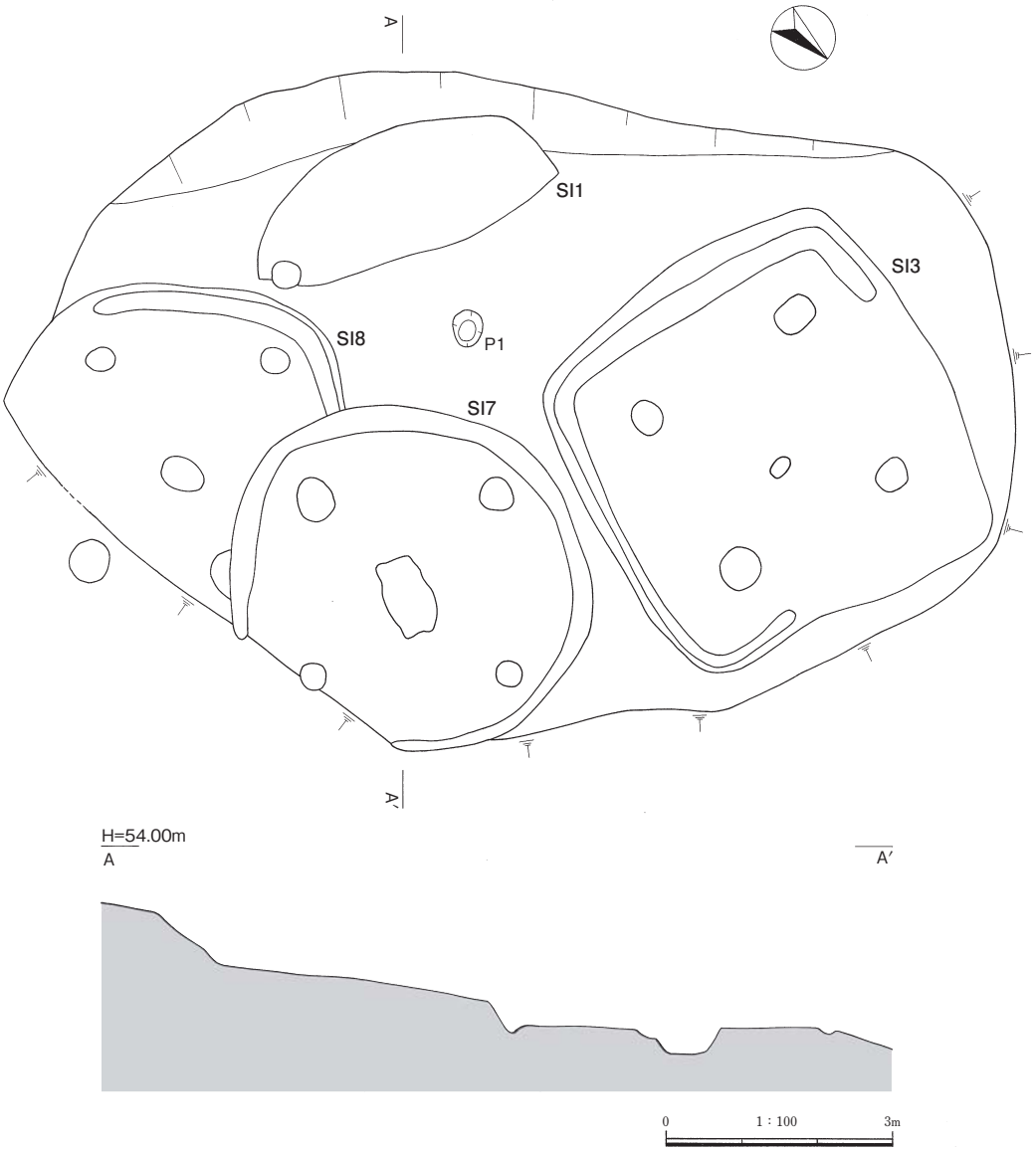
２区ＳＩ３は丘陵頂部に構築された２区ＳＳ18内に位置する竪穴住居跡である。本遺構の東から南東にかけては２区ＳＩ７と２区ＳＩ８、南には２区ＳＩ１がある。

平面形態は隅丸方形を呈し、規模は長軸5.2ｍ、短軸5.1ｍ、壁高は0.25～0.7ｍ、床面積は22.6㎡を測る。北西側以外の壁際には幅11～39㎝、深さ５～14㎝の壁溝が巡っている。

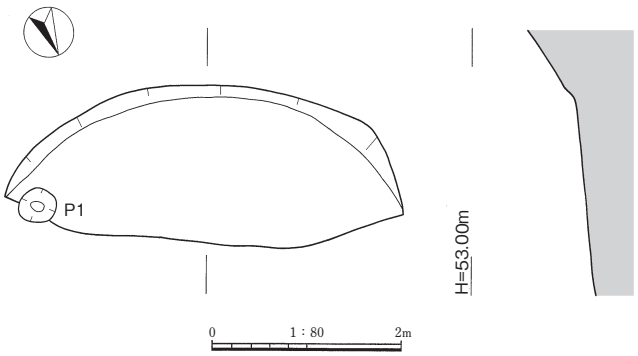
主柱穴はＰ１～Ｐ４の４基で、その規模は径40～55㎝、床面からの深さ32～70㎝を測る。主柱穴



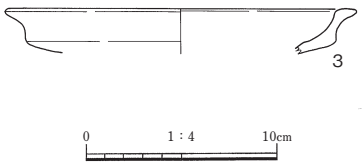

第13図　弥生時代後期～古墳時代前期の遺構分布図



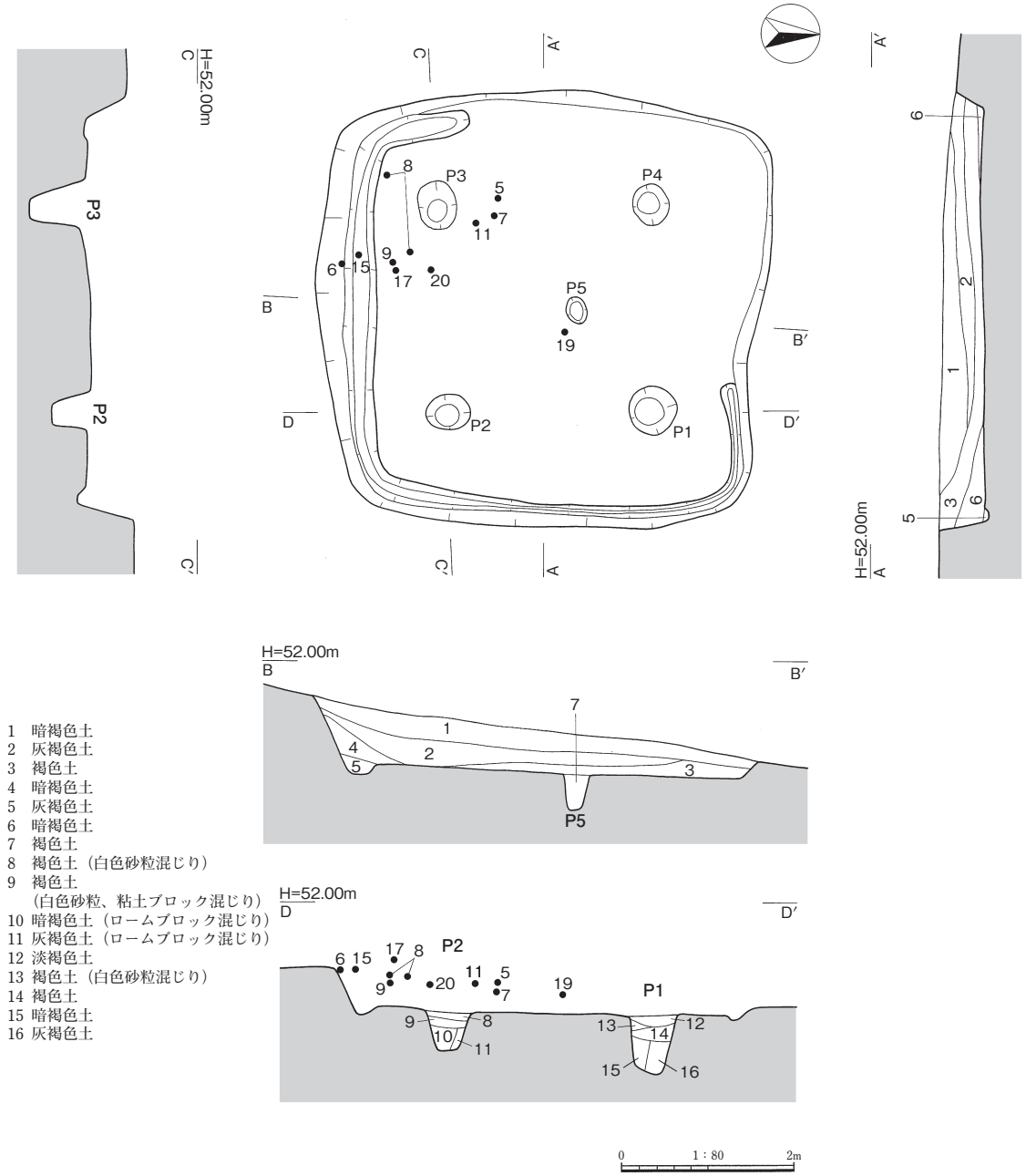

第14図　２区ＳＳ18




第15図　２区ＳＩ１




第16図　２区ＳＩ１出土遺物




第17図　２区ＳＩ３

**第１表　２区ＳＩ３ピット計測表**

| 番号 | 長径(cm) | 短径(cm) | 深さ(cm) | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| Ｐ１ | 52 | 48 | 70 | 主柱穴 |
| Ｐ２ | 55 | 44 | 46 | 主柱穴 |
| Ｐ３ | 51 | 43 | 65 | 主柱穴 |
| Ｐ４ | 47 | 40 | 32 | 主柱穴 |
| Ｐ５ | 30 | 21 | 40 | 中央ピット |

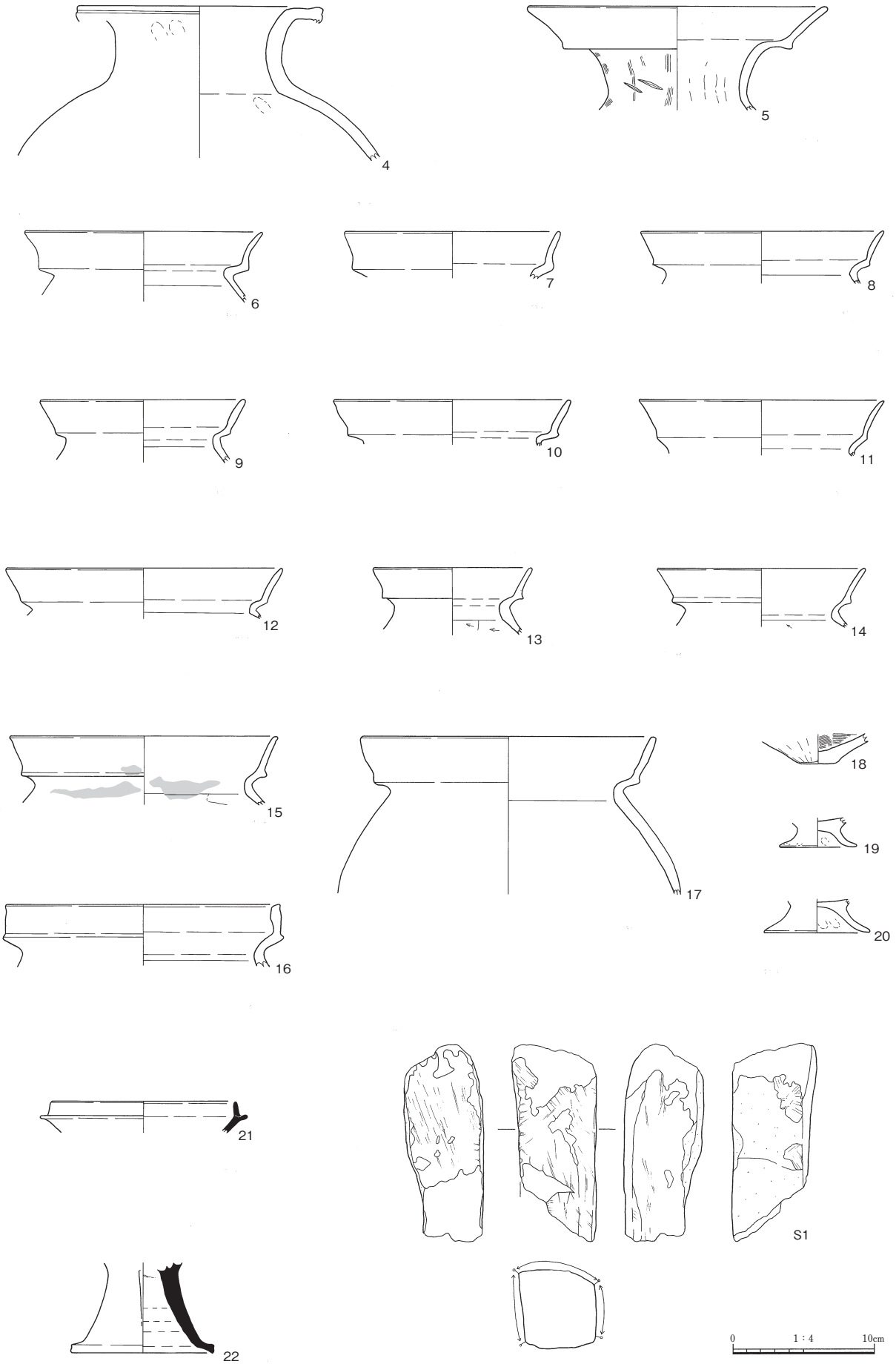
間の距離はＰ１－Ｐ２間から時計回りの順に2.3ｍ、2.3ｍ、2.5ｍ、2.25ｍである。

住居跡の中央には中央ピット（Ｐ５）があり、規模は長径33㎝、短径22㎝、床面からの深さ40㎝を測る。

埋土は５層に分層でき、暗褐色土（１層)、灰褐色土（２層)、褐色土（３層）の３層を主体とし、地形的に高い位置にある南東側の壁際から埋没したと考えられる。

遺物は主に埋土の上層から中層にかけて出土した。４、18は弥生土器である。４は壺で、口縁部下端が欠損するが、上端は僅かに上方へつまみ出し、１条の凹線が巡る。18は底部で、外面はケズリ調整、内面はハケ調整が施されている。

５～17、19、20は土師器である。５は壺で、複合口縁を有する。６～17は甕で、６～12は口縁部




第18図　２区ＳＩ３出土遺物

の屈曲部の稜の突出が小さく、13～16は口縁部の屈曲部の稜の突出が大きい。さらに、15、16は口縁端部を外方へ肥厚するもので、15は丸くおさまるが、16は平坦面を有する。また、15の内外面には赤色塗彩が施されている。17は複合口縁を有するが、口縁部が内湾気味に立ち上がる。19、20は低脚坏の脚部である。

21、22は須恵器で、21は坏身、22は高坏脚部である。

Ｓ１は凝灰岩製の砥石で、上端部と下端部を欠損するが、長方形を呈し、表面及び両側面の３面を使用している。

本遺構の時期は、出土遺物から弥生時代後期末～古墳時代前期前葉と考えられる。

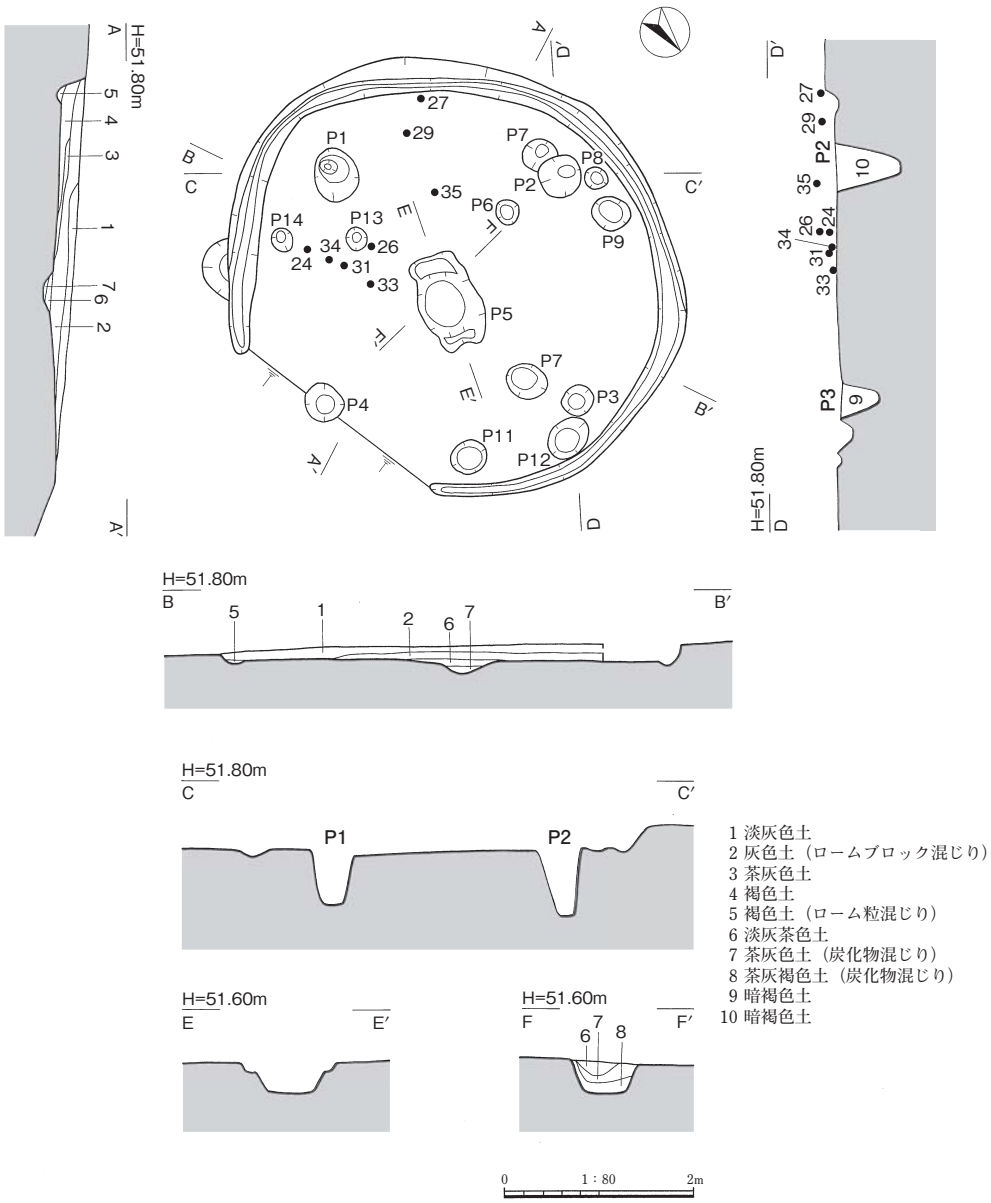
## ２区　ＳＩ７（第19、20図）

２区ＳＩ７は丘陵頂部に構築された２区ＳＳ18内に位置する竪穴住居跡である。南側は２区ＳＩ８を切っており、西側には２区ＳＩ３、南西側には２区ＳＩ１がある。

平面形態は、南側では隅丸方形状を呈するが、北側は円形を呈している。東側の一部が流失しているが、規模は長軸4.8ｍ、短軸4.6ｍ、壁高は0.1～0.25ｍ、床面積は16.7㎡以上を測る。壁際には幅13～29㎝、深さ３～５㎝の壁溝が全周する。

主柱穴はＰ１～Ｐ４の４基で、その規模は径32～60㎝、床面からの深さ26～72㎝を測る。主柱穴間の距離はＰ１－Ｐ２間から時計回りの順に2.5ｍ、2.4ｍ、2.65ｍ、2.5ｍである。

住居跡の中央には中央ピット（Ｐ５）がある。




第19図　２区ＳＩ７

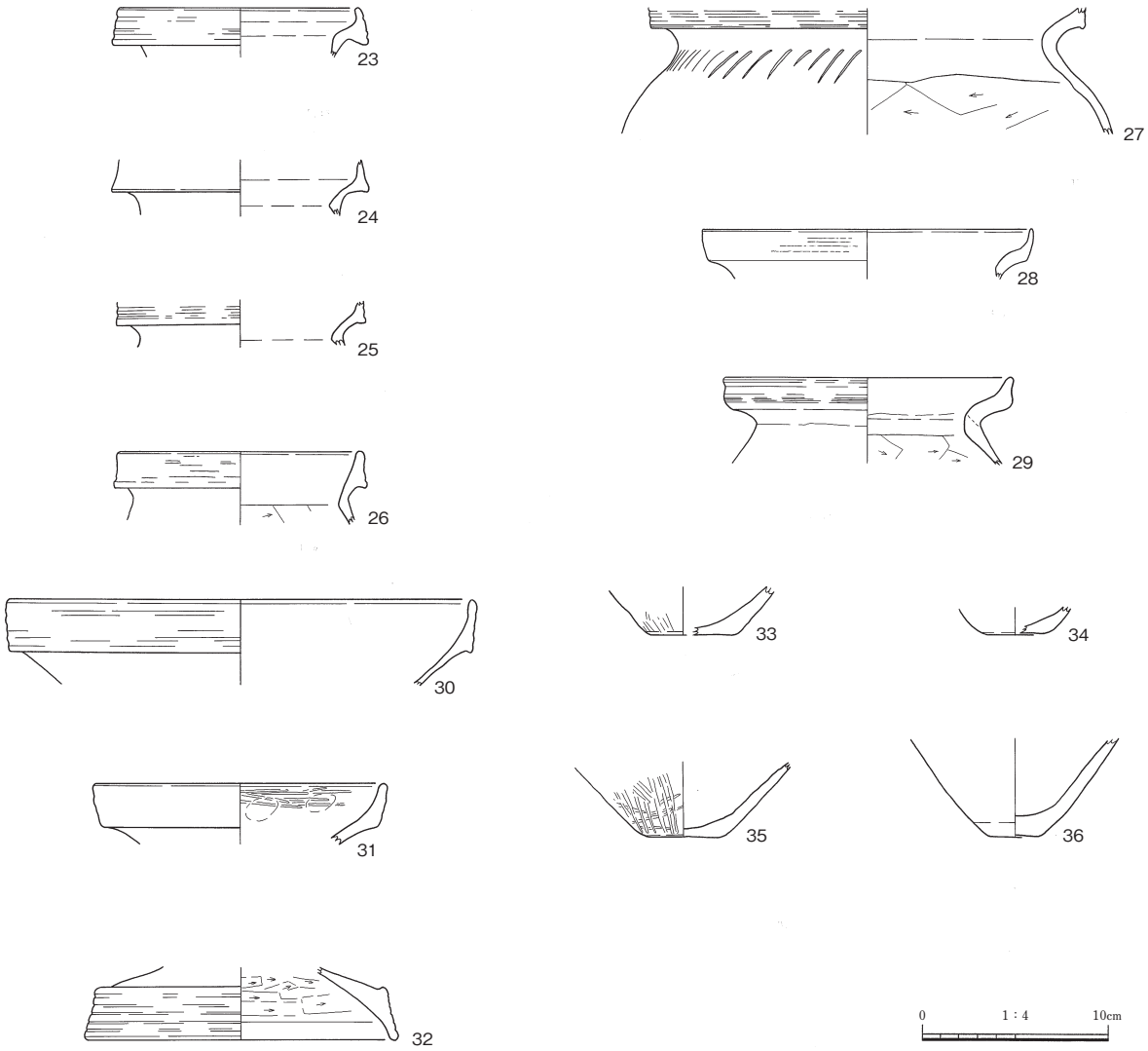
Ｐ５は平面形態が不整な隅丸長方形状を呈し、南側と北側は掘り込みが２段となっている。規模は長軸99㎝、短軸65㎝、床面からの深さ35㎝を測り、埋土には炭化物が混じっている。

住居跡の埋土は４層に分層でき、淡灰色土（１層)、灰色土（２層)、褐色土（４層）の３層を主体とし、地形的に高い位置にある南西側の壁際から埋没したと考えられる。

遺物は埋土の上層から床面にかけて出土した。23～36は弥生土器である。23～29は甕で、23～26は口縁部が内傾し、23は３条、25は２条以上、26は５条の凹線が巡る。27は口縁部上端が欠損するが、直立気味に立ち上がると考えられる。また、口縁部下端は僅かに垂下する。28は口縁部が内湾気味に立ち上がり、29は口縁部が外反気味に立ち上がる。

**第２表　２区ＳＩ７ピット計測表**

| 番号 | 長径(㎝) | 短径(㎝) | 深さ(㎝) | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| Ｐ１ | 60 | 49 | 68 | 主柱穴 |
| Ｐ２ | 47 | 44 | 72 | 主柱穴 |
| Ｐ３ | 37 | 35 | 41 | 主柱穴 |
| Ｐ４ | 38 | 32 | 26 | 主柱穴 |
| Ｐ５ | 106 | 67 | 35 | 中央ピット |
| Ｐ６ | 28 | 22 | 9 | |
| Ｐ７ | (35) | (35) | 34 | |
| Ｐ８ | 25 | 23 | 3 | |
| Ｐ９ | 41 | 37 | 28 | |
| Ｐ10 | 41 | 40 | 16 | |
| Ｐ11 | 38 | 34 | 8 | |
| Ｐ12 | 51 | 37 | 20 | |
| Ｐ13 | 25 | 21 | 27 | |
| Ｐ14 | 27 | 22 | 39 | |




第20図　２区ＳＩ７出土遺物

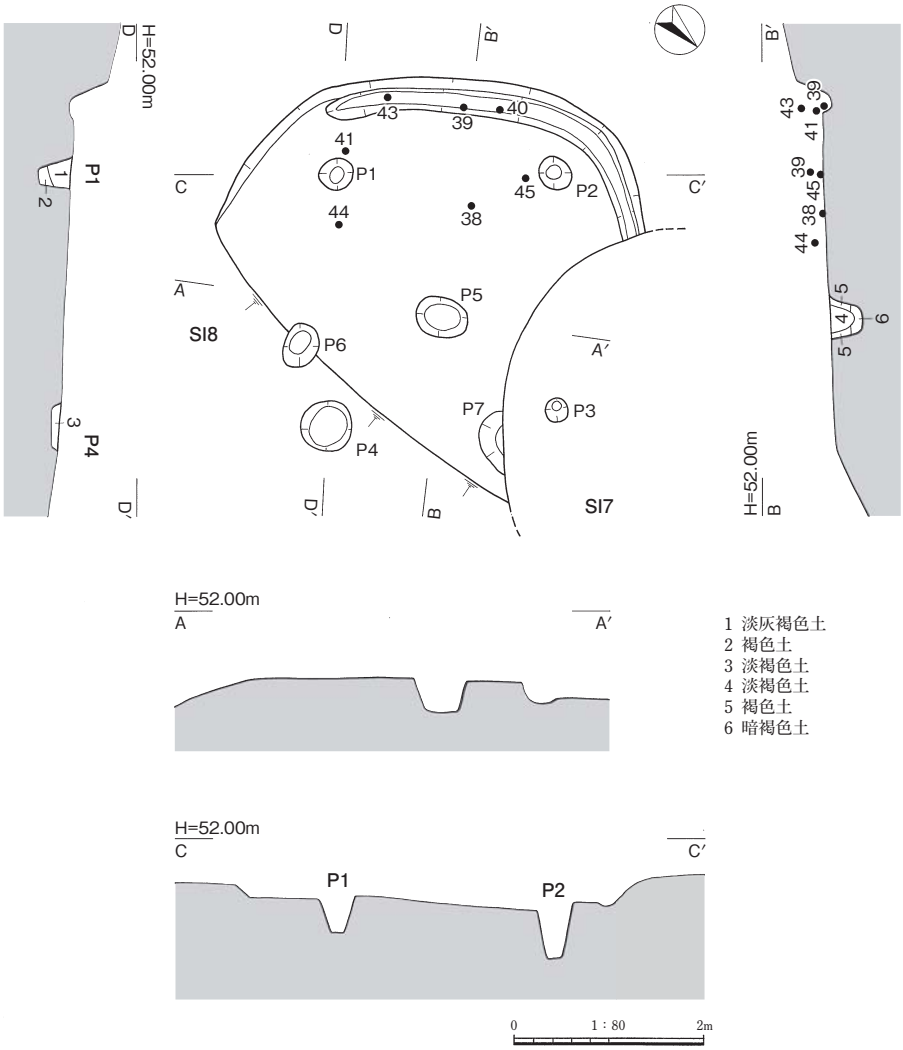
30～32は器台で、30、31は口縁部、32は底部である。32は５条の凹線が巡る。33～36は底部である。

本遺構の時期は、出土遺物から弥生時代後期中葉と考えられる。

## ２区　ＳＩ８（第21、22図）

２区ＳＩ８は丘陵頂部に構築された２区ＳＳ18内に位置する竪穴住居跡である。北側は２区ＳＩ７に切られ、西には２区ＳＩ１、北西には２区ＳＩ３がある。

平面形態は、北側は２区ＳＩ７に切られ、東側は流失しているが、円形を呈すると考えられる。規模は長軸4.6ｍ、短軸4.4ｍ以上、壁高は0.3ｍ、床面積は11.2㎡以上を測る。南西から北西にかけての壁際には幅19～28㎝、深さ５～10㎝の壁溝が巡っている。




第21図　２区ＳＩ８

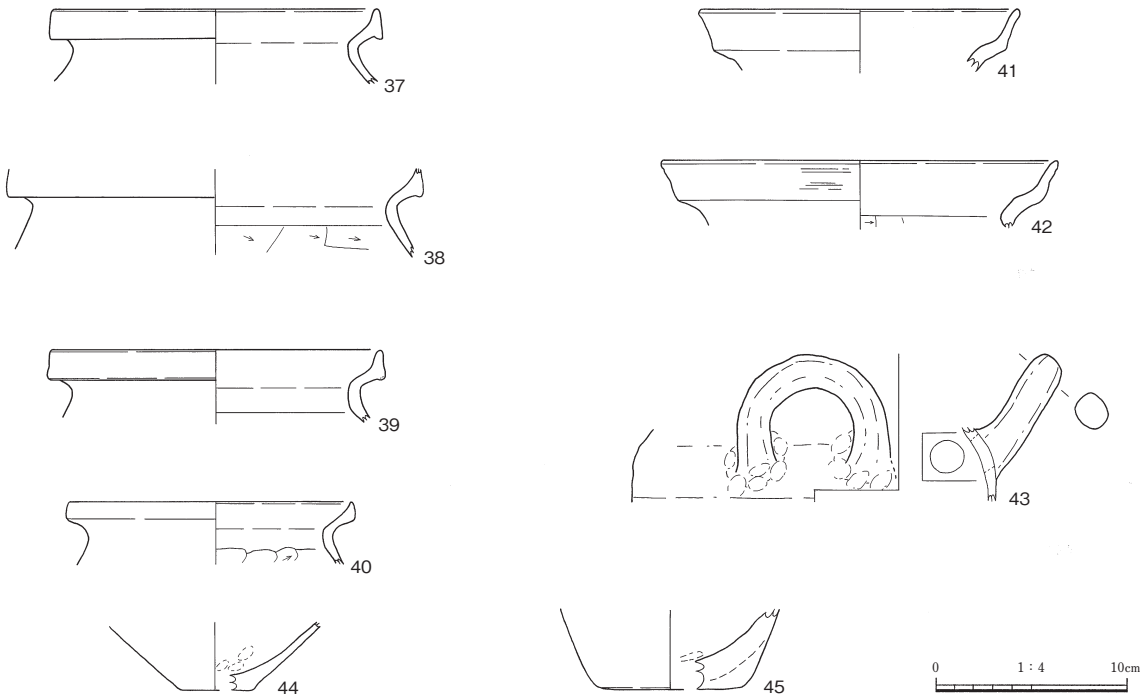
主柱穴はＰ１～Ｐ４の４基で、その規模は径22～56㎝、床面からの深さ12～60㎝を測る。主柱穴間の距離はＰ１－Ｐ２間から時計回りの順に2.3ｍ、2.5ｍ、2.4ｍ、2.6ｍである。

住居跡の中央には中央ピット（Ｐ５）があり、規模は長径56㎝、短径44㎝、床面からの深さ36㎝を測る。

**第３表　２区ＳＩ８ピット計測表**

| 番号 | 長径(㎝) | 短径(㎝) | 深さ(㎝) | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| Ｐ１ | 36 | 35 | 60 | 主柱穴 |
| Ｐ２ | 44 | 40 | 72 | 主柱穴 |
| Ｐ３ | 27 | 22 | 39 | 主柱穴 |
| Ｐ４ | 56 | 52 | 12 | 主柱穴 |
| Ｐ５ | 56 | 44 | 36 | 中央ピット |
| Ｐ６ | 47 | 35 | 17 | |
| Ｐ７ | 67 | (28) | 39 | |

遺物は埋土の上層から床面にかけて出土した。37～45は弥生土器である。37～42は甕で、37～40は口縁部が内傾するもので、37、38は口縁部下端を下方に僅かにつまみ出すが、39、40は口縁部下端はつまみ出されていない。41、42は口縁部が外反するもので、屈曲部の稜は認められない。43は注口土器で、環状の把手を有する。44、45は底部である。




第22図　２区ＳＩ８出土遺物

本遺構の時期は、出土遺物から弥生時代後期中葉と考えられる。

### （２）Ｂ群

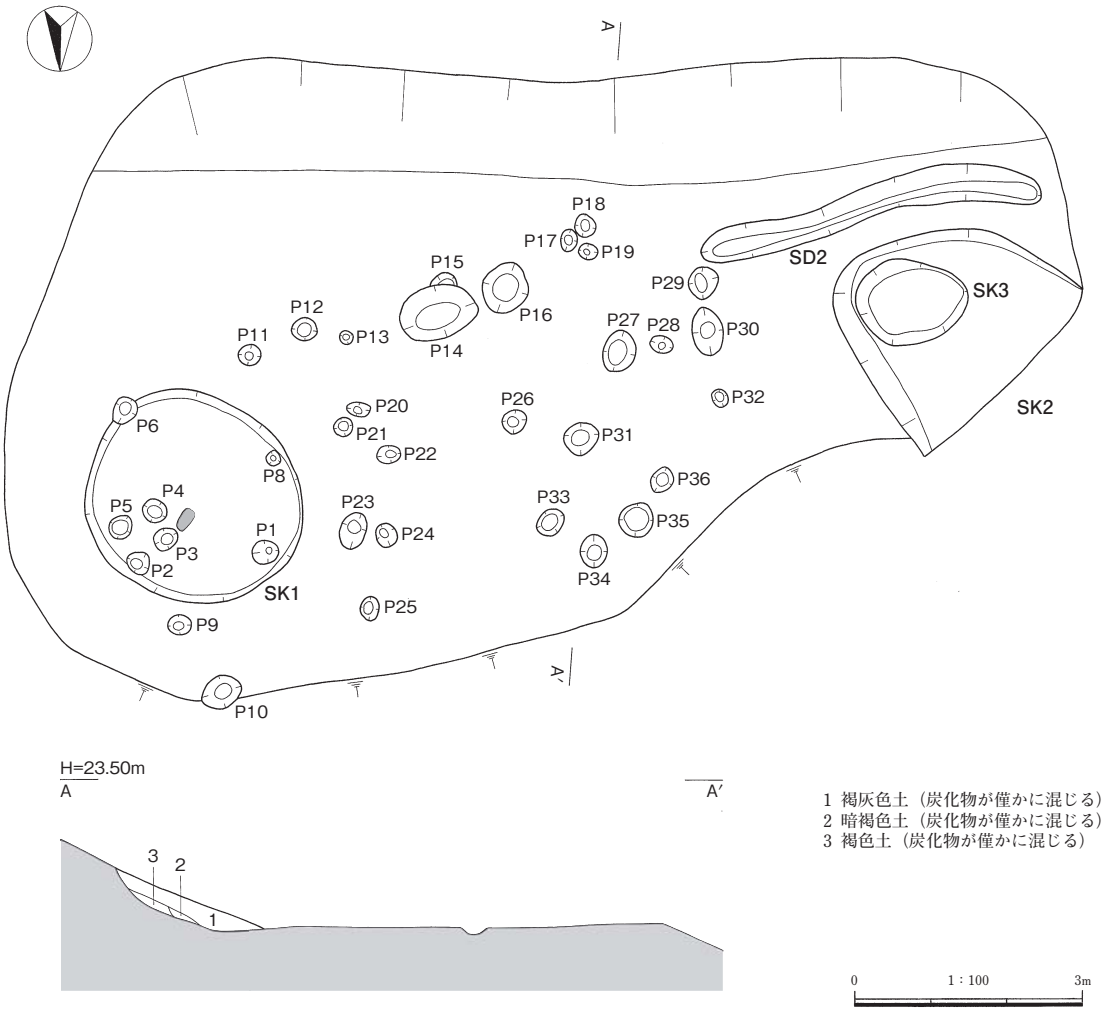
### ２区　ＳＳ３（第23、24図）

２区ＳＳ３は丘陵北側斜面の標高48.4～50.2ｍに位置する段状遺構である。北側は流失しているが、規模は長軸14.1ｍ、短軸6.3ｍ以上、壁高は0.45ｍを測る。

平坦面の東側には竪穴状遺構２区ＳＫ１、西側には土坑２区ＳＫ２・３と溝状遺構２区ＳＤ２がある。中央では26基のピットを検出し、直線的に並ぶも

**第４表　２区ＳＳ３ピット計測表**

| 番号 | 長径(cm) | 短径(cm) | 深さ(cm) | 備　考 | 番号 | 長径(cm) | 短径(cm) | 深さ(cm) | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| Ｐ１ | 34 | 31 | 17 | ＳＫ１ | Ｐ19 | 24 | 21 | 12 | |
| Ｐ２ | (24) | 31 | 17 | ＳＫ１ | Ｐ20 | 30 | 24 | 19 | |
| Ｐ３ | 32 | 28 | 34 | ＳＫ１ | Ｐ21 | 25 | 23 | 17 | |
| Ｐ４ | 31 | 30 | 15 | ＳＫ１ | Ｐ22 | 33 | 25 | 13 | |
| Ｐ５ | 35 | 30 | 24 | ＳＫ１ | Ｐ23 | 48 | 33 | 35 | |
| Ｐ６ | 37 | 35 | 26 | ＳＫ１ | Ｐ24 | 28 | 26 | 19 | |
| Ｐ７ | 19 | 18 | 10 | ＳＫ１ | Ｐ25 | 29 | 25 | 52 | |
| Ｐ８ | 13 | 11 | 7 | ＳＫ１ | Ｐ26 | 33 | 32 | 25 | |
| Ｐ９ | 31 | 28 | 61 | | Ｐ27 | 57 | 43 | 31 | |
| Ｐ10 | 51 | 41 | 52 | | Ｐ28 | 30 | 26 | 44 | |
| Ｐ11 | 30 | 28 | 46 | | Ｐ29 | 43 | 38 | 29 | |
| Ｐ12 | 33 | 30 | 52 | | Ｐ30 | 65 | 41 | 35 | |
| Ｐ13 | 19 | 18 | 24 | | Ｐ31 | 48 | 39 | 24 | |
| Ｐ14 | 106 | 73 | 50 | | Ｐ32 | 23 | 22 | 22 | |
| Ｐ15 | 33 | (14) | 32 | | Ｐ33 | 41 | 31 | 24 | |
| Ｐ16 | 68 | 61 | 31 | | Ｐ34 | 45 | 36 | 16 | |
| Ｐ17 | 28 | 22 | 14 | | Ｐ35 | 47 | 45 | 12 | |
| Ｐ18 | 29 | 28 | 10 | | Ｐ36 | 36 | 28 | 20 | |




第23図　２区ＳＳ３

のもあるが、明確に建物を構成するようなものは認められない。

遺物は埋土中から弥生土器（48、51）、土師器（46、47、49、50）、石器（Ｓ２、Ｓ３）が出土した。

46、47は土師器壺で、いずれも複合口縁を有する。48は弥生土器甕で、口縁部が外反し、７条の凹線が巡る。49、50は土師器甕で、いずれも複合口縁を有するが、口縁部の屈曲部の稜は認められない。51は弥生土器蓋である。

Ｓ２、Ｓ３は石器である。Ｓ２は花崗岩製の磨石・敲石で、長楕円形を呈しているが、右側縁の中央が窪み、下端部には敲打痕が、表面には擦痕が認められる。Ｓ３は角閃石安山岩製の磨石で、長楕円形を呈し、表面と両側面には擦痕が認められる。

本遺構の時期は、出土遺物から弥生時代後期後葉～末と考えられる。

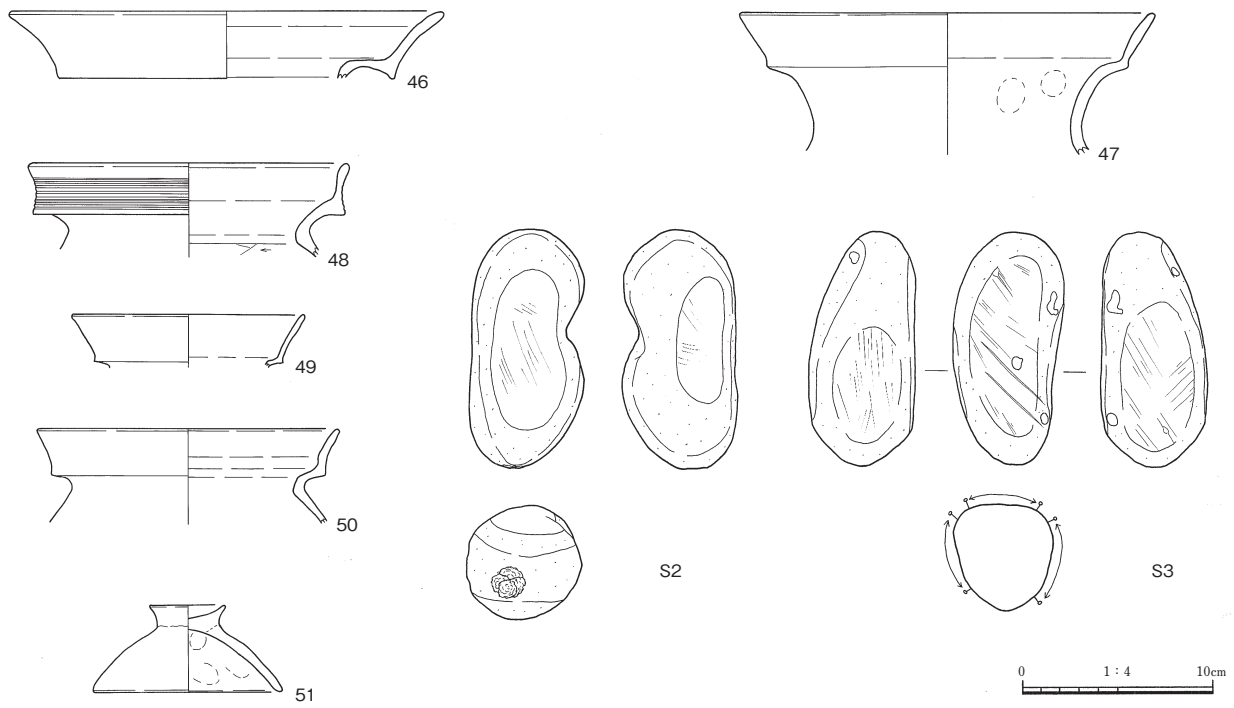
## ２区　ＳＫ１（第25、26図）

２区ＳＫ１は２区ＳＳ３内に位置する竪穴状遺構である。

平面形態は円形を呈し、規模は長軸2.9ｍ、短軸2.7ｍ、深さは0.1～0.2ｍを測る。壁際には幅５～10㎝、深さ２～３㎝の壁溝が全周し、中央やや北東寄りの床面では焼土面を検出した。

埋土は粘質土を主体とし、中央付近には炭化物層（２層）が堆積する。

遺物は埋土中から弥生土器（52～54）、石器（Ｓ４）が出土した。

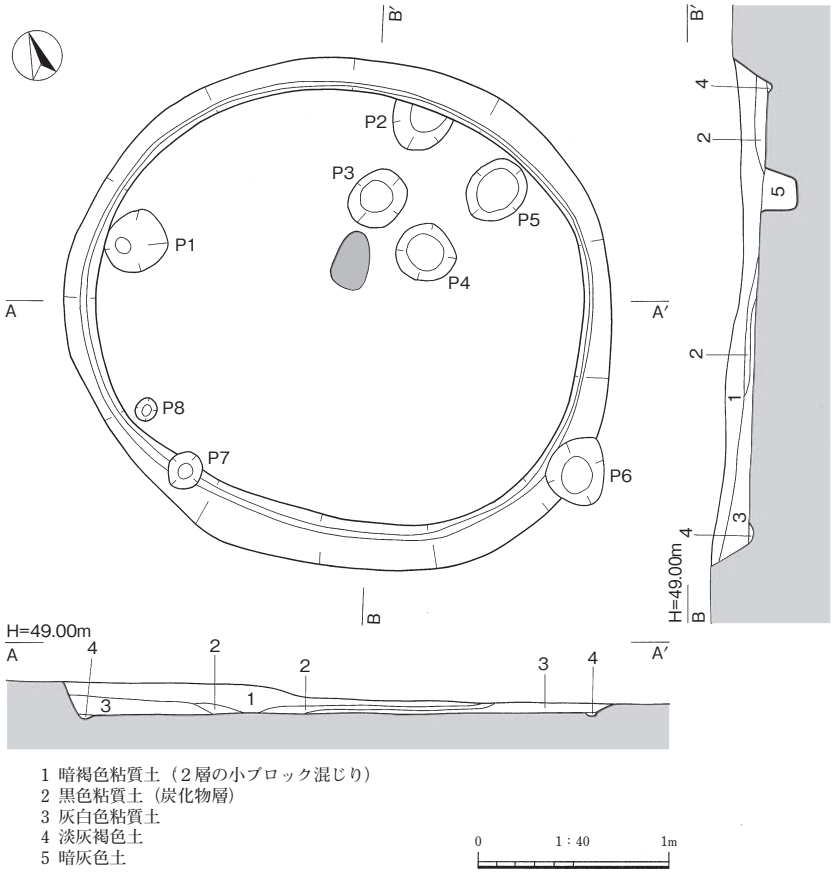



第24図　２区ＳＳ３出土遺物

52～54は弥生土器で、52は甕、53、54は底部である。52は複合口縁を有し、口縁部には６条の凹線が巡る。

Ｓ４はデイサイト製の台石である。大部分が欠損するが、扁平な長楕円形を呈すると考えられ、表面には敲打痕、表裏面には擦痕が認められる。

本遺構の時期は、出土遺物から弥生時代後期後葉と考えられる。




第25図　２区ＳＫ１

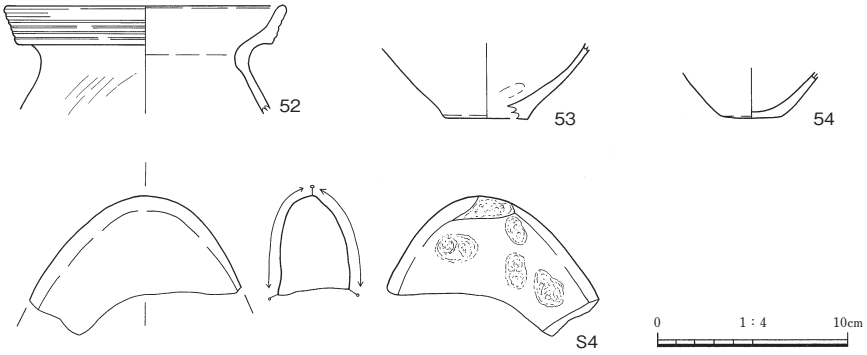
**第５表　2区SK1ピット計測表**

| 番号 | 長径(cm) | 短径(cm) | 深さ(cm) |
|---|---|---|---|
| Ｐ１ | 34 | 31 | 17 |
| Ｐ２ | (24) | 31 | 17 |
| Ｐ３ | 32 | 28 | 34 |
| Ｐ４ | 31 | 30 | 15 |
| Ｐ５ | 35 | 30 | 24 |
| Ｐ６ | 37 | 35 | 26 |
| Ｐ７ | 19 | 18 | 10 |
| Ｐ８ | 13 | 11 | 7 |

## ２区　ＳＫ２（第27、28図）

２区ＳＫ２は２区ＳＳ３内に位置する土坑で、本遺構の埋没後に２区ＳＫ３が掘り込まれている。また、南東側には２区ＳＤ２があり、その関連が窺える。

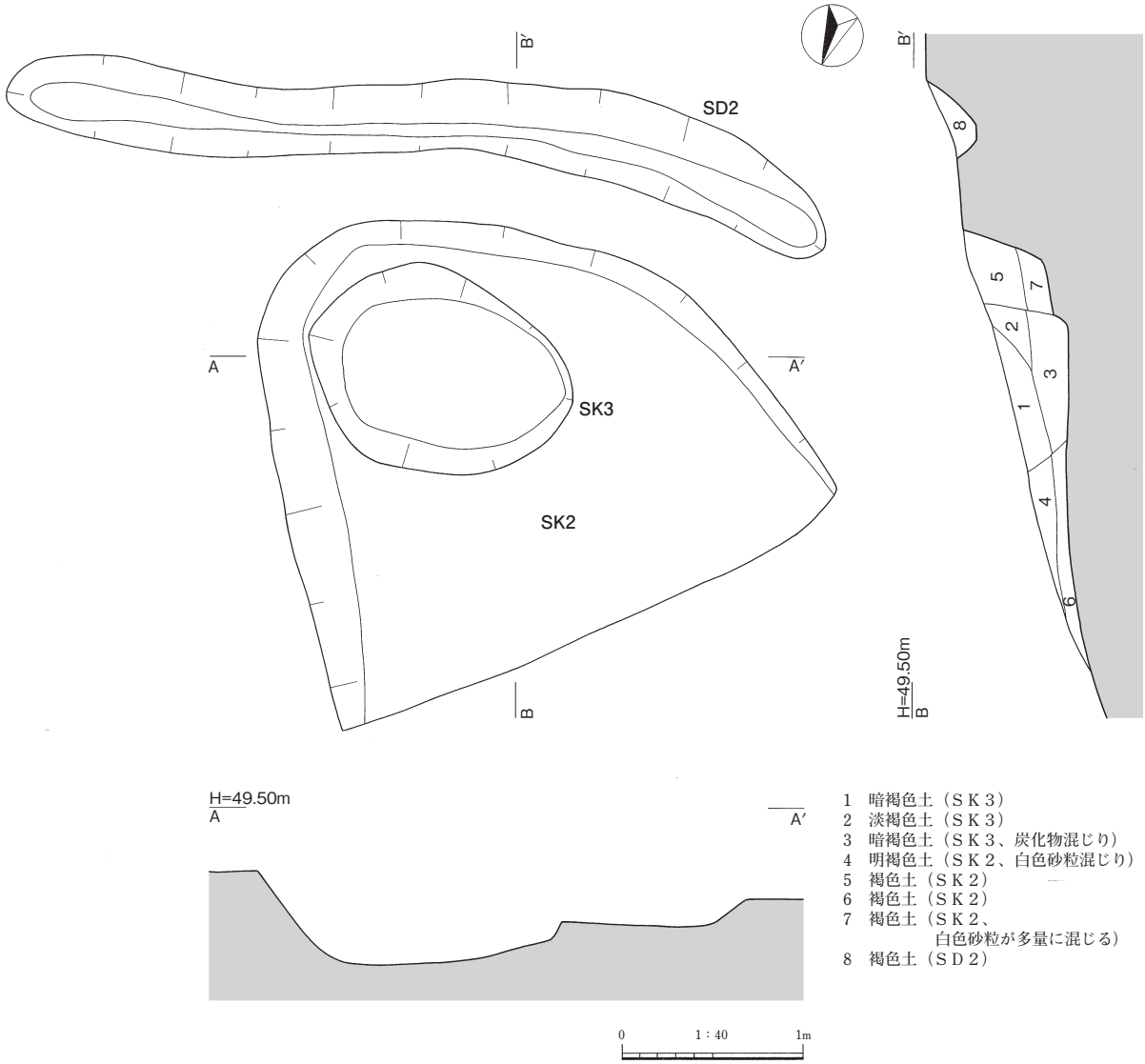
平面形態は北西側が流失しているが、不整な楕円状を呈すると考えられ、規模は長軸3.05ｍ以上、短軸2.65ｍ、深さは0.45ｍを測る。




第26図　２区ＳＫ１出土遺物

埋土は概ね２層に分層でき、褐色土が主体となって堆積する。

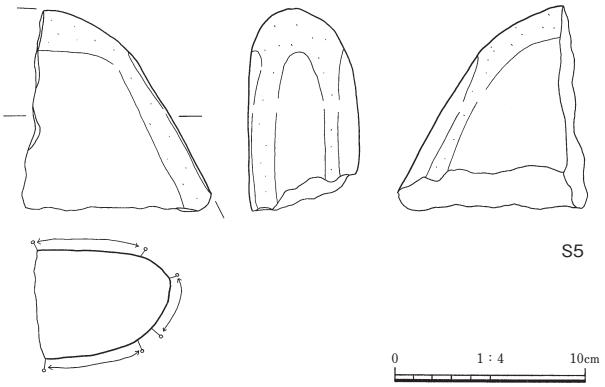
遺物は埋土中から石器（Ｓ５）が出土し、この他にも図示できないが、弥生土器が出土した。




第27図　２区ＳＫ２・３、ＳＤ２

Ｓ５はデイサイト製の台石である。下半部と左側縁が欠損するが、扁平な長楕円形を呈すると考えられ、表裏面及び右側縁には擦痕が認められる。

本遺構の時期は、出土遺物と２区ＳＳ３との関係から弥生時代後期後葉～末と考えられる。




第28図　２区ＳＫ２出土遺物

**２区　ＳＫ３**（第27図）

２区ＳＫ３は２区ＳＳ３内に位置する土坑で、２区ＳＫ２が埋没した後に掘り込まれている。

平面形態は楕円形を呈し、断面形態は逆台形状を呈する。規模は長軸1.3ｍ、短軸1.15ｍ、深さは0.5ｍを測る

埋土は上下２層に大別でき、下層の暗褐色土（３層）には炭化物が混じっている。

本遺構の時期は、遺物が出土していないが、２区ＳＫ２と２区ＳＳ３との関係から弥生時代後期後葉～末と考えられる。

**２区　ＳＤ２**（第27図）

２区ＳＤ２は２区ＳＳ３内に位置する溝状遺構である。北西側には２区ＳＫ２があり、その位置関係から２区ＳＫ２に伴うものと考えられる。東西方向に直線状にのび、西端はＳＫ２に沿うように北西側にやや湾曲している。検出した長さは4.65ｍ、幅0.35～0.5ｍ、検出面からの深さ0.3ｍを測る。断面形態は皿状を呈し、底面の標高は西端が東端よりも10㎝程度高い。

遺物は図示できないが、埋土中から弥生土器と土師器が出土した。

本遺構の時期は、出土遺物と２区ＳＳ３との関係から弥生時代後期後葉～末と考えられる。

**（３）Ｃ群**

**２区　ＳＳ４**（第29、30図）

２区ＳＳ４は丘陵北側斜面の標高46.2～47.7ｍに位置する段状遺構である。

平面形態は、北西側が２区ＳＳ５に切られているが、不整な隅丸長方形状を呈すると考えられる。規模は長軸8.2ｍ以上、短軸1.2ｍ以上、壁高は0.45ｍを測る。平坦面ではピット及び壁溝は検出されなかった。埋土は淡褐色土の単層である。

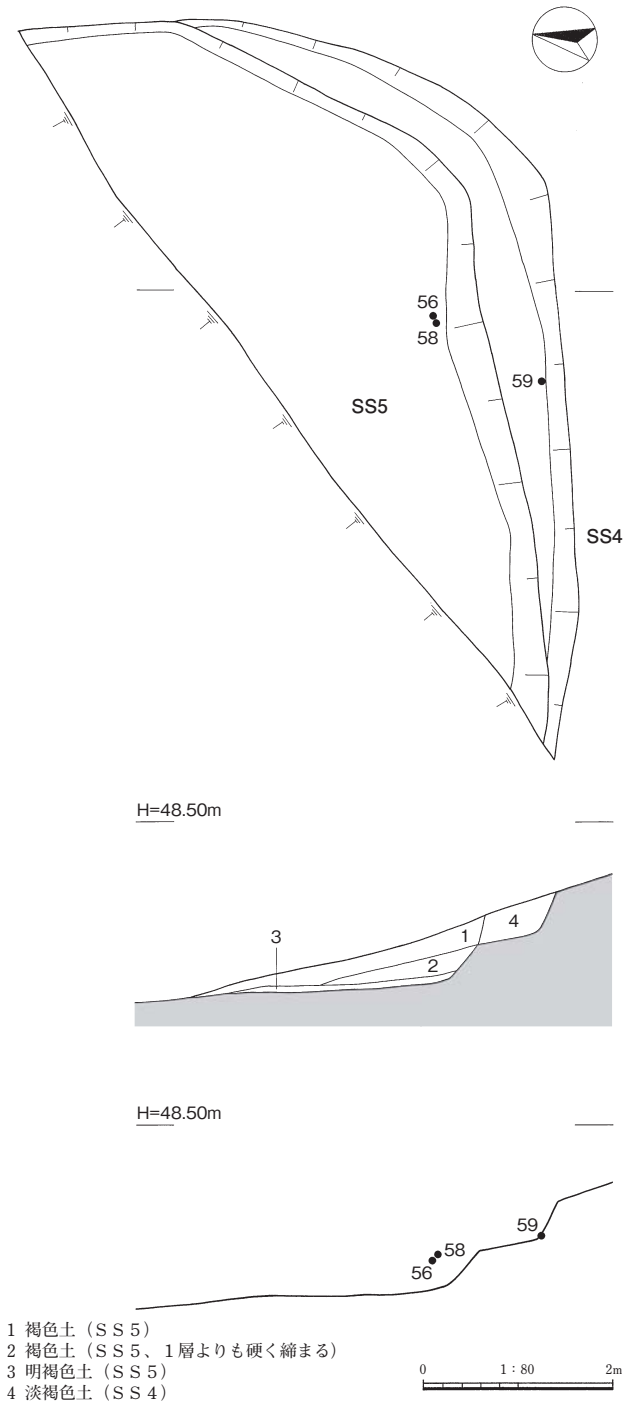
遺物は埋土中から土師器甕（59）が出土した。

本遺構の時期は、出土遺物から弥生時代後期末～古墳時代前期初頭と考えられる。

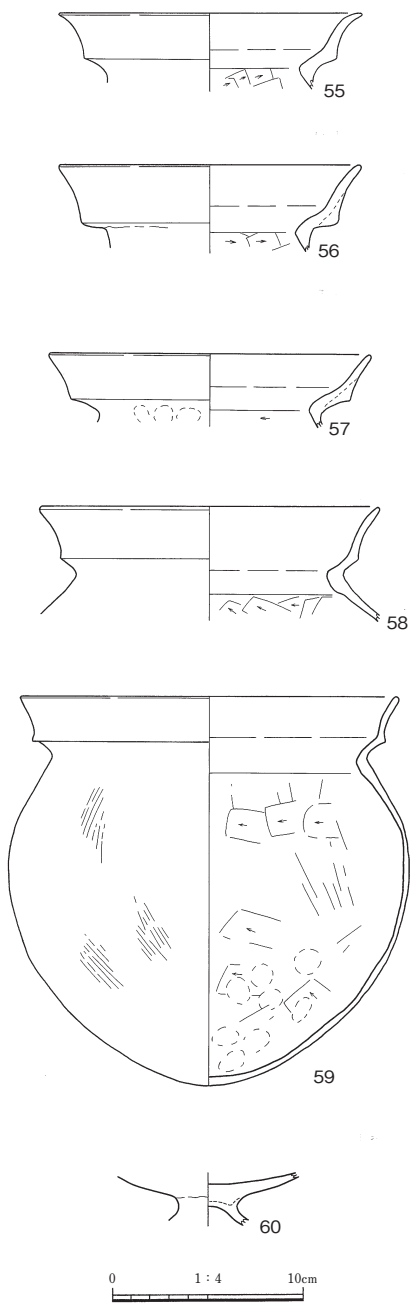
**２区　ＳＳ５**（第29、30図）

２区ＳＳ５は丘陵北側斜面の標高46.2～47.7ｍに位置する段状遺構で、２区ＳＳ４を切っている。

平面形態は、北西側が流失しているが、不整な隅丸長方形状を呈すると考えられる。規模は長軸8.5




第29図　２区ＳＳ４・５




第30図　２区ＳＳ４・５出土遺物

m以上、短軸5.2ｍ以上、壁高は0.7ｍを測る。平坦面ではピット及び壁溝は検出されなかった。

埋土は上層から褐色土（１・２層）、明褐色土（３層）となっており、２層は硬く締まっている。

遺物は埋土中から土師器（55～58、60）が出土した。

55～58は土師器甕、60は土師器低脚坏である。

本遺構の時期は、出土遺物から弥生時代後期末～古墳時代前期初頭と考えられる。

（４）Ｄ群

２区　ＳＳ１（第31、32図）

２区ＳＳ１は丘陵東側斜面の標高45.8～47.3ｍに位置する段状遺構である。

平面形態は、東側が流失しているが、隅丸長方形状を呈し、規模は長軸19.3ｍ、短軸6.2ｍ以上、壁高は0.4～0.8ｍを測る。南側は２区ＳＳ15・16と２区ＳＩ13が埋没した後に構築されたもので、この部分ではピットなどは検出できなかった。西側の壁際には幅36～48㎝、深さ10～12㎝の壁溝があり、その東側にも長さ2.8ｍ、幅26～31㎝、深さ10㎝と長さ3.1ｍ、幅35～57㎝、深さ８～11㎝の２条の溝がある。

北側の平坦面では41基のピットを検出した。このうち、Ｐ１～Ｐ３とＰ４～Ｐ６は、東側が流失しているため東西方向の柱穴は確認できなかったが、南北方向に直線的に並び、それぞれ桁行２間（Ｐ１－Ｐ３間：3.25ｍ、Ｐ４－Ｐ６間：3.45ｍ）の掘立柱建物跡となる可能性がある。柱穴の規模は径25～49㎝、平坦面からの深さ28～48㎝を測り、柱穴間の距離はＰ１－Ｐ２間が1.65ｍ、Ｐ２－Ｐ３間が1.6ｍで、Ｐ４－Ｐ５間が1.8ｍ、Ｐ５－Ｐ６間が1.65ｍである。掘立柱建物跡と仮定した場合、その主軸はＰ１－Ｐ３間がＮ－６°－Ｅ、Ｐ４－Ｐ６間がＮ－12°－Ｅである。

段状遺構の埋土は淡灰茶色の単層である。

遺物は埋土中から弥生土器（61～72）、土師器（73～77）、石器（Ｓ６～Ｓ８）が出土した。

61～72は弥生土器である。61は壺で、口縁部下端は大きく垂下し、３条の凹線が巡る。62～70は甕で、62、63は口縁端部を上下につまみ出し、端面は内傾する。62、63とも３条の凹線が巡る。64、65は口縁部が内傾するが、凹線は認められない。66、67は口縁部が直立する。68～70は口縁部が外反するもので、68は12条、69は11条、70は多条の凹線が巡る。71は底部である。72は器台で、口縁部に３条の凹線が巡る。

73～77は土師器甕で、73～75は口縁部の屈曲部が外方へ僅かにつまみ出されたものである。76は口縁部の屈曲部がさらに外方へつまみ出されたものである。77は口縁部が大きく外反し、口縁部径より胴部径が小さいものである。

Ｓ６～Ｓ８は石器である。Ｓ６は凝灰岩製の砥石で、長方形を呈し、表裏面と両側面及び上下端面の６面を使用している。Ｓ７はデイサイト製の磨石･敲石で、扁平な円形を呈する。下端部、両側縁、及び表面には敲打痕が認められる。Ｓ８は角閃石安山岩製の台石である。下半部と右側縁を欠損するが、長楕円形を呈すると考えられ、表面と裏面には擦痕が認められる。

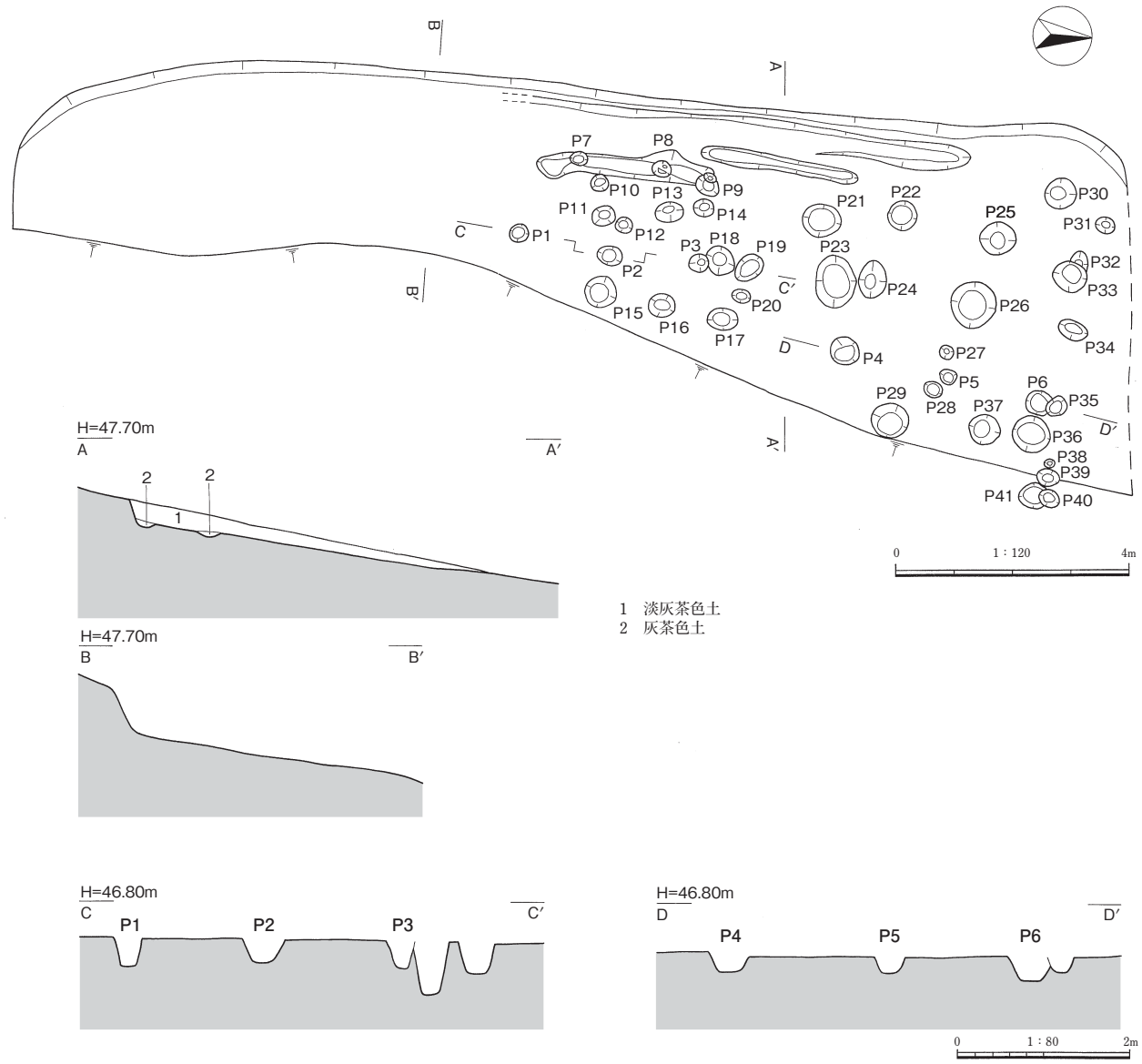
本遺構の時期は、出土遺物から弥生時代後期後葉～末と考えられる。

２区　ＳＳ17（第33、34図）

２区ＳＳ17は丘陵東側斜面の標高45.8～46.9ｍに位置する段状遺構である。北側は２区ＳＳ15・16と２区ＳＩ13が埋没した後に構築されたもので、さらに北側は２区ＳＳ１に切られている。

平面形態は、東側が流失し、北側は２区ＳＳ１に切られているが、隅丸長方形状を呈すると考えられる。規模は長軸7.4ｍ以上、短軸4.0ｍ以上、壁高は1.1ｍを測る。西側の壁際には幅38～44㎝、深さ８～13㎝の壁溝があり、平坦面では10基のピットを検出した。このうち、Ｐ１～Ｐ７で掘立柱建物跡（２区ＳＢ５）を構成する。

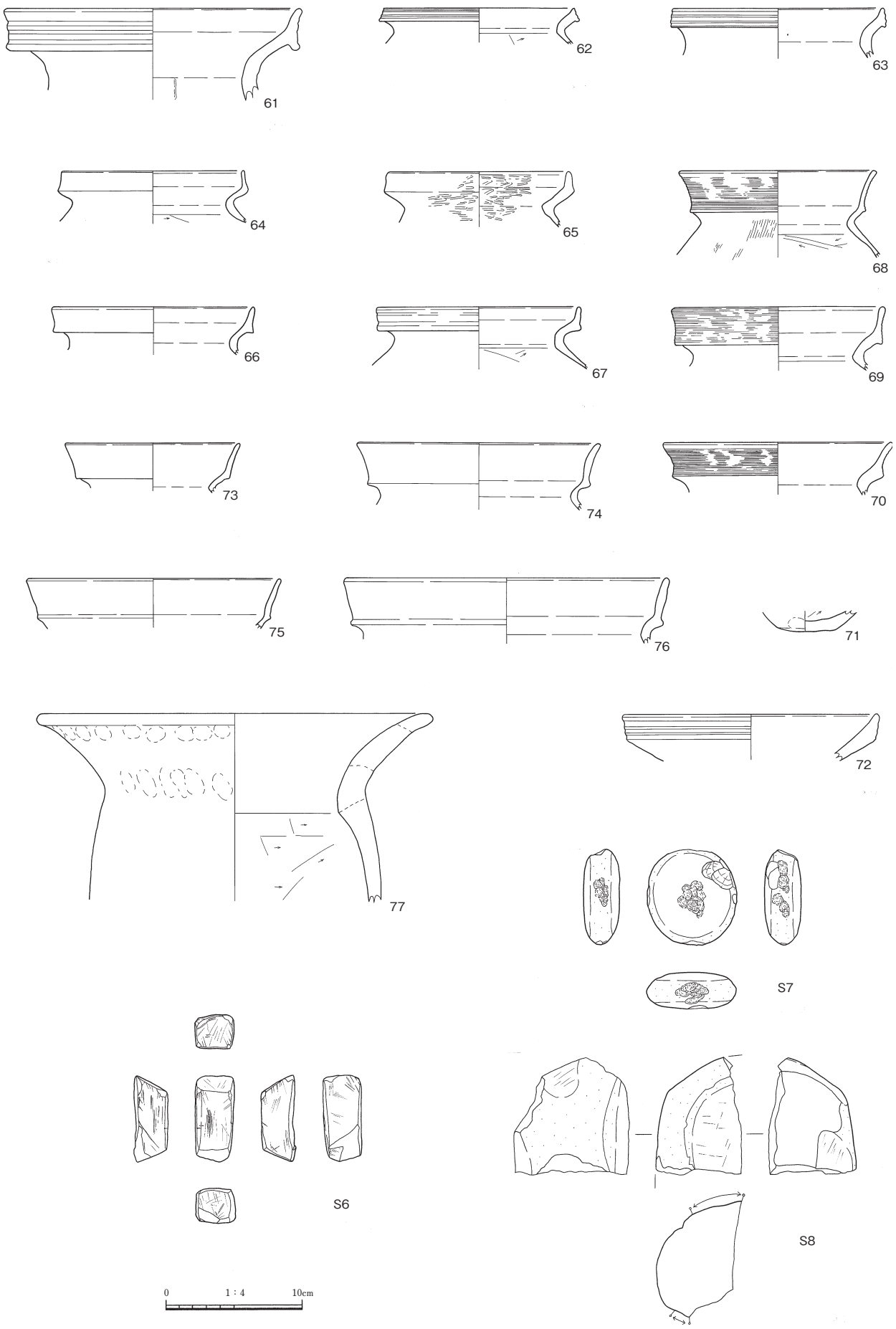
遺物は埋土中から弥生土器（78、79、81）、土師器（80）が出土した。




第31図　２区ＳＳ１

## 第６表　２区ＳＳ１ピット計測表

| 番号 | 長径(cm) | 短径(cm) | 深さ(cm) | 番号 | 長径(cm) | 短径(cm) | 深さ(cm) | 番号 | 長径(cm) | 短径(cm) | 深さ(cm) |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| P１ | 33 | 33 | 48 | P15 | 58 | 52 | 11 | P29 | 63 | 61 | 18 |
| P２ | 42 | 37 | 42 | P16 | 48 | 43 | 18 | P30 | 59 | 53 | 16 |
| P３ | 35 | 33 | 48 | P17 | 53 | 38 | 35 | P31 | 29 | 27 | 58 |
| P４ | 49 | 47 | 30 | P18 | 50 | 38 | 37 | P32 | (30) | 31 | 11 |
| P５ | 31 | 25 | 28 | P19 | 45 | 41 | 30 | P33 | 60 | 56 | 33 |
| P６ | 40 | 40 | 44 | P20 | 31 | 25 | 28 | P34 | 51 | 33 | 50 |
| P７ | 30 | 21 | 25 | P21 | 65 | 58 | 8 | P35 | 37 | 29 | 15 |
| P８ | 37 | 23 | 26 | P22 | 53 | 52 | 26 | P36 | 67 | 65 | 32 |
| P９ | 63 | 42 | 36 | P23 | 93 | 70 | 34 | P37 | 54 | 53 | 28 |
| P10 | 37 | 30 | 43 | P24 | 65 | 48 | 29 | P38 | 20 | 19 | 16 |
| P11 | 40 | 39 | 42 | P25 | 64 | 61 | 51 | P39 | 37 | 32 | 27 |
| P12 | 30 | 28 | 9 | P26 | 89 | 79 | 28 | P40 | 34 | 30 | 15 |
| P13 | 43 | 37 | 22 | P27 | 26 | 23 | 26 | P41 | 52 | 44 | 21 |
| P14 | 31 | 30 | 32 | P28 | 34 | 29 | 15 | | | | |




第32図　２区ＳＳ１出土遺物

78、79、81は弥生土器である。78、79は甕で、いずれも口縁部が内湾気味に立ち上がり、78は７条の凹線が巡る。81は底部である。

80は土師器甕で、口縁部の屈曲部が外方へ突出する。

本遺構の時期は、出土遺物から弥生時代後期後葉～末と考えられる。

**第７表　２区ＳＳ17ピット計測表**

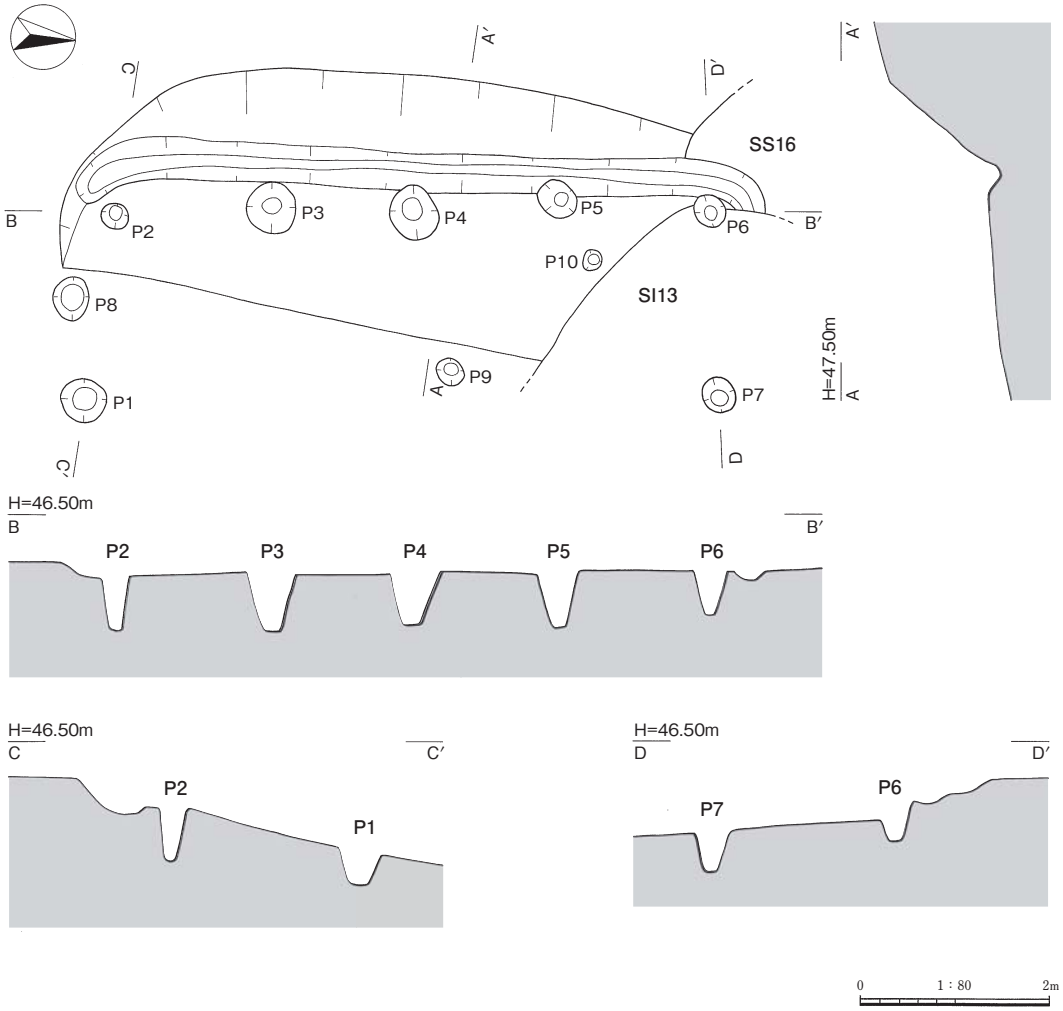
| 番号 | 長径(cm) | 短径(cm) | 深さ(cm) | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| Ｐ１ | 49 | 43 | 39 | ＳＢ５柱穴 |
| Ｐ２ | 30 | 28 | 67 | ＳＢ５柱穴 |
| Ｐ３ | 56 | 55 | 61 | ＳＢ５柱穴 |
| Ｐ４ | 61 | 49 | 56 | ＳＢ５柱穴 |
| Ｐ５ | 43 | 41 | 49 | ＳＢ５柱穴 |
| Ｐ６ | 37 | 33 | 47 | ＳＢ５柱穴 |
| Ｐ７ | 39 | 35 | 43 | ＳＢ５柱穴 |
| Ｐ８ | 49 | 36 | 32 | |
| Ｐ９ | 32 | 28 | 19 | |
| Ｐ10 | 19 | 18 | 22 | |

## ２区　ＳＢ５（第33図）

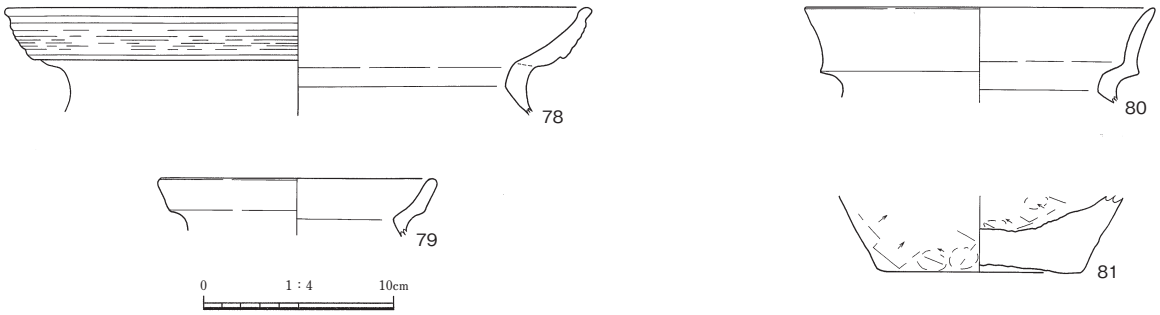
２区ＳＢ５は２区ＳＳ17内に位置する。桁行４間（6.3ｍ）、梁行１間以上（2.0ｍ以上）の南北棟の建物で、平面積は12.6㎡以上を測る。主軸はＮ－９°－Ｗである。

柱穴の規模は径28～61㎝、平坦面からの深さは39～67㎝を測り、柱穴間の距離はＰ１－Ｐ２間から時計回りの順に2.0ｍ、1.6ｍ、1.5ｍ、1.6ｍ、1.6ｍ、2.0ｍである。

本遺構の時期は、柱穴内から遺物が出土していないが、ＳＳ17との関係から弥生時代後期後葉～末と考えられる。




第33図　２区ＳＳ17、ＳＢ５




第34図　２区ＳＳ17出土遺物

**２区　ＳＳ15**（第35、36図）

２区ＳＳ15は丘陵東側斜面の標高46.2～48.2ｍに位置する段状遺構である。２区ＳＳ16と２区ＳＩ13が埋没した後に構築されたもので、東側は２区ＳＳ１に切られている。

平面形態は多角形状を呈すると考えられ、規模は長軸8.0ｍ、短軸3.0ｍ以上、壁高は1.6ｍを測る。本遺構に伴う壁溝は認められない。

埋土は８層に分層でき、地形的に高い位置にある西側の壁際から埋没したと考えられる。

遺物は埋土中から弥生土器（82～94）が出土した。

82～94は弥生土器である。82、83は口縁端部が垂下し、82は３条、83は５条の凹線が巡る。84、85は口縁部が内湾気味に立ち上がり、86、87は口縁部が外傾気味に立ち上がる。84は６条、86は３条、87は５条の凹線が巡る。88～90は口縁部が僅かに外反し、88は８条、89は６条の凹線が巡り、90は内外面に赤色塗彩が施されている。91、92は底部である。93は器台、94は高坏で、93は口縁部に多数の凹線が巡り、内外面には赤色塗彩が施されている。

本遺構の時期は、出土遺物から弥生時代後期中葉～後葉と考えられる。

**２区　ＳＳ16**（第35、37図）

２区ＳＳ16は丘陵東側斜面の標高45.8～46.6ｍに位置する竪穴住居跡である。２区ＳＩ13が埋没した後に構築されたもので、上部は２区ＳＳ１と２区ＳＳ15に削平され、南側は２区ＳＳ17に切られている。

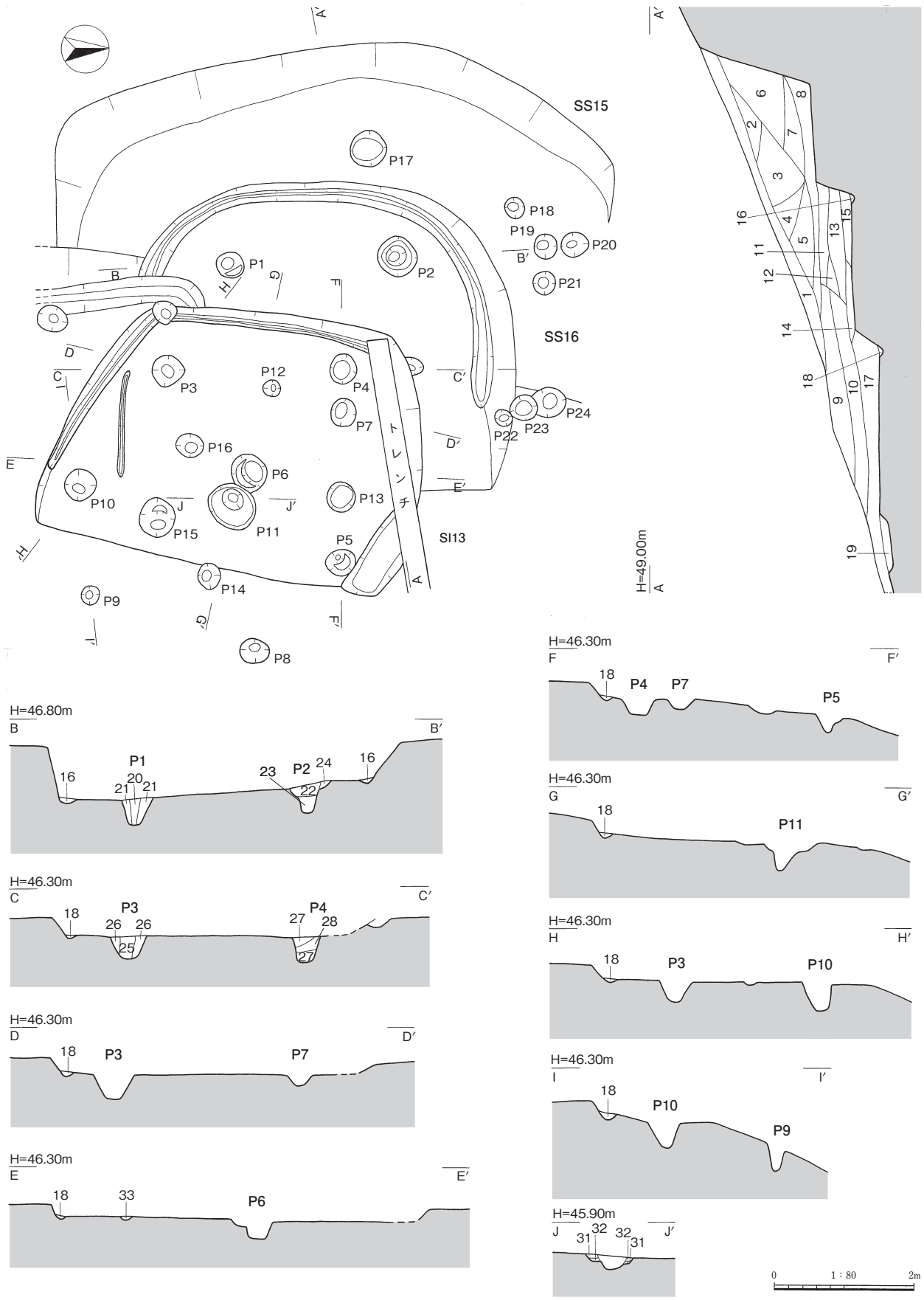
平面形態は、東側が流失しているが、隅丸方形状を呈すると考えられ、規模は長軸5.3ｍ、短軸4.8ｍ以上、壁高は0.5ｍ、床面積は26.9㎡以上を測る。南、西、北側の壁際には幅16～31㎝、深さ５～８㎝の壁溝が巡っている。

主柱穴は西側でＰ１とＰ２の２基を検出したが、東側では２区ＳＩ13の埋土上面を床面としているため検出できず、中央ピットも確認できなかった。主柱穴の規模は径37～59㎝、床面からの深さ40～45㎝を測り、Ｐ１－Ｐ２間の距離は2.4ｍを測る。

埋土は７層に分層でき、すべての層に地山由来のロームブロックが混じっている。

遺物は埋土中から弥生土器（95～103）が出土した。

95～103は弥生土器である。95は口縁部が内傾し、２条の凹線が巡る。96は口縁部が直立し、４




第35図　２区ＳＳ15・16、ＳＩ13

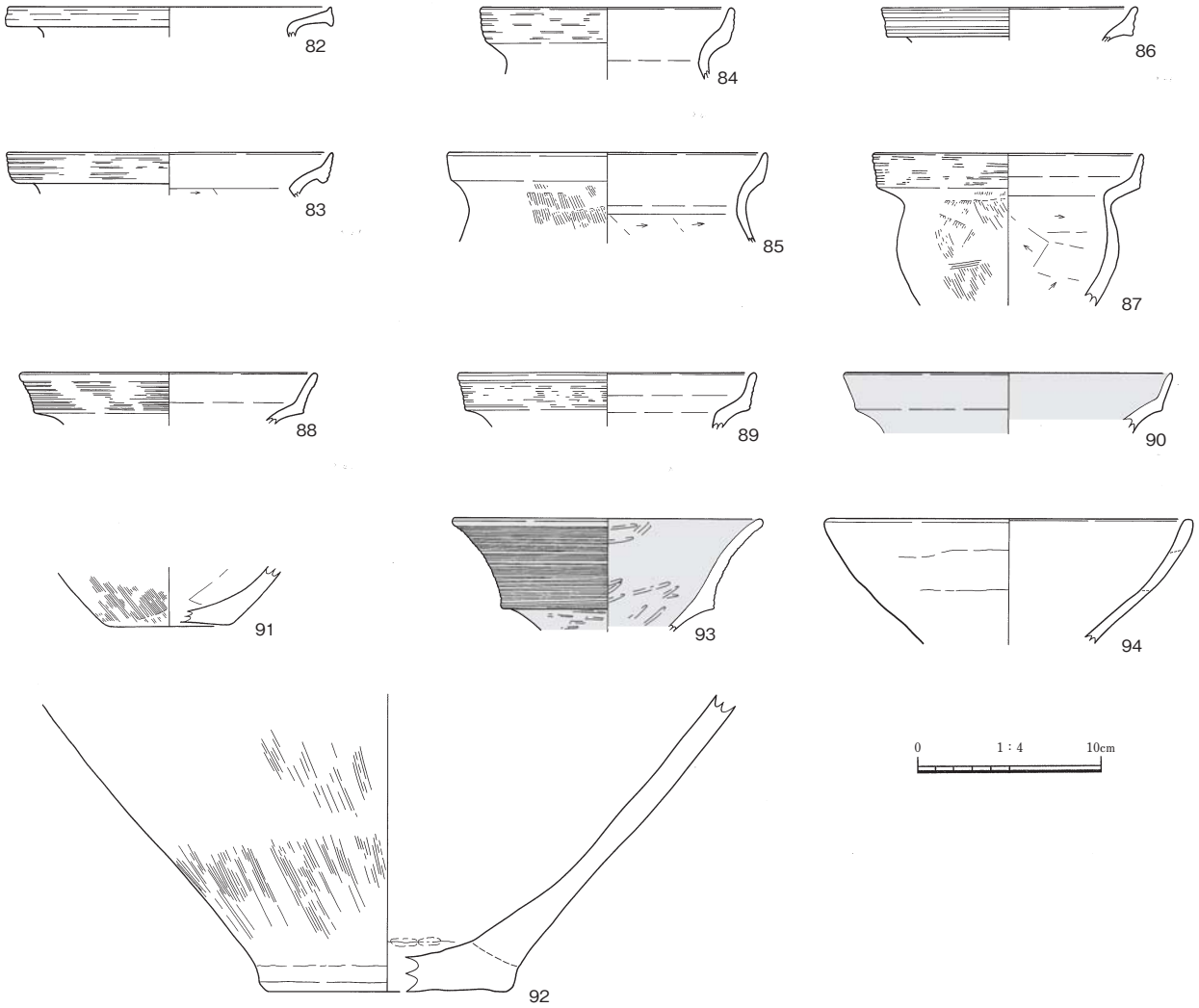
1　暗褐色土（ＳＳ15）
2　灰褐色土（ＳＳ15、ロームブロック混じり）
3　明褐色土（ＳＳ15）
4　褐色土（ＳＳ15）
5　淡黒灰色土（ＳＳ15、ロームブロック、ローム粒混じり）
6　淡赤褐色土（ＳＳ15）
7　淡茶灰色土（ＳＳ15）
8　暗灰色土（ＳＳ15、ローム粒混じり）
9　淡茶灰色土（ＳＳ16、ローム粒が僅かに混じる）
10 茶灰色土（ＳＳ16、ローム粒が僅かに混じる）
11 褐色土（ＳＳ16、ロームブロック混じり）
12 淡灰褐色土（ＳＳ16、ロームブロックが多量に混じる）
13 灰褐色土（ＳＳ16、ロームブロックが多量に混じる）
14 茶灰色土（ＳＳ16、ロームブロック混じり）
15 暗茶灰色土（ＳＳ16、ロームブロック混じり）
16 暗灰色粘質土（ＳＳ16）
17 暗灰色土（ＳＩ13、ロームブロック混じり）
18 暗灰色土（ＳＩ13Ｂ）
19 淡黒灰色土（ロームブロック混じり）
20 淡灰褐色土（ロームブロック混じり）
21 褐色土
22 灰褐色土
23 暗灰色土
24 淡褐色土
25 灰褐色土
26 褐色土
27 灰褐色土（ロームブロック混じり）
28 暗灰色土（ローム粒混じり）
29 灰褐色土（ローム粒混じり）
30 淡茶灰色土（ローム粒混じり）
31 茶灰色土（ロームブロック混じり）
32 淡褐色土
33 暗灰色土（ＳＩ13Ａ）

## 第８表　２区ＳＳ15ピット計測表

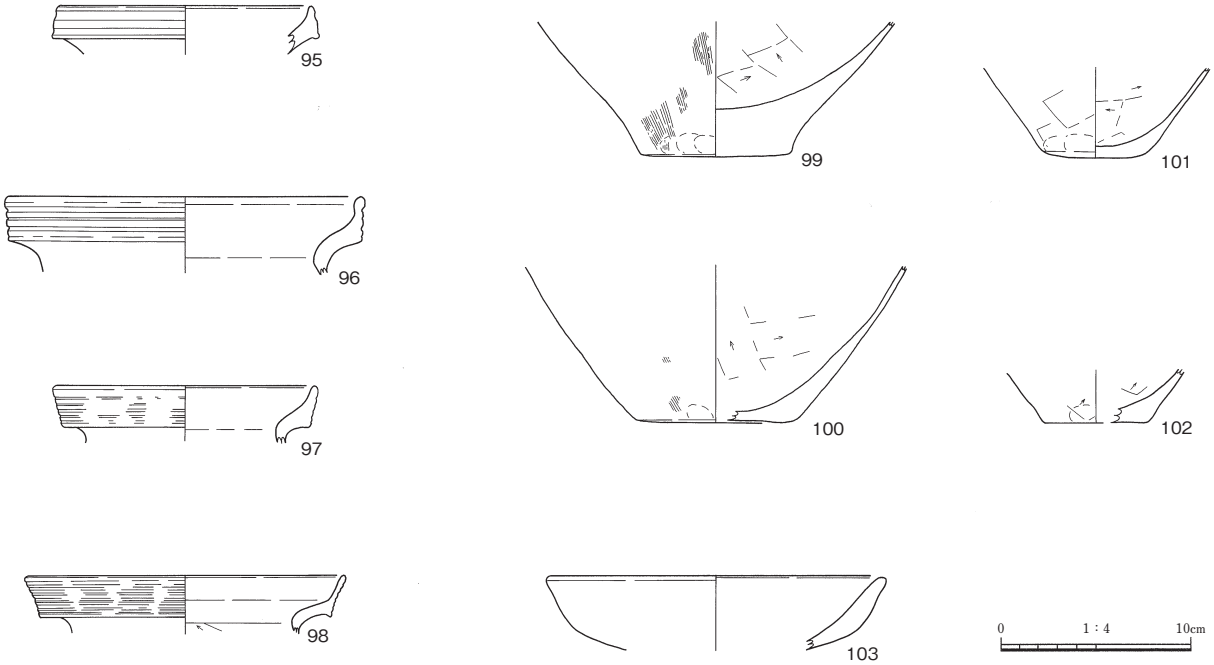
| 番号 | 長径(cm) | 短径(cm) | 深さ(cm) | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| Ｐ17 | 55 | 53 | 21 | |
| Ｐ18 | 32 | 28 | 50 | |
| Ｐ19 | 36 | 34 | 35 | |
| Ｐ20 | 40 | 37 | 43 | |
| Ｐ21 | 32 | 32 | 26 | |
| Ｐ22 | 27 | 24 | 8 | |
| Ｐ23 | 40 | 37 | 20 | |
| Ｐ24 | (48) | 44 | 20 | |

## 第９表　２区ＳＳ16ピット計測表

| 番号 | 長径(cm) | 短径(cm) | 深さ(cm) | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| Ｐ１ | 40 | 37 | 40 | 主柱穴 |
| Ｐ２ | 59 | 59 | 45 | 主柱穴 |




第36図　２区ＳＳ15出土遺物




第37図　２区ＳＳ16出土遺物

条の凹線が巡る。97、98は口縁部が外傾し、97は５条、98は７条の凹線が巡る。99～102は底部、103は高坏の坏部である。

本遺構の時期は、出土遺物から弥生時代後期中葉～後葉と考えられる。

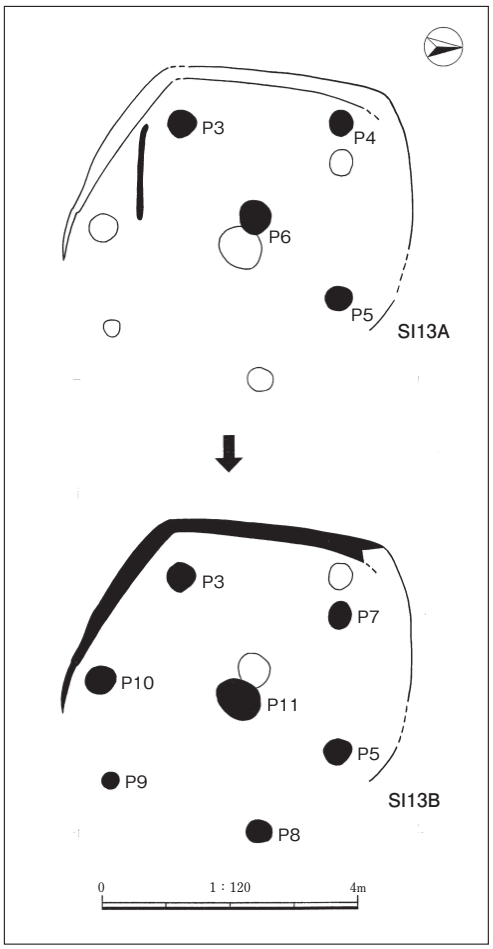
## ２区　ＳＩ13（第35、38図）

２区ＳＩ13は丘陵東側斜面の標高45.3～45.9ｍに位置する竪穴住居跡である。上部は２区ＳＳ17と２区ＳＳ16に削平されている。

壁溝の配置から１回の建て替えが認められる。建て替え前の住居跡（ＳＩ13Ａ）は南側でのみ壁溝を検出したが、その形態から平面形態は方形を呈していたと考えられる。

主柱穴はＰ３～Ｐ５の３基で、規模は径37～59㎝、床面からの深さ25～37㎝を測る。主柱穴間の距離はＰ３－Ｐ４間が2.5ｍ、Ｐ４－Ｐ５間が2.65ｍである。南側には幅７～９㎝、深さ５～６㎝の壁溝がある

住居跡の中央には中央ピット（Ｐ６）があり、南東側は２段掘りとなっている。規模は長軸51㎝、短軸50㎝、床面からの深さ30㎝を測る。




第38図　２区ＳＩ13変遷図

建て替え後の住居跡（ＳＩ13Ｂ）は東側が流失しているが、平面形態は六角形を呈すると考えられ、規模は長軸5.3ｍ、短軸5.0ｍ以上、壁高は0.3ｍ、床面積は14.3㎡以上を測る。北側はトレンチにより確認できなかったが、南側と西側の壁際には幅11～17㎝、深さ５～８㎝の壁溝が巡っている。

主柱穴はＰ３・５・７～10の６基で、規模は径25～59㎝、床面からの深さ18～41㎝を測る。主柱穴間の距離はＰ３－Ｐ７間から時計回りの順に2.5ｍ、2.1ｍ、1.75ｍ、2.5ｍ、1.55ｍ、2.1ｍである。

住居跡の中央には断面形が二段掘りになる中央ピット（Ｐ11）があり、規模は長軸69㎝、短軸60㎝、床面からの深さ39㎝を測る。

**第10表　２区ＳＩ13ピット計測表**

| 番号 | 長径(㎝) | 短径(㎝) | 深さ(㎝) | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| Ｐ３ | 59 | 44 | 33 | SI13A・B主柱穴 |
| Ｐ４ | 42 | 40 | 37 | SI13A主柱穴 |
| Ｐ５ | 46 | 37 | 25 | SI13A・B主柱穴 |
| Ｐ６ | 51 | 50 | 30 | SI13A中央ピット |
| Ｐ７ | 40 | 39 | 18 | SI13B主柱穴 |
| Ｐ８ | 40 | 36 | 39 | SI13B主柱穴 |
| Ｐ９ | 26 | 25 | 41 | SI13B主柱穴 |
| Ｐ10 | 49 | 48 | 33 | SI13B主柱穴 |
| Ｐ11 | 60 | 60 | 20 | SI13B中央ピット |
| Ｐ12 | 26 | 24 | 30 | |
| Ｐ13 | 42 | 41 | 8 | |
| Ｐ14 | 37 | 33 | 28 | |
| Ｐ15 | 57 | 53 | 24 | |
| Ｐ16 | 39 | 35 | 43 | |

埋土は上部が削平されているため、暗灰色土（17層）の１層を確認したのみである。

遺物は図示できないが、埋土中から弥生土器が出土した。

本遺構の時期は、出土遺物と２区ＳＳ16との関係から弥生時代後期中葉～後葉と考えられる。

### （５）Ｅ群

#### ３区　ＳＩ３（第39～43図）

３区ＳＩ３は谷部の標高31.9～32.7ｍに位置する竪穴住居跡である。

平面形態は南側が調査区外にかかっているが、隅丸長方形を呈すると考えられる。

３区ＳＩ３では２面の床面を確認し、いずれも貼床が認められる。規模はいずれも長軸5.7ｍ以上、短軸4.7ｍ、床面積は20.5㎡以上を測り、西側と北側の壁際には幅18～40㎝、深さ７～13㎝の壁溝が巡っている。

建て替え前の住居跡（ＳＩ３Ａ）は、西側では地山のローム層を削り込んで床面としているが、住居跡の中央付近には地山のローム層に由来する厚さ５～６㎝の貼床が認められる。東側は貼床が削平されたと考えられ、ローム漸移層を床面としている。

主柱穴は位置的にＰ１～Ｐ３の３基が該当すると考えられ、その規模は径45～60㎝、床面からの深さ25～29㎝を測る。主柱穴間の距離はＰ１－Ｐ２間が2.5ｍ、Ｐ２－Ｐ３間が2.8ｍである。Ｐ４とＰ５は主柱穴間の中央に対称的に位置しており、棟持柱の可能性がある。規模はＰ４が長径35㎝、短径28㎝、床面からの深さ49㎝、Ｐ５が長径50㎝、短径29㎝、床面からの深さ㎝31㎝を測り、Ｐ４－Ｐ５間の距離は3.1ｍである。

ＳＩ３Ａからは弥生土器（104）と土師器（105）が出土した。

104は弥生土器甕で、下層から混入したと考えられる。口縁端部は外方に肥厚し、上部には面をもつ。頸部には９条のクシ描沈線が巡る。105は土師器低脚坏である。

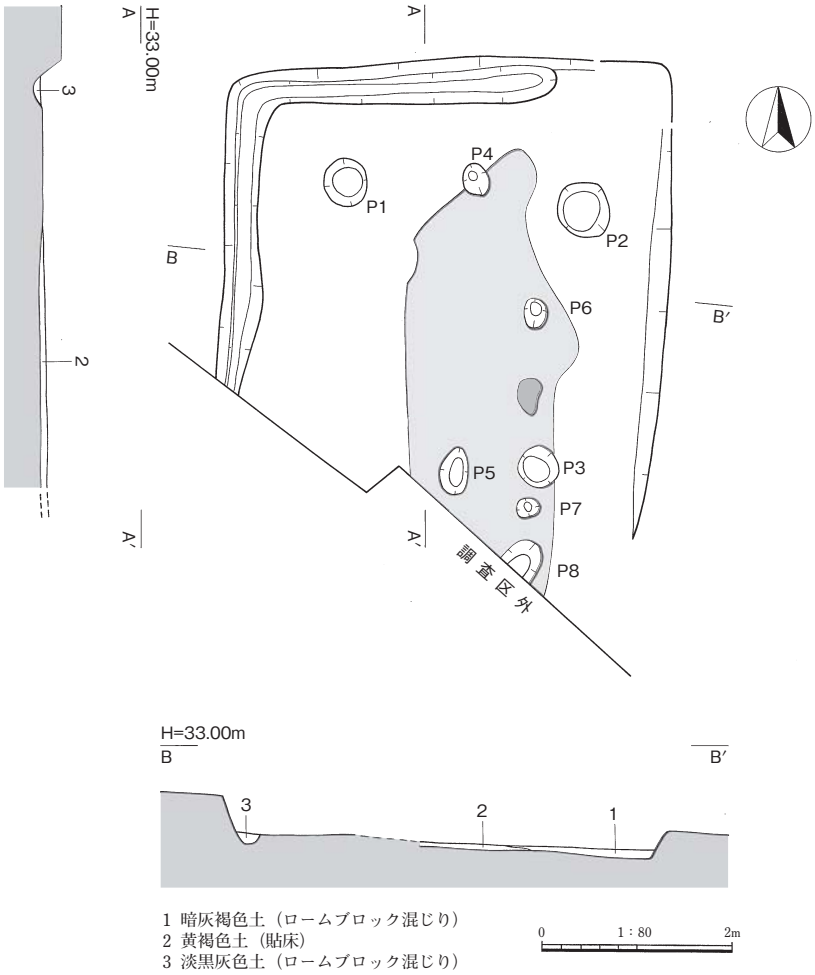
建て替え後の住居跡（ＳＩ３Ｂ）は北西隅では地山のローム層を削り込んで床面としているが、それ以外の範囲ではローム層に由来する厚さ４～６㎝の貼床が認められる。

主柱穴は検出できなかったが、ＳＩ３ＡのＰ１をそのまま使用した可能性もある。Ｐ９は住居跡の

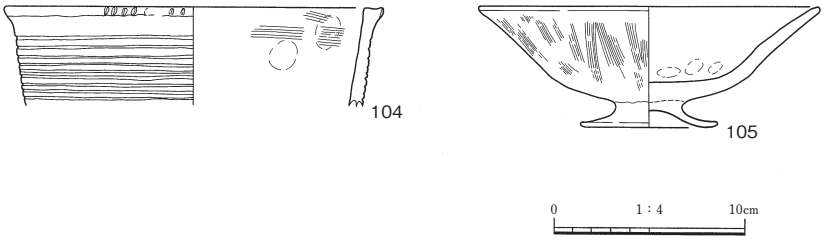
中央やや北寄りに位置しており、これに対応する南側のピットは検出されていないが、棟持柱になる可能性がある。ＳＩ３Ａと同様に西側と北側の壁際には壁溝が巡り、東側の壁際から住居跡の中央に向かって長さ109㎝、幅29～35㎝、深さ８～13㎝の溝がのびる。

住居跡の西側には平面形態が方形を呈する土坑状遺構があり、規模は長軸1.85ｍ、短軸1.6ｍ、床面からの深さ10～12㎝を測る。さらにその西側の壁際には特殊ピット（Ｐ10）がある。平面形態は隅丸長方形を呈し、規模は長軸80㎝、短軸63㎝、床面からの深さ67㎝を測る。断面は逆台形を呈し、２段掘りとなっている。特殊ピットの上層からは土師器甕106と107が出土した。106は特殊ピットの南東隅に位置し、口縁部を上に向けた状態で出土した。107はほぼ中央に位置し、横転した状態で出土した。

ＳＩ３Ｂからは弥生土器




第39図　３区ＳＩ３Ａ



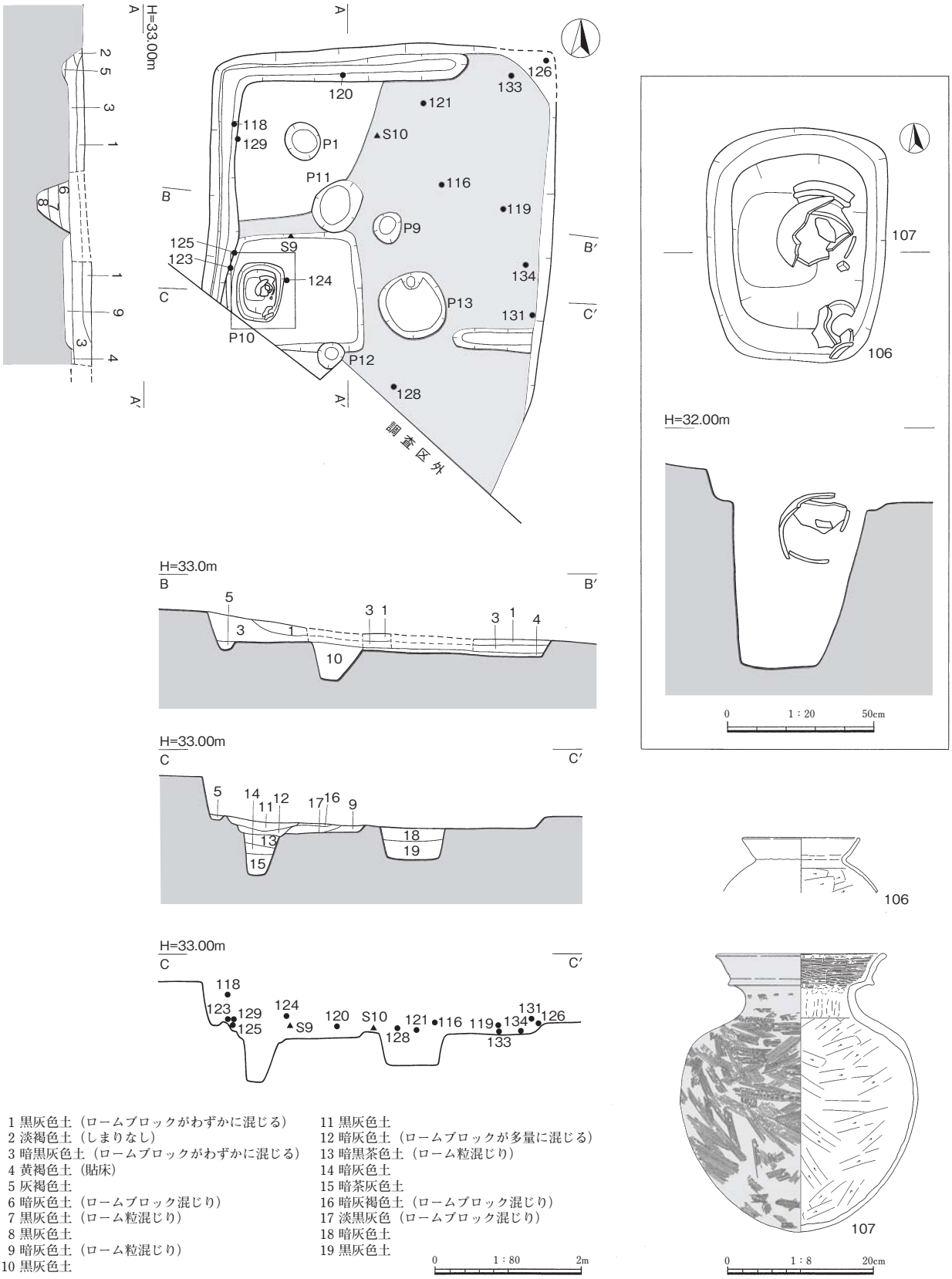

第40図　３区ＳＩ３Ａ出土遺物

**第11表　３区ＳＩ３Ａピット計測表**

| 番号 | 長径(㎝) | 短径(㎝) | 深さ(㎝) | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| Ｐ１ | 52 | 46 | 29 | 主柱穴 |
| Ｐ２ | 60 | 58 | 29 | 主柱穴 |
| Ｐ３ | 46 | 45 | 25 | 主柱穴 |
| Ｐ４ | 35 | 28 | 49 | 棟持柱？ |
| Ｐ５ | 50 | 29 | 31 | 棟持柱？ |
| Ｐ６ | 31 | 25 | 32 | |
| Ｐ７ | 24 | 21 | 25 | |
| Ｐ８ | (31) | 40 | 10 | |

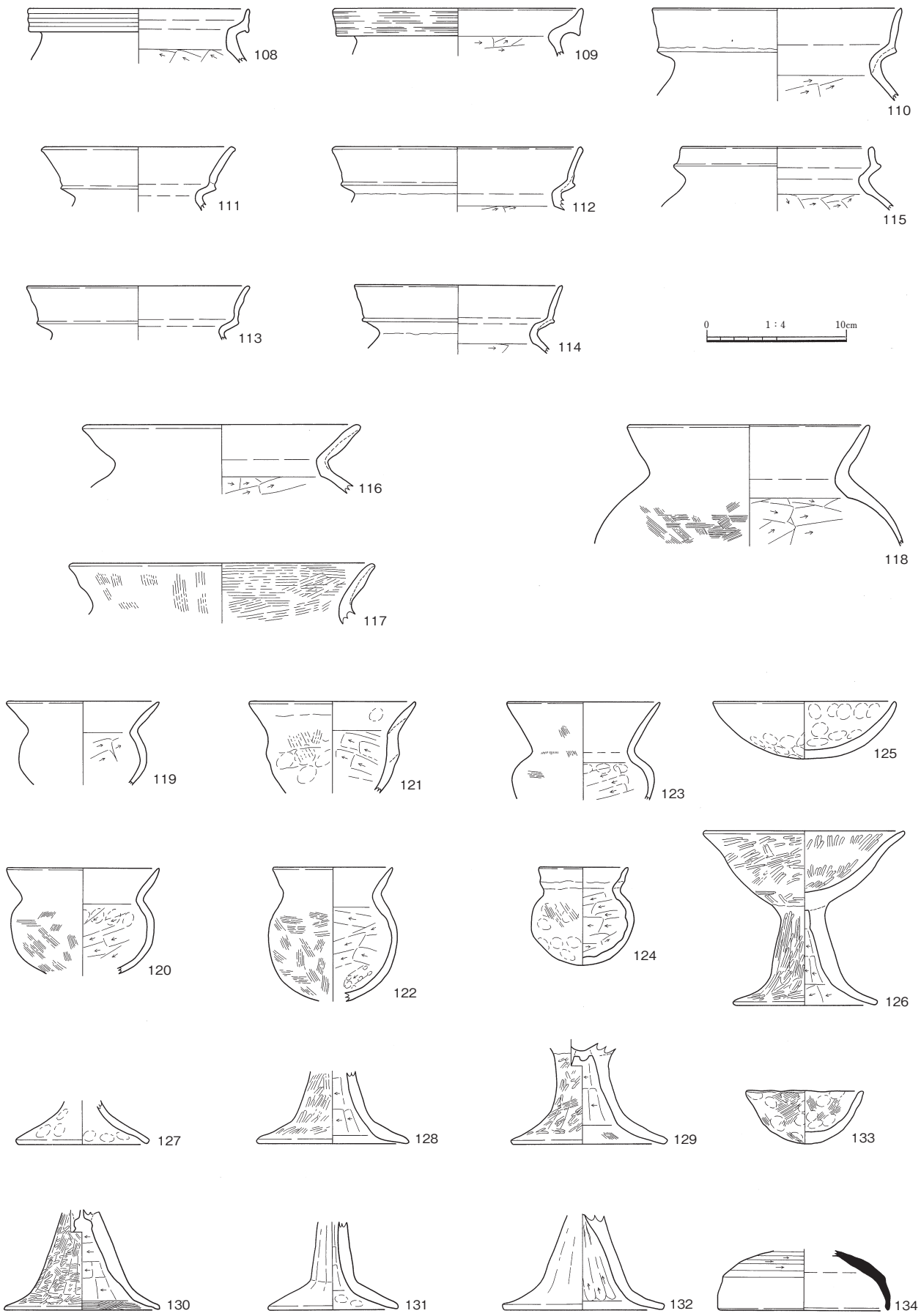
**第12表　３区ＳＩ３Ｂピット計測表**

| 番号 | 長径(㎝) | 短径(㎝) | 深さ(㎝) | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| Ｐ９ | 42 | 42 | 52 | 棟持柱？ |
| Ｐ10 | 80 | 63 | 67 | 特殊ピット |
| Ｐ11 | 75 | 62 | 50 | |
| Ｐ12 | 38 | 36 | 45 | |
| Ｐ13 | 97 | 92 | 54 | |




1 黒灰色土（ロームブロックがわずかに混じる）
2 淡褐色土（しまりなし）
3 暗黒灰色土（ロームブロックがわずかに混じる）
4 黄褐色土（貼床）
5 灰褐色土
6 暗灰色土（ロームブロック混じり）
7 黒灰色土（ローム粒混じり）
8 黒灰色土
9 暗灰色土（ローム粒混じり）
10 黒灰色土
11 黒灰色土
12 暗灰色土（ロームブロックが多量に混じる）
13 暗黒茶色土（ローム粒混じり）
14 暗灰色土
15 暗茶灰色土
16 暗灰褐色土（ロームブロック混じり）
17 淡黒灰色（ロームブロック混じり）
18 暗灰色土
19 黒灰色土

第41図　３区ＳＩ３Ｂ



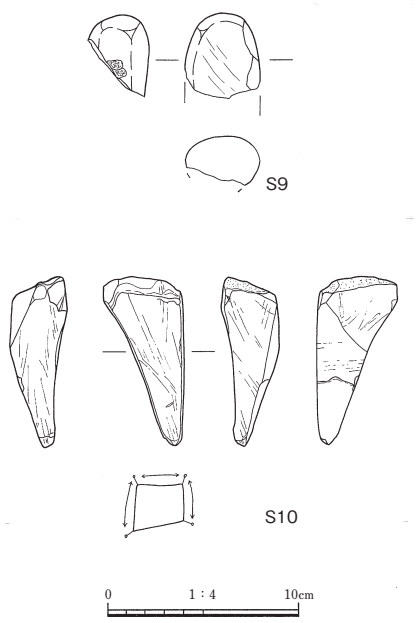

第42図　３区ＳＩ３Ｂ出土遺物（１）

(108、109)、土師器（106、107、110～133)、須恵器（134)、石器（Ｓ９、Ｓ10）が出土した。

106、107は特殊ピットから出土したものである。106は甕で、口縁部が「く」字状に屈曲し、内湾気味に立ち上がる。107は壺で、複合口縁を有し、口縁端部は外方へ肥厚する。また、外面には赤色塗彩が施されている。

108～134は住居跡の埋土中から出土したものである。108、109は弥生土器甕で、口縁部は108は直立し、109は外傾気味に立ち上がる。また、108は２条、109は５条の凹線が巡る。

110～133は土師器である。110～118は甕で、110～114は複合口縁を有し、端部は丸くおさまる。115は口縁部が内傾し、端部は平坦面をもつ。116～118は口縁部が「く」字状を呈する。119～124は小型丸底壺で、119、120は口縁端部が尖り、121、122は口縁端部が丸くおさまる。123は口縁部が長いもの、124は複合口縁が退化したものである。125は椀で、内外面とも指押さえが顕著である。126～132は高坏である。126は坏部が緩やかに立ち上がり口縁部がやや外反する。133は椀形のミニチュア土器である。



第43図　３区ＳＩ３Ｂ出土遺物（２）

134は須恵器坏蓋で、上層から混入したと考えられる。天井部と口縁部との境界には鈍い稜が認められる。

Ｓ９、Ｓ10は石器である。Ｓ９はデイサイト製の太型蛤刃石斧の基部で、表面には敲打痕が認められる。Ｓ10は凝灰岩製の砥石で、三角形状を呈し、表面及び両側面の３面を使用している。また、裏面には切出面が残る。

本遺構の時期は、出土遺物から古墳時代前期後葉と考えられる。

### ３区　ＳＩ８（第44、45図）

３区ＳＩ８は谷部の標高31.6～31.8ｍに位置する。

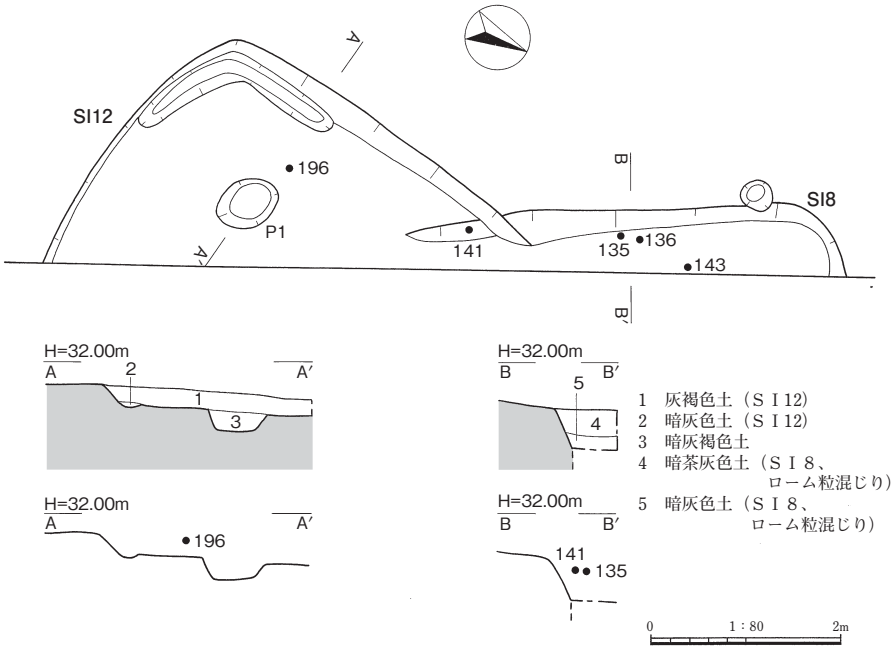
平面形態は、南東側は３区ＳＩ12に切られ、北東側は調査区外にかかっているが、隅丸方形を呈すると考えられる。規模は長軸4.6ｍ以上、短軸0.8ｍ以上、床面積は2.0㎡以上を測る。湧水が著しかったため、床面の検出まで至らず、壁高は0.4ｍ以上を測る。

埋土は上層から暗茶灰色土（４層)、暗灰色土（５層）となっており、いずれも地山に由来するローム粒が混じっている。

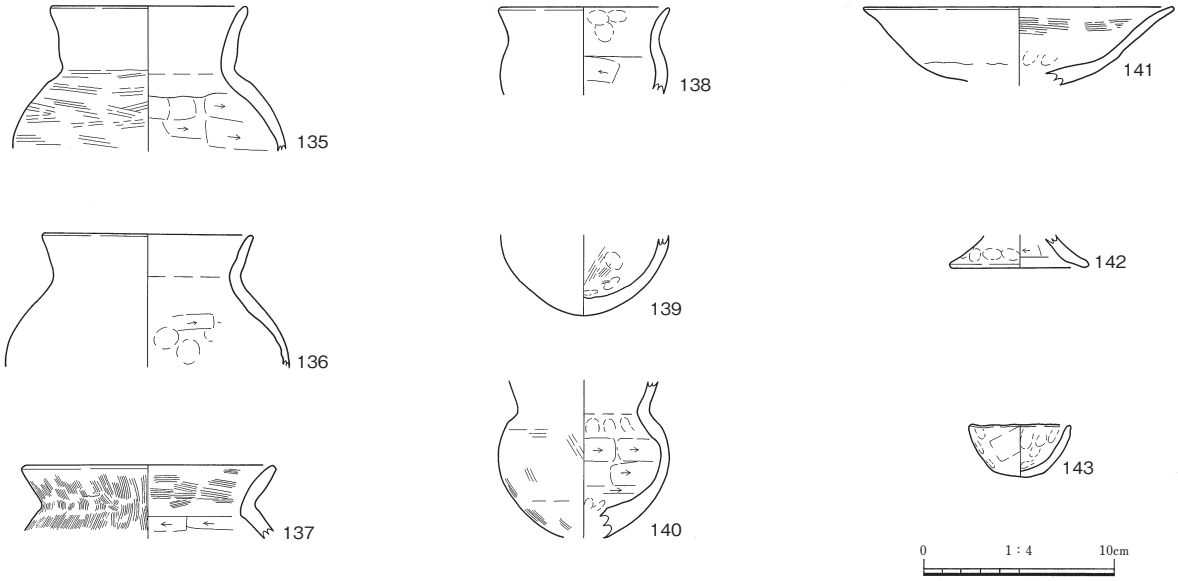
遺物は埋土中から土師器（135～143）が出土した。

135～143は土師器である。135～137は甕で、口縁部は「く」字状を呈する。138～140は小型丸底壺、141、142は高坏である。141は坏部で、口縁部が外反する。142は脚部である。143は椀形のミニチュア土器である。

本遺構の時期は、出土遺物から古墳時代前期後葉と考えられる。




第44図　３区ＳＩ８・12




第45図　３区ＳＩ８出土遺物

## 第４節　古墳時代後期の調査

### １．概　　要

古墳時代後期の遺構は、竪穴住居跡14棟、段状遺構11基、掘立柱建物跡２棟、土坑１基を検出した。切合関係から、まず、竪穴住居跡が形成され、その後に段状遺構が形成されると考えられる。

竪穴住居跡は丘陵の頂部と丘陵斜面の中腹から谷部にかけて分布しており、同位置で複数回の建て替えが認められる。

段状遺構は主に丘陵の裾部に位置し、前代の竪穴住居跡と位置的に重複する。また、同位置での複数回の構築が認められる。

３区ＳＳ２と３区ＳＳ３では、ともに桁行６間以上、梁行３間の大規模な掘立柱建物跡３区ＳＢ１と３区ＳＢ２を検出した。

### ２．検出した遺構と遺物

#### （１）竪穴住居跡

**２区　ＳＩ６**（第47、48図）

２区ＳＩ６は丘陵北側斜面の標高45.6～46.1ｍに位置する竪穴住居跡である。

平面形態は北西側が流失しているが、隅丸方形を呈し、規模は長軸7.0ｍ、短軸5.7ｍ以上、壁高は0.35～0.65ｍ、床面積は32.9㎡以上を測る。北東側の一部と南東、南西側の壁際には幅17～46㎝、深さ５～12㎝の壁溝が巡っている。

**第13表　２区ＳＩ６ピット計測表**

| 番号 | 長径(㎝) | 短径(㎝) | 深さ(㎝) | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| Ｐ１ | 74 | 70 | 69 | 主柱穴 |
| Ｐ２ | 50 | 48 | 63 | 主柱穴 |
| Ｐ３ | 70 | 61 | 26 | 主柱穴 |
| Ｐ４ | 64 | 54 | 73 | 主柱穴 |
| Ｐ５ | 50 | 44 | 19 | |
| Ｐ６ | 68 | 52 | 37 | |
| Ｐ７ | 54 | 50 | 41 | |
| Ｐ８ | 46 | 34 | 23 | |
| Ｐ９ | 42 | 40 | 45 | |

主柱穴はＰ１～Ｐ４の４基で、その規模は径48～74㎝、床面からの深さ26～73㎝を測る。主柱穴間の距離はＰ１－Ｐ２間から時計回りの順に2.95ｍ、2.85ｍ、2.75ｍ、3.0ｍである。

埋土は３層に分層でき、上層から暗茶灰色土（１層）、褐色土（２層）、淡褐色土（３層）となっている。

遺物は埋土中から土師器（144、145）、須恵器（146、147）が出土した。

144は土師器甕、145は甑の把手である。

146、147は須恵器で、146は坏身、147は平瓶の口縁部と考えられる。

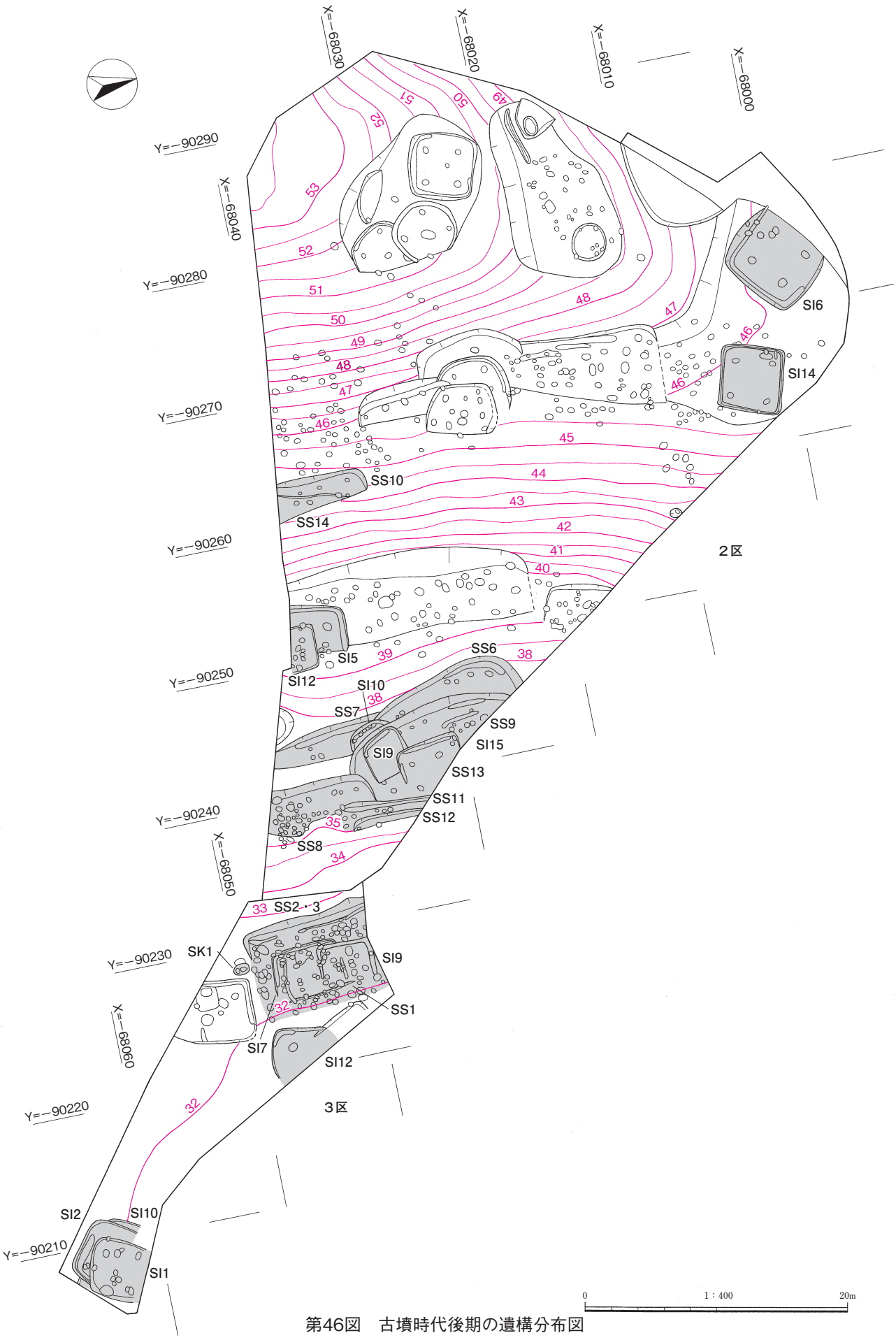
本遺構の時期は、出土遺物から７世紀中葉と考えられる。

**２区　ＳＩ14**（第49、50図）

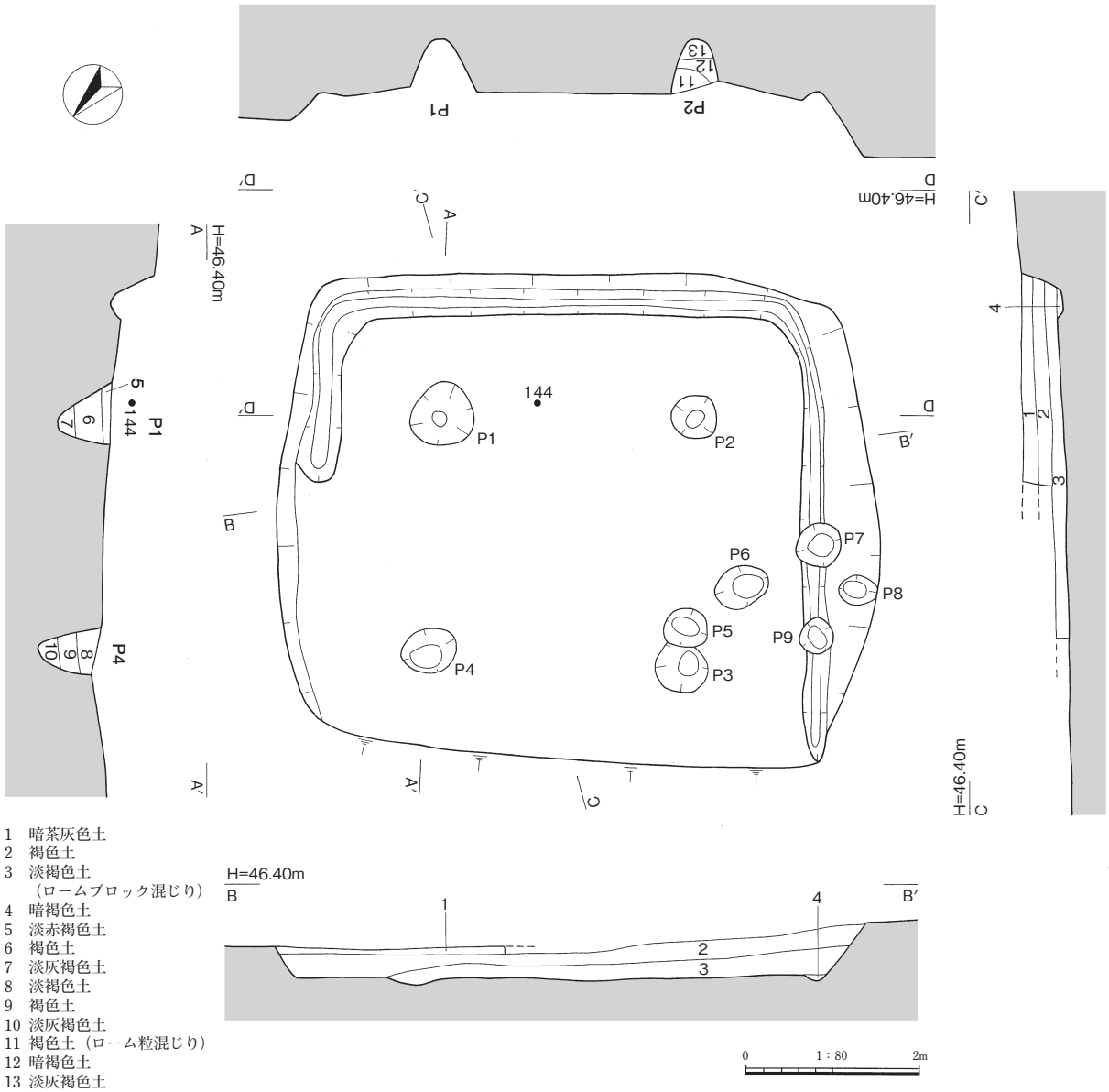
２区ＳＩ14は丘陵北側斜面の標高45.7～46.1ｍに位置する竪穴住居跡である。

平面形態は隅丸方形を呈し、規模は長軸5.0ｍ、短軸4.7ｍ、壁高は0.15～0.35ｍ、床面積は20.2㎡を測る。壁際には幅11～23㎝、深さ５～７㎝の壁溝が全周する。

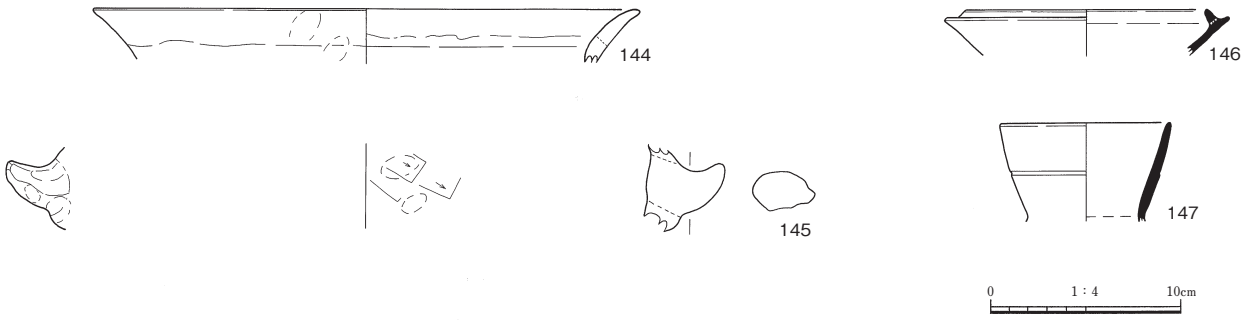
主柱穴はＰ１～Ｐ４の４基で、その規模は径42～50㎝、床面からの深さ39～60㎝を測る。主柱穴間の距離はＰ１－Ｐ２間から時計回りの順に2.7ｍ、2.6ｍ、2.8ｍ、2.85ｍである。




第46図　古墳時代後期の遺構分布図

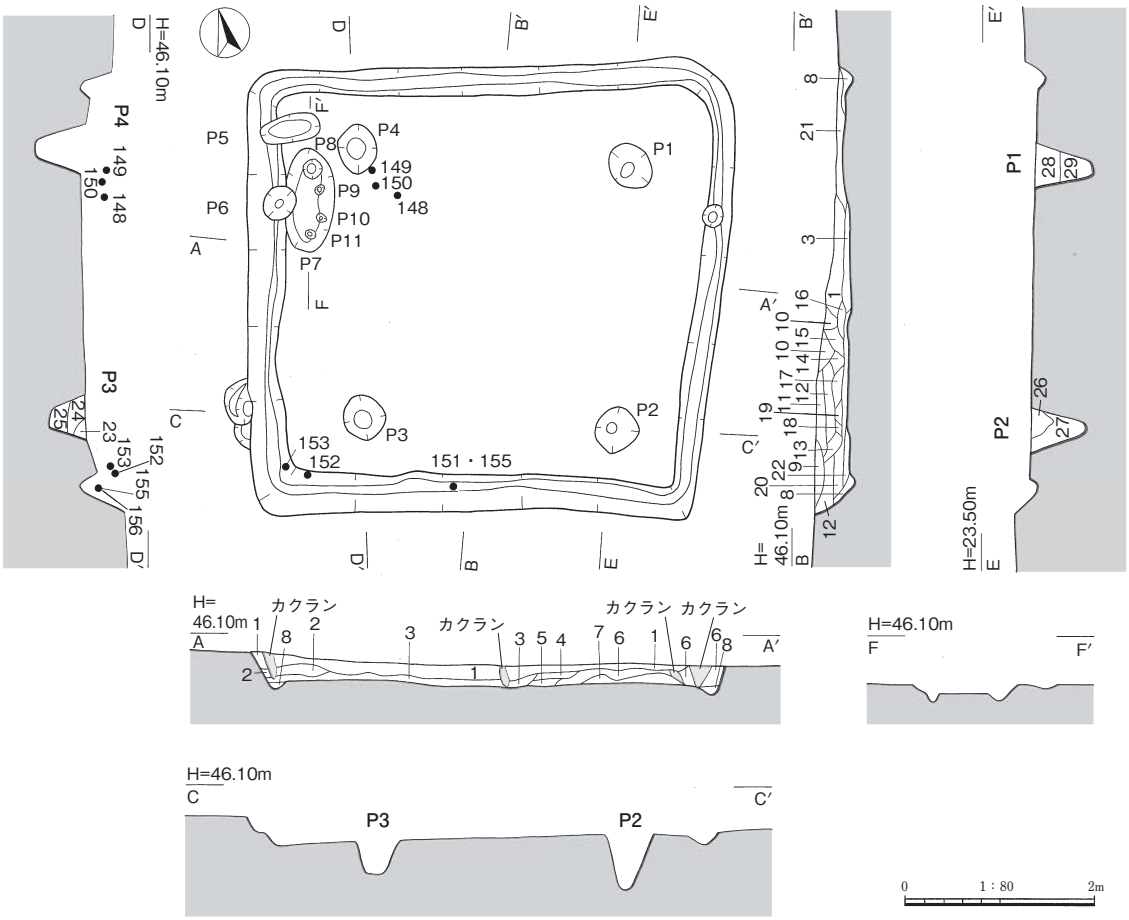



第47図　２区ＳＩ６




第48図　２区ＳＩ６出土遺物

住居跡の西側の壁際には平面形態が楕円形を呈するピット（Ｐ７）があり、その規模は長さ109㎝、幅51㎝、床面からの深さ９㎝を測る。Ｐ７内の両端と東側にはＰ８～Ｐ11の４基のピットがあり、




1 淡褐色土
2 暗褐色土（ローム粒混じり）
3 暗灰褐色土（ローム粒混じり）
4 暗褐色土
5 暗灰褐色土
6 暗灰褐色土（５層よりも色調暗い）
7 暗褐色土（ローム粒混じり）
8 暗灰褐色土（ローム粒混じり）
9 暗褐色土
10 黒褐色土
11 明褐色土
12 明褐色土（炭化物混じり）
13 黒褐色土
14 暗褐色土
15 明褐色土（炭化物混じり）
16 暗灰褐色土（ローム粒混じり）
17 淡褐色土
18 明褐色土（ロームブロック混じり）
19 黒褐色土
20 灰褐色土
21 灰褐色土（ローム粒混じり）
22 明灰褐色土
23 淡褐色土
24 褐色土
25 暗褐色土
26 淡褐色土
27 暗褐色土（赤褐色粒混じり）
28 淡灰茶色土
29 淡褐灰色土

第49図　２区ＳＩ14

その規模は径６～19㎝、深さ７～13㎝を測る。ピット間の距離はＰ８－Ｐ９間が25㎝、Ｐ９－Ｐ10間が30㎝、Ｐ10－Ｐ11間が20㎝である。また、Ｐ７の西側にはＰ６、北側には長さ60㎝、幅26㎝、深さ６㎝を測る楕円状のピット（Ｐ５）があり、これらＰ５～７は住居跡に付属する施設と考えられる。

埋土は地形的に高い位置にある南西側の壁際から暗褐色土、暗灰褐色土、明褐色土が主体にレンズ状に堆積しながら埋没している。

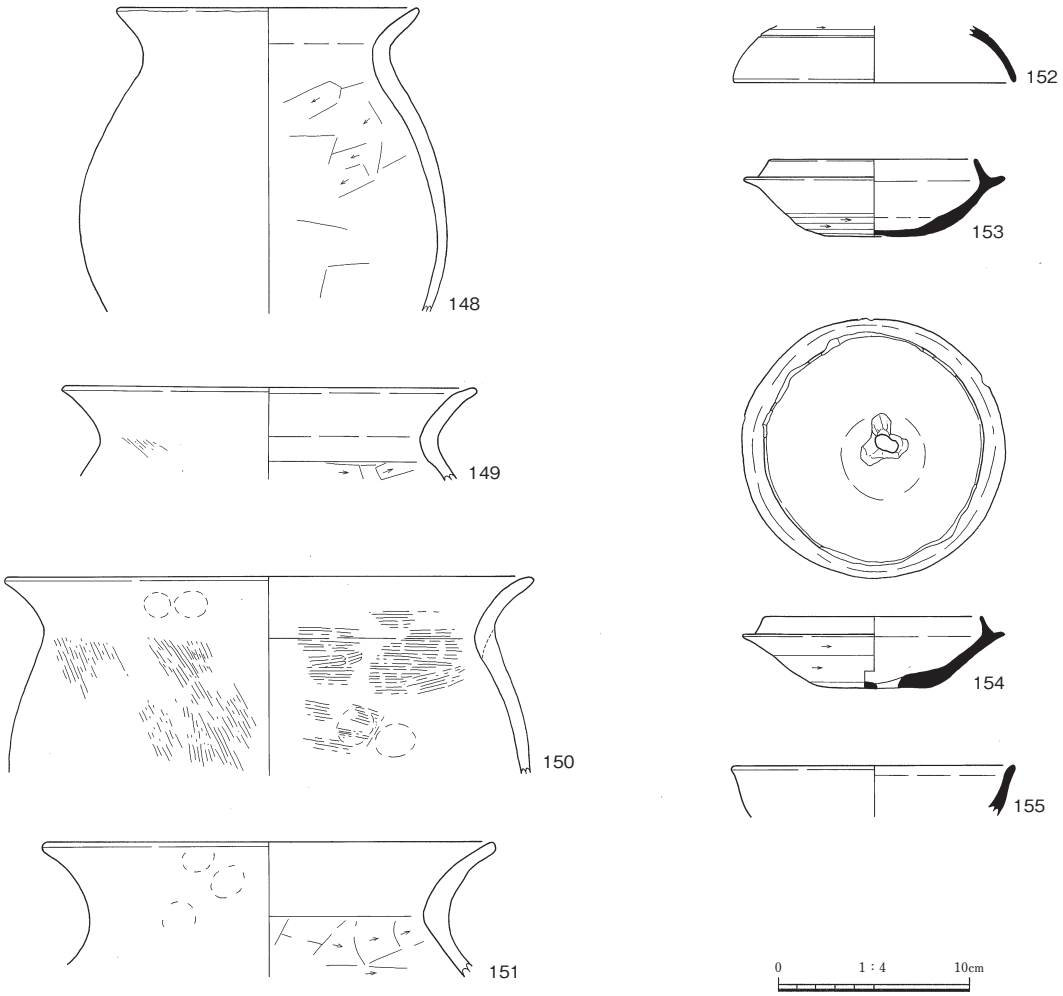
**第14表　２区ＳＩ14ピット計測表**

| 番号 | 長径(㎝) | 短径(㎝) | 深さ(㎝) | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| Ｐ１ | 50 | 44 | 60 | 主柱穴 |
| Ｐ２ | 49 | 45 | 57 | 主柱穴 |
| Ｐ３ | 45 | 44 | 39 | 主柱穴 |
| Ｐ４ | 50 | 42 | 48 | 主柱穴 |
| Ｐ５ | 60 | 26 | 6 | |
| Ｐ６ | 39 | 34 | 31 | |
| Ｐ７ | 109 | 51 | 9 | |
| Ｐ８ | 19 | 18 | 11 | |
| Ｐ９ | 8 | 7 | 11 | |
| Ｐ10 | 10 | 8 | 13 | |
| Ｐ11 | 12 | 6 | 7 | |

遺物は埋土中から土師器（148～151）、須恵器（152～155）が出土した。

148～151は土師器甕で、口縁部は大きく外反する。

152～155は須恵器で、152は坏蓋、153～155は坏身である。152は天井部と口縁部との境界に沈線が認められる。153、154は受け部を有するもので、口縁部の立ち上がりが低く、154の底部は焼成後穿孔されている。




第50図　２区ＳＩ14出土遺物

155は受け部を持たないもので、口縁端部が僅かに外反する。

本遺構の時期は、出土遺物から７世紀前葉と考えられる。

**２区　ＳＩ５**（第51、52図）

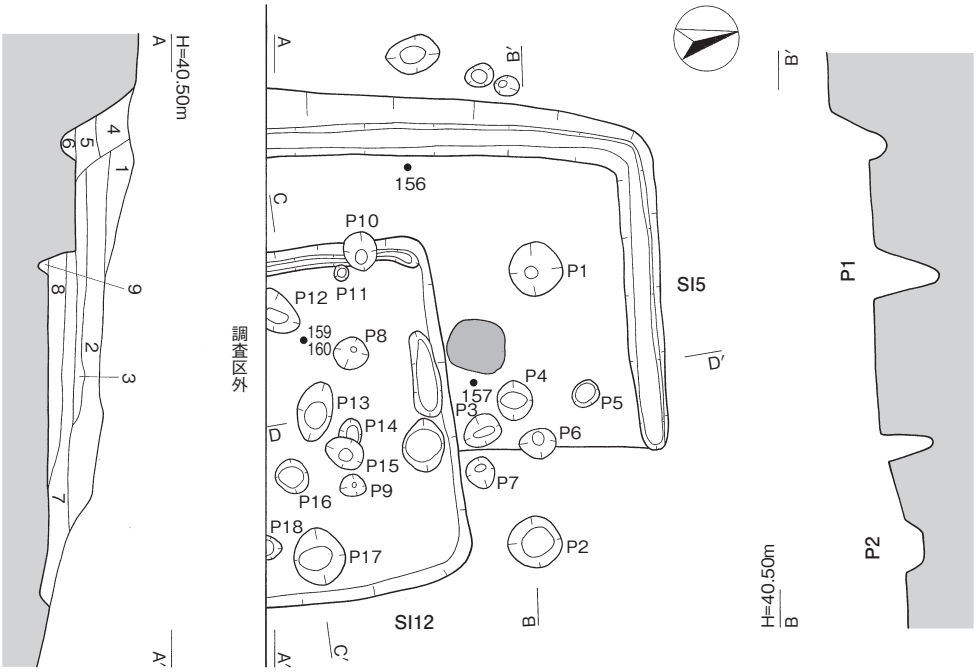
２区ＳＩ５は丘陵東側斜面の標高39.4～40.2ｍに位置する竪穴住居跡で、２区ＳＩ12が埋没した後に構築されている。

平面形態は、東側が流失し、南側は調査区外にかかっているが、隅丸方形を呈すると考えられる。規模は長軸4.2ｍ以上、短軸3.8ｍ以上、壁高は0.4ｍ、床面積は14.3㎡以上を測る。壁際には幅28～32㎝、深さ15～19㎝の壁溝が巡っている。

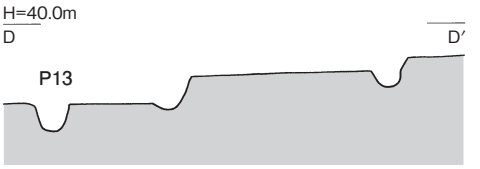
主柱穴は北側でＰ１とＰ２の２基を検出したが､南側の主柱穴は調査区外に位置すると考えられる。規模は径55～60㎝、床面からの深さ56～66㎝を測り、Ｐ１－Ｐ２間の距離は2.8ｍである。また、中央やや北西寄りの床面では焼土面を検出した。

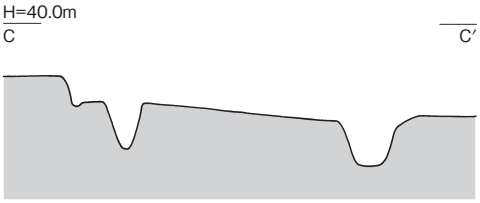
埋土は５層に分層でき、茶灰色土（１層)、暗茶灰色土（２層)、茶灰色土（３層）の３層が主体となって堆積し、ほとんどの層に地山由来のローム粒が混じっている。

遺物は埋土中から土師器（156～158)、須恵器（159～162）が出土した。



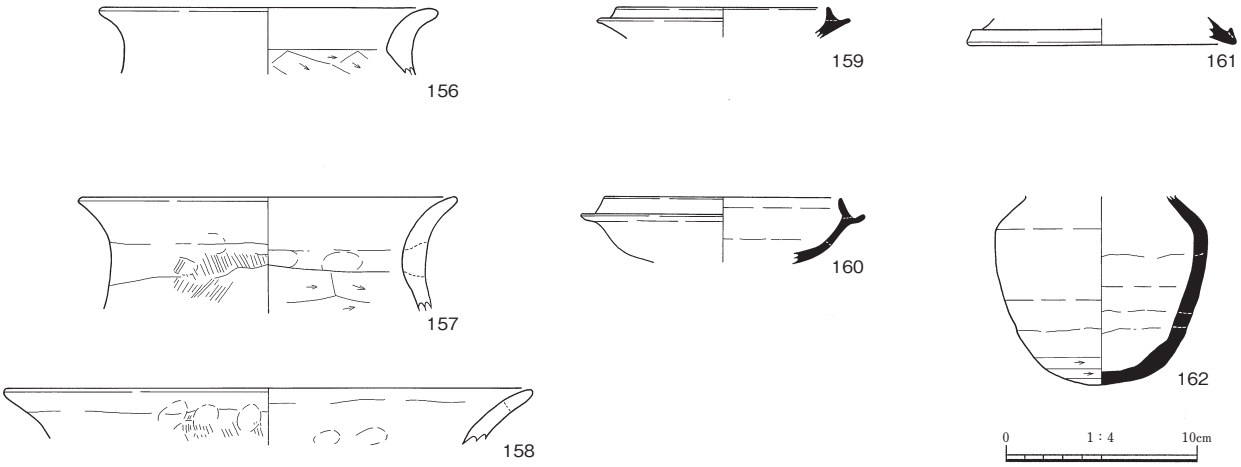

1 茶灰色土（ＳＩ５、ローム粒混じり）
2 暗茶灰色土（ＳＩ５、ローム粒混じり）
3 茶灰色土（ＳＩ５、ローム粒混じり）
4 淡茶灰色土（ＳＩ５）
5 茶灰色土（ＳＩ５、ローム粒混じり）
6 暗茶灰色土（ＳＩ５、ローム粒混じり）
7 淡黒灰色土（ＳＩ12、ロームブロック混じり）
8 淡茶褐色土（ＳＩ12、ロームブロック混じり）
9 茶褐色土（ＳＩ12）




0　1：80　2m

第51図　２区ＳＩ５・12




第52図　２区ＳＩ５出土遺物

156～158は土師器甕で、口縁部は外反する。

159～162は須恵器で、159、160は坏身、161は高坏脚部の裾部、162は壺の胴部である。

本遺構の時期は、出土遺物から７世紀前葉と考えられる。

**第15表　２区ＳＩ５ピット計測表**

| 番号 | 長径(cm) | 短径(cm) | 深さ(cm) | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| Ｐ１ | 60 | 55 | 66 | 主柱穴 |
| Ｐ２ | 57 | 57 | 56 | 主柱穴 |
| Ｐ３ | 41 | 35 | 36 | |
| Ｐ４ | 43 | 39 | 31 | |
| Ｐ５ | 30 | 30 | 7 | |
| Ｐ６ | 33 | 31 | 42 | |
| Ｐ７ | 40 | 35 | 55 | |

**２区　ＳＩ12**（第51図）

２区ＳＩ12は丘陵東側斜面の標高39.0～39.5ｍに位置する竪穴住居跡で、上部は２区ＳＩ５に削平されている。

平面形態は、南側が調査区外にかかっているが、隅丸方形を呈すると考えられる。規模は長軸3.8ｍ、短軸2.2ｍ以上、壁高は0.2～0.3ｍ、床面積は6.7㎡以上を測る。北側の一部と西側の壁際には幅10～30㎝、深さ５～11㎝の壁溝がある。

主柱穴は位置的にＰ８とＰ９の２基が該当すると考えられ、その規模は径25～37㎝、床面からの深さ31～40㎝を測り、Ｐ８－Ｐ９間の距離は1.45ｍである。

**第16表　２区ＳＩ12ピット計測表**

| 番号 | 長径(cm) | 短径(cm) | 深さ(cm) | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| Ｐ８ | 37 | 34 | 40 | 主柱穴 |
| Ｐ９ | 28 | 25 | 31 | 主柱穴 |
| Ｐ10 | 40 | 35 | 52 | |
| Ｐ11 | 16 | 15 | 28 | |
| Ｐ12 | (41) | 39 | 49 | |
| Ｐ13 | 65 | 36 | 29 | |
| Ｐ14 | (30) | 22 | 32 | |
| Ｐ15 | 45 | 32 | 31 | |
| Ｐ16 | 37 | 36 | 24 | |
| Ｐ17 | 61 | 57 | 45 | |
| Ｐ18 | (18) | 23 | 11 | |

埋土は上部を２区ＳＩ５に削平されているが、２層に分層でき、上層から淡黒灰色土（７層）、淡茶褐色土（８層）となっており、いずれも地山由来のロームブロックが混じっている。

遺物は図示できないが、土師器が出土した。

本遺構の時期は、２区ＳＩ５との切合関係から７世紀前葉と考えられる。

**２区　ＳＩ９**（第53、54図）

２区ＳＩ９は丘陵東側斜面の標高35.9～36.1ｍに位置する竪穴住居跡である。上部は２区ＳＳ９に削平され、北側は２区ＳＳ13に切られている

平面形態は、東側と南側が削平されているが、隅丸方形状を呈すると考えられる。規模は長軸3.4ｍ以上、短軸3.3ｍ、壁高は0.15～0.3ｍ、床面積は11.1㎡以上を測る。西側の壁際には幅21～42㎝、深さ５～６㎝の壁溝がある。床面では主柱穴は検出できなかった。

埋土は上部を２区ＳＳ９に削平されているため、灰褐色土（７層）のみとなっている。

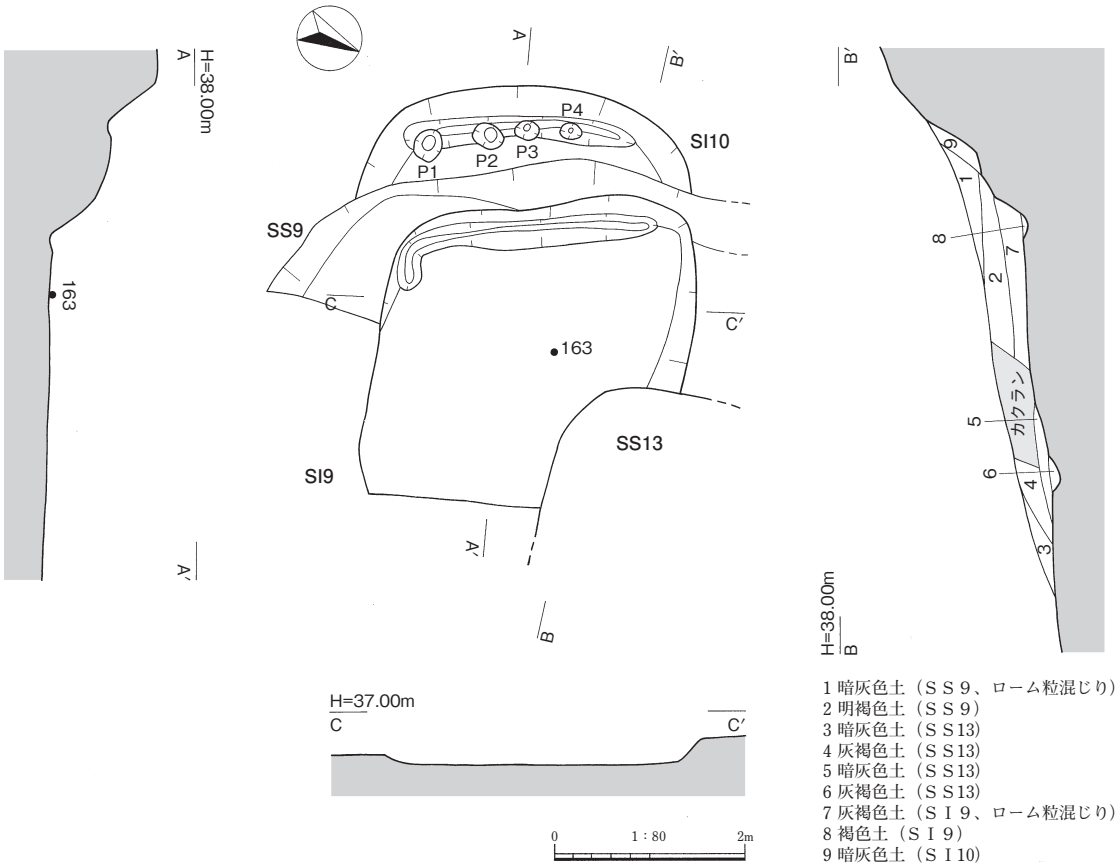
遺物は埋土中から土師器（163）が出土した。163は土師器高坏の脚部である。

本遺構の時期は、出土遺物と２区ＳＳ９との切合関係から７世紀前葉と考えられる。

**２区　ＳＩ10**（第53、55図）

２区ＳＩ10は丘陵東側斜面の標高36.4～37.1ｍに位置する竪穴住居跡である。

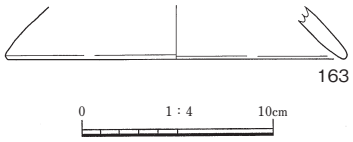
平面形態は、北東側の大部分を２区ＳＳ９に切られているが、隅丸方形を呈すると考えられる。規模は長軸3.5ｍ、短軸1.1ｍ以上、壁高は0.6ｍ、床面積は0.9㎡以上を測る。南西側の壁際には幅21～30㎝、深さ４～５㎝の壁溝があり、壁溝内にはＰ１～Ｐ４の４基のピットが0.4～0.6ｍ間隔で配置さ



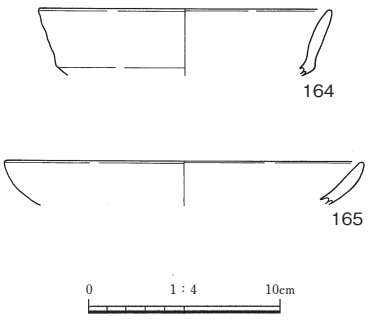

第53図　２区ＳＩ９・10

**第17表　２区ＳＩ10ピット計測表**

| 番号 | 長径(cm) | 短径(cm) | 深さ(cm) | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| Ｐ１ | 33 | 32 | 23 | |
| Ｐ２ | 32 | 28 | 18 | |
| Ｐ３ | 28 | 21 | 26 | |
| Ｐ４ | 25 | 18 | 24 | |




第54図　２区ＳＩ９出土遺物




第55図　２区ＳＩ10出土遺物

れている。

埋土は大部分が２区ＳＳ９に切られているため、暗灰色土（９層）を確認したのみである。

遺物は埋土中から土師器（164、165）が出土した。164、165は土師器で、164は複合口縁を有する甕、165は皿である。

本遺構の時期は、出土遺物と２区ＳＳ９との切合関係から７世紀前葉と考えられる。

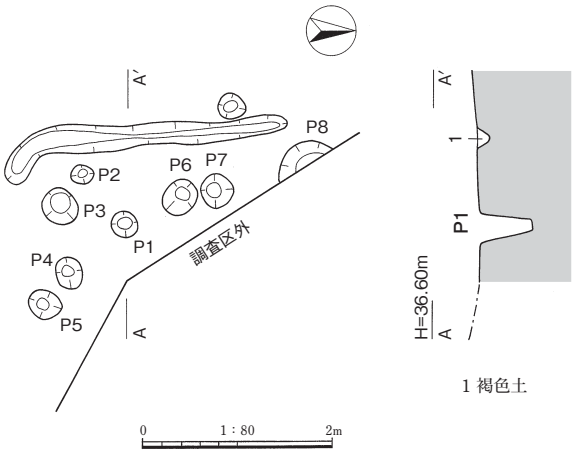
## ２区　ＳＩ15（第56図）

２区ＳＩ15は丘陵東側斜面の標高35.9～36.1ｍに位置する竪穴住居跡である。上部が削平され、西側の壁溝を検出したのみである。

平面形態は、壁溝の形態から隅丸方形を呈すると考えられ、規模は長軸3.0ｍ以上、短軸1.6ｍ以上、床面積は11.5㎡以上を測る。

主柱穴は位置的にＰ１が該当すると考えられ、その規模は長径35㎝、短径29㎝、床面からの深さ55㎝を測る。

本遺構の時期は、遺物が出土していないが、２区ＳＳ13、２区ＳＳ９との関係から７世紀前葉頃と考えられる。




第56図　２区ＳＩ15

**第18表　２区ＳＩ15ピット計測表**

| 番号 | 長径(㎝) | 短径(㎝) | 深さ(㎝) | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| Ｐ１ | 35 | 29 | 55 | 主柱穴 |
| Ｐ２ | 23 | 21 | 43 | |
| Ｐ３ | 40 | 38 | 68 | |
| Ｐ４ | 35 | 28 | 57 | |
| Ｐ５ | 35 | 30 | 51 | |
| Ｐ６ | 29 | 28 | 64 | |
| Ｐ７ | 38 | 35 | 58 | |
| Ｐ８ | 68 | (25) | 24 | |

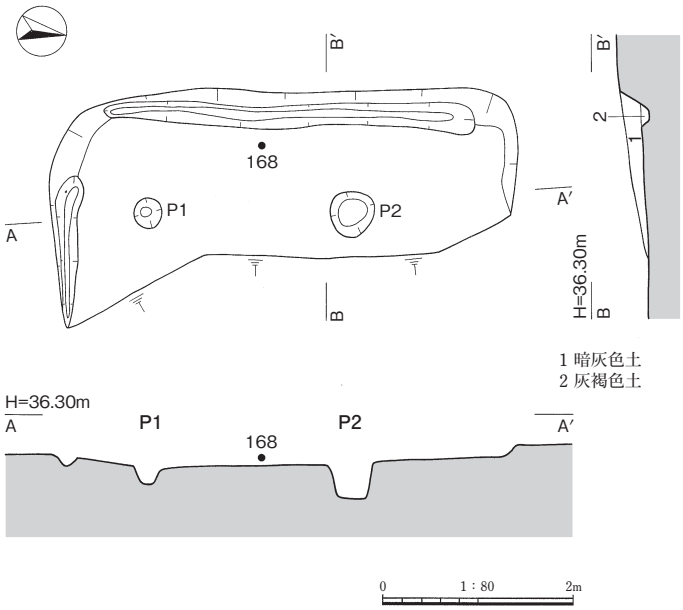
## ２区　ＳＳ13（第57、58図）

２区ＳＳ13は丘陵東側斜面の標高35.7～36.1ｍに位置する竪穴住居跡で、南側は２区ＳＩ９を切っている。

平面形態は、東側が流失しているが、隅丸方形を呈すると考えられる。規模は長軸4.9ｍ、短軸2.5ｍ以上、壁高は0.15～0.25ｍ、床面積は8.7㎡以上を測る。西側と南側の壁際には断続的に幅10～33㎝、深さ８～11㎝の壁溝が巡る。

主柱穴は東側が流失しているため、Ｐ１とＰ２の２基を検出したのみで、その規模は径28～50㎝、床面からの深さ20～38㎝を測る。Ｐ１－Ｐ２間の距離は2.2ｍである。

遺物は埋土中から土師器（166～168）、須恵器（169～171）が出土した。




第57図　２区ＳＳ13

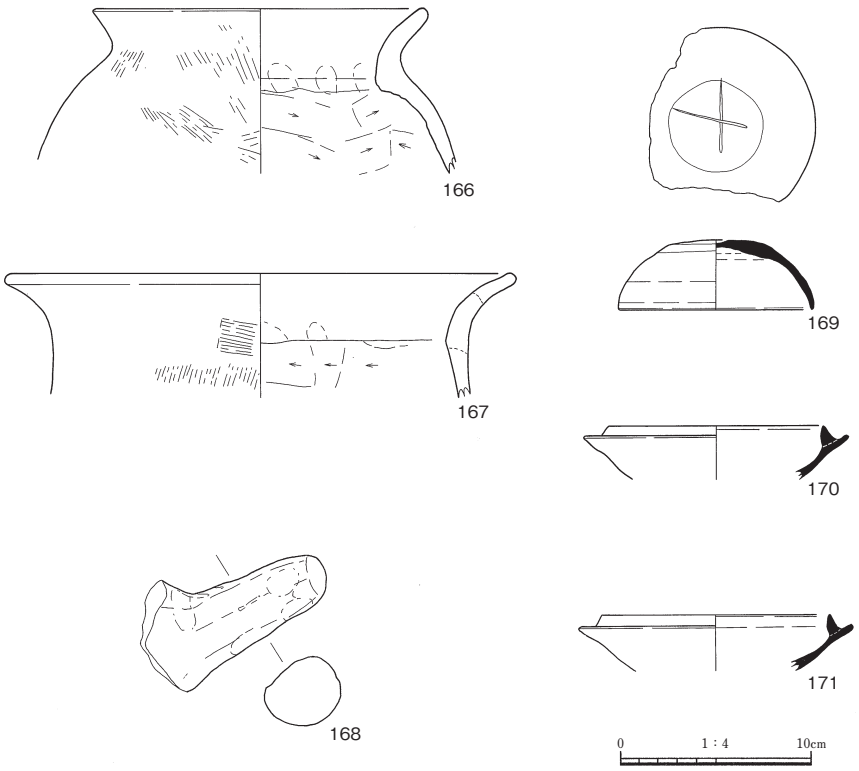
**第19表　２区ＳＳ13ピット計測表**

| 番号 | 長径(㎝) | 短径(㎝) | 深さ(㎝) | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| Ｐ１ | 30 | 28 | 20 | 主柱穴 |
| Ｐ２ | 50 | 47 | 38 | 主柱穴 |

166、167は土師器甕で、167は口縁部径より胴部径が小さいものである。168は甑の把手である。

169～171は須恵器で、169は坏蓋、170、171は坏身である。169の天井部には「×」の刻書がある。

本遺構の時期は、出土遺物から７世紀前葉と考えられる。




第58図　２区ＳＳ13出土遺物

**３区　ＳＩ１**（第59､60図）

３区ＳＩ１は谷部の標高31.8～32.2ｍに位置する竪穴住居跡で、３区ＳＩ２と３区ＳＩ10を切っている。

平面形態は、北東側が調査区外にかかっているが、隅丸方形を呈し、規模は長軸4.4ｍ、短軸3.9ｍ以上、壁高は0.1～0.4ｍ、床面積は13.1㎡以上を測る。壁溝は検出されなかった。

主柱穴はＰ１とＰ２の２基を検出したのみで、その規模は径50～60㎝、床面からの深さ17～54㎝を測り、Ｐ１－Ｐ２間の距離は2.4ｍである。

埋土は暗茶灰色土（２層）と茶灰色土（４層）の２層が主体となって堆積し、いずれも地山由来のロームブロックが混じっている。

**第20表　３区ＳＩ１ピット計測表**

| 番号 | 長径(㎝) | 短径(㎝) | 深さ(㎝) | 備　考 |
|---|---|---|---|---|
| Ｐ１ | 52 | 50 | 17 | 主柱穴 |
| Ｐ２ | 60 | 55 | 54 | 主柱穴 |
| Ｐ６ | 106 | 93 | 49 | |
| Ｐ７ | 30 | 28 | 24 | |
| Ｐ８ | 49 | 43 | 60 | |
| Ｐ９ | 23 | 19 | 14 | |
| Ｐ10 | 60 | 57 | 24 | |
| Ｐ11 | (43) | 42 | 11 | |
| Ｐ12 | 35 | 34 | 34 | |
| Ｐ13 | (63) | 39 | 46 | |

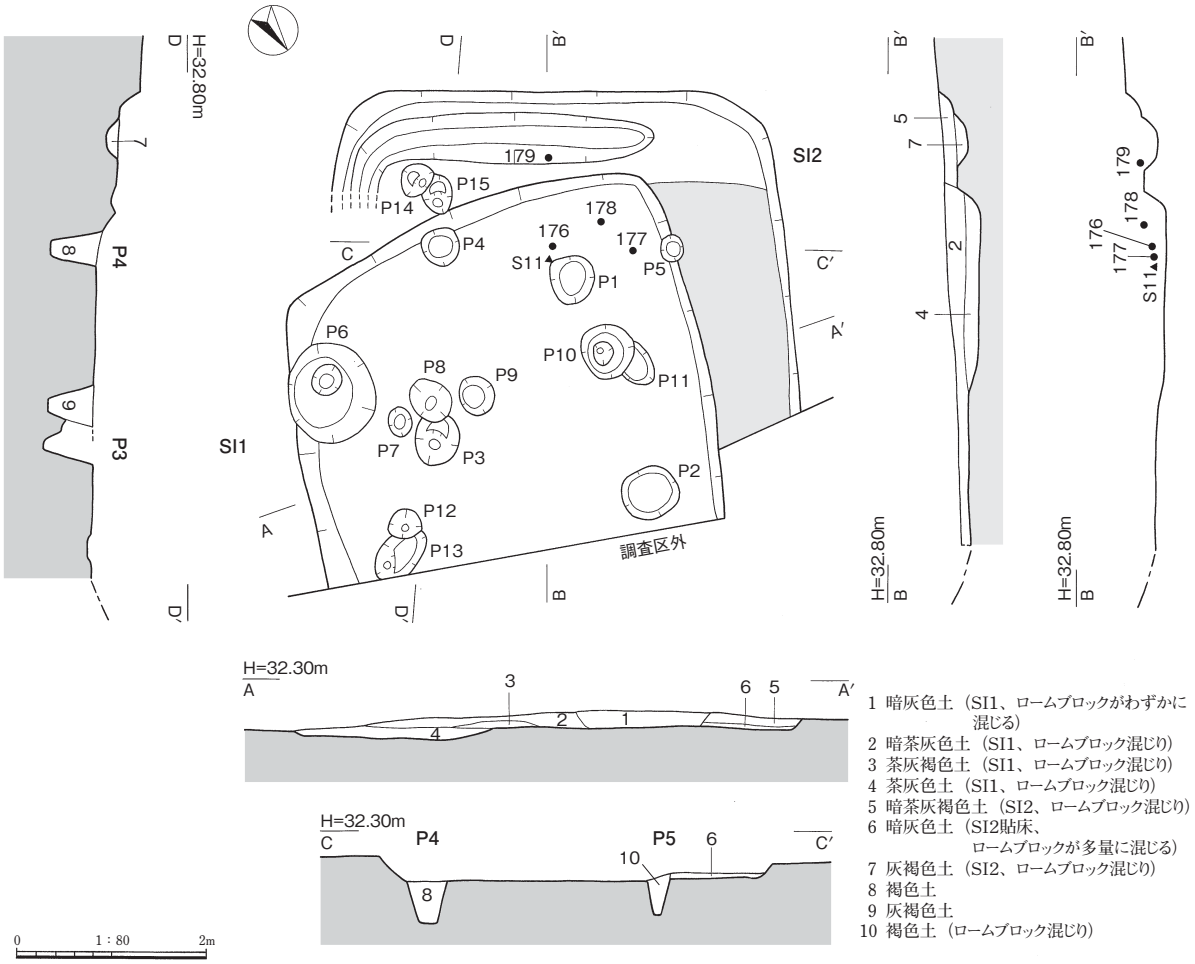
遺物は埋土中から土師器（172、173）、須恵器（174～178）、石器（Ｓ11）が出土した。

172、173は土師器である。172は複合口縁を有する壺、173は甕で、口縁部は外反する。

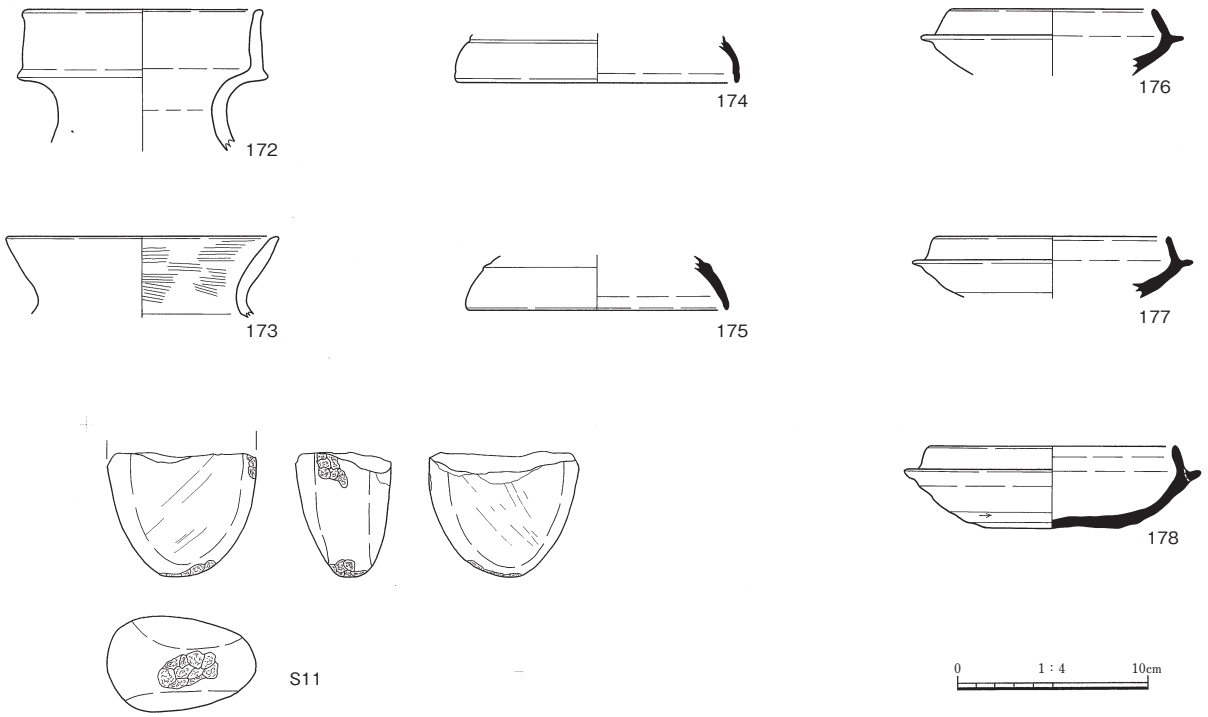
174～178は須恵器である。174、175は坏蓋で、174は天井部と口縁部との境界に沈線が認められる。176～178は坏身である。

Ｓ11はデイサイト製の磨石・敲石である。上半部が欠損するが、長楕円形を呈し、下端部と右側縁には敲打痕が認められる。

本遺構の時期は、出土遺物から６世紀後葉と考えられる。




第59図　３区ＳＩ１・２



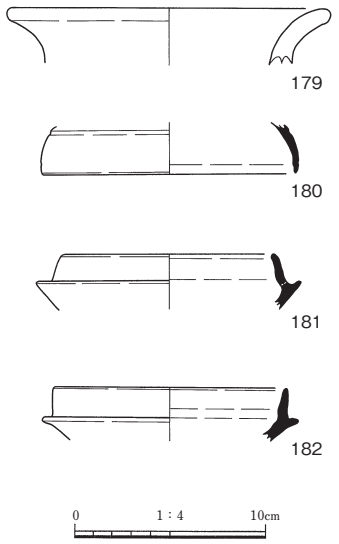

第60図　３区ＳＩ１出土遺物

### ３区　ＳＩ２（第59、61図）

３区ＳＩ２は谷部の標高31.9～32.3ｍに位置する竪穴住居跡である。３区ＳＩ10を切っているが、３区ＳＩ１に切られている。

**第21表　３区ＳＩ２ピット計測表**

| 番号 | 長径(cm) | 短径(cm) | 深さ(cm) | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| Ｐ３ | (53) | 50 | 60 | 主柱穴 |
| Ｐ４ | 43 | 40 | 44 | 主柱穴 |
| Ｐ５ | 29 | 24 | 45 | 主柱穴 |
| Ｐ14 | 46 | 44 | 55 | |
| Ｐ15 | 45 | 37 | 46 | |



第61図　３区ＳＩ２出土遺物

平面形態は、北東側が調査区外にかかり、さらに３区ＳＩ１に切られているが、隅丸方形を呈し、規模は長軸4.7ｍ、短軸3.8ｍ以上、壁高は0.15～0.2ｍ、床面積は15.8㎡以上を測る。床面には厚さ４～６㎝の貼床が認められ、南側の壁際には幅28～53㎝、深さ12㎝の壁溝がある。

主柱穴はＰ３～Ｐ５の３基を検出した。規模は径24～53㎝、床面からの深さ44～60㎝を測る。主柱穴間の距離はＰ３－Ｐ４間が2.1ｍ、Ｐ４－Ｐ５間が2.4ｍである。

埋土は上部が削平されているため、暗茶灰褐色土（５層）を確認したのみである。

遺物は埋土中から土師器（179）、須恵器（180～182）が出土した。

179は土師器の甕で、口縁部は外反する。

180～182は須恵器である。180は坏蓋で、天井部と口縁部との境界に沈線が認められる。181、182は坏身である。

本遺構の時期は、出土遺物と３区ＳＩ１との切合関係から６世紀後葉と考えられる。

### ３区　ＳＩ10（第62、63図）

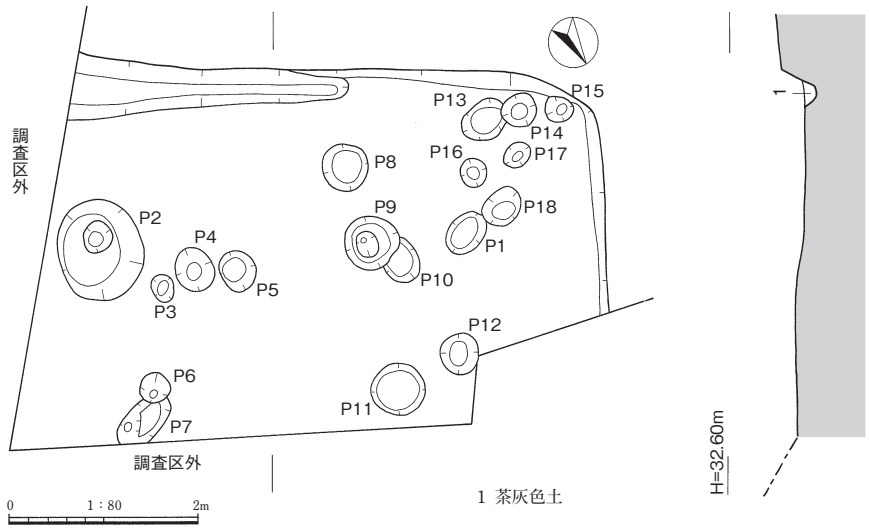
３区ＳＩ10は谷部の標高31.8～32.0ｍに位置する竪穴住居跡で、３区ＳＩ１と３区ＳＩ２に切られている。

平面形態は、北東側と南東側が調査区外にかかっているが、隅丸方形を呈すると考えられる。規模は長軸5.6ｍ以上、短軸4.1ｍ以上、壁高は0.2ｍ、床面積は18.9㎡以上を測る。南側の壁際には幅23～31㎝、深さ11㎝の壁溝がある。

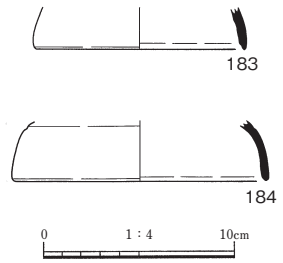
床面では18基のピットを検出したが、住居跡の中央から南東にかけてのＰ２～Ｐ11は３区ＳＩ１・２に伴うもの、あるいはその上層から掘り込まれたと考えられるものである。北西側のＰ１・12～18は本遺構に帰属すると考えられるもので、このうち位置的にＰ１が主柱穴に該当する可能性がある。Ｐ１の規模は長径48㎝、短径37㎝、床面からの深さ50㎝を測る。

**第22表　３区ＳＩ10ピット計測表**

| 番号 | 長径(cm) | 短径(cm) | 深さ(cm) | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| Ｐ１ | 48 | 37 | 50 | 主柱穴 |
| Ｐ２ | 106 | 93 | 49 | |
| Ｐ３ | 30 | 28 | 24 | |
| Ｐ４ | 49 | 43 | 60 | |
| Ｐ５ | 23 | 19 | 14 | |
| Ｐ６ | 35 | 34 | 34 | |
| Ｐ７ | (63) | 39 | 46 | |
| Ｐ８ | 52 | 50 | 17 | |
| Ｐ９ | 60 | 57 | 24 | |
| Ｐ10 | (43) | 42 | 11 | |
| Ｐ11 | 35 | 34 | 34 | |
| Ｐ12 | 41 | 41 | 15 | |
| Ｐ13 | (48) | 41 | 13 | |
| Ｐ14 | 38 | 37 | 20 | |
| Ｐ15 | 32 | 28 | 26 | |
| Ｐ16 | 29 | 24 | 24 | |
| Ｐ17 | 35 | 25 | 19 | |
| Ｐ18 | 48 | 36 | 46 | |




第62図　３区ＳＩ10




第63図　３区ＳＩ10出土遺物

遺物は埋土中から須恵器（183、184）が出土した。183、184は須恵器坏蓋である。

本遺構の時期は、出土遺物と３区ＳＩ１との切合関係から６世紀後葉と考えられる。

### ３区　ＳＩ７（第64、65図）

３区ＳＩ７は谷部の標高32.2～32.5ｍに位置する竪穴住居跡である。北側は３区ＳＩ９に切られ、上部は３区ＳＳ２と３区ＳＳ３に削平されている。南側には平行して２条の壁溝が認められることから、１回の建て替えが行われたと考えられる。

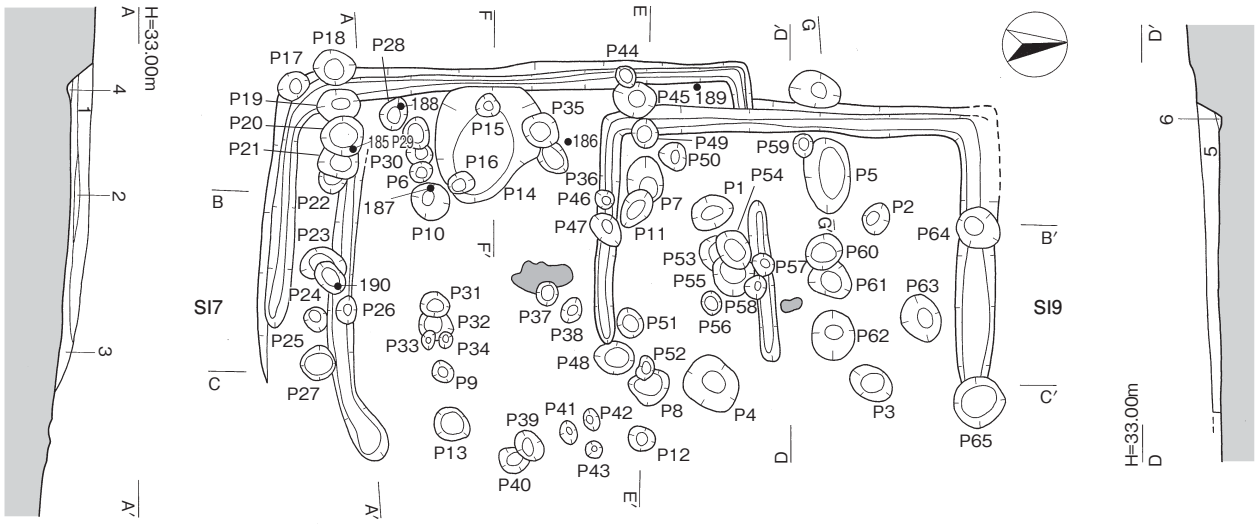
平面形態は、建て替え前の住居跡（ＳＩ７Ａ）、建て替え後の住居跡（ＳＩ７Ｂ）とも東側が流失しているが、隅丸方形を呈すると考えられる。

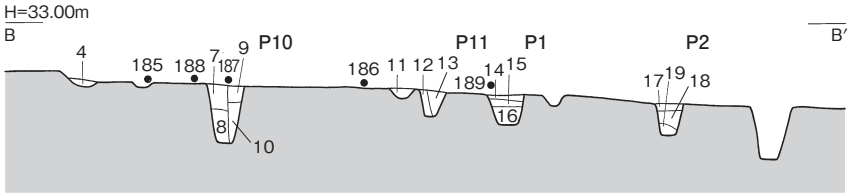
ＳＩ７Ａは南側で幅21～35㎝、深さ４～５㎝の壁溝を検出したのみで、規模は東西長4.1ｍ以上を測る。

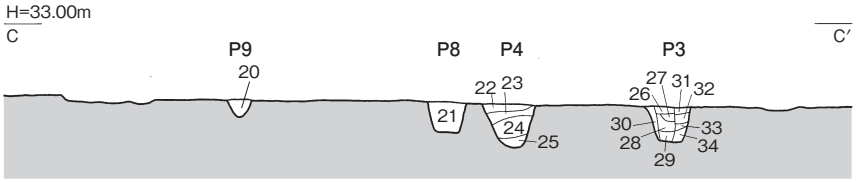
主柱穴はＰ６～Ｐ９

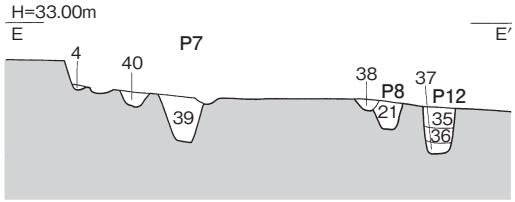
**第23表　３区ＳＩ７ピット計測表**

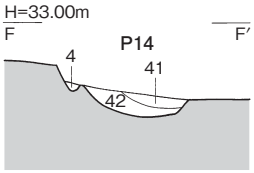
| 番号 | 長径（㎝） | 短径（㎝） | 深さ（㎝） | 備　考 | 番号 | 長径（㎝） | 短径（㎝） | 深さ（㎝） | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| Ｐ６ | 23 | 20 | 25 | SI7A主柱穴 | Ｐ28 | 34 | 31 | 11 | |
| Ｐ７ | 51 | 39 | 47 | SI7A主柱穴 | Ｐ29 | 34 | 26 | 36 | |
| Ｐ８ | 54 | 38 | 32 | SI7A主柱穴 | Ｐ30 | 28 | (19) | 20 | |
| Ｐ９ | 22 | 22 | 19 | SI7A主柱穴 | Ｐ31 | 31 | 28 | 34 | |
| Ｐ10 | 42 | 38 | 61 | SI7B主柱穴 | Ｐ32 | (40) | 35 | 28 | |
| Ｐ11 | 42 | 29 | 27 | SI7B主柱穴 | Ｐ33 | 17 | 14 | 21 | |
| Ｐ12 | 33 | 26 | 49 | SI7B主柱穴 | Ｐ34 | 15 | 14 | 16 | |
| Ｐ13 | 40 | 36 | 59 | SI7B主柱穴 | Ｐ35 | (35) | (31) | 62 | |
| Ｐ14 | 224 | 113 | 24 | SI7B特殊ピット | Ｐ36 | (34) | 29 | 26 | |
| Ｐ15 | 26 | 25 | 32 | | Ｐ37 | 24 | 21 | 31 | |
| Ｐ16 | 28 | 24 | 46 | | Ｐ38 | 30 | 21 | 19 | |
| Ｐ17 | 32 | 31 | 32 | | Ｐ39 | 36 | 26 | 27 | |
| Ｐ18 | 47 | 37 | 61 | | Ｐ40 | 33 | (21) | 13 | |
| Ｐ19 | 45 | (30) | 40 | | Ｐ41 | 26 | 16 | 23 | |
| Ｐ20 | 46 | 41 | 47 | | Ｐ42 | 27 | 16 | 15 | |
| Ｐ21 | 41 | (25) | 18 | | Ｐ43 | 26 | 16 | 6 | |
| Ｐ22 | (24) | 30 | 10 | | Ｐ44 | 23 | 21 | 33 | |
| Ｐ23 | 48 | (43) | 60 | | Ｐ45 | 43 | 37 | 56 | |
| Ｐ24 | 37 | 26 | 16 | | Ｐ46 | 23 | 21 | 29 | |
| Ｐ25 | 27 | 25 | 18 | | Ｐ47 | 41 | 29 | 27 | |
| Ｐ26 | 28 | 21 | 38 | | Ｐ48 | 41 | 34 | 49 | |
| Ｐ27 | 38 | 37 | 25 | | | | | | |

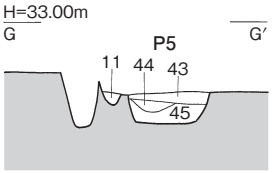


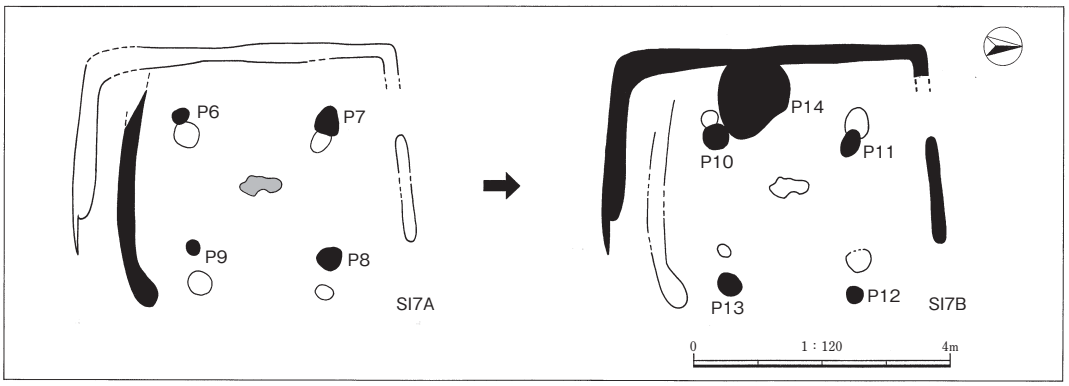



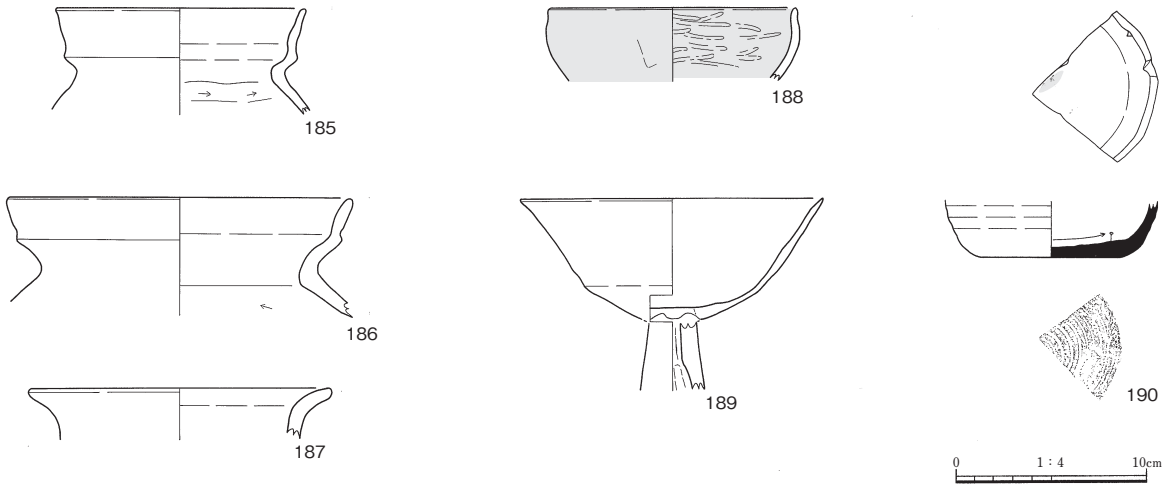

1 暗灰色土（SI7、ローム粒混じり）
2 暗茶灰色土（SI7、ロームブロック混じり）
3 暗黄褐色土と淡灰色土がブロック状に堆積（SI7）
4 暗灰色土(SI7)
5 黒褐色土（ロームブロック混じり）
6 暗灰色土
7 淡黒褐色土（ローム粒混じり）
8 暗茶灰色土（ロームブロックが多量に混じる）
9 暗灰色土（ローム粒混じり）
10 暗灰色土（ロームブロック混じり）
11 暗灰色土
12 明褐色土
13 暗灰褐色土（ローム粒混じり）
14 淡茶灰色土
15 暗灰色土（ロームブロックが多量に混じる）
16 灰褐色土（ロームブロック混じり）
17 褐色土
18 暗褐色土（暗灰色ブロック混じり）
19 暗褐色土
20 暗灰色土
21 暗灰色土（ロームブロック混じり）
22 黒灰色土（ローム粒混じり）
23 淡灰褐色土（ロームブロックが多量に混じる）
24 黒灰色土（ローム粒混じり）
25 暗褐色土（ロームブロック混じり）
26 暗茶灰色土（ロームブロック混じり）
27 暗灰色土（ローム粒混じり）
28 黒灰色土
29 茶灰色土（ロームブロック混じり）
30 暗褐色土（ロームブロック混じり）
31 暗褐色土
32 暗褐色土（ロームブロック混じり）
33 暗灰色土
34 淡黒灰色土（ロームブロックが多量に混じる）
35 暗灰色土（ロームブロック混じり）
36 暗灰色土（ロームブロックが多量に混じる）
37 黒灰色土（ロームブロック混じり）
38 茶灰色土（ロームブロック混じり）
39 灰褐色土
40 灰褐色土（ローム粒混じり）
41 暗灰色土（ローム粒混じり）
42 淡黒灰色土（ロームブロック混じり）
43 暗灰色土（ローム粒混じり）
44 灰褐色土（ロームブロックが多量に混じる）
45 暗灰色土

0　1：80　2m

SI7 変遷図




第64図　3区ＳＩ７・９




第65図　３区ＳＩ７出土遺物

の４基で、その規模は径20～54㎝、床面からの深さ19～47㎝を測る。主柱穴間の距離はＰ６－Ｐ７間から時計回りの順に2.4ｍ、2.0ｍ、2.2ｍ、2.1ｍである。また、中央の床面では焼土面を検出した。

ＳＩ７Ｂは、規模は長軸5.5ｍ、短軸4.9ｍ以上、壁高は0.15～0.25ｍ、床面積は16.8㎡以上を測り、南、西、北側の３方の壁際には幅11～35㎝、深さ５～６㎝の壁溝が巡る。

主柱穴はＰ10～Ｐ13の４基で、その規模は径26～42㎝、床面からの深さ27～61㎝を測る。主柱穴間の距離はＰ10－Ｐ11間から時計回りの順に2.15ｍ、2.4ｍ、2.0ｍ、2.4ｍである。

住居跡の西側の壁際には特殊ピット（Ｐ14）がある。Ｐ14は平面形態が楕円形状を呈し、規模は長軸224㎝、短軸113㎝、床面からの深さ24㎝を測る。Ｐ14の西端にはＰ15、東端にはＰ16の２基のピットがあり、その規模はＰ15が長径26㎝、短径25㎝、深さ32㎝、Ｐ16が長径28㎝、短径24㎝、深さ46㎝を測る。

埋土は３層に分層でき、暗灰色土（１層）と暗黄褐色土・淡灰色土（３層）が主体となって堆積している。

遺物は埋土中から土師器（185～189）、須恵器（190）が出土した。

185～189は土師器である。185、186は複合口縁を有する甕で、186は退化している。187は口縁部が外反する甕である。188は埦で、内湾して立ち上がり、口縁端部が僅かに外反する。また、内外面とも赤色塗彩が施されている。189は高坏で、坏部は外反気味に立ち上がる。

190は須恵器坏身を転用した転用硯で、底部内面には黒墨と朱墨が認められる。また、底部外面には回転糸切りが施されている。

本遺構の時期は、３区ＳＩ９との切合関係から６世紀後葉と考えられる。

### ３区　ＳＩ９（第64、66図）

３区ＳＩ９は谷部の標高32.3～32.5ｍに位置する竪穴住居跡である。南側は３区ＳＩ７を切っており、上部は３区ＳＳ２と３区ＳＳ３に削平されている。

平面形態は、東側が流失しているが、隅丸方形を呈する。規模は長軸4.2ｍ、短軸3.3ｍ以上、壁高は0.1～0.2ｍ、床面積は13.1㎡以上を測る。南、西、北側の３方の壁際には幅21～41㎝、深さ12㎝の

壁溝が巡っている。

主柱穴はＰ１～Ｐ４の４基で、その規模は径34～62㎝、床面からの深さ31～36㎝を測る。主柱穴間の距離はＰ１－Ｐ２間から時計回りの順に1.7ｍ、1.7ｍ、1.7ｍ、1.7ｍである。

住居跡の西側の壁際には特殊ピット（Ｐ５）がある。Ｐ５は平面形態が楕円形を呈し、規模は長軸82㎝、短軸51㎝、床面からの深さ33㎝を測る。また、中央の床面では焼土面を検出した。

埋土は上層が削平されているため、黒褐色土（５層）を確認したのみである。

遺物は埋土中から須恵器（191、192）、石器（Ｓ12）が出土した。

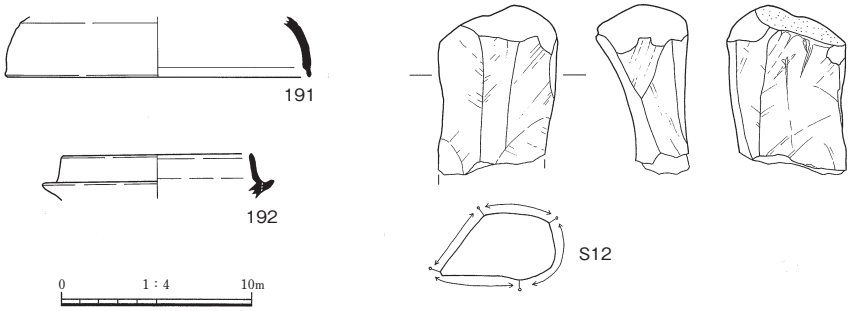
191、192は須恵器である。191は坏蓋で、口縁端部内面には浅い段が認められる。192は坏身である。

Ｓ12は花崗岩製の砥石で、上端部と下端部が欠損するが、長方形を呈すると考えられ、表裏面及び両側面の４面を使用している。

本遺構の時期は、出土遺物から６世紀後葉と考えられる。

**第24表　３区ＳＩ９ピット計測表**

| 番号 | 長径(㎝) | 短径(㎝) | 深さ(㎝) | 備　考 |
|---|---|---|---|---|
| Ｐ１ | 45 | 44 | 31 | 主柱穴 |
| Ｐ２ | 43 | 39 | 41 | 主柱穴 |
| Ｐ３ | 48 | 34 | 36 | 主柱穴 |
| Ｐ４ | 62 | 59 | 35 | 主柱穴 |
| Ｐ５ | 82 | 51 | 33 | 特殊ピット |
| Ｐ49 | 30 | 26 | 17 | |
| Ｐ50 | 30 | 28 | 26 | |
| Ｐ51 | 30 | 30 | 10 | |
| Ｐ52 | 27 | 21 | 9 | |
| Ｐ53 | (37) | (21) | 24 | |
| Ｐ54 | 45 | 33 | 22 | |
| Ｐ55 | (44) | 33 | 24 | |
| Ｐ56 | 25 | 20 | 12 | |
| Ｐ57 | 24 | 20 | 47 | |
| Ｐ58 | 23 | 22 | 25 | |
| Ｐ59 | 24 | 23 | 8 | |
| Ｐ60 | 42 | 36 | 23 | |
| Ｐ61 | 47 | 40 | 21 | |
| Ｐ62 | 51 | 48 | 43 | |
| Ｐ63 | 52 | 45 | 57 | |
| Ｐ64 | 49 | 43 | 25 | |
| Ｐ65 | 55 | 54 | 17 | |




第66図　３区ＳＩ９出土遺物

**３区　ＳＩ12**（第51、67図）

３区ＳＩ12は谷部の標高31.4～31.8ｍに位置する竪穴住居跡で、北側は３区ＳＩ８を切っている。

平面形態は、東側が調査区外にかかっているが、隅丸方形を呈すると考えられる。規模は長軸4.2ｍ以上、短軸3.1ｍ以上、壁高は0.2ｍ、床面積は5.6㎡以上を測る。南西隅の壁際には幅23～29㎝、深さ５～６㎝の壁溝がある。

主柱穴は位置的にＰ１が該当すると考えられ、その規模は長径70㎝、短径53㎝、床面からの深さ22㎝を測る。

埋土は上層が削平されているため、灰褐色土（１層）を確認したのみである。

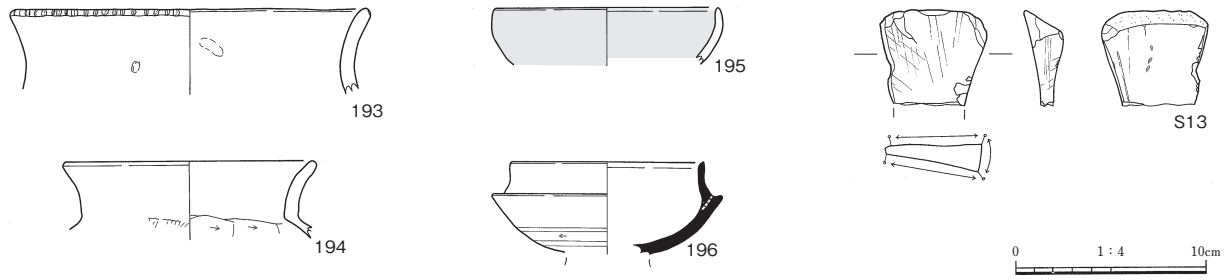
遺物は埋土中から土師器（193～195）、須恵器（196）、石器（Ｓ13）が出土した。

193～195は土師器である。193、194は甕、195は埦で、195は内外面に赤色塗彩が施されている。

196は須恵器の有蓋高坏である。

Ｓ13は玄武岩製の砥石で、下端部が欠損するが、扁平な長方形を呈し、表裏面及び右側面の３面を使用している。

本遺構の時期は、出土遺物から６世紀後葉と考えられる。




第67図　３区ＳＩ12出土遺物

### （２）段状遺構

**２区　ＳＳ10**（第68、69図）

２区ＳＳ10は丘陵東側斜面の標高44.2～44.8ｍに位置する段状遺構で、２区ＳＳ14が埋没した後に構築された。

**第25表　２区ＳＳ10・14ピット計測表**

| 番号 | 長径(cm) | 短径(cm) | 深さ(cm) | 備　考 |
|---|---|---|---|---|
| Ｐ１ | 44 | 34 | 18 | SS10 |
| Ｐ２ | 57 | 46 | 30 | SS10 |
| Ｐ３ | 36 | 36 | 30 | SS14 |
| Ｐ４ | 23 | 23 | 36 | SS10 |
| Ｐ５ | 33 | 30 | 29 | SS10 |
| Ｐ６ | 26 | 26 | 36 | SS10 |
| Ｐ７ | 27 | 23 | 18 | SS10 |

平面形態は、東側が流失し、南側は調査区外にかかっているが、隅丸長方形状を呈すると考えられる。規模は長軸7.1ｍ以上、短軸3.0ｍ以上、壁高は0.7ｍを測る。西側と北側の壁際には幅16～51㎝、深さ７～９㎝の壁溝があり、平坦面では６基のピットを検出した。南側は調査区外にかかり、さらに東側が流失しているため判然としないが、位置的にＰ１とＰ２は掘立柱建物跡の柱穴になる可能性がある。規模は径34～57㎝、平坦面からの深さ18～30㎝を測り、Ｐ１－Ｐ２間の距離は2.3ｍである。掘立柱建物跡と仮定した場合、その主軸はＮ－０°－Ｅである。

埋土は４層に分層でき、灰褐色土（２層）、淡茶灰色土（３層）、淡灰茶色土（４層）の３層が主体となって堆積し、地形的に高い西側の壁際から埋没している。なお、いずれの層にも地山由来のロームブロックが混じっている。

遺物は埋土中から弥生土器（197）が出土した。197は弥生土器甕で、上部から混入したと考えられる。口縁端部には３条の凹線が巡っている。

本遺構の時期は、２区ＳＳ14との切合関係から７世紀前葉～中葉頃と考えられる。

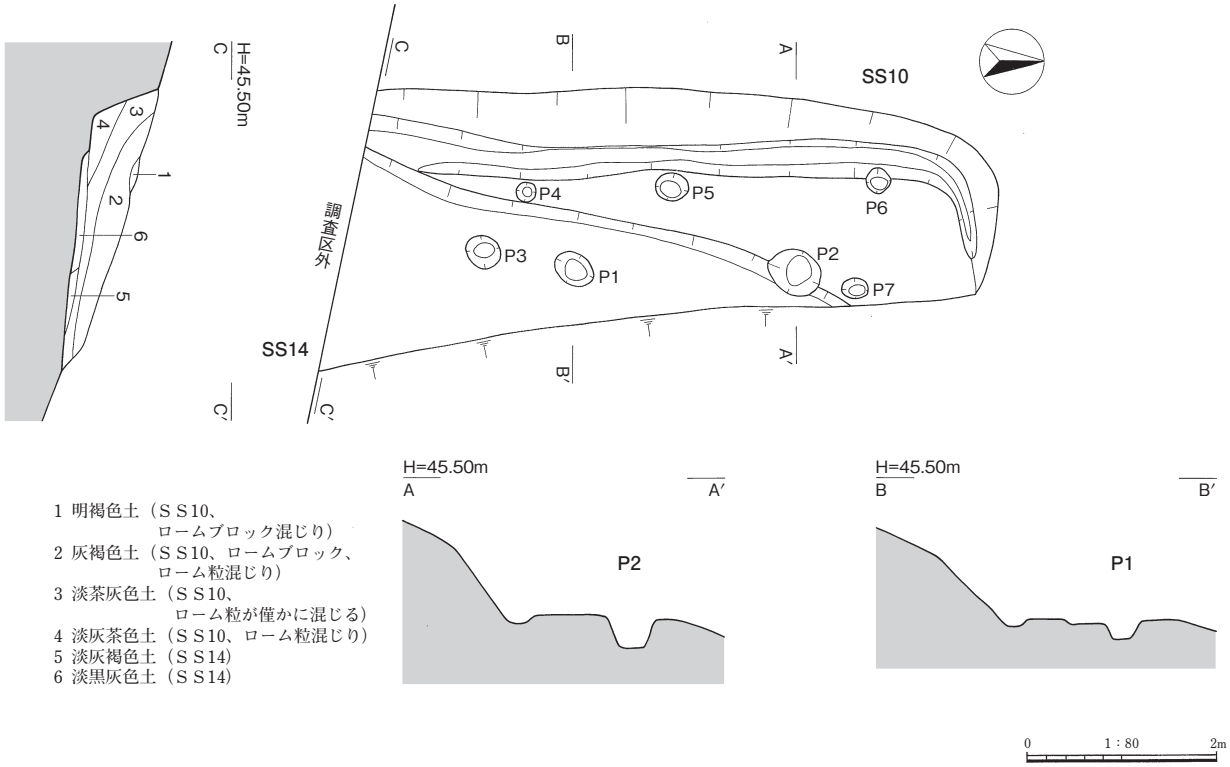
**２区　ＳＳ14**（第68、70図）

２区ＳＳ14は丘陵東側斜面の標高43.8～44.0ｍに位置する段状遺構である。上部は２区ＳＳ10に削平され、東側は流失し、南側は調査区外にかかっている。規模は長軸5.5ｍ以上、短軸2.4ｍ以上、壁高は0.05～0.1ｍを測る。平坦面では壁溝は検出されなかった。

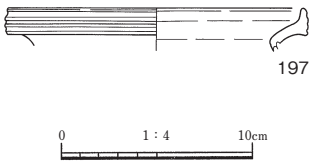
埋土は上部が削平されているため淡灰褐色土（５層）と淡黒灰色土（６層）を確認したのみである。

遺物は埋土中から土師器（198）、須恵器（199）が出土した。198は土師器甕、199は須恵器坏蓋である。

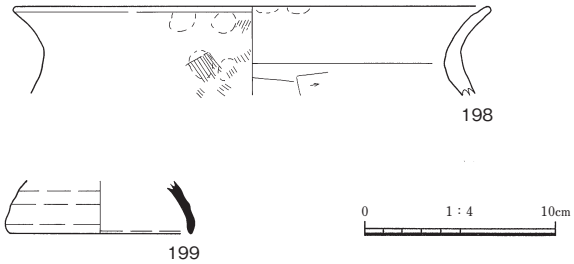
本遺構の時期は、出土遺物から７世紀前葉～中葉と考えられる。




第68図　２区ＳＳ10・14




第69図　２区ＳＳ10出土遺物




第70図　２区ＳＳ14出土遺物

## ２区　ＳＳ６（第71、72図）

２区ＳＳ６は丘陵東側斜面の標高36.3～38.0ｍに位置する段状遺構である。２区ＳＳ９が埋没した後に構築されたもので、南東側は２区ＳＩ10を切っている。

平面形態は隅丸長方形状を呈し、規模は長軸11.5ｍ以上、短軸4.4ｍ以上、壁高は0.7ｍを測る。北西隅の壁際には幅21～53㎝、深さ７㎝の壁溝があり、平坦面では６基のピットを検出したが、掘立柱建物跡は認められなかった。

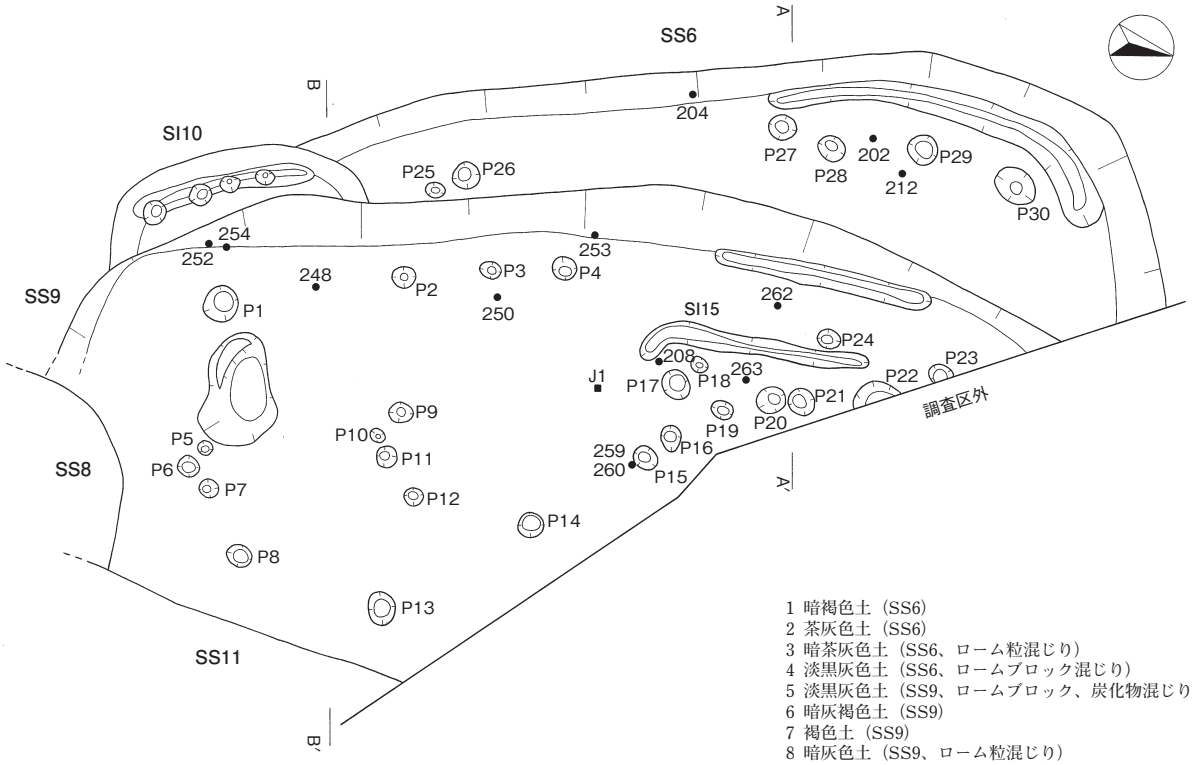
**第26表　２区ＳＳ６ピット計測表**

| 番号 | 長径(㎝) | 短径(㎝) | 深さ(㎝) | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| Ｐ25 | 26 | 20 | 32 | |
| Ｐ26 | 35 | 34 | 62 | |
| Ｐ27 | 38 | 33 | 36 | |
| Ｐ28 | 37 | 30 | 57 | |
| Ｐ29 | 40 | 39 | 30 | |
| Ｐ30 | 57 | 45 | 57 | |

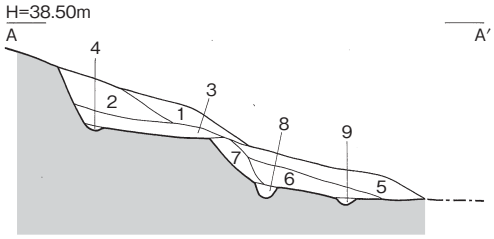
埋土はＡ－Ａ′ラインでは暗褐色土（１層）、茶灰色土（２層）、暗茶灰色土（３層）が地形的に高い西側の壁際から埋没している。

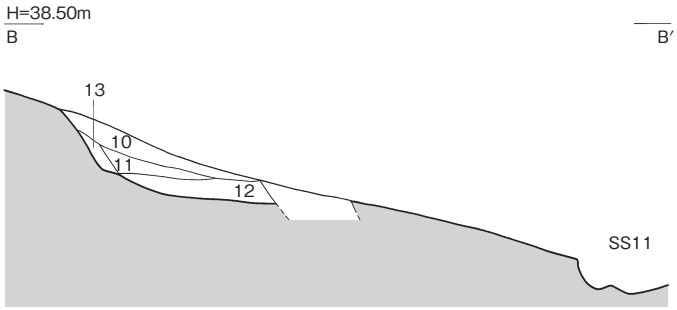
遺物は埋土中から土師器（200～205）、須恵器（206～214）、石器（Ｓ14）が出土した。

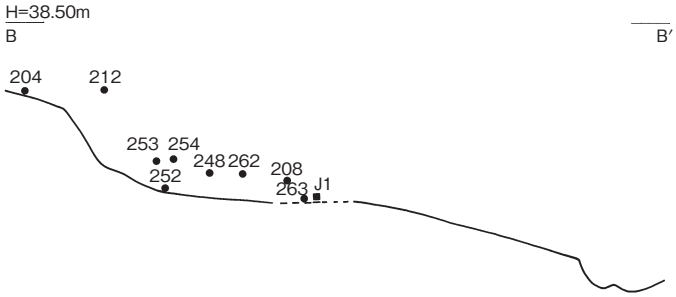
200は土師器甕、201は甑、202、203は土製支脚である。204、205は移動式竈で、204は焚口部、




1 暗褐色土（SS6）
2 茶灰色土（SS6）
3 暗茶灰色土（SS6、ローム粒混じり）
4 淡黒灰色土（SS6、ロームブロック混じり）
5 淡黒灰色土（SS9、ロームブロック、炭化物混じり）
6 暗灰褐色土（SS9）
7 褐色土（SS9）
8 暗灰色土（SS9、ローム粒混じり）
9 褐色土（SS9）
10 淡灰色土（SS6）
11 暗灰色土（SS9、ローム粒混じり）
12 明褐色土（SS9）
13 暗灰色土（SI10）

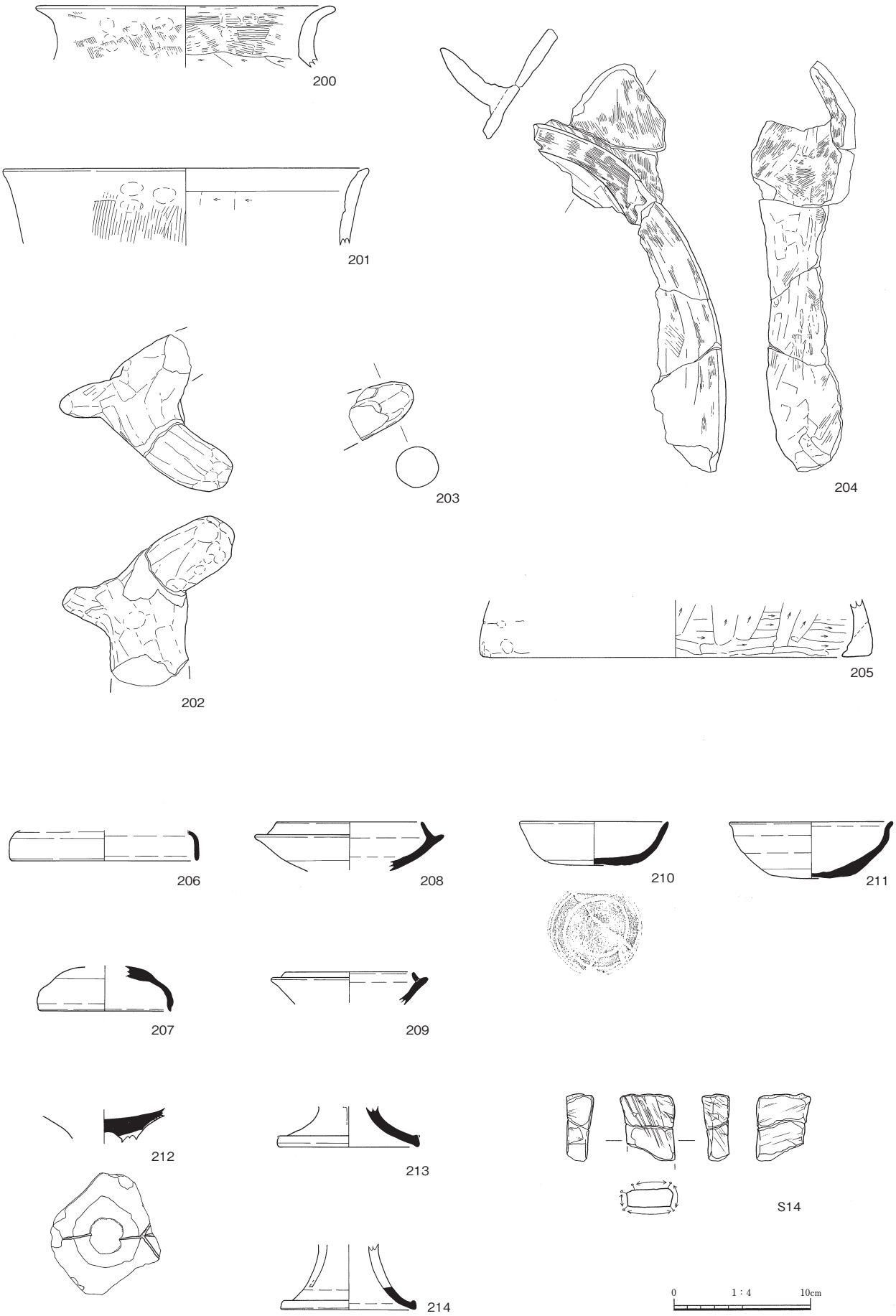



0　1：100　3m

第71図　２区ＳＳ６・９




第72図　２区ＳＳ６出土遺物

205は底部である。

206～214は須恵器である。206、207は坏蓋で、いずれも天井部と口縁部との境界には稜や沈線は認められない。208～211は坏身で、208、209は受け部を有する。210、211は受け部を持たないもので、210の底部外面には回転糸切りが施されている。211は口縁端部が外反し、底部外面はヘラ切り後、ヘラケズリとナデ調整を行っている。212～214は高坏の脚部である。212は２方向に切り込みがあり、さらに、坏部外面には三股状の刻書がある。214は３方向に方形の透かしがある。

Ｓ14は砂岩製の砥石で、下端部が欠損するが、扁平な長方形を呈し、表裏面及び両側面の４面を使用している。

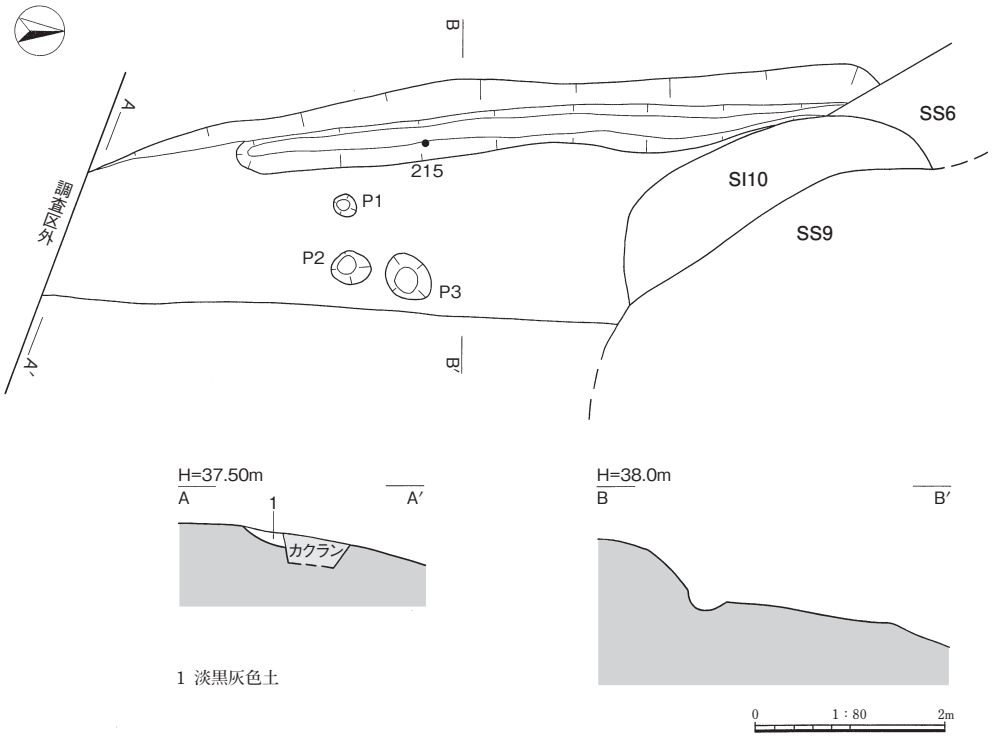
本遺構の時期は、出土遺物から７世紀前葉～中葉と考えられる。

## ２区　ＳＳ７（第73、74図）

２区ＳＳ７は丘陵東側斜面の標高37.4～37.6ｍに位置する段状遺構である。２区ＳＩ10が埋没した後に構築されたもので、北側は２区ＳＳ６に切られているが、２区ＳＳ９との先後関係は明らかにはできなかった。

平面形態は、東側は流失し、南側は調査区外にかかっているが、隅丸長方形状を呈すると考えられる。規模は長軸8.9ｍ以上、短軸2.6ｍ以上、壁高は0.6ｍを測る。西側の壁際には幅26～51㎝、深さ20㎝の壁溝があり、平坦面では３基のピットを検出したが、掘立柱建物跡は認められない。

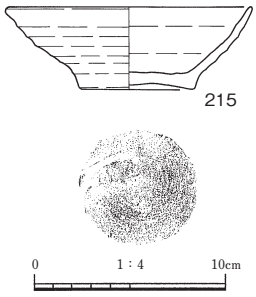
遺物は埋土中から土師質土器（215）が出土し、この他にも土師器と須恵器




第73図　２区ＳＳ７

**第27表　２区ＳＳ７ピット計測表**

| 番号 | 長径(㎝) | 短径(㎝) | 深さ(㎝) | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| Ｐ１ | 26 | 25 | 27 | |
| Ｐ２ | 42 | 37 | 32 | |
| Ｐ３ | 56 | 45 | 32 | |




第74図　２区ＳＳ７出土遺物

が出土した。

215は土師質土器の坏身で、上部から転落して混入したと考えられる。内湾気味に立ち上がり、底部外面には回転糸切りが施されている。

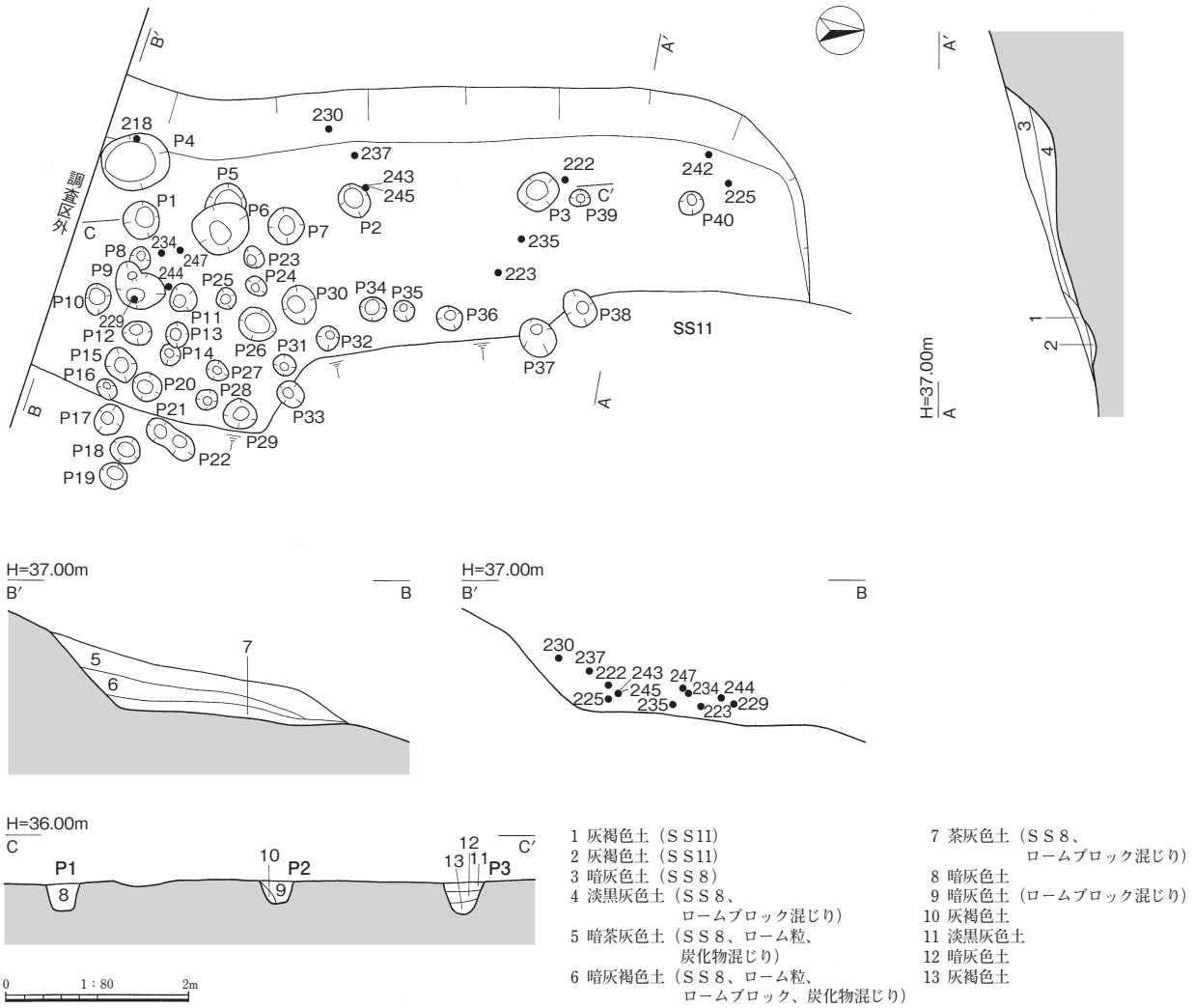
本遺構の時期は、出土遺物と２区ＳＳ６との関係から７世紀前葉～中葉頃と考えられる。

## ２区　ＳＳ８（第75～77図）

２区ＳＳ８は丘陵東側斜面の標高35.6～36.4ｍに位置する段状遺構である。北側は２区ＳＳ９を切っているが、２区ＳＳ11に切られている。

平面形態は、東側は流失し、南側は調査区外にかかっているが、隅丸長方形状を呈すると考えられる。規模は長軸8.5ｍ以上、短軸3.6ｍ以上、壁高は0.15～0.8ｍを測る。

平坦面では壁溝は認められなかったが、40基のピットを検出した。このうち、Ｐ１～Ｐ３は東西方向に対応する柱穴は認められないが、南北方向に直線的に並び、桁行２間（4.25ｍ）の掘立柱建物跡になる可能性がある。柱穴の規模は径33～44㎝、平坦面からの深さ27～36㎝を測り、柱穴間の距離はＰ１－Ｐ２間が2.25ｍ、Ｐ２－Ｐ３間が2.0ｍである。掘立柱建物跡であると仮定した場合、その主軸はＮ－４°－Ｗである。




第75図　２区ＳＳ８

遺物は埋土中から弥生土器（216）、土師器（217～236）、須恵器（237～247）石器（Ｓ15）が出土した。

216は弥生土器甕で、口縁端部は内傾し、３条の凹線が巡る。

217～236は土師器である。217～232は甕で、217は複合口縁を有する。218～232は口縁部が外反するもので、218の口縁部には浅い沈線が１条巡る。231、232は口縁部径よりも胴部径が小さいものである。233は埦で、内湾気味に立ち上がる。234は甑の把手である。235、236は移動式竈で、235は焚口部の庇、236は底部である。

237～247は須恵器である。237～240は坏蓋で、237と238の天井部と口縁部との境界には鈍い稜が認められる。また、237の口縁端部内面には浅い段が認められる。240の口縁部には返りを有する。241～247は坏身である。241～246は受け部を有するもので、245の底部は焼成後穿孔されている。247は受け部を持たないもので、口縁部は僅かに外反する。

Ｓ15はＰ４から出土したサヌカイト製の有舌尖頭器である。

本遺構の時期は、出土遺物から７世紀前葉～中葉と考えられる。

**第28表　２区ＳＳ８ピット計測表**

| 番号 | 長径(cm) | 短径(cm) | 深さ(cm) | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| Ｐ１ | 42 | 40 | 29 | |
| Ｐ２ | 35 | 33 | 24 | |
| Ｐ３ | 44 | 39 | 36 | |
| Ｐ４ | 75 | 60 | 17 | |
| Ｐ５ | 46 | (25) | 55 | |
| Ｐ６ | 61 | 55 | 55 | |
| Ｐ７ | 41 | 40 | 65 | |
| Ｐ８ | 23 | 23 | 23 | |
| Ｐ９ | 27 | (18) | 27 | |
| Ｐ10 | 33 | 30 | 34 | |
| Ｐ11 | 31 | 29 | 48 | |
| Ｐ12 | 32 | 25 | 32 | |
| Ｐ13 | 28 | 23 | 32 | |
| Ｐ14 | 24 | 20 | 25 | |
| Ｐ15 | 37 | 34 | 24 | |
| Ｐ16 | 22 | 20 | 40 | |
| Ｐ17 | 34 | 30 | 69 | |
| Ｐ18 | 34 | 28 | 12 | |
| Ｐ19 | 30 | 28 | 15 | |
| Ｐ20 | 34 | 30 | 23 | |
| Ｐ21 | (33) | 28 | 14 | |
| Ｐ22 | 40 | 26 | 18 | |
| Ｐ23 | 25 | 22 | 23 | |
| Ｐ24 | 23 | 18 | 47 | |
| Ｐ25 | 23 | 22 | 43 | |
| Ｐ26 | 42 | 35 | 10 | |
| Ｐ27 | 26 | 21 | 47 | |
| Ｐ28 | 25 | 23 | 39 | |
| Ｐ29 | 38 | 33 | 22 | |
| Ｐ30 | 43 | 39 | 28 | |
| Ｐ31 | 25 | 24 | 35 | |
| Ｐ32 | 26 | 23 | 28 | |
| Ｐ33 | 29 | 29 | 31 | |
| Ｐ34 | 28 | 27 | 37 | |
| Ｐ35 | 23 | 20 | 20 | |
| Ｐ36 | 30 | 26 | 20 | |
| Ｐ37 | 43 | 38 | 38 | |
| Ｐ38 | 42 | 32 | 41 | |
| Ｐ39 | 22 | 20 | 41 | |
| Ｐ40 | 25 | 24 | 23 | |

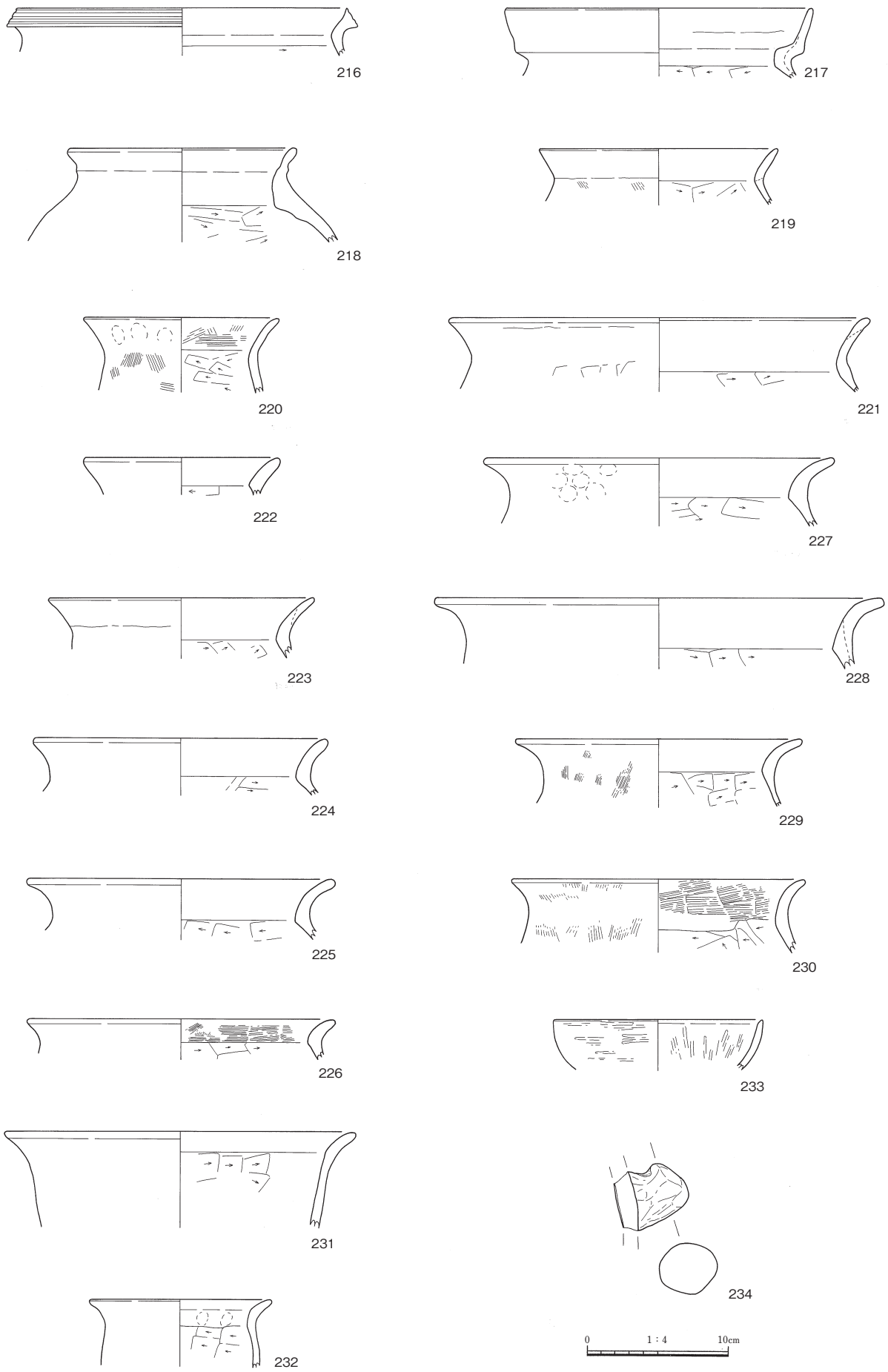
## ２区　ＳＳ９（第71、78図）

２区ＳＳ９は丘陵東側斜面の標高36.2～36.9ｍに位置する段状遺構である。上部は２区ＳＳ６に削平されており、南西側は２区ＳＩ10を切っているが、南東側は２区ＳＳ８と２区ＳＳ11に切られている。

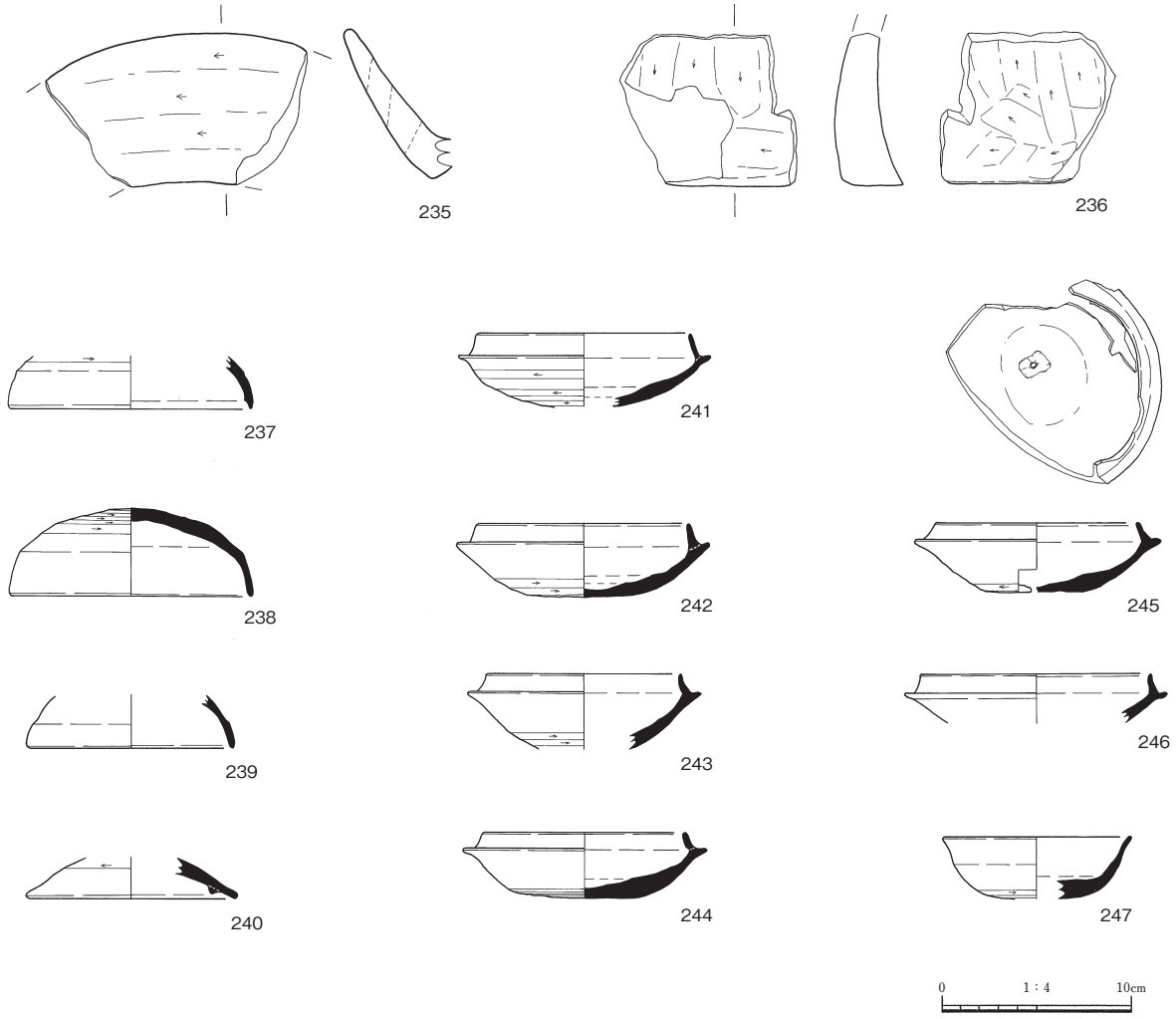
平面形態は、北側が調査区外にかかるが、隅丸長方形状を呈すると考えられる。規模は長軸13.3ｍ以上、短軸6.3ｍ以上、壁高0.4～0.6ｍを測る。

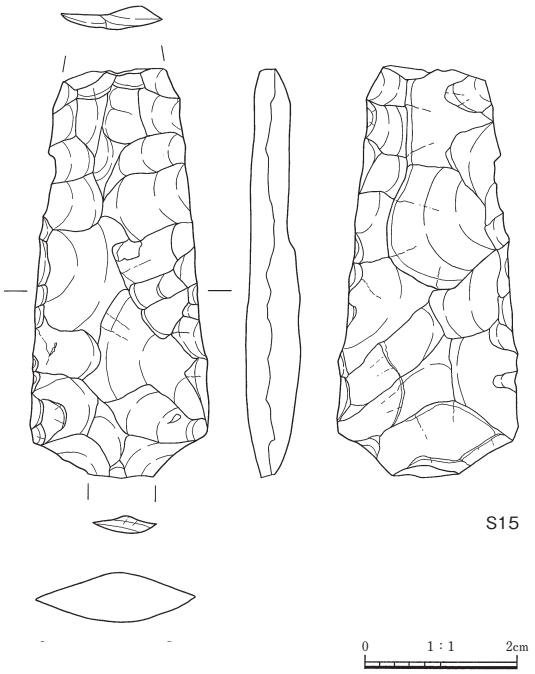
北西側の壁際には幅22～30㎝、深さ10㎝の壁溝があり、平坦面では24基のピットを検出した。このうち、Ｐ１～Ｐ４は南北方向に直線的に並び、Ｐ２－Ｐ３間の距離は1.15ｍ、Ｐ３－Ｐ４間の距離は1.0ｍを測り、Ｐ１とＰ２の間はピットを検出できなかったが、その距離は2.4ｍを測ることから、桁行４間（4.55ｍ）の掘立柱建物跡となる可能性があるが、東西方向に対応する柱穴は認められない。柱穴の規模は径22～48㎝、平坦面からの深さ16～39㎝を測り、掘立柱建物跡であると仮定した場合、その主軸はＮ－15°－Ｗである。なお、Ｐ19は２区ＳＩ15の主柱穴に該当する可能性がある。

埋土はＡ－Ａ′ラインでは３層に分層でき、淡黒灰色土（５層）と暗灰褐色土（６層）の２層が主体となって堆積し、地形的に高い西側の壁際から埋没している。

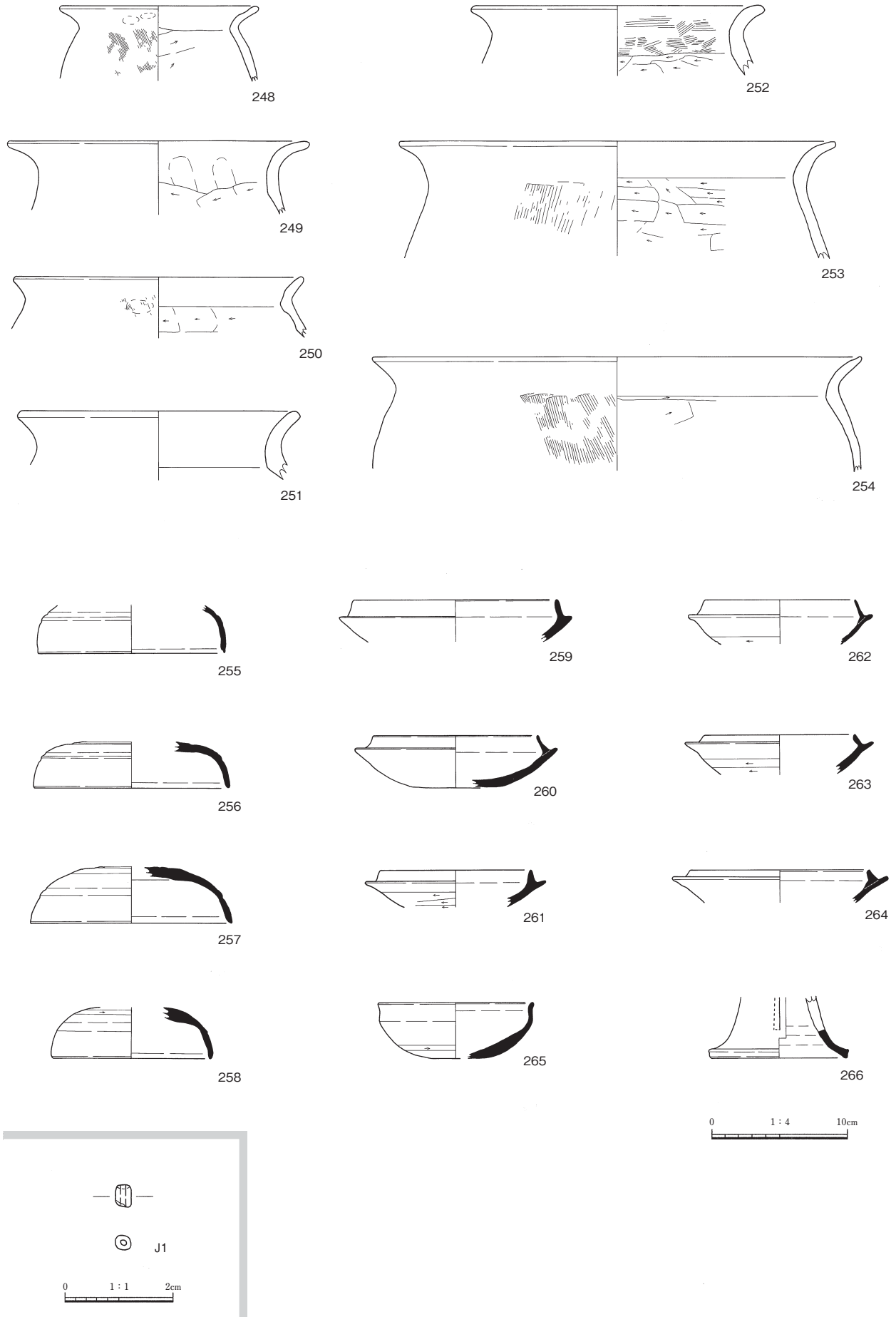



第76図　２区ＳＳ８出土遺物（１）




第77図　２区ＳＳ８出土遺物（２）




第78図　２区ＳＳ９出土遺物

遺物は埋土中から土師器（248～254）、須恵器（255～266）、ガラス玉（Ｊ１）が出土した。

248～254は土師器甕で、口縁部が大きく外反する。

255～266は須恵器である。255～258は坏蓋で、いずれも天井部と口縁部との境界に鈍い稜が認められる。259～265は坏身で、259～264は受け部を有する。265は受け部を持たないもので、口縁端部が僅かに外反する。266は高坏の脚部で、２方向に方形の透かしがある。

Ｊ１はガラス玉で、円筒形を呈し、長さ３㎜、径３㎜を測る。

本遺構の時期は、出土遺物から７世紀前葉～中葉と考えられる。

**第29表　２区ＳＳ９ピット計測表**

| 番号 | 長径(cm) | 短径(cm) | 深さ(cm) | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| Ｐ１ | 48 | 47 | 16 | |
| Ｐ２ | 32 | 32 | 39 | |
| Ｐ３ | 28 | 22 | 36 | |
| Ｐ４ | 33 | 33 | 28 | |
| Ｐ５ | 20 | 20 | 8 | |
| Ｐ６ | 28 | 27 | 10 | |
| Ｐ７ | 25 | 24 | 27 | |
| Ｐ８ | 33 | 31 | 13 | |
| Ｐ９ | 32 | 28 | 13 | |
| Ｐ10 | 21 | 19 | 14 | |
| Ｐ11 | 31 | 28 | 18 | |
| Ｐ12 | 25 | 22 | 22 | |
| Ｐ13 | 44 | 34 | 20 | |
| Ｐ14 | 36 | 34 | 15 | |
| Ｐ15 | 35 | 30 | 51 | |
| Ｐ16 | 35 | 28 | 57 | |
| Ｐ17 | 40 | 38 | 68 | |
| Ｐ18 | 23 | 21 | 43 | |
| Ｐ19 | 35 | 29 | 55 | |
| Ｐ20 | 29 | 28 | 64 | |
| Ｐ21 | 38 | 35 | 58 | |
| Ｐ22 | 68 | (25) | 24 | |
| Ｐ23 | 31 | (23) | 32 | |
| Ｐ24 | 31 | 26 | 28 | |

### ２区　ＳＳ11（第79、80図）

２区ＳＳ11は丘陵東側斜面の標高34.9～35.6ｍに位置する段状遺構である。東側は流失し、北側は調査区外にかかっている。規模は長軸6.8ｍ以上、短軸1.3ｍ以上、壁高は0.4ｍを測る。西側の壁際には幅25～39㎝、深さ10㎝の壁溝があり、平坦面では６基のピットを検出した。

遺物は埋土中から土師器（267～271）、須恵器（272～274）が出土した。

267～270は土師器甕である。267は複合口縁を有し、268～270は口縁部が大きく外反する。271は移動式竈の焚口部である。

272～274は須恵器で、272、273は坏蓋、274は坏身である。

本遺構の時期は、出土遺物から７世紀中葉と考えられる。

### ２区　ＳＳ12（第79図）

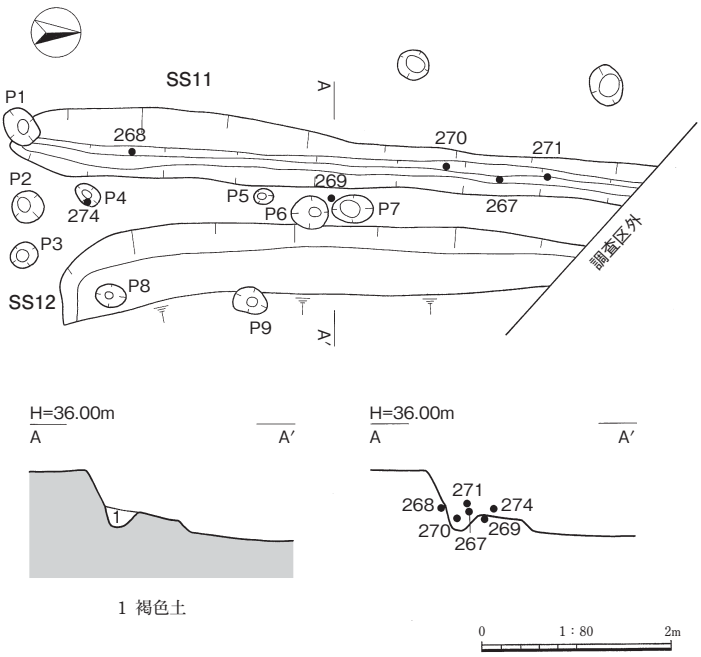
２区ＳＳ12は丘陵東側斜面の標高34.7～35.2ｍに位置する段状遺構である。

平面形態は、東側は流失し、北側は調査区外にかかっているが、隅丸長方形状を呈すると考えられる。規模は長軸5.6ｍ以上、短軸0.9ｍ以上、壁高は0.1ｍを測る。壁溝は認められず、平坦面では２基のピットを検出したが、平坦面の大部分が流失しているため、掘立柱建物跡の存在は不明である。

本遺構の時期は、遺物が出土していないが、２区ＳＳ11との関係から７世紀中葉頃と考えられる。

### ３区　ＳＳ１（第81、82図）

３区ＳＳ１は谷部の標高32.2～32.3ｍに位置する段状遺構である。本遺構の西側には３区ＳＳ２・３と３区ＳＩ７・９、東側には３区ＳＩ８・12がある。



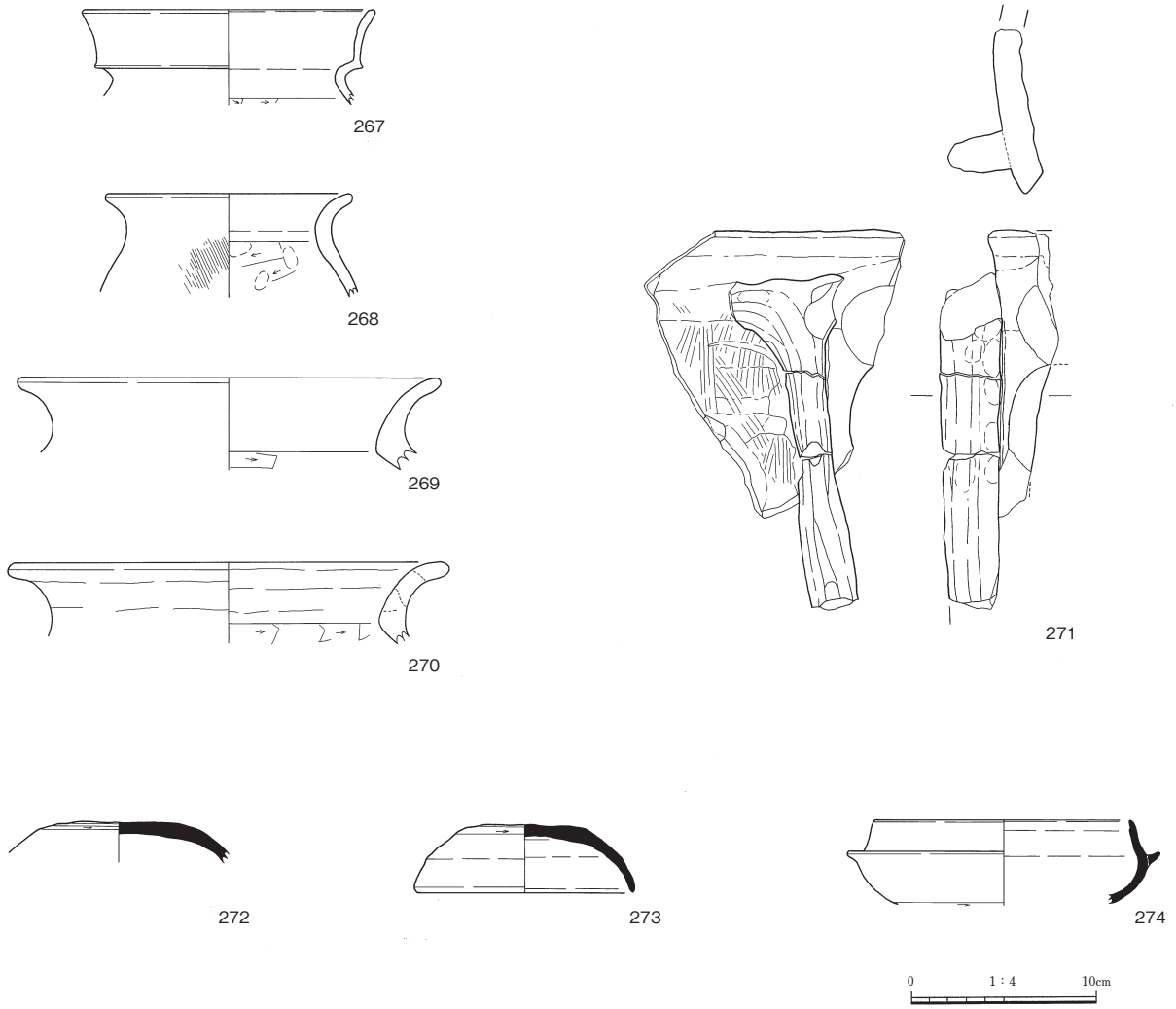

第79図　２区ＳＳ11・12

## 第30表　２区ＳＳ11ピット計測表

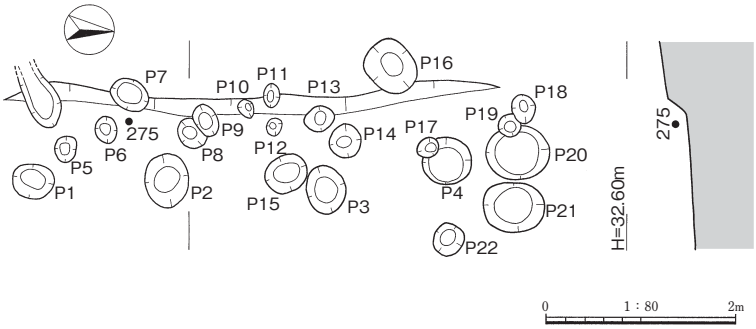
| 番号 | 長径(cm) | 短径(cm) | 深さ(cm) |
|---|---|---|---|
| Ｐ１ | 42 | 32 | 41 |
| Ｐ２ | 32 | 25 | 29 |
| Ｐ３ | 28 | 27 | 29 |
| Ｐ４ | 26 | 23 | 17 |
| Ｐ５ | 10 | 7 | 29 |
| Ｐ６ | 41 | 35 | 16 |
| Ｐ７ | 44 | 29 | 21 |

## 第31表　２区ＳＳ12ピット計測表

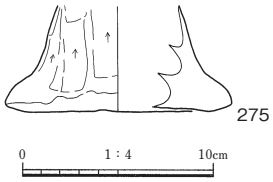
| 番号 | 長径(cm) | 短径(cm) | 深さ(cm) |
|---|---|---|---|
| Ｐ８ | 29 | 22 | 38 |
| Ｐ９ | 38 | 14 | 51 |




第80図　２区ＳＳ11出土遺物




第81図　３区ＳＳ１




第82図　３区ＳＳ１出土遺物

大部分が削平されているため全容は不明であるが、規模は長軸5.2ｍ以上、壁高は0.1ｍを測る。壁溝は認められず、平坦面では18基のピットを検出したが、上層から掘り込まれたものがかなり含まれると考えられ、掘立柱建物跡は認められない。なお、Ｐ１～Ｐ４は３区ＳＳ２に伴う３区ＳＢ１の柱穴である。

遺物は埋土中から土製支脚（275）が出土した。275は土製支脚の底部で、平底である。

本遺構の時期は、出土遺物から古墳時代後期と考えられる。

**第32表　３区ＳＳ１ピット計測表**

| 番号 | 長径(cm) | 短径(cm) | 深さ(cm) | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| Ｐ１ | 42 | 33 | 14 | |
| Ｐ２ | 56 | 50 | 26 | |
| Ｐ３ | 52 | 43 | 26 | |
| Ｐ４ | 58 | 53 | 25 | |
| Ｐ５ | 32 | 25 | 14 | |
| Ｐ６ | 27 | 23 | 7 | |
| Ｐ７ | 40 | 36 | 59 | |
| Ｐ８ | 33 | (21) | 13 | |
| Ｐ９ | 35 | 26 | 27 | |
| Ｐ10 | 25 | 16 | 23 | |
| Ｐ11 | 27 | 16 | 25 | |
| Ｐ12 | 26 | 16 | 6 | |
| Ｐ13 | 33 | 26 | 49 | |
| Ｐ14 | 38 | 33 | 30 | |
| Ｐ15 | 45 | 38 | 15 | |
| Ｐ16 | 62 | 59 | 35 | |
| Ｐ17 | 23 | 22 | 26 | |
| Ｐ18 | 31 | 24 | 63 | |
| Ｐ19 | 24 | 22 | 34 | |
| Ｐ20 | 66 | 64 | 13 | |
| Ｐ21 | 74 | 54 | 45 | |
| Ｐ22 | 36 | 32 | 17 | |

### ３区　ＳＳ２（第83、84図）

３区ＳＳ２は谷部の標高32.6～33.3ｍに位置する段状遺構である。３区ＳＩ７と３区ＳＩ９が埋没した後に構築されたもので、東側は３区ＳＳ３に切られ、北側は調査区外へかかっている。

平面形態は隅丸長方形を呈すると考えられ、規模は長軸9.6ｍ以上、短軸7.4ｍ以上、壁高は0.4ｍを測る。壁溝は認められず、平坦面では多くのピットを検出したが、３区ＳＳ３に伴うものや上層から掘り込まれたものも含まれていると考えられる。なお、中央部は３区ＳＩ７と３区ＳＩ９の埋土上面を床面としており、入念に精査を行ったが、ピットは検出できなかった。

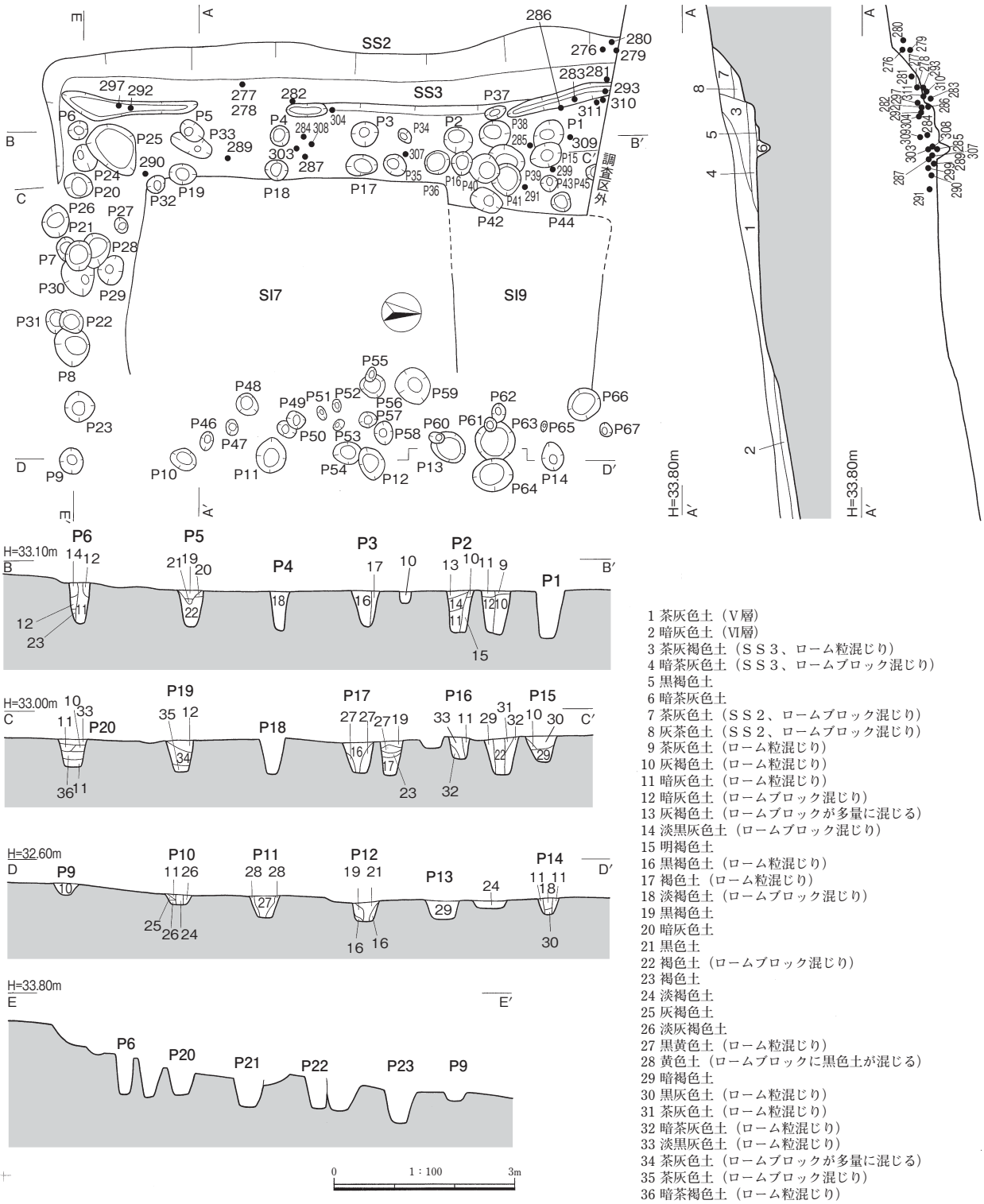
Ｐ１～Ｐ14の14基で掘立柱建物跡（３区ＳＢ１）を構成する。

埋土は、大部分が３区ＳＳ３に切られているが、２層に分層でき、上層から茶灰色土（７層）、灰茶色土（８層）となっており、いずれも地山由来のロームブロックが混じっている。

遺物は埋土中から土師器（276～280）、須恵器（281、282）が出土した。

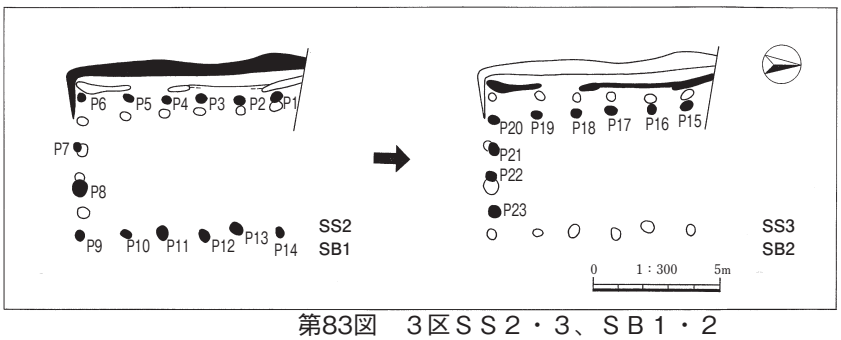
276～280は土師器である。276は短頸壺で、口縁部は外傾する。277～279は甕で、口縁部は外反する。280は甑の把手である。

281、282は須恵器である。281は坏身で、口縁部の立ち上がりが長く、口縁端部内面には段が認め




1 茶灰色土（Ⅴ層）
2 暗灰色土（Ⅵ層）
3 茶灰褐色土（ＳＳ３、ローム粒混じり）
4 暗茶灰色土（ＳＳ３、ロームブロック混じり）
5 黒褐色土
6 暗茶灰色土
7 茶灰色土（ＳＳ２、ロームブロック混じり）
8 灰茶色土（ＳＳ２、ロームブロック混じり）
9 茶灰色土（ローム粒混じり）
10 灰褐色土（ローム粒混じり）
11 暗灰色土（ローム粒混じり）
12 暗灰色土（ロームブロック混じり）
13 灰褐色土（ロームブロックが多量に混じる）
14 淡黒灰色土（ロームブロック混じり）
15 明褐色土
16 黒褐色土（ローム粒混じり）
17 褐色土（ローム粒混じり）
18 淡褐色土（ロームブロック混じり）
19 黒褐色土
20 暗灰色土
21 黒色土
22 褐色土（ロームブロック混じり）
23 褐色土
24 淡褐色土
25 灰褐色土
26 淡灰褐色土
27 黒黄色土（ローム粒混じり）
28 黄色土（ロームブロックに黒色土が混じる）
29 暗褐色土
30 黒灰色土（ローム粒混じり）
31 茶灰色土（ローム粒混じり）
32 暗茶灰色土（ローム粒混じり）
33 淡黒灰色土（ローム粒混じり）
34 茶灰色土（ロームブロックが多量に混じる）
35 茶灰色土（ロームブロック混じり）
36 暗茶褐色土（ローム粒混じり）

SS2・3　変遷図




第83図　３区ＳＳ２・３、ＳＢ１・２

**第33表　３区ＳＳ２・３ピット計測表**

| 番号 | 長径(cm) | 短径(cm) | 深さ(cm) | 備　　考 | 番号 | 長径(cm) | 短径(cm) | 深さ(cm) | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| Ｐ１ | 57 | 45 | 63 | ＳＢ１柱穴 | Ｐ35 | 40 | 34 | 62 | |
| Ｐ２ | 45 | 42 | 57 | ＳＢ１柱穴 | Ｐ36 | 38 | 38 | 9 | |
| Ｐ３ | 44 | 42 | 47 | ＳＢ１柱穴 | Ｐ37 | 34 | 29 | 26 | |
| Ｐ４ | 37 | 33 | 51 | ＳＢ１柱穴 | Ｐ38 | 50 | 43 | 69 | |
| Ｐ５ | 40 | 31 | 47 | ＳＢ１柱穴 | Ｐ39 | 61 | (45) | 79 | |
| Ｐ６ | 35 | 31 | 55 | ＳＢ１柱穴 | Ｐ40 | 49 | 46 | 76 | |
| Ｐ７ | (35) | 34 | 47 | ＳＢ１柱穴 | Ｐ41 | 56 | 50 | 9 | |
| Ｐ８ | (62) | 57 | 59 | ＳＢ１柱穴 | Ｐ42 | 56 | 38 | 61 | |
| Ｐ９ | 42 | 40 | 16 | ＳＢ１柱穴 | Ｐ43 | 27 | 27 | 42 | |
| Ｐ10 | 42 | 33 | 14 | ＳＢ１柱穴 | Ｐ44 | 34 | 32 | 26 | |
| Ｐ11 | 56 | 50 | 26 | ＳＢ１柱穴 | Ｐ45 | 29 | (16) | 18 | |
| Ｐ12 | 52 | 43 | 26 | ＳＢ１柱穴 | Ｐ46 | 32 | 25 | 14 | |
| Ｐ13 | 58 | 53 | 25 | ＳＢ１柱穴 | Ｐ47 | 27 | 23 | 7 | |
| Ｐ14 | 43 | 36 | 22 | ＳＢ１柱穴 | Ｐ48 | 40 | 36 | 59 | |
| Ｐ15 | 50 | 42 | 35 | ＳＢ２柱穴 | Ｐ49 | 35 | 26 | 27 | |
| Ｐ16 | 38 | 33 | 30 | ＳＢ２柱穴 | Ｐ50 | 33 | (21) | 13 | |
| Ｐ17 | 53 | 35 | 40 | ＳＢ２柱穴 | Ｐ51 | 25 | 16 | 23 | |
| Ｐ18 | 43 | 34 | 49 | ＳＢ２柱穴 | Ｐ52 | 27 | 16 | 25 | |
| Ｐ19 | 44 | 37 | 41 | ＳＢ２柱穴 | Ｐ53 | 26 | 16 | 6 | |
| Ｐ20 | 51 | 43 | 37 | ＳＢ２柱穴 | Ｐ54 | 45 | 38 | 15 | |
| Ｐ21 | 52 | 46 | 39 | ＳＢ２柱穴 | Ｐ55 | 27 | 21 | 9 | |
| Ｐ22 | 44 | 41 | 43 | ＳＢ２柱穴 | Ｐ56 | 54 | 38 | 32 | |
| Ｐ23 | 50 | 48 | 44 | ＳＢ２柱穴 | Ｐ57 | 33 | 26 | 49 | |
| Ｐ24 | 47 | (35) | 54 | | Ｐ58 | 38 | 33 | 30 | |
| Ｐ25 | 100 | 73 | 53 | | Ｐ59 | 62 | 59 | 35 | |
| Ｐ26 | 52 | 44 | 73 | | Ｐ60 | 23 | 22 | 26 | |
| Ｐ27 | 25 | 25 | 63 | | Ｐ61 | 24 | 22 | 34 | |
| Ｐ28 | (57) | 52 | 30 | | Ｐ62 | 31 | 24 | 63 | |
| Ｐ29 | 50 | 40 | 66 | | Ｐ63 | 66 | 64 | 13 | |
| Ｐ30 | 68 | 53 | 54 | | Ｐ64 | 74 | 54 | 45 | |
| Ｐ31 | 37 | (25) | 32 | | Ｐ65 | 18 | 12 | 10 | |
| Ｐ32 | 32 | 29 | 32 | | Ｐ66 | 55 | 54 | 17 | |
| Ｐ33 | 44 | 35 | 61 | | Ｐ67 | 26 | 21 | 9 | |
| Ｐ34 | 27 | 20 | 22 | | | | | | |

られる。282は高坏の脚部である。

本遺構の時期は、出土遺物と３区ＳＳ３との関係から６世紀後葉と考えられる。

### ３区　ＳＳ３（第83、85図）

３区ＳＳ３は谷部の標高32.6～32.7ｍに位置する段状遺構で、３区ＳＩ７と３区ＳＩ９が埋没した後に構築されたものである。東側は削平され、北側は調査区外へかかっているが、西側は３区ＳＳ２を切っている。

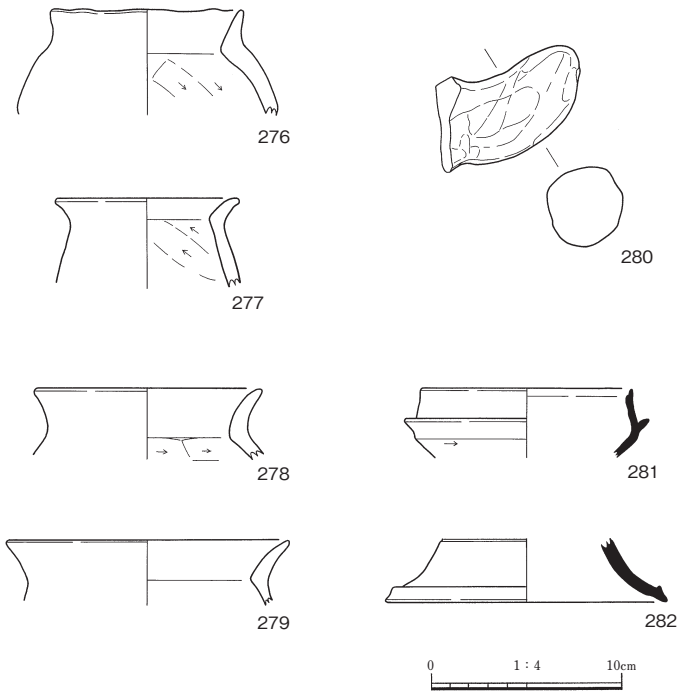
平面形態は隅丸長方形を呈すると考えられ、規模は長軸9.2ｍ以上、短軸5.5ｍ以上、壁高は0.55ｍを測る。

西側の壁際には幅13～32㎝、深さ３～４㎝の壁溝が断続的に存在し、平坦面では多くのピットを検出したが、３区ＳＳ２に伴うものや上層から掘り込まれたものも含まれていると考えられる。なお、中央部は３区ＳＳ２と同様にピットは検出できなかった。

Ｐ15～Ｐ23で掘立柱建物跡（３区ＳＢ２）を構成する。

埋土は、包含層（Ⅴ・Ⅵ層）によって撹乱を受けているが、２層に分層でき、上層から茶灰褐色土（３層）、暗茶灰色土（４層）となっており、いずれも地山由来のロームブロックが混じっている。

遺物は埋土中から土師器（283～294）、須恵器（295～311）が出土した。



第84図　３区ＳＳ２出土遺物

283～294は土師器である。283～290は甕で、283は器壁が薄く、口縁部が「く」字状に外反する。284～290は口縁部が外反するもので、285は内面に、286は内外面に赤色塗彩が施されている。289、290は口縁部径より胴部径が小さいものである。291は坏身で、口縁端部が外反し、内外面には赤色塗彩が施されている。292、293は甑の把手、294は移動式竈である。

295～311は須恵器である。295～302は坏蓋で、天井部と口縁部との境界には295は鋭い稜、296～301は鈍い稜が認められる。また、295～300は口縁端部内面に浅い沈線が認められる。303～309は坏身で、303は口縁端部内面に段が認められる。310は平瓶の口縁部、311は瑞で、胴部には波状文が巡る。

本遺構の時期は、出土遺物から６世紀後葉～７世紀初頭と考えられる。

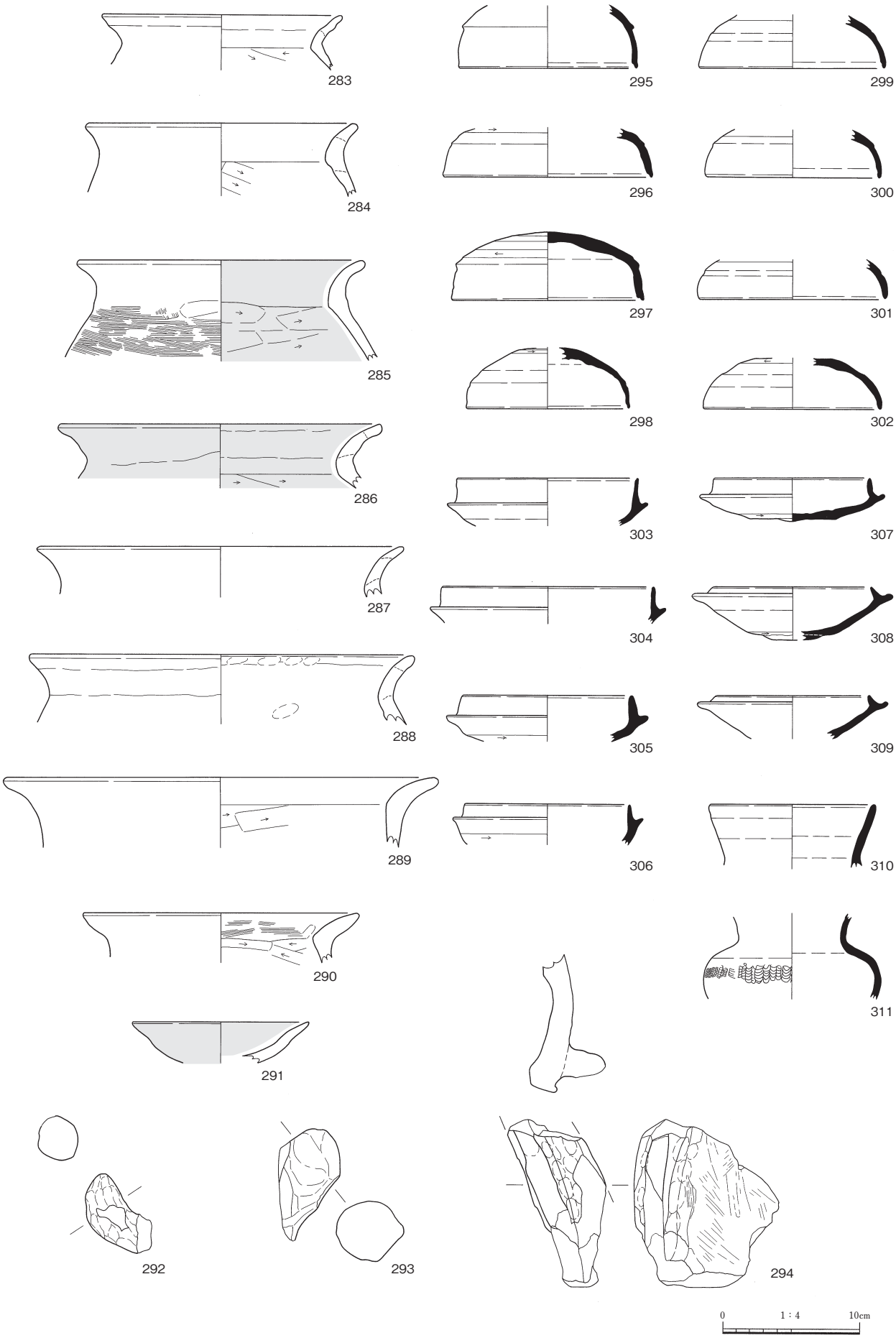
### （３）掘立柱建物跡

**３区　ＳＢ１**（第83、86図）

３区ＳＢ１は３区ＳＳ２内に位置する掘立柱建物跡である。桁行６間以上（7.9ｍ以上）、梁行３間（5.4ｍ）の南北棟の大型建物で、平面積は42.7㎡以上を測る。主軸はＮ－２°－Ｗである。

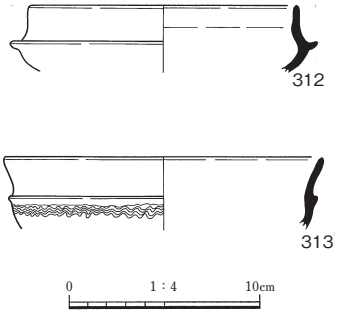
柱穴の規模は径31～58㎝、平坦面からの深さは14～63㎝を測り、柱穴間の距離はＰ１－Ｐ２間から反時計周りの順に1.5ｍ、1.5ｍ、1.4ｍ、1.5ｍ、1.8ｍ、1.9ｍ、1.6ｍ、1.9ｍ、1.9ｍ、1.4ｍ、1.6ｍ、1.3ｍ、1.7ｍである。桁行の柱穴間の距離はほとんどが1.5ｍ前後であるが、一番南側ではＰ５－Ｐ６間が1.8ｍ、Ｐ９－Ｐ10間が1.9ｍとやや広くなっている。また、西側の桁行は1.4～1.5ｍとほぼ等間隔であるのに対して、東側の桁行は1.3～1.7ｍとばらつきがある。一方、梁行の柱穴間の距離は中央のＰ７－Ｐ８間が1.6ｍと桁行の柱穴間の距離とほぼ同じであるが、その両端のＰ６－Ｐ７間とＰ８－Ｐ９間は1.9ｍと広くなっている。

遺物は柱穴内から須恵器（312、313）が出土した。312はＰ８から出土した須恵器坏身、313はＰ７から出土した須恵器高坏の坏部で、外面には波状文が巡る。




第85図　３区ＳＳ３出土遺物

本遺構の時期は、出土遺物と３区ＳＳ２との関係から６世紀後葉と考えられる。




第86図　３区ＳＢ１出土遺物

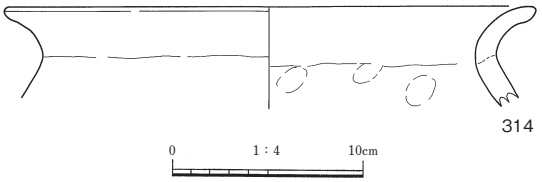
### ３区　ＳＢ２（第83、87図）

３区ＳＢ２は３区ＳＳ３内に位置する掘立柱建物跡である。桁行６間以上（7.7ｍ以上）、梁行３間（3.65ｍ）の南北棟の大型建物で、南側に対応する柱穴は検出されなかったが、平面積は28.1㎡以上を測る。主軸はＮ－11°－Ｅである。

柱穴の規模は径33～53㎝、平坦面からの深さは30～49㎝を測り、柱穴間の距離はＰ15－Ｐ16間から反時計周りの順に1.4ｍ、1.7ｍ、1.4ｍ、1.5ｍ、1.7ｍ、1.1ｍ、1.1ｍ、1.4ｍである。桁行の柱穴間の距離は1.4～1.7ｍと多少ばらつきがあるものの、1.5ｍ前後におさまる。一方、梁行の柱穴間の距離は、Ｐ22－Ｐ23間は1.4ｍと桁行の柱穴間の距離とほぼ同じであるが、Ｐ20－Ｐ21間とＰ21－Ｐ22間はともに1.1ｍと狭い。

遺物は柱穴内から土師器（314）が出土した。314はＰ15から出土した土師器甕である。

本遺構の時期は、出土遺物と３区ＳＳ３との関係から６世紀後葉と考えられる。

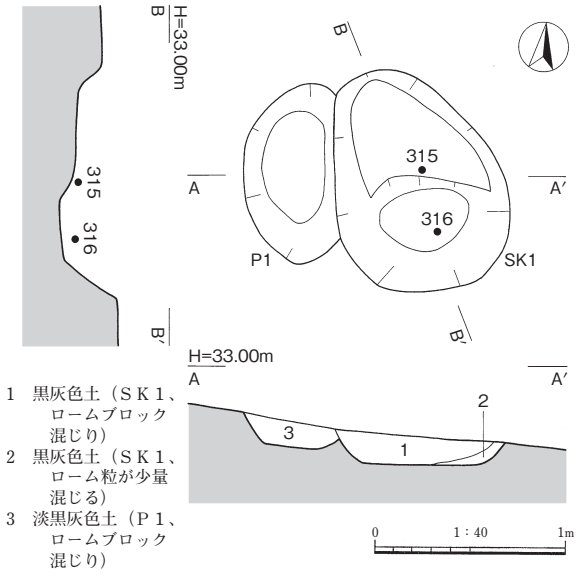



第87図　３区ＳＢ２出土遺物

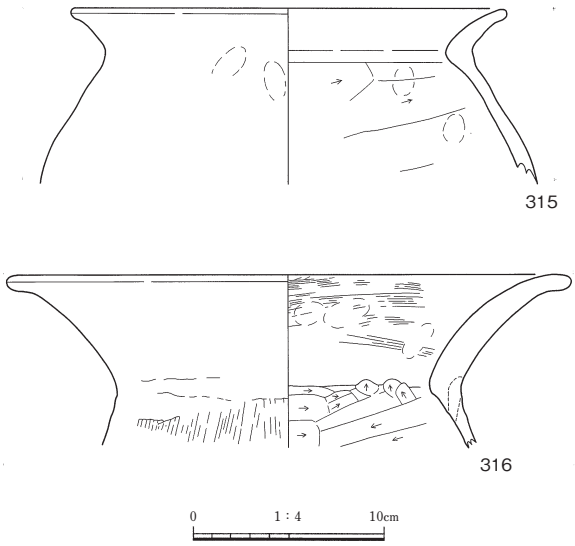
## （４）土　　坑

### ３区　ＳＫ１（第88、89図）

３区ＳＫ１は谷部の標高32.5～32.6ｍに位置する土坑である。




第88図　３区ＳＫ１




第89図　３区ＳＫ１出土遺物

平面形態は不整な楕円状を呈し、規模は長軸1.25ｍ、短軸0.9ｍ、深さ0.3ｍを測る。断面形態は皿状を呈し、北西側は２段となっている。

埋土は黒灰色土が主体で、地山に由来するロームブロックの混じり方で２層に分層できる。

遺物は底面近くで出土した。315、316は土師器甕で、316は口縁部径に対して胴部径が小さいものである。

本遺構の時期は、出土遺物から古墳時代後期と考えられる。

## 第５節　古代の調査

### １．概　　要

古代の遺構は、竪穴住居跡１棟、段状遺構１基、掘立柱建物跡４棟を検出した。

遺構は丘陵斜面の中腹のみに位置し、これ以外には当該期の遺構は認められない。

### ２．検出した遺構と遺物

#### （１）竪穴住居跡

**２区　ＳＩ11**（第91、92図）

２区ＳＩ11は丘陵東側斜面の標高38.8～39.8ｍに位置する竪穴住居跡である。

平面形態は、東側は流失し、北側は調査区外へかかっているが、隅丸方形を呈すると考えられる。規模は長軸5.0ｍ以上、短軸3.5ｍ以上、壁高は0.4～0.5ｍを測る。

床面は２面存在し、下面の第２床面は、地山のローム層上面を床面とするもので、西側と南側の壁際には幅17～40㎝、深さ７～10㎝の壁溝が巡り、平坦面では20基のピットを検出した。このうち、主柱穴はＰ１～Ｐ３の３基で、その規模は径30～36㎝、床面からの深さ50～54㎝を測る。主柱穴間の距離はＰ１－Ｐ２間が1.95ｍ、Ｐ２－Ｐ３間が2.15ｍである。

上面の第１床面は、灰褐色土層（４層）上面を床面とするもので、壁溝とピットは検出されなかったが、住居跡の中央やや南西寄りで焼土面を検出した。

**第34表　２区ＳＩ11ピット計測表**

| 番号 | 長径(㎝) | 短径(㎝) | 深さ(㎝) | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| Ｐ１ | 35 | 32 | 31 | 主柱穴 |
| Ｐ２ | 36 | 30 | 54 | 主柱穴 |
| Ｐ３ | 35 | 31 | 50 | 主柱穴 |
| Ｐ４ | 52 | 49 | 17 | |
| Ｐ５ | 50 | 39 | 37 | |
| Ｐ６ | 25 | 23 | 22 | |
| Ｐ７ | 24 | 21 | 33 | |
| Ｐ８ | 39 | 32 | 17 | |
| Ｐ９ | 26 | 21 | 10 | |
| Ｐ10 | 35 | 29 | 33 | |
| Ｐ11 | 31 | 25 | 16 | |
| Ｐ12 | 22 | 19 | 12 | |
| Ｐ13 | 25 | 24 | 21 | |
| Ｐ14 | 28 | 24 | 18 | |
| Ｐ15 | (40) | 43 | 38 | |
| Ｐ16 | (49) | 40 | 27 | |
| Ｐ17 | 81 | (53) | 25 | |
| Ｐ18 | 75 | 45 | 15 | |
| Ｐ19 | (42) | 40 | 55 | |
| Ｐ20 | (22) | 28 | 36 | |

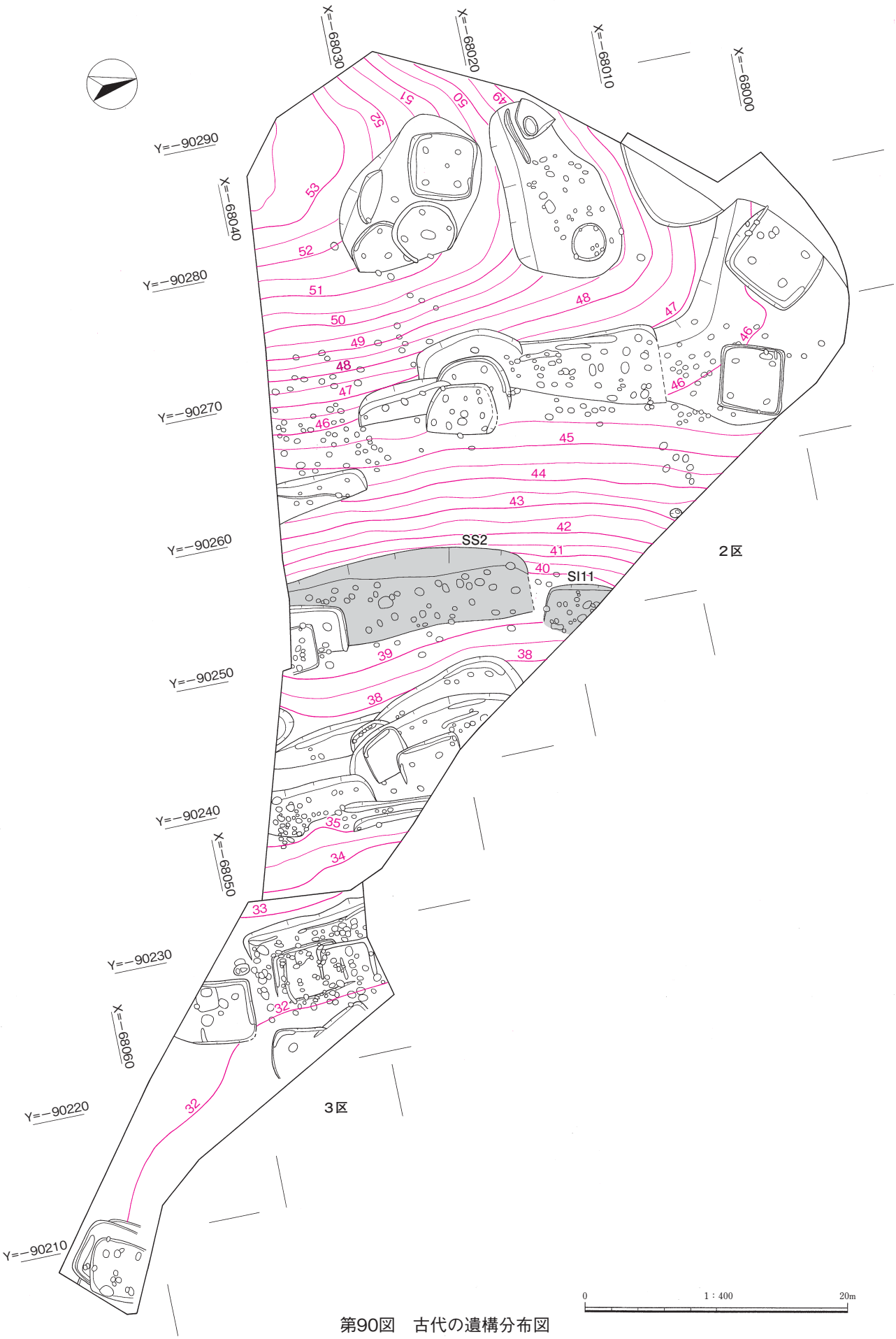
遺物は埋土中から弥生土器（317、318）、土師器（319、320）、須恵器（321、322）が出土した。

317、318は弥生土器甕で、口縁端部は内傾する。317は５条の凹線が巡る。

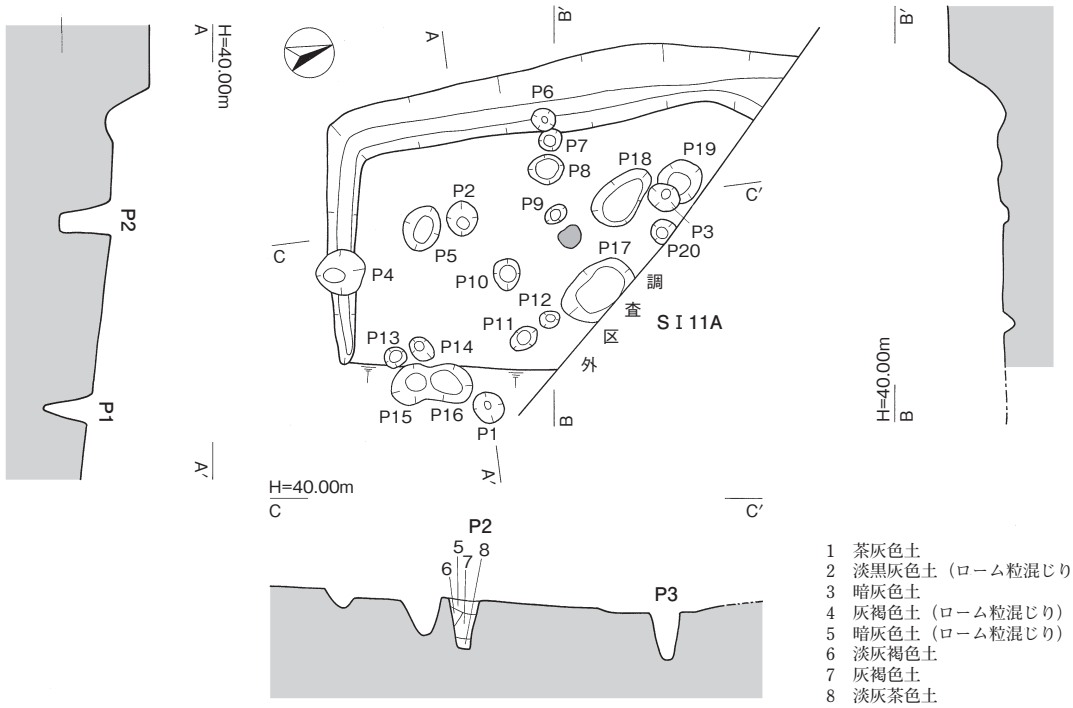
319、320は土師器である。319は坏身で、内外面とも赤色塗彩が施されている。320は高坏の脚部である。

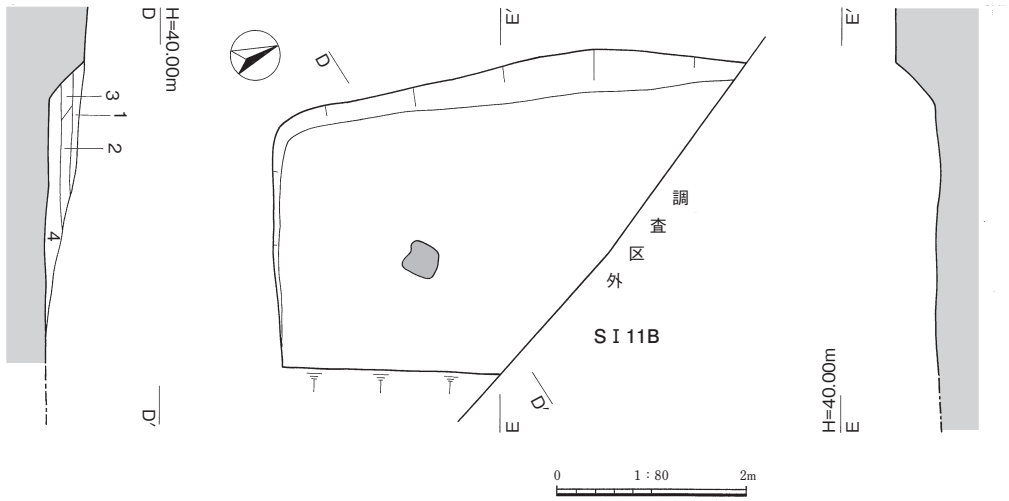
321、322は須恵器である。321は坏蓋で、口縁部には返りを有する。322は高坏の脚部で、２方向に方形の透かしがある。

本遺構の時期は、出土遺物から８世紀後半と考えられる。

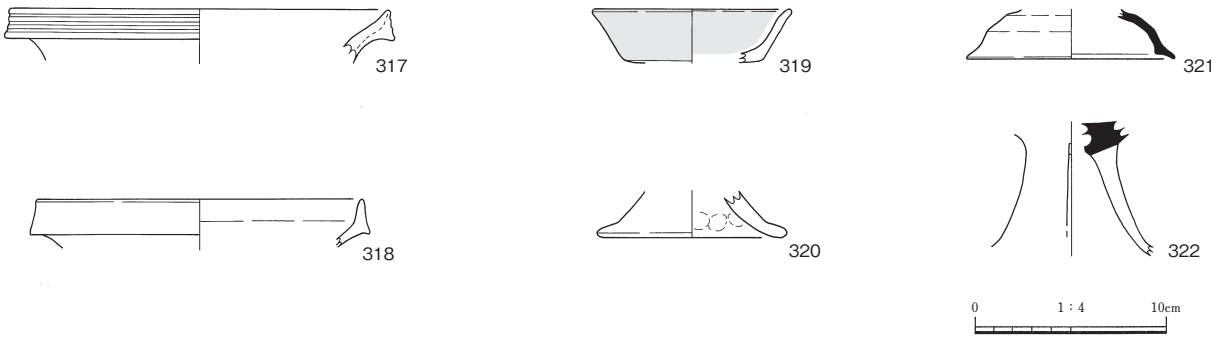



第90図　古代の遺構分布図




第91図　２区ＳＩ11




第92図　２区ＳＩ11出土遺物

## （２）段状遺構

### ２区　ＳＳ２（第93、94図）

２区ＳＳ２は丘陵東側斜面の標高39.1～41.3ｍに位置する段状遺構である。２区ＳＩ５が埋没した後に構築されたもので、東側は流失し、南側は調査区外にかかっている。

平面形態は隅丸長方形を呈し、規模は長軸12.7ｍ以上、短軸4.0ｍ以上、壁高は0.5～0.8ｍを測る。

壁溝は認められず、平坦面では多くのピットを検出したが、南側は２区ＳＩ５の埋土上面を床面としており、入念に精査を行ったが、この部分ではピットは検出できなかった。このうち、Ｐ１～Ｐ３で２区ＳＢ１、Ｐ４～Ｐ７で２区ＳＢ２、Ｐ８～Ｐ12で２区ＳＢ３、Ｐ13～Ｐ18で２区ＳＢ４の掘立柱建物跡を構成すると考えられる。２区ＳＢ２と２区ＳＢ４は柱筋が揃っているが、両者間は1.3ｍしか離れておらず、併存していた可能性は低い。２区ＳＢ１～３は先後関係は確認できなかったが、２回の建て替えが行われたと考えられる。

埋土は６層に分層でき、地形的に高い西側の壁際から埋没している。

遺物は埋土中から土師器（323～334）、須恵器（335～337）、石器（Ｓ16）が出土した。

323～334は土師器である。323～331は甕で、323は複合口縁を有する。324～331は口縁部が外反するもので、330は口縁端部を僅かにつまみ上げ、331は口縁端部をさらにつまみ上げる。332は皿で、内外面とも赤色塗彩を施している。333、334は高台を有する坏身で、333は内外面とも、334は外面に赤色塗彩を施している。また、334の底部内面には線刻がある。

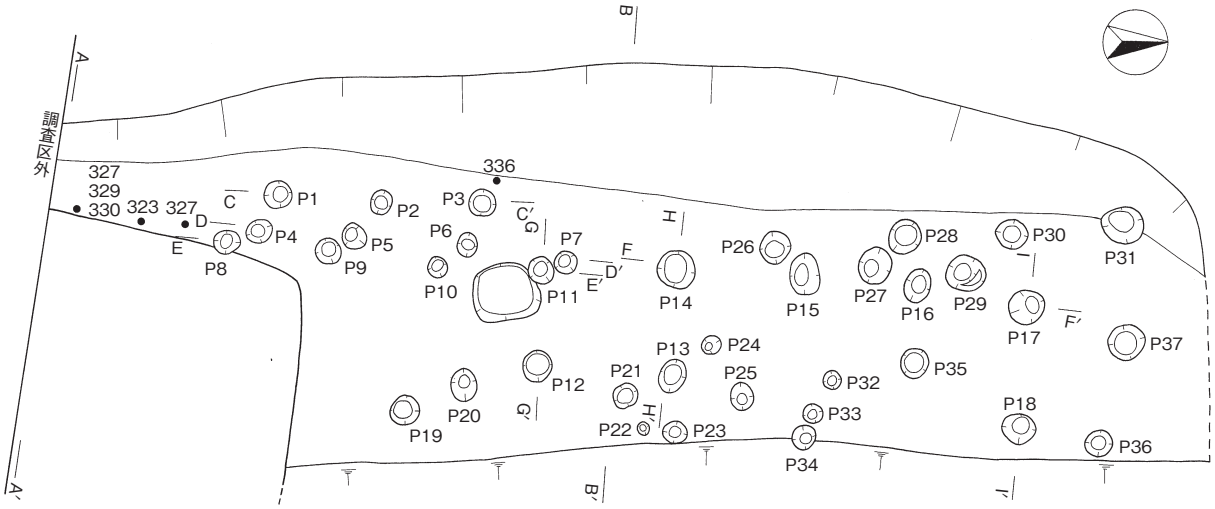
335～337は須恵器である。335は坏蓋で、口縁部には返りを有し、天井部には宝珠つまみがある。336は坏身で、底部脇に高台を有する。底部付近で意図的に破砕されており、他の用途に転用されたと考えられる。337は横瓶で、外面には平行叩き、内面には車輪状の当て具痕が認められる。

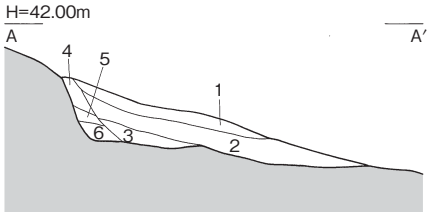
Ｓ16は凝灰岩製の砥石で、下端部と右側縁の一部が欠損するが、長方形を呈し、断面形態は三角形を呈する。表面と裏面の２面を使用している。

本遺構の時期は、出土遺物から８世紀後半～９世紀初頭と考えられる。

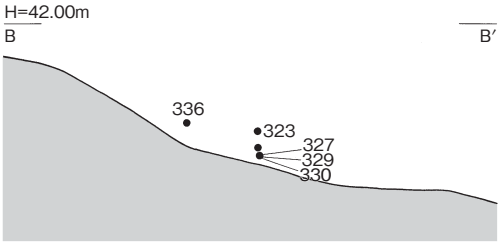
**第35表　２区ＳＳ２ピット計測表**

| 番号 | 長径(cm) | 短径(cm) | 深さ(cm) | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| Ｐ１ | 44 | 44 | 34 | ＳＢ１柱穴 |
| Ｐ２ | 37 | 34 | 34 | ＳＢ１柱穴 |
| Ｐ３ | 46 | 43 | 35 | ＳＢ１柱穴 |
| Ｐ４ | 41 | 35 | 36 | ＳＢ２柱穴 |
| Ｐ５ | 43 | 40 | 38 | ＳＢ２柱穴 |
| Ｐ６ | 39 | 33 | 35 | ＳＢ２柱穴 |
| Ｐ７ | 39 | 37 | 65 | ＳＢ２柱穴 |
| Ｐ８ | 42 | 35 | 33 | ＳＢ３柱穴 |
| Ｐ９ | 43 | 39 | 34 | ＳＢ３柱穴 |
| Ｐ10 | 33 | 30 | 22 | ＳＢ３柱穴 |
| Ｐ11 | 45 | 43 | 29 | ＳＢ３柱穴 |
| Ｐ12 | 53 | 49 | 28 | ＳＢ３柱穴 |
| Ｐ13 | 50 | 41 | 15 | ＳＢ４柱穴 |
| Ｐ14 | 63 | 62 | 37 | ＳＢ４柱穴 |
| Ｐ15 | 62 | 46 | 57 | ＳＢ４柱穴 |
| Ｐ16 | 51 | 41 | 55 | ＳＢ４柱穴 |
| Ｐ17 | 56 | 48 | 37 | ＳＢ４柱穴 |
| Ｐ18 | 58 | 45 | 42 | ＳＢ４柱穴 |
| Ｐ19 | 49 | 45 | 30 | |
| Ｐ20 | 50 | 39 | 50 | |
| Ｐ21 | 40 | 37 | 15 | |
| Ｐ22 | 21 | 21 | 13 | |
| Ｐ23 | 40 | 35 | 14 | |
| Ｐ24 | 34 | 28 | 17 | |
| Ｐ25 | 42 | 38 | 23 | |
| Ｐ26 | 51 | 51 | 62 | |
| Ｐ27 | 57 | 56 | 54 | |
| Ｐ28 | 57 | 51 | 17 | |
| Ｐ29 | 62 | 57 | 60 | |
| Ｐ30 | 53 | 48 | 60 | |
| Ｐ31 | 65 | 56 | 43 | |
| Ｐ32 | 31 | 28 | 49 | |
| Ｐ33 | 32 | 30 | 10 | |
| Ｐ34 | 39 | 36 | 15 | |
| Ｐ35 | 45 | 42 | 28 | |
| Ｐ36 | 42 | 38 | 8 | |
| Ｐ37 | 61 | 53 | 41 | |

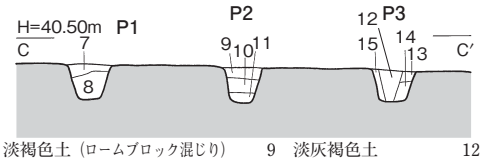


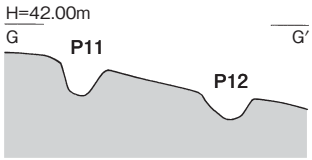

1　灰褐色土
2　淡茶灰色土
3　茶灰色土
4　暗褐色土（ロームブロック混じり）
5　暗灰色土
6　暗灰色土（ロームブロック混じり）

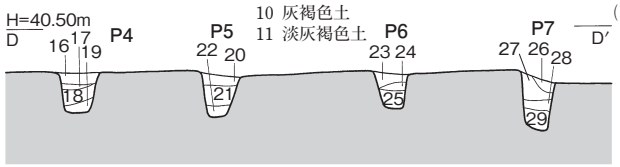



0　1：120　4m

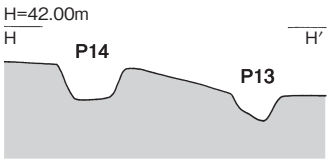


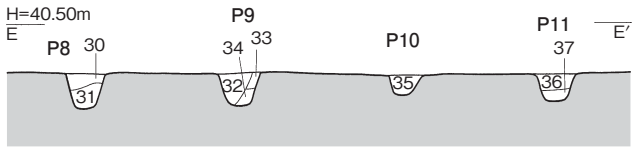

7　淡褐色土（ロームブロック混じり）
8　淡灰褐色土（ロームブロック混じり）
9　淡灰褐色土（ロームブロック混じり）
10　灰褐色土
11　淡灰褐色土
12　淡灰褐色土
13　明褐色土
14　淡灰褐色土
15　淡灰褐色土（ロームブロック混じり）



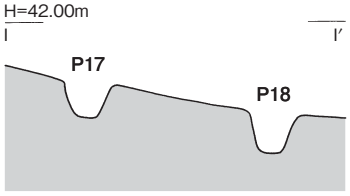



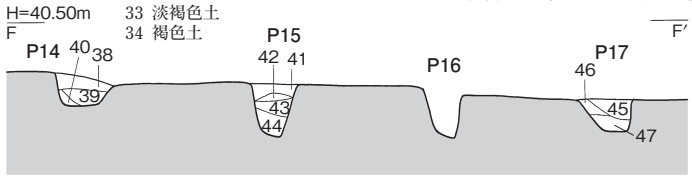

16　淡灰褐色土
17　淡褐色土
18　灰褐色土（ロームブロック混じり）
19　淡灰褐色土
20　暗灰色土
21　灰褐色土
22　淡灰褐色土
23　淡灰茶色土
24　淡褐色土
25　淡灰褐色土
26　淡灰褐色土
27　淡褐色土
28　褐色土
29　灰褐色土




30　灰褐色土（ロームブロック混じり）
31　暗灰色土
32　淡灰褐色土
33　淡褐色土
34　褐色土
35　淡灰褐色土
36　淡灰褐色土
37　灰褐色土（ロームブロックが少量混じる）

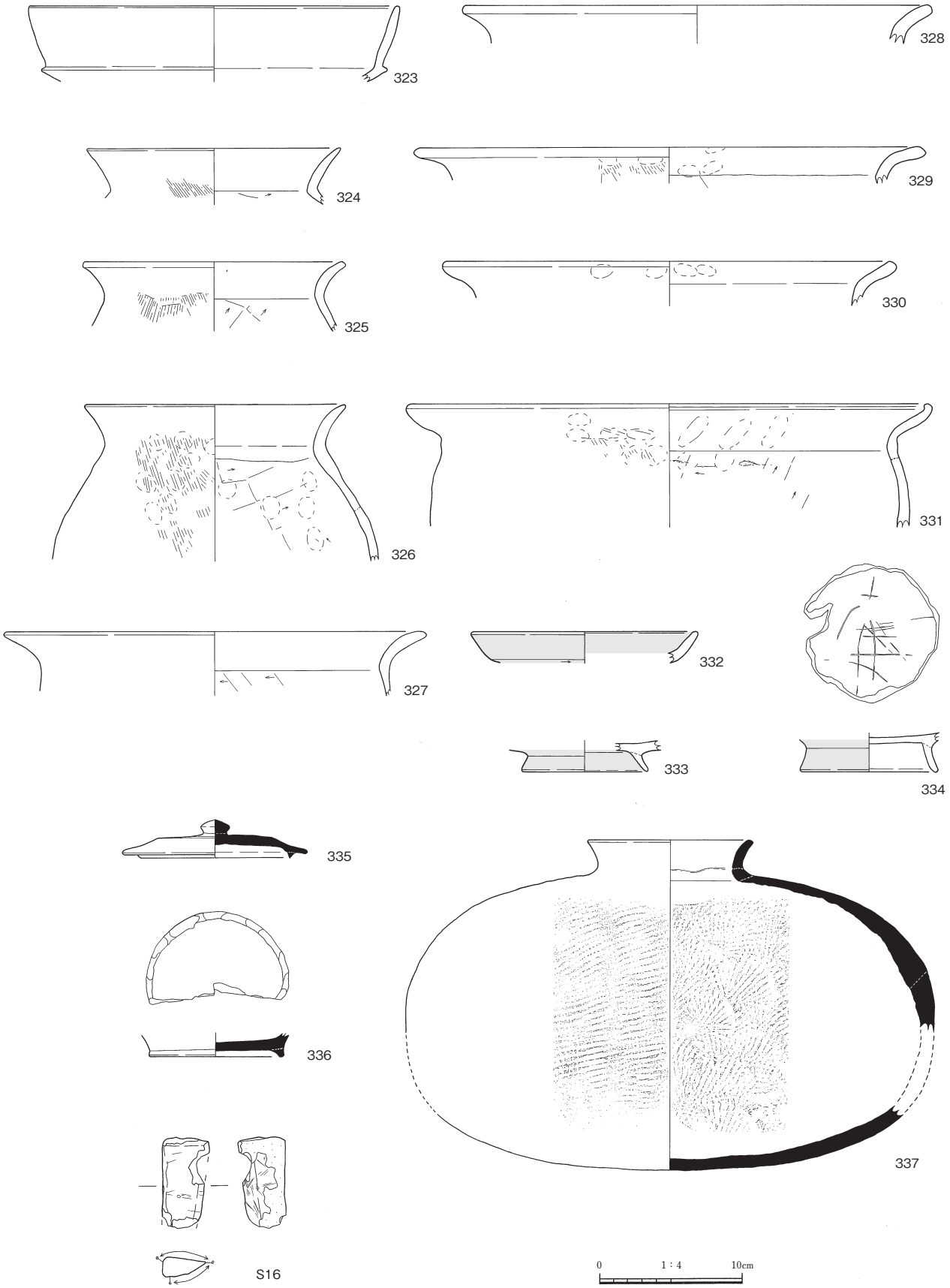



38　淡灰褐色土
39　褐色土
40　淡褐色土
41　淡褐色土
42　淡灰褐色土
43　灰褐色土
44　暗灰色土
45　暗茶灰色土
46　暗灰色土
47　黒灰色土

0　1：80　2m

第93図　２区ＳＳ２、ＳＢ１～４




第94図　２区ＳＳ２出土遺物

### （３）掘立柱建物跡

**２区　ＳＢ１**（第93図）

２区ＳＢ１は２区ＳＳ２内に位置する掘立柱建物跡である。西側の桁行部分を検出したのみで東西方向に対応する柱穴は認められないが、桁行２間（2.2ｍ）の南北棟の建物である。

柱穴の規模は径34～46㎝、平坦面からの深さは34～35㎝を測り、柱穴間の距離はＰ１－Ｐ２間が1.1ｍ、Ｐ２－Ｐ３間が1.1ｍで、主軸はＮ－３°－Ｅである。

本遺構の時期は、柱穴内から遺物が出土していないが、２区ＳＳ２との関係から、８世紀後半～９世紀初頭と考えられる。

**２区　ＳＢ２**（第93図）

２区ＳＢ２は２区ＳＳ２内に位置する掘立柱建物跡である。西側の桁行部分を検出したのみで東西方向に対応する柱穴は認められないが、桁行３間（3.2ｍ）の南北棟の建物である。

柱穴の規模は径33～43㎝、平坦面からの深さは35～38㎝を測り、柱穴間の距離はＰ４－Ｐ５間が1.0ｍ、Ｐ５－Ｐ６間が1.15ｍ、Ｐ６－Ｐ７間が1.05ｍで、主軸はＮ－４°－Ｅである。

遺物は図示できないが、Ｐ６から土師器が出土した。その他の柱穴からは遺物は出土しなかった。

本遺構の時期は、２区ＳＳ２との関係から、８世紀後半～９世紀初頭と考えられる。

**２区　ＳＢ３**（第93図）

２区ＳＢ３は２区ＳＳ２内に位置する掘立柱建物跡である。桁行３間（3.35ｍ）、梁行１間以上（1.0ｍ以上）の南北棟の建物で、主軸はＮ－６°－Ｅである。

柱穴の規模は径30～53㎝、平坦面からの深さは22～34㎝を測り、柱穴間の距離はＰ８－Ｐ９間から時計周りの順に1.1ｍ、1.15ｍ、1.1ｍ、1.0ｍである。

本遺構の時期は、柱穴内から遺物が出土していないが、ＳＳ２との関係から、８世紀後半～９世紀初頭と考えられる。

**２区　ＳＢ４**（第93図）

２区ＳＢ４は２区ＳＳ２内に位置する掘立柱建物跡である。桁行３間（3.75ｍ）、梁行１間以上（1.25ｍ以上）の南北棟の建物で、主軸はＮ－８°－Ｅである。

柱穴の規模は径41～63㎝、平坦面からの深さは15～55㎝を測り、柱穴間の距離はＰ13－Ｐ14間から時計周りの順に1.1ｍ、1.3ｍ、1.25ｍ、1.2ｍ、1.25ｍである。

遺物は図示できないが、Ｐ14から土師器が出土した。その他の柱穴からは遺物は出土しなかった。

本遺構の時期は、ＳＳ２との関係から、８世紀後半～９世紀初頭と考えられる。

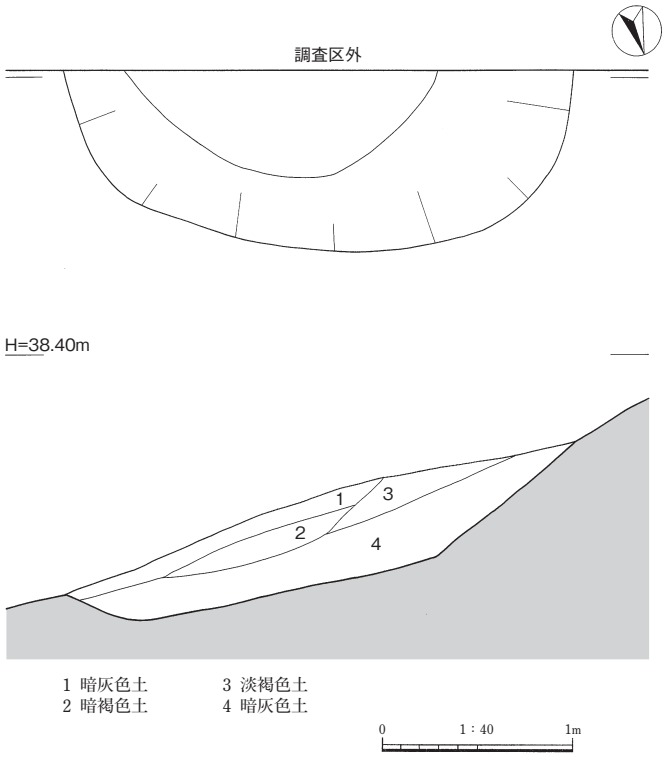
## 第６節　時期不明の遺構

### ２区　ＳＤ４（第95図）

２区ＳＤ４は丘陵東側斜面の標高37.5～37.9ｍに位置する溝状遺構である。南側は調査区外へのびるが、調査区外には２区ＳＤ４に続く状態で、段状の平坦地形がさらに南へのびており、その関係が窺える。検出した長さは2.7ｍ、幅0.95ｍ、深さ0.3～0.5ｍを測る。断面形態は逆台形を呈し、底面は斜面下部に向かって傾斜している。

埋土は４層に分層でき、上下２層に大別できる。上層は暗灰色土（１層）、暗褐色土（２層）、淡褐色土（３層）の３層からなり、地形的に高い西側の壁際から埋没している。下層は暗灰色土（４層）である。

本遺構の時期は、遺物が出土していないため不明である。



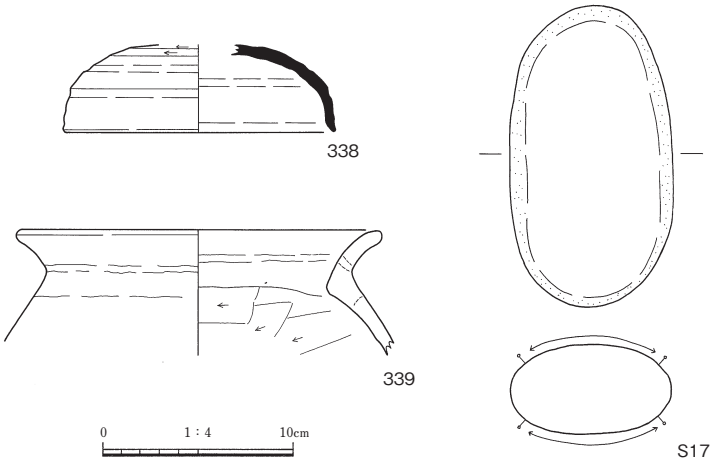

第95図　２区ＳＤ４

## 第７節　ピット出土遺物（第96図）

ピットから出土した遺物は、細片が多く、本節では３点を図示する。

338と339は３区のＳＫ１に隣接するＰ１から出土したものである。338は須恵器坏蓋、379は土師器甕である。

Ｓ17は２区のＳＳ１とＳＩ14との間にあるＰ277から出土したデイサイト製の磨石である。長楕円形を呈し、表面と裏面の２面を使用している。




第96図　ピット出土遺物

## 第８節　遺構外出土遺物（第97～102図）

340～357は弥生土器である。340は前期後葉の甕で、頸部に６条のヘラ描沈線が巡る。

341～348、357は後期の土器である。341は壺で、口縁端部を上下につまみ出し、２条の凹線が巡る。また、頸部には列点文がある。

342～348は甕で、342～344は口縁端部が内傾し、342は４条、343は４条、344は３条の凹線が巡る。345、346は口縁端部が外傾し、345は６条、346は５条の凹線が巡る。347、348は口縁部が外反し、347は口縁部の屈曲部が大きく垂下する。347は多条、348は８条の凹線が巡る。357は壺の胴部で、断面M字状の突帯が巡り、突帯内には竹管文、突帯の上部には刻み目と３条の沈線、突帯の下部には渦巻状のスタンプ文がある。

349～356は底部である。349～352は外面はハケ調整を施し、内面はナデ調整で仕上げている。353、354は内外面ともナデ調整で仕上げ、355、356は外面にミガキ調整を施している。

358～406は土師器で、358～393は甕である。358～366は複合口縁を有するもので、358～362は口縁端部が丸くおさまる。363は口縁端部が内方へ肥厚し、364は口縁端部が内外へ肥厚する。365、366は複合口縁が退化したものである。367、368は口縁部が内湾する。369～375は口縁部が「く」字状を呈し、373～375は369～372と比較すると小型である。376～393は口縁部が外反するもので、392、393は口縁部径よりも胴部径が小さいものである。394は短頸壺で、内外面とも赤色塗彩が施されている。

395～405は高坏である。395～398は坏部で、395は段を有し、396、397は口縁部が外反する。398は内湾して立ち上がり、坏身である可能性もある。また、398は、内外面とも赤色塗彩が施されている。399～405は脚部で、400～402は低脚、399、403～405は長脚である。406は低脚坏の脚部である。

407～418は土製品である。407～411は甑の把手、412は土製支脚である。413～416は移動式竈で、413、414は焚口部、415、416は底部である。417は埦形のミニチュア土器である。418は土玉で、円筒形状を呈し、径3.6㎝、厚さ2.6㎝を測る。

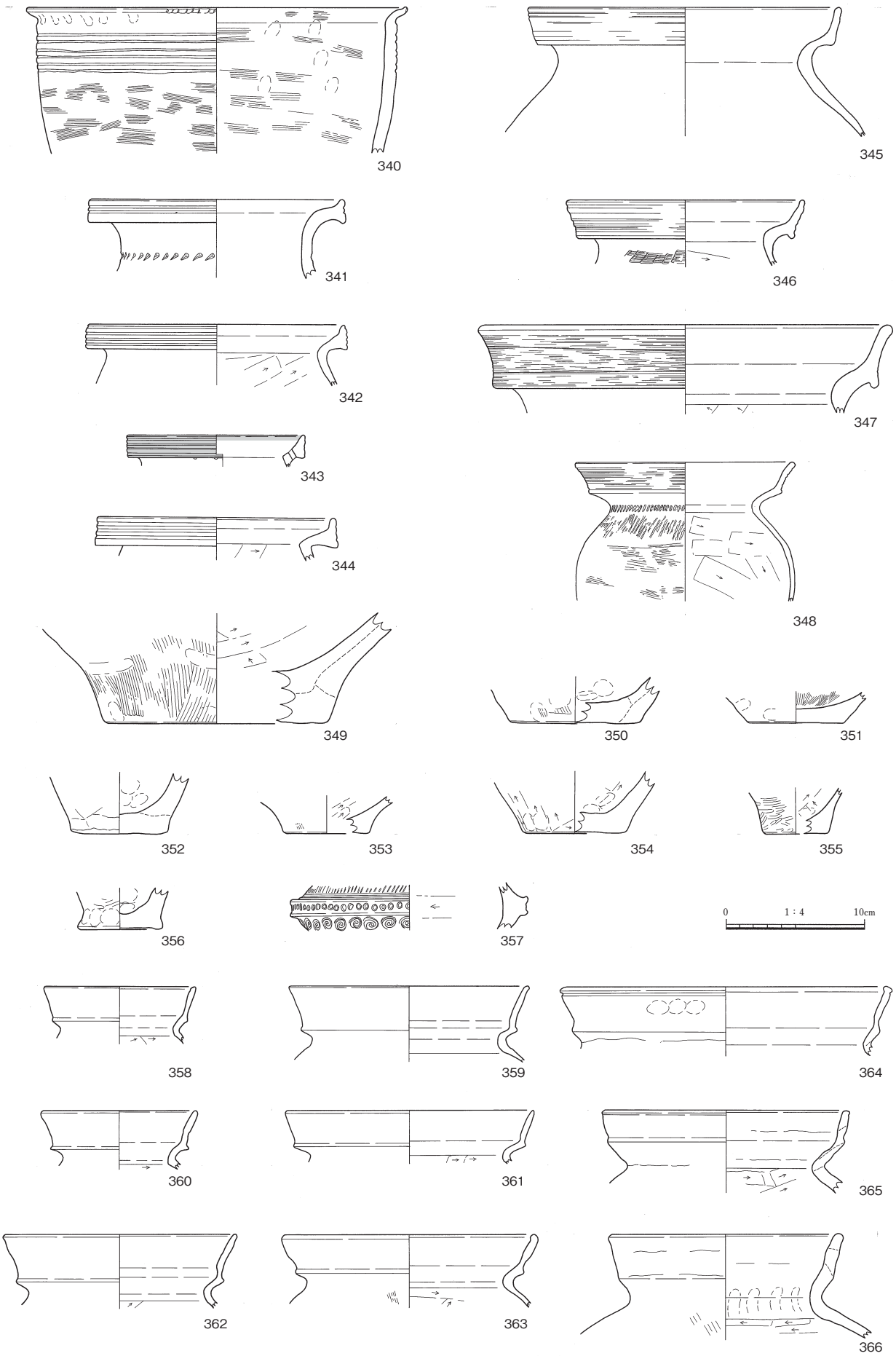
419～459は須恵器である。419は壺の蓋と考えられ、口縁端部内面には段が認められる。420～425は坏蓋で、天井部と口縁部との境界には、420は鋭い稜、421、422は鈍い稜が認められ、さらに、420～423の口縁端部内面には浅い沈線が認められる。また、423の天井部内面には線刻がある。

426～444は坏身である。426～431は口縁部の立ち上がりが高いもので、426～429は口縁端部内面に沈線が認められる。432～443は口縁部の立ち上がりが低いもので、441～443はさらに立ち上がりが低いものである。444は底部脇に高台が付くもので、底部外面には回転糸切りが施されている。

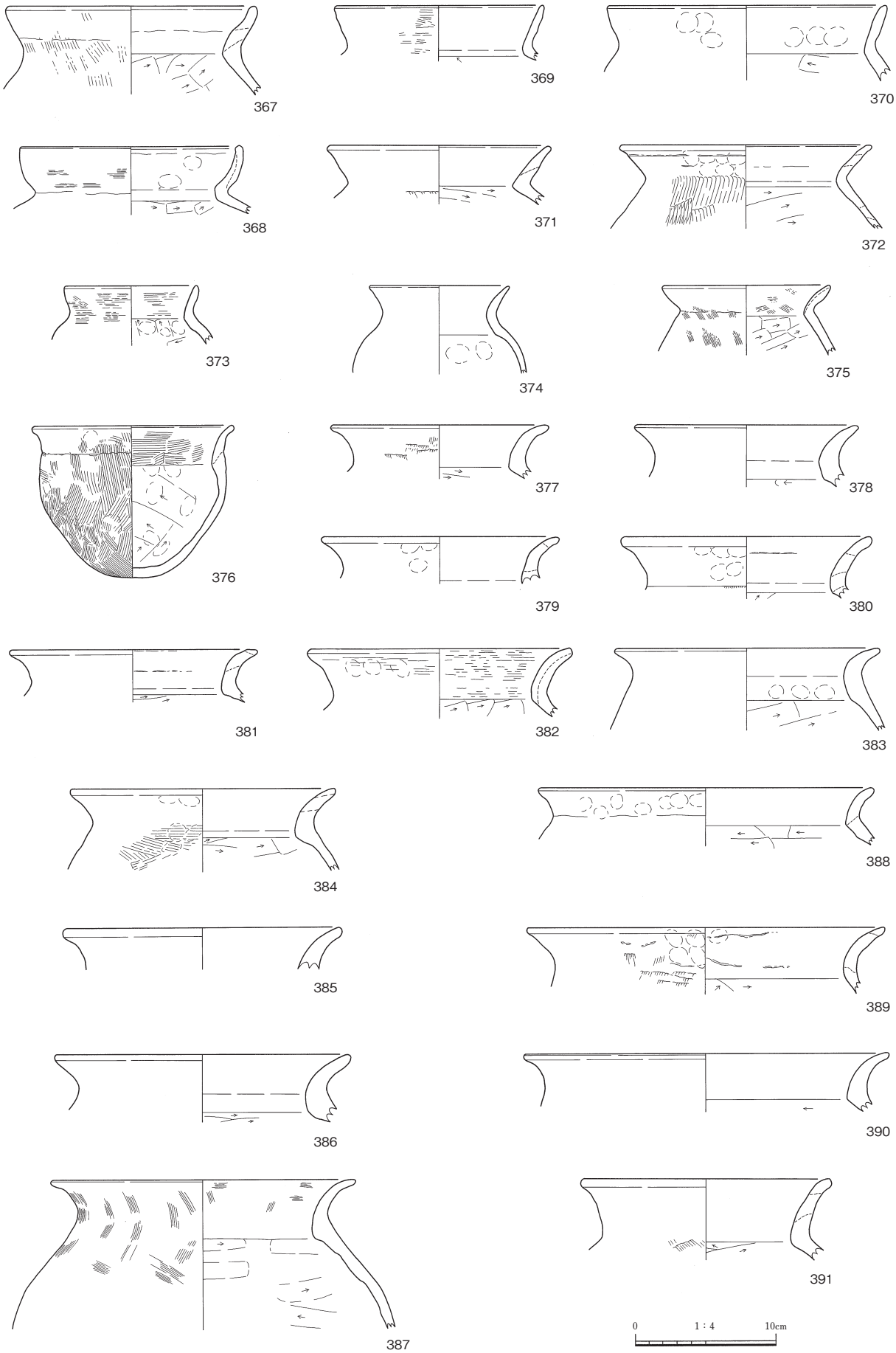
445～453は高坏である。445は坏部で、口縁部は外上方へ直線的にのびる。外面には上下を稜線で区分した文様帯があり、そこに波状文が巡る。脚部には３方向に方形の透かしがあったと考えられる。446は有蓋高坏で、口縁端部内面に浅い沈線が認められる。447は無蓋高坏で、脚部には２方向に方形の透かしがある。448～453は脚部で、448、450、452は２方向に方形の透かしがある。449は３方向に方形の透かしがあり、451は２方向に三角形の透かしがある。

454は器台の脚部で、低くつまみ出した突帯によって段を区分し、段内には波状文が巡る。また、各段には三角形の透かしが縦に直線的に並ぶ。

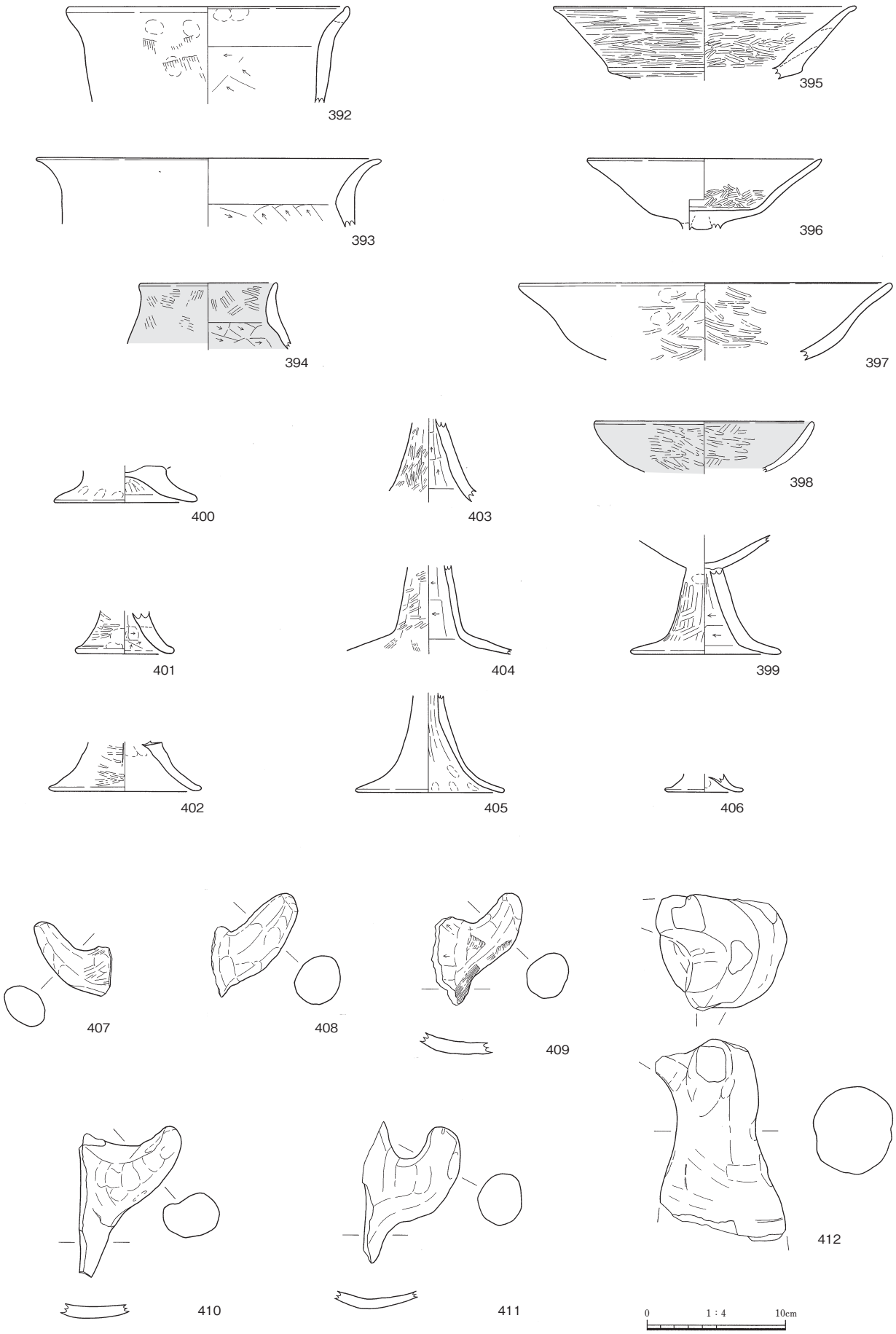
455～457は壺で、455は口縁部、456、457は平底の底部である。



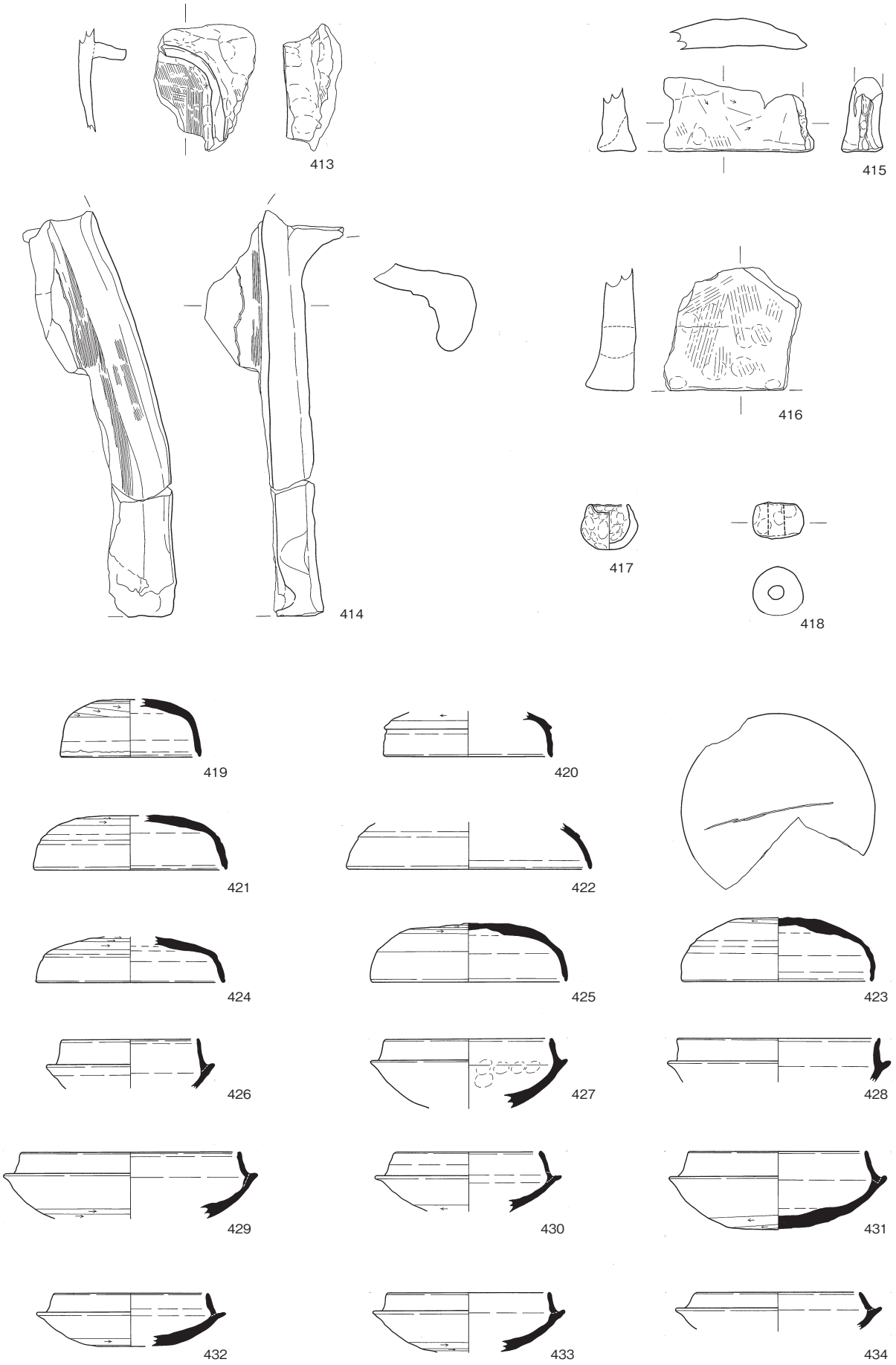

第97図　遺構外出土遺物（1）



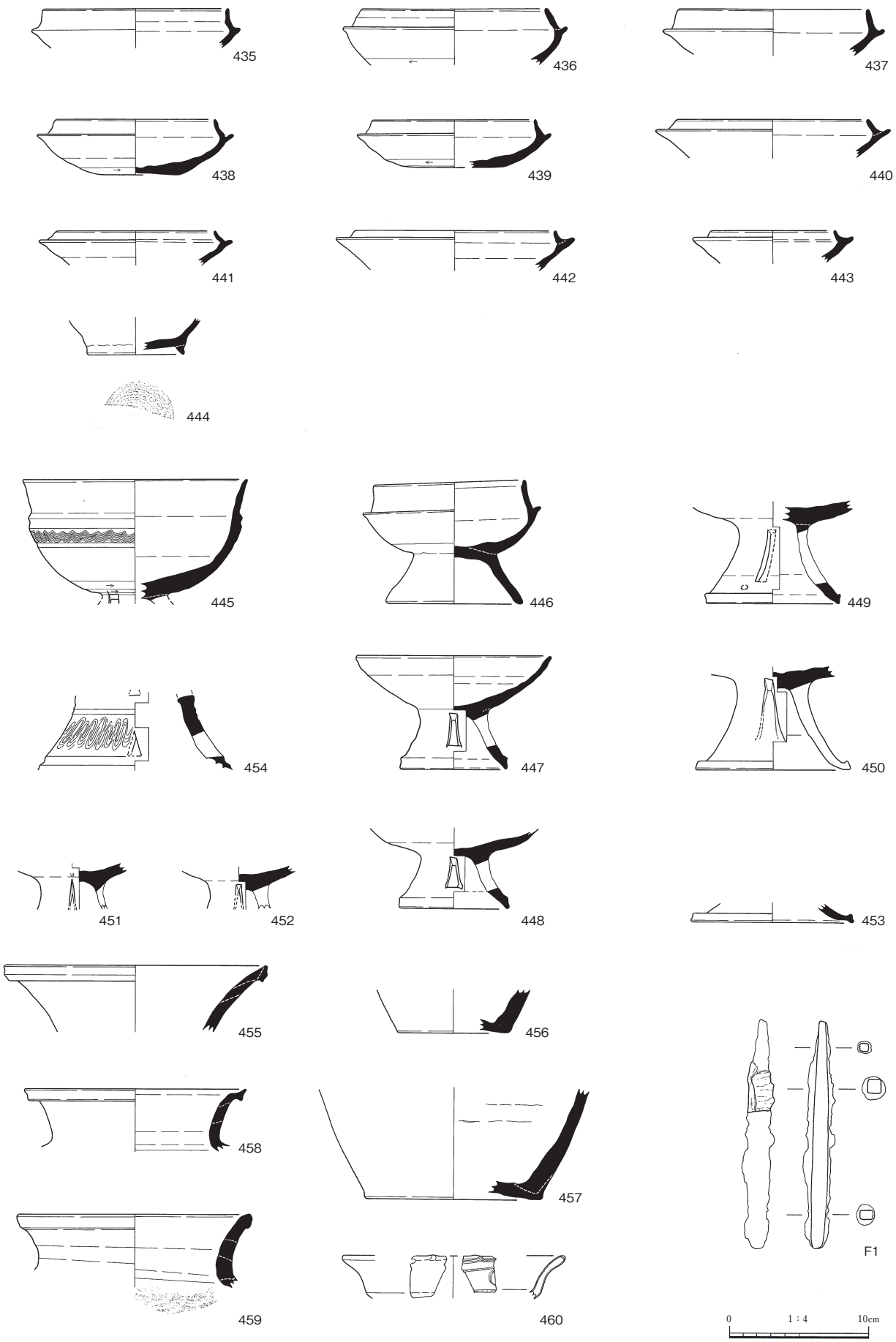

第98図　遺構外出土遺物（2）



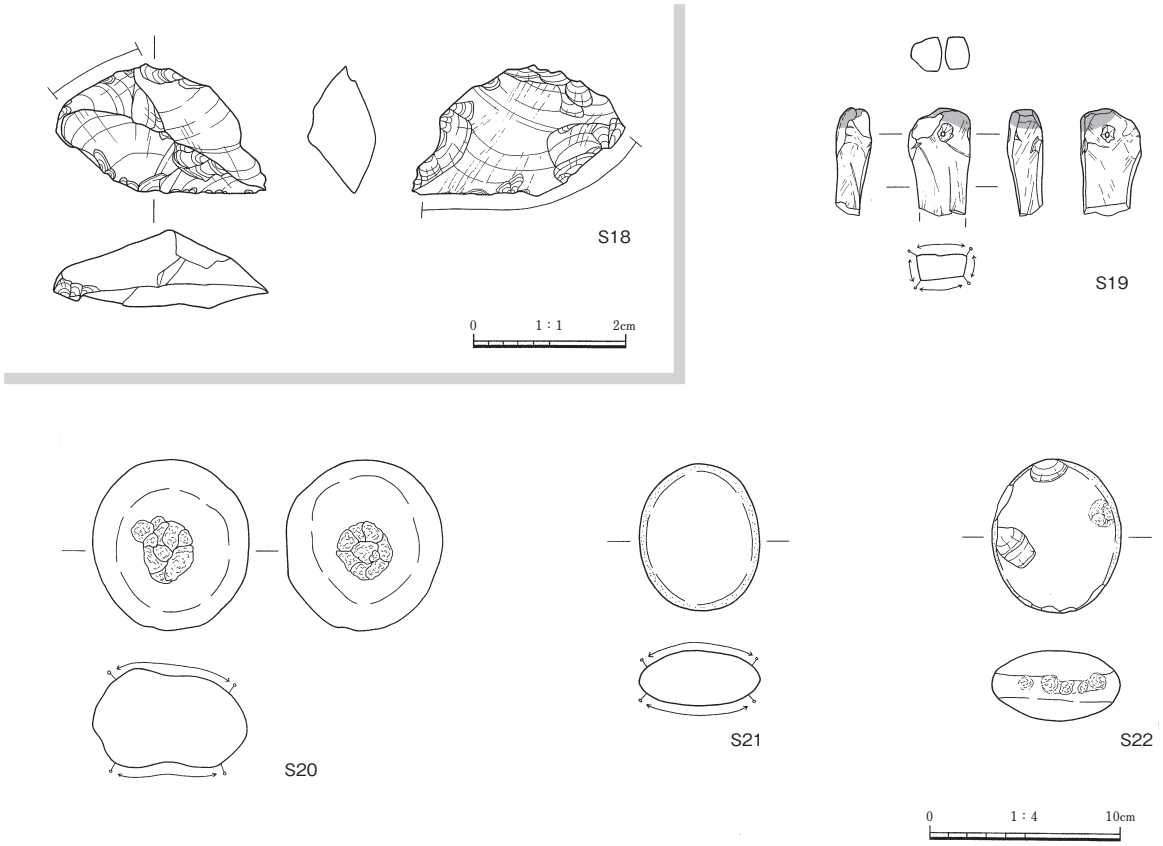

第99図　遺構外出土遺物（3）




第100図　遺構外出土遺物（4）




第101図　遺構外出土遺物（5）




第102図　遺構外出土遺物（６）

458、459は甕の口縁部で、459の内面には同心円状の当て具痕がある。

460は青磁の稜花皿で、景徳鎮産である。

Ｆ１は鉄鑿で、鑿を柄に挿入して使用する茎鑿である。断面四角形の角柱状を呈し、鹿角製の柄が一部残存している。

Ｓ18～Ｓ22は石器である。Ｓ18は黒曜石製の楔形石器である。Ｓ19は凝灰岩製の砥石で、下端部が欠損するが、長方形状を呈し、表裏面及び両側面の４面を使用している。また、上部には両側から穿孔した１孔があり、上端部は被熱している。Ｓ20～Ｓ22はいずれもデイサイト製の磨石で、いずれも楕円形を呈し、Ｓ20は表面と裏面がやや窪み、その部分に敲打痕が認められる。Ｓ22は下端部と表面に敲打痕が認められる。

# 第４章　総　　括

## １．はじめに

境北井埒遺跡の調査では、縄文時代、弥生時代後期～古墳時代前期、古墳時代後期、古代の遺構を確認した。また、遺構は確認できなかったが、弥生時代前期と中世の遺物が少量ながら出土した。

本節では、調査成果を基にして、時期毎に遺構の変遷を概観し、まとめとしたい。

## ２．縄文時代

縄文時代の遺構は、落し穴１基を検出した。

２区ＳＫ５は調査区北端に位置しており、さらに調査区外に数基の落し穴の存在が推測される。

この他に、遺構や土器は確認していないが、草創期の有舌尖頭器が出土しており、調査地周辺では、境矢石遺跡や福成石佛前遺跡、奈喜良遺跡、吉谷亀尾ノ上遺跡でも有舌尖頭器が確認されており、法勝寺川左岸での当該期の人々の活動域の広がりを示唆するものである。

## ３．弥生時代後期～古墳時代前期

弥生時代後期から古墳時代前期の遺構は、竪穴住居跡８棟、竪穴状遺構１基、段状遺構７基、土坑２基、溝状遺構１基を検出した。

遺構は２区の丘陵の頂部から斜面の上部にかけてと３区の谷部に位置し、さらに、分布状況から５つの群（Ａ～Ｅ群）に分けることができる。Ａ群～Ｄ群は２区の丘陵の頂部から斜面の上部にかけて位置し、弥生時代後期～古墳時代前期前葉に帰属する。一方、Ｅ群は３区の谷部に位置し、古墳時代前期後葉に帰属する。古墳時代前期後葉を境に丘陵上部から谷部へと集落が移動したと考えられる。また、いずれの住居跡も同じような位置で複数回の建て替えが行われている。

当該期の遺構は、出土遺物や切合関係から５時期（１～５期）に大別でき、以下、時期毎に概観したい。

### １　期（弥生時代後期前葉～後期中葉古段階）

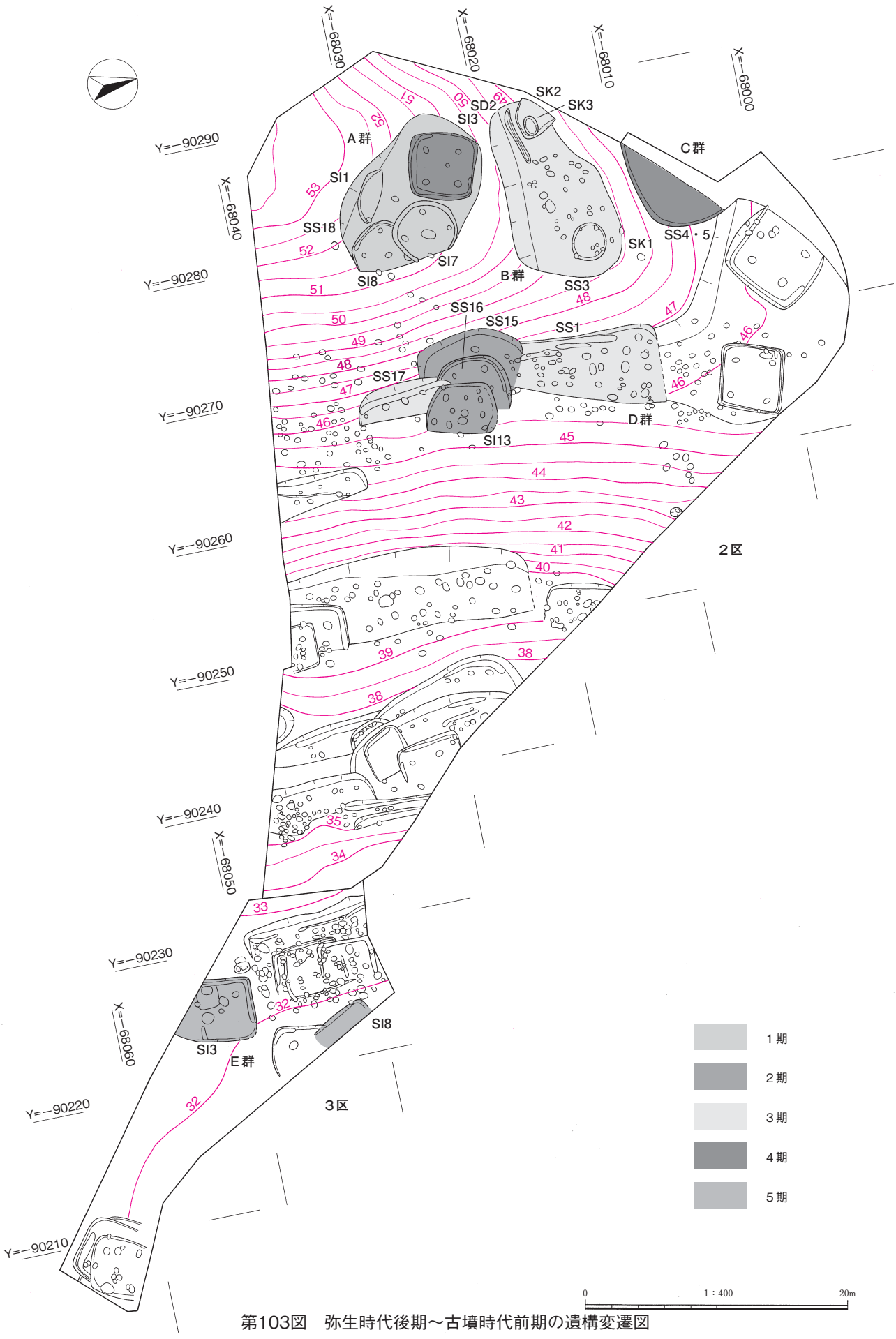
１期の遺構にはＡ群の２区ＳＩ１・７・８、２区ＳＳ18がある。Ａ群は標高50.5～52.7ｍの丘陵頂部に位置し、丘陵斜面を削平して造成した平坦面（２区ＳＳ18）に竪穴住居跡を構築している。

この時期には調査区内では竪穴住居跡１棟のみで集落が形成されており、竪穴住居跡は切合関係から２区ＳＩ８→２区ＳＩ７の変遷が考えられる。また、Ａ群では、２・３期の空白を経て、４期には２区ＳＩ３が形成され、南東から北西へ順次建て替えられたと考えられる。

### ２　期（弥生時代後期中葉新段階～後期後葉古段階）

２期の遺構には、Ｄ群の２区ＳＳ15・16、２区ＳＩ13がある。Ｄ群は標高45.3～48.2ｍの丘陵東側斜面に位置し、竪穴住居跡は１期とは異なり、丘陵の斜面に平坦面を造成し、その平坦面上に竪穴住居跡を構築するのではなく、斜面を直接掘り込んで、竪穴住居跡を構築している。

この時期には１期と同様に竪穴住居跡１棟のみで集落が形成されており、竪穴住居跡は切合関係か




第103図　弥生時代後期～古墳時代前期の遺構変遷図

ら２区ＳＩ13→２区ＳＳ16→２区ＳＳ15の変遷が考えられ、さらに、２区ＳＩ13は１回の拡張が認められる。また、竪穴住居跡は斜面の手前から奥へ順次建て替えられ、その平面形態は方形→六角形→隅丸方形と変遷している。

**３　期**（弥生時代後期後葉～後期末）

３期の遺構には、Ｂ群の２区ＳＳ３、２区ＳＫ１～３、２区ＳＤ２とＤ群の２区ＳＳ１、２区ＳＳ17がある。Ｂ群は標高48.4～50.2ｍの丘陵北側斜面に位置し、丘陵斜面を削平して造成した平坦面（２区ＳＳ３）上に遺構を形成している。

２区ＳＳ３の東側には２区ＳＫ１、西側には２区ＳＫ２・３と２区ＳＤ２があり、中央には数基のピットが認められるが、建物跡は存在しない。

２区ＳＫ１は主柱穴が認められず、長軸2.9ｍ、短軸2.7ｍと竪穴住居跡としては規模が小さく性格が判然としないため、竪穴状遺構として理解する。炭化物層が堆積し、床面には被熱面も認められることから、火を用いた施設と考えられる。

２区ＳＫ２と２区ＳＫ３は切合関係から２区ＳＫ２→２区ＳＫ３の変遷が考えられ、２区ＳＤ２は２区ＳＫ２と２区ＳＫ３の南側に沿うように位置していることから、これらと何らかの関係があると考えられる。

２区ＳＳ３からは磨石・敲石、２区ＳＫ１と２区ＳＫ２からは台石が出土していることから、２区ＳＳ３自体はこれらを用いるような作業空間として機能していたと考えられる。

一方、Ｄ群では、丘陵斜面を削平して段状遺構を構築しており、切合関係から２区ＳＳ17→２区ＳＳ１の変遷が考えられる。２区ＳＳ17には桁行４間、梁行１間以上の掘立柱建物跡があり、２区ＳＳ１には判然とはしないが、小規模の掘立柱建物跡が存在した可能性がある。２区ＳＳ１からは砥石、磨石・敲石、台石が出土していることから、これらを用いるような作業空間として機能していたと考えられる。

この時期には竪穴住居跡は認められず、調査区外に竪穴住居跡が存在するのか、あるいは段状遺構のみで集落が形成されたと考えられる。

**４　期**（弥生時代後期末～古墳時代前期前葉）

４期の遺構には、Ａ群の２区ＳＩ３とＣ群の２区ＳＳ４、２区ＳＳ５があり、２区ＳＩ３は１期の２区ＳＳ18の平坦面を利用して構築されている。

Ｃ群は標高46.2～47.7ｍの丘陵北側斜面に位置し、切合関係から２区ＳＳ４→２区ＳＳ５の変遷が考えられる。２区ＳＳ４、２区ＳＳ５とも平坦面上にはピットは認められず、掘立柱建物跡の存在は窺えない。

この時期には竪穴住居跡と段状遺構がセットとなって集落が形成されたと考えられる。

**５　期**（古墳時代前期後葉）

５期になると、集落は丘陵上部から谷部へと移動する。この時期の遺構には、Ｅ群の３区ＳＩ３と３区ＳＩ８があり、調査区内では竪穴住居跡１棟のみで集落が形成されたと考えられる。

Ｅ群は標高31.6～32.7ｍの谷部に位置し、３区ＳＩ３では２面の床面が認められる。３区ＳＩ３と

３区ＳＩ８からは小型丸底壺と高坏の出土が顕著であり、ミニチュア土器も出土している。また、３区ＳＩ３の特殊ピットからは、その中央には土師器壺が横転した状態で、南東隅には土師器甕の口縁部が正置した状態で出土しており､特殊ピットの在り方を考えるうえでたいへん興味深いものである。

## ４．古墳時代後期

古墳時代後期の遺構は、竪穴住居跡14棟、段状遺構11基、掘立柱建物跡２棟、土坑１基を検出した。

まず、竪穴住居跡は、丘陵頂部に２区ＳＩ６と２区ＳＩ14が存在し、それ以外は、丘陵裾部から谷部にかけて位置しており、その分布状況から５つの群（ａ～ｅ群）に分けることができる。また、いずれの住居跡も前代と同様に同じような位置で複数回の建て替えが行われている。

次に段状遺構は、丘陵の中腹から裾部にかけて位置し、そのほとんどが前代の竪穴住居跡と重複する位置関係にあり、分布状況から３つの群（Ⅰ～Ⅲ群）に分けることができる。また、前代の竪穴住居跡と同様に同じような位置で複数回の建て替えが行われている。

当該期の遺構は、出土遺物や切合関係から３時期（Ⅰ～Ⅲ期）に大別でき、以下、時期毎に概観したい。

### Ⅰ　期（６世紀後葉）

Ⅰ期の遺構は谷部のみに認められ、ｄ群の３区ＳＩ７･９･12、３区ＳＳ２･３とｅ群の３区ＳＩ１･２・10がある。

ｄ群は標高31.4～32.5ｍの丘陵東側斜面の裾部に位置し、竪穴住居跡は切合関係から３区ＳＩ７→３区ＳＩ９の変遷が考えられ、さらに３区ＳＩ７は１回の拡張を行っている。段状遺構３区ＳＳ２と３区ＳＳ３は３区ＳＩ９の廃絶後に構築されたもので、切合関係から３区ＳＳ２→３区ＳＳ３の変遷が考えられる。３区ＳＳ２には３区ＳＢ１が、３区ＳＳ３には３区ＳＢ２が伴い、いずれも桁行６間以上、梁行３間の大型の建物である。

ｅ群は標高31.8～32.3ｍの谷部に位置し、切合関係から３区ＳＩ10→３区ＳＩ２→３区ＳＩ１の変遷が考えられる。

この時期には、まず、ｄ群とｅ群の２棟の竪穴住居跡で集落が形成されたと考えられるが、ｄ群の竪穴住居跡の廃絶後は、Ⅲ群の段状遺構とｅ群の竪穴住居跡とで集落を構成していた可能性がある。

なお、この時期の竪穴住居跡の規模は、一辺５ｍ前後から一辺４ｍ強へと縮小する傾向にある。

### Ⅱ　期（７世紀前葉）

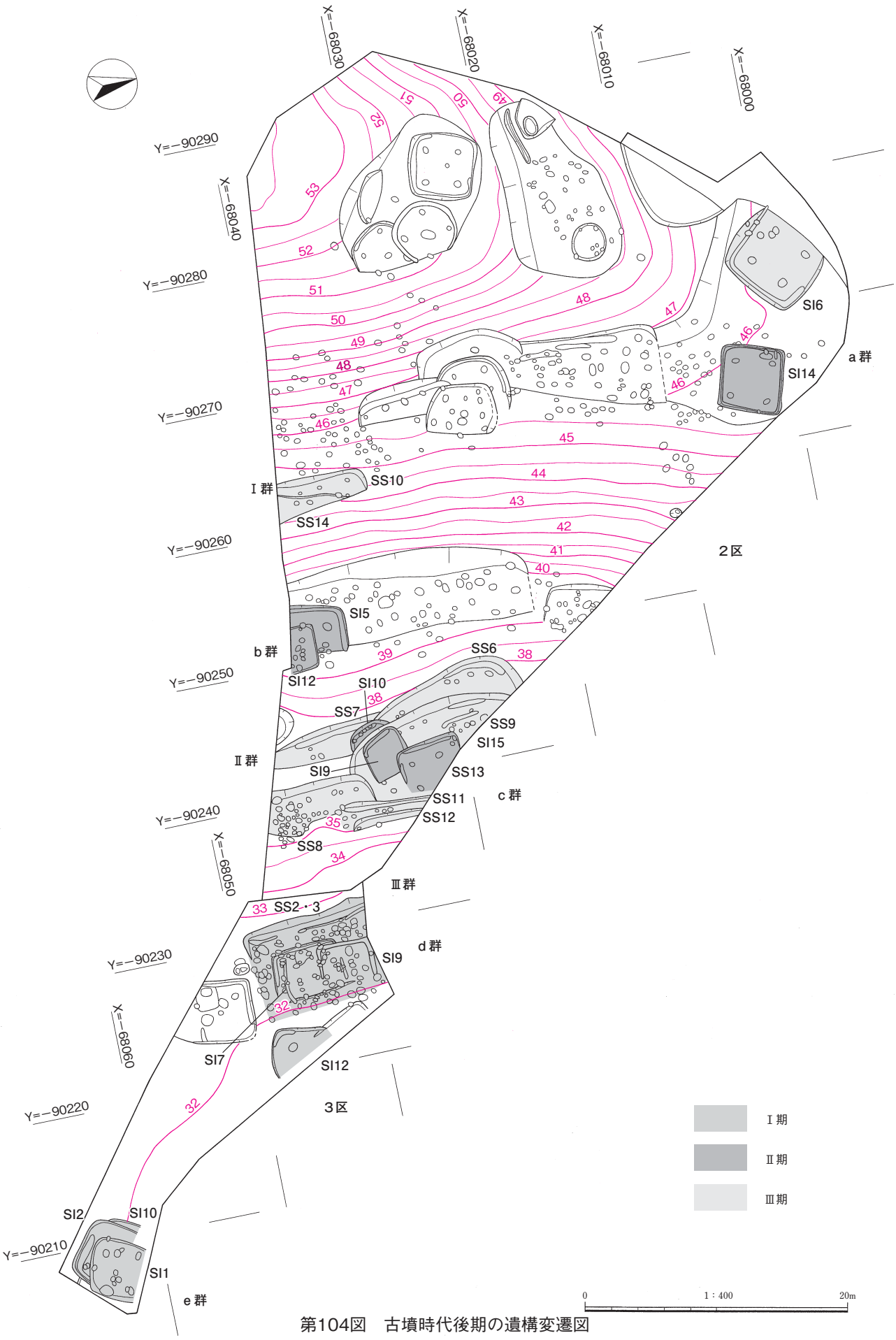
Ⅱ期になると、谷部には遺構が認められなくなり、丘陵部に遺構が形成されるようになる。

この時期の遺構には、ａ群の２区ＳＩ14、ｂ群の２区ＳＩ５・12、ｃ群の２区ＳＩ９・10・15、２区ＳＳ13がある。

ａ群は標高45.6～46.1ｍの丘陵頂部に位置し、２区ＳＩ14は立地的な優位性が窺えるが、他住居跡とは出土遺物に有意差は認められなかった。

ｂ群は標高39.0～40.2ｍの丘陵東側斜面の中腹に位置し、切合関係から２区ＳＩ12→２区ＳＩ５の変遷が考えられる。

ｃ群は標高35.7～37.1ｍの丘陵東側斜面の裾部に位置し、切合関係から２区ＳＩ10→２区ＳＩ９→




第104図　古墳時代後期の遺構変遷図

２区ＳＳ13の変遷が考えられるが、２区ＳＩ15は他の遺構との先後関係は明らかにできなかった。

この時期には、ａ群、ｂ群、ｃ群の３棟の竪穴住居跡で集落が形成されたと考えられるが、出土遺物からＩ期のⅢ群の段状遺構がこの時期にも一時的に存在する可能性があり、また、Ⅲ期のＩ群の段状遺構も一部この時期に遡る可能性がある。

なお、この時期には丘陵裾部のｂ群とｃ群では、竪穴住居跡の規模が一辺４ｍ弱から一辺５ｍ前後へと拡大する傾向にあり、丘陵頂部の２区ＳＩ14の規模は5.0ｍ×4.7ｍである。

### Ⅲ　期（７世紀前葉新段階～中葉）

Ⅲ期の遺構は、引き続き丘陵部に形成され、ａ群の２区ＳＩ６とＩ群の２区ＳＳ10・14、Ⅱ群の２区ＳＳ６～９・11・12がある。

ａ群の２区ＳＩ６は丘陵頂部に位置し、Ⅱ期の２区ＳＩ14を建て替えたものと考えられる。

Ｉ群は標高43.8～44.8ｍの丘陵東側斜面の中腹に位置し、切合関係から２区ＳＳ14→２区ＳＳ10の変遷が考えられる。

Ⅱ群は標高34.7～38.0ｍの丘陵東側斜面の裾部に位置し、切合関係から２区ＳＳ９→２区ＳＳ８→２区ＳＳ11→２区ＳＳ12、２区ＳＳ９→２区ＳＳ６、２区ＳＳ７→２区ＳＳ６の変遷が考えられるが、２区ＳＳ７と２区ＳＳ９、２区ＳＳ６と２区ＳＳ８との先後関係は明らかにできなかった。

この時期には、一時的にⅡ期の遺構と重複する可能性もあるが、丘陵頂部の竪穴住居跡１棟と丘陵の中腹から裾部にかけての段状遺構２基で集落が形成されたと考えられる。

なお、この時期の竪穴住居跡の規模は、ＳＩ６が7.0ｍ×5.7ｍ以上あり、Ⅱ期よりもさらに拡大している。

## ５．古　　代

古代の遺構は、竪穴住居跡１棟、段状遺構１基、掘立柱建物跡４棟を検出した。この時期の遺構は、２区の丘陵東側斜面の中腹に位置し、２区ＳＩ11と２区ＳＳ２がある。

２区ＳＳ２の北側には桁行３間、梁行１間以上の掘立柱建物跡２区ＳＢ４があり、南側には桁行２～３間の掘立柱建物跡２区ＳＢ１～３がある。２区ＳＢ１～３の先後関係は明らかにはできなかったが、２回の建て替えが行われたと考えられる。また、このうち、２区ＳＢ２は２区ＳＢ４と柱筋が揃っているが、両建物間は1.3ｍしか離れておらず、併存していた可能性は低い。

## ６．おわりに

今回の調査では、弥生時代後期から古代の集落跡を確認し、さらに、時期毎に遺構の立地が変遷していることも明らかとなった。

弥生時代後期から古墳時代前期前葉にかけては、丘陵上部に集落を形成している。当遺跡周辺でも弥生時代後期から古墳時代前期にかけて丘陵上に集落を形成しているものが多く、さらに当遺跡と同様に同位置に複数回の竪穴住居跡の建替、拡張を行っているものもある。

古墳時代前期後葉になると、集落は谷部へと移動する。当遺跡周辺の遺跡でも古墳時代前期後葉から中期になると丘陵上には居住遺構は認められなくなり、集落は低地部へと移動している。また、吉谷中馬場山遺跡や古市宮ノ谷山遺跡、清水谷遺跡、福成早里遺跡ではこの時期に丘陵上に古墳を造営

しているが、当遺跡では古墳は確認されていない。

古墳時代後期になると、再び丘陵上に集落が形成される。福成早里遺跡では、１棟の竪穴住居跡を中心施設として１～２ヶ所の段状遺構上に掘立柱建物跡を建てて付随させている。当遺跡でも竪穴住居跡と段状遺構とがセットとなって集落を構成しており、似たような状況が窺える。

３区ＳＳ２と３区ＳＳ３に伴う３区ＳＢ１と３区ＳＢ２はいずれも桁行６間以上、梁行３間の大型建物である。当遺跡からは量的には少ないが、赤彩を施した土器や転用硯が出土しており、官衙的な性格の一端が窺えるが、谷の奥まった場所に位置しており、その占地理由とともに建物の性格も現段階では明らかではない。積極的に評価はできないが、この場所は谷部に張り出した丘陵によって平野部から見通すことができないため、貴重なものを隠匿するような施設であったのかもしれない。

古代になると、丘陵の中腹に遺構が形成される。福成早里遺跡では、古墳時代後期の集落から約40ｍ離れた場所に移動して集落を形成しているが、当遺跡では、古墳時代後期の集落と同じ位置に引き続いて集落を形成している。また、福成早里遺跡では、奈良時代になると赤塗を施した土器や製塩土器が出土しており、この時期にそれまでの一般集落から脱却し、律令体制によって集落の性格が変容したと推測されている。当遺跡でも量的には少ないが、赤彩を施した土器や転用硯が出土しており、古墳時代後期には大型の建物が認められることから、律令体制の影響を少なからず受けたと考えられるが、大きな変容は窺えない。

今回の調査では、道路工事範囲という調査範囲の制約があったが、丘陵の頂部から谷部にかけて調査を実施できたため、時期による遺構の立地の変遷を確認できたことはたいへん意義があったと思われる。集落構造については調査区の制約上、現状でしか把握できなかったが、調査区外には現状でも段状の平坦面が数段連続していることから、丘陵全体に竪穴住居跡や段状遺構が展開すると考えられ、今後の調査に期待するとともに、今後の調査事例の増加により、さらに当該期の集落構造やその変遷が明らかとなっていくことを期待したい。

**参考文献**

松本　哲他 1992『清水谷遺跡』西伯町教育委員会
松本　哲他 1993『福成石佛前遺跡』西伯町教育委員会
中森　祥他 2002『古市遺跡群３　古市宮ノ谷山遺跡　古市古墳群』（財）鳥取県教育文化財団
濵　隆造他 2003『吉谷遺跡群　吉谷中馬場山遺跡　吉谷屋奈ヶ埆遺跡』（財）鳥取県教育文化財団
門脇豊文 2009『境北井埆遺跡発掘調査報告書』南部町教育委員会

## 第36表　土器・土製品・磁器観察表

| 遺物番号 | 挿図番号 | 遺構層位 | 種別器種 | 法量(㎝) 口径 | 底径 | 器高 | 調整・文様 | 胎土 | 焼成 | 色調 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 12 | 2区 SK5 | 弥生土器 甕 | ※26.2 | ※6.2 | △28.2 | 外面：口縁端部４条の凹線、胴部ハケ、底部ミガキ<br>内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ、底部ケズリ、指押さえ | 密 | 良 | 橙褐色 | |
| 2 | 12 | 2区 SK5 | 弥生土器 底部 | － | ※6.0 | △8.5 | 外面：ミガキ<br>内面：ケズリ、指押さえ | 密 | 良 | 褐色 | |
| 3 | 16 | 2区 SI1 | 弥生土器 高坏 | ※18.0 | － | △2.4 | 外面：摩耗のため調整不明<br>内面：摩耗のため調整不明 | 密 | 良 | 黄灰白色 | |
| 4 | 18 | 2区 SI3 | 弥生土器 壺 | ※17.3 | － | △10.9 | 外面：口縁部１条の凹線、摩耗のため調整不明<br>内面：摩耗のため調整不明 | 密 | やや良 | 黄灰白色 | |
| 5 | 18 | 2区 SI3 | 土師器 壺 | ※21.4 | － | △7.3 | 外面：口縁部ナデ、頸部ケズリ<br>内面：口縁部ナデ、頸部ナデ、指押さえ | 密 | 良 | 灰褐色 | |
| 6 | 18 | 2区 SI3 | 土師器 甕 | ※16.9 | － | △5.0 | 外面：ナデ<br>内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ | 密 | 良 | 淡橙褐色 | |
| 7 | 18 | 2区 SI3 | 土師器 甕 | ※15.3 | － | △3.4 | 外面：ナデ<br>内面：ナデ | 密 | 良 | 灰褐色 | |
| 8 | 18 | 2区 SI3 | 土師器 甕 | ※17.3 | － | △3.7 | 外面：ナデ<br>内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ | 密 | 良 | 灰褐色 | |
| 9 | 18 | 2区 SI3 | 土師器 甕 | ※14.5 | － | △4.5 | 外面：ナデ<br>内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ | 密 | 良 | 灰褐色 | |
| 10 | 18 | 2区 SI3 | 土師器 甕 | ※16.8 | － | △3.3 | 外面：ナデ<br>内面：ナデ | 密 | 良 | 灰褐色 | |
| 11 | 18 | 2区 SI3 | 土師器 甕 | ※17.4 | － | △4.0 | 外面：ナデ<br>内面：ナデ | 密 | 良 | 黄褐色 | |
| 12 | 18 | 2区 SI3 | 土師器 甕 | ※9.6 | － | △3.6 | 外面：ナデ<br>内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ | 密 | 良 | 灰褐色 | |
| 13 | 18 | 2区 SI3 | 土師器 甕 | ※11.4 | － | △4.7 | 外面：ナデ<br>内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ | 密 | 良 | 灰褐色 | |
| 14 | 18 | 2区 SI3 | 土師器 甕 | ※14.7 | － | △4.2 | 外面：ナデ<br>内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ | 密 | 良 | 灰褐色 | |
| 15 | 18 | 2区 SI3 | 土師器 甕 | ※19.0 | － | △4.9 | 外面：ナデ<br>内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ | 密 | 良 | 灰褐色 | 内外面赤色塗彩 |
| 16 | 18 | 2区 SI3 | 土師器 甕 | ※19.4 | － | △4.4 | 外面：ナデ<br>内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ | 密 | 良 | 橙褐色 | |
| 17 | 18 | 2区 SI3 | 土師器 甕 | 20.9 | － | △11.2 | 外面：ナデ<br>内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ | 密 | 良 | 灰褐色 | |
| 18 | 18 | 2区 SI3 | 弥生土器 底部 | － | 2.7 | △2.1 | 外面：ケズリ後ナデ<br>内面：ハケ、指押さえ | 密 | 良 | 灰褐色 | |
| 19 | 18 | 2区 SI3 | 土師器 低脚坏 | － | 5.5 | △2.0 | 外面：ナデ<br>内面：ナデ、指押さえ | 密 | 良 | 淡橙褐色 | |
| 20 | 18 | 2区 SI3 | 土師器 低脚坏 | － | 7.6 | △2.3 | 外面：ナデ<br>内面：ナデ、指押さえ | 密 | 良 | 灰褐色 | |
| 21 | 18 | 2区 SI3 | 須恵器 坏身 | ※13.0 | － | △2.2 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ | 密 | 良好 | 青灰色 | |
| 22 | 18 | 2区 SI3 | 須恵器 高坏 | － | ※10.1 | △6.4 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ | 密 | 良好 | 青灰色 | |
| 23 | 20 | 2区 SI7 | 弥生土器 甕 | ※12.7 | － | △2.7 | 外面：口縁端部３条の凹線<br>内面：ナデ | 密 | 良 | 橙褐色 | |
| 24 | 20 | 2区 SI7 | 弥生土器 甕 | － | － | △3.0 | 外面：摩耗のため調整不明<br>内面：摩耗のため調整不明 | 密 | 良 | 橙褐色 | |
| 25 | 20 | 2区 SI7 | 弥生土器 甕 | － | － | △2.4 | 外面：口縁端部２条以上の凹線<br>内面：ナデ | 密 | 良 | 橙褐色 | |
| 26 | 20 | 2区 SI7 | 弥生土器 甕 | ※13.0 | － | △4.0 | 外面：口縁端部５条の凹線、ナデ<br>内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ | 密 | 良 | 橙褐色 | |
| 27 | 20 | 2区 SI7 | 弥生土器 甕 | － | － | △6.8 | 外面：口縁端部凹線、頸部ヘラ状工具による刺突文<br>内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ | 密 | 良 | 褐色 | 内外面煤付着 |

| 遺物番号 | 挿図番号 | 遺構層位 | 種別器種 | 法量(cm) 口径 | 底径 | 器高 | 調整・文様 | 胎土 | 焼成 | 色調 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 28 | 20 | 2区 SI7 | 弥生土器 甕 | ※17.8 | － | △2.7 | 外面：口縁端部凹線<br>内面：ナデ | 密 | やや良 | 橙褐色 | |
| 29 | 20 | 2区 SI7 | 弥生土器 甕 | ※15.5 | － | △4.7 | 外面：口縁端部凹線、頸部ナデ<br>内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ | 密 | 良 | 橙褐色 | |
| 30 | 20 | 2区 SI7 | 弥生土器 器台 | ※25.0 | － | △4.6 | 外面：口縁端部凹線<br>内面：ナデ | 密 | 良 | 橙褐色 | |
| 31 | 20 | 2区 SI7 | 弥生土器 器台 | ※15.6 | － | △3.4 | 外面：摩耗のため調整不明<br>内面：ミガキ、指押さえ | 密 | 良 | 橙褐色 | 内面煤付着 |
| 32 | 20 | 2区 SI7 | 弥生土器 器台 | － | ※16.9 | △3.9 | 外面：ナデ、口縁端部５条の凹線<br>内面：ケズリ | 密 | 良 | 橙褐色 | |
| 33 | 20 | 2区 SI7 | 弥生土器 底部 | － | ※4.4 | △2.6 | 外面：ハケ<br>内面：摩耗のため調整不明 | 密 | 良 | 褐色 | 外面煤付着 |
| 34 | 20 | 2区 SI7 | 弥生土器 底部 | － | ※3.2 | △1.5 | 外面：摩耗のため調整不明<br>内面：摩耗のため調整不明 | 密 | 良 | 橙褐色 | |
| 35 | 20 | 2区 SI7 | 弥生土器 底部 | － | ※3.8 | △4.0 | 外面：ミガキ<br>内面：摩耗のため調整不明 | 密 | 良 | 橙褐色 | 外面煤付着 |
| 36 | 20 | 2区 SI7 | 弥生土器 底部 | － | ※2.8 | △5.3 | 外面：摩耗のため調整不明<br>内面：摩耗のため調整不明 | 密 | 良 | 橙褐色 | 外面煤付着 |
| 37 | 22 | 2区 SI8 | 弥生土器 甕 | ※17.0 | － | △3.9 | 外面：摩耗のため調整不明<br>内面：摩耗のため調整不明 | 密 | 良 | 橙褐色 | 外面煤付着 |
| 38 | 22 | 2区 SI8 | 弥生土器 甕 | ※15.4 | － | △3.3 | 外面：摩耗のため調整不明<br>内面：頸部ケズリ | 密 | やや良 | 橙褐色 | |
| 39 | 22 | 2区 SI8 | 弥生土器 甕 | ※16.8 | － | △3.3 | 外面：摩耗のため調整不明<br>内面：摩耗のため調整不明 | 密 | やや良 | 橙褐色 | 外面煤付着 |
| 40 | 22 | 2区 SI8 | 弥生土器 甕 | ※20.8 | － | △3.5 | 外面：摩耗のため調整不明<br>内面：頸部ケズリ | 密 | やや良 | 橙褐色 | |
| 41 | 22 | 2区 SI8 | 弥生土器 甕 | ※17.4 | － | △3.8 | 外面：ナデ<br>内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ | 密 | やや良 | 橙褐色 | |
| 42 | 22 | 2区 SI8 | 弥生土器 甕 | ※20.8 | － | △4.6 | 外面：摩耗のため調整不明<br>内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ | 密 | 良 | 橙褐色 | |
| 43 | 22 | 2区 SI8 | 弥生土器 注口土器 | － | － | △7.7 | 外面：ナデ、指押さえ<br>内面：ナデ、指押さえ | 密 | 良 | 橙褐色 | |
| 44 | 22 | 2区 SI8 | 弥生土器 底部 | － | ※3.8 | △3.6 | 外面：摩耗のため調整不明<br>内面：ケズリ後ナデ、指押さえ | 密 | 良 | 橙褐色 | |
| 45 | 22 | 2区 SI8 | 弥生土器 底部 | － | 4.0 | △5.2 | 外面：ナデ<br>内面：ナデ、指押さえ | 密 | 良 | 褐色 | |
| 46 | 24 | 2区 SS3 | 土師器 壺 | ※22.6 | － | △3.6 | 外面：摩耗のため調整不明<br>内面：摩耗のため調整不明 | 密 | やや良 | 黄灰色 | |
| 47 | 24 | 2区 SS3 | 土師器 壺 | ※21.6 | － | △7.5 | 外面：ナデ<br>内面：ナデ、指押さえ | 密 | 良 | 橙褐色 | |
| 48 | 24 | 2区 SS3 | 弥生土器 甕 | ※16.6 | － | △4.9 | 外面：口縁端部７条の凹線、頸部ナデ<br>内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ | 密 | やや良 | 橙褐色 | 外面煤付着 |
| 49 | 24 | 2区 SS3 | 土師器 甕 | ※12.2 | － | △2.8 | 外面：ナデ<br>内面：ナデ | 密 | やや良 | 橙褐色 | |
| 50 | 24 | 2区 SS3 | 土師器 甕 | ※15.8 | － | △5.0 | 外面：摩耗のため調整不明<br>内面：摩耗のため調整不明 | 密 | やや良 | 橙褐色 | |
| 51 | 24 | 2区 SS3 | 弥生土器 蓋 | ※9.8 | － | 4.6 | 外面：摩耗のため調整不明<br>内面：指押さえ | 密 | 良 | 橙褐色 | |
| 52 | 26 | 2区 SK1 | 弥生土器 甕 | ※14.6 | － | △5.7 | 外面：口縁端部６条の凹線、胴部ハケ<br>内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ | 密 | 良 | 褐色 | 外面煤付着 |
| 53 | 26 | 2区 SK1 | 弥生土器 底部 | － | ※4.2 | △4.0 | 外面：ナデ<br>内面：ナデ、指押さえ | 密 | 良 | 赤橙褐色 | |
| 54 | 26 | 2区 SK1 | 弥生土器 底部 | － | ※1.8 | △2.2 | 外面：摩耗のため調整不明<br>内面：摩耗のため調整不明 | 密 | やや良 | 褐色 | 外面煤付着 |

| 遺物番号 | 挿図番号 | 遺構層位 | 種別器種 | 法量(cm) 口径 | 底径 | 器高 | 調整・文様 | 胎土 | 焼成 | 色調 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 55 | 30 | 2区 SS5 | 土師器 甕 | ※15.8 | － | △4.1 | 外面：ナデ<br>内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ | 密 | やや良 | 淡褐色 | |
| 56 | 30 | 2区 SS5 | 土師器 甕 | ※15.8 | － | △4.6 | 外面：ナデ<br>内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ | 密 | やや良 | 橙褐色 | 外面炭化物付着 |
| 57 | 30 | 2区 SS5 | 土師器 甕 | ※16.8 | － | △3.8 | 外面：ナデ<br>内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ | 密 | やや良 | 橙褐色 | |
| 58 | 30 | 2区 SS5 | 土師器 甕 | ※17.8 | － | △6.0 | 外面：ナデ<br>内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ | 密 | やや良 | 橙褐色 | 外面炭化物付着 |
| 59 | 30 | 2区 SS4 | 土師器 甕 | ※19.8 | － | 23.0 | 外面：口縁部ナデ、胴部ハケ<br>内面：口縁部ナデ、胴部ケズリ、指押さえ | 密 | やや良 | 橙褐色 | |
| 60 | 30 | 2区 SS5 | 土師器 低脚坏 | － | － | △2.8 | 外面：摩耗のため調整不明<br>内面：摩耗のため調整不明 | 密 | 良 | 灰褐色 | |
| 61 | 32 | 2区 SS1 | 弥生土器 壺 | ※23.6 | － | △6.7 | 外面：口縁端部３条の凹線、頸部ナデ<br>内面：ナデ | 密 | 良 | 褐色 | |
| 62 | 32 | 2区 SS1 | 弥生土器 甕 | ※14.0 | － | △2.6 | 外面：口縁端部３条の凹線、頸部ナデ<br>内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ | 密 | 良 | 褐色 | 外面煤付着 |
| 63 | 32 | 2区 SS1 | 弥生土器 甕 | ※15.4 | － | △3.7 | 外面：口縁端部３条の凹線、頸部ナデ<br>内面：ナデ | 密 | 良 | 灰褐色 | |
| 64 | 32 | 2区 SS1 | 弥生土器 甕 | ※13.3 | － | △3.8 | 外面：ナデ<br>内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ | 密 | 良 | 褐色 | |
| 65 | 32 | 2区 SS1 | 弥生土器 甕 | ※13.2 | － | △4.0 | 外面：ミガキ<br>内面：ミガキ | 密 | 良 | 褐色 | |
| 66 | 32 | 2区 SS1 | 弥生土器 甕 | ※14.8 | － | △3.5 | 外面：摩耗のため調整不明<br>内面：摩耗のため調整不明 | 密 | 良 | 褐色 | |
| 67 | 32 | 2区 SS1 | 弥生土器 甕 | ※14.8 | － | △4.6 | 外面：口縁端部２条の凹線、頸部ナデ<br>内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ | 密 | 良 | 褐色 | |
| 68 | 32 | 2区 SS1 | 弥生土器 甕 | ※14.2 | － | △6.4 | 外面：口縁端部12条の凹線、頸部ハケ<br>内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ | 密 | 良 | 褐色 | 外面炭化物付着 |
| 69 | 32 | 2区 SS1 | 弥生土器 甕 | ※15.3 | － | △4.7 | 外面：口縁端部11条の凹線、頸部ナデ<br>内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ | 密 | 良 | 褐色 | |
| 70 | 32 | 2区 SS1 | 弥生土器 甕 | ※16.6 | － | △3.9 | 外面：口縁端部凹線、頸部ナデ<br>内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ | 密 | 良 | 褐色 | 内面黒斑 |
| 71 | 32 | 2区 SS1 | 弥生土器 底部 | － | 4.3 | △1.5 | 外面：ナデ、指押さえ<br>内面：ケズリ、指押さえ | 密 | 良 | 黒茶色 | |
| 72 | 32 | 2区 SS1 | 弥生土器 器台 | ※18.5 | － | △3.4 | 外面：３条の凹線、ナデ<br>内面：ナデ | 密 | 良 | 暗灰白色 | |
| 73 | 32 | 2区 SS1 | 土師器 甕 | ※12.8 | － | △3.7 | 外面：摩耗のため調整不明<br>内面：摩耗のため調整不明 | 密 | 良 | 橙褐色 | |
| 74 | 32 | 2区 SS1 | 土師器 甕 | ※17.6 | － | △4.9 | 外面：摩耗のため調整不明<br>内面：摩耗のため調整不明 | 密 | 良 | 褐色 | |
| 75 | 32 | 2区 SS1 | 土師器 甕 | ※18.6 | － | △3.7 | 外面：ナデ<br>内面：ナデ | 密 | 良 | 褐色 | |
| 76 | 32 | 2区 SS1 | 土師器 甕 | ※23.6 | － | △4.9 | 外面：ナデ<br>内面：ナデ | 密 | 良 | 褐色 | |
| 77 | 32 | 2区 SS1 | 土師器 甕 | ※28.2 | － | △13.8 | 外面：ナデ、指押さえ<br>内面：口縁部ナデ、胴部ケズリ | 密 | 良 | 褐色 | |
| 78 | 34 | 2区 SS17 | 弥生土器 甕 | ※30.8 | － | △5.7 | 外面：口縁端部７条の凹線、ナデ<br>内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ | 密 | やや良 | 橙褐色 | |
| 79 | 34 | 2区 SS17 | 弥生土器 甕 | ※14.5 | － | △3.0 | 外面：ナデ<br>内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ | 密 | 良 | 橙褐色 | |
| 80 | 34 | 2区 SS17 | 土師器 甕 | ※18.4 | － | △5.0 | 外面：ナデ<br>内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ | 密 | 良 | 褐色 | |
| 81 | 34 | 2区 SS17 | 弥生土器 底部 | － | ※10.7 | △4.0 | 外面：ケズリ、指押さえ<br>内面：ケズリ、指押さえ | 密 | 良 | 褐色 | |

| 遺物番号 | 挿図番号 | 遺構層位 | 種別器種 | 法量(cm) 口径 | 底径 | 器高 | 調整・文様 | 胎土 | 焼成 | 色調 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 82 | 36 | 2区 SS15 | 弥生土器 甕 | ※17.8 | － | △1.7 | 外面：口縁端部３条の凹線、ナデ<br>内面：ナデ | 密 | やや良 | 橙褐色 | 外面煤付着 |
| 83 | 36 | 2区 SS15 | 弥生土器 甕 | ※17.8 | － | △2.5 | 外面：口縁端部５条の凹線、ナデ<br>内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ | やや密 | やや良 | 褐色 | |
| 84 | 36 | 2区 SS15 | 弥生土器 甕 | ※13.6 | － | △4.0 | 外面：口縁端部６条の凹線、ナデ<br>内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ | 密 | 良 | 褐色 | |
| 85 | 36 | 2区 SS15 | 弥生土器 甕 | ※17.4 | － | △4.9 | 外面：口縁部ナデ、頸部ハケ<br>内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ | 密 | 良 | 褐色 | |
| 86 | 36 | 2区 SS15 | 弥生土器 甕 | ※13.8 | － | △2.0 | 外面：口縁端部３条の凹線、ナデ<br>内面：ナデ | 密 | 良 | 褐色 | |
| 87 | 36 | 2区 SS15 | 弥生土器 甕 | ※14.6 | － | △8.3 | 外面：口縁端部５条の凹線、胴部ハケ<br>内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ | 密 | 良 | 灰褐色 | |
| 88 | 36 | 2区 SS15 | 弥生土器 甕 | ※16.1 | － | △2.8 | 外面：口縁端部８条の凹線、ナデ<br>内面：ナデ | 密 | 良 | 褐色 | |
| 89 | 36 | 2区 SS15 | 弥生土器 甕 | ※16.2 | － | △3.1 | 外面：口縁端部６条の凹線、ナデ<br>内面：ナデ | 密 | 良 | 褐色 | |
| 90 | 36 | 2区 SS15 | 弥生土器 甕 | ※17.8 | － | △3.3 | 外面：摩耗のため調整不明<br>内面：摩耗のため調整不明 | 密 | やや良 | 橙褐色 | 内外面赤色塗彩 |
| 91 | 36 | 2区 SS15 | 弥生土器 底部 | － | ※7.0 | △3.2 | 外面：ハケ<br>内面：ケズリ後ナデ | 密 | 良 | 灰褐色 | |
| 92 | 36 | 2区 SS15 | 弥生土器 底部 | － | ※13.0 | △15.7 | 外面：ハケ<br>内面：摩耗のため調整不明 | 密 | やや良 | 橙褐色 | |
| 93 | 36 | 2区 SS15 | 弥生土器 器台 | ※16.7 | － | △6.2 | 外面：凹線、ミガキ<br>内面：ミガキ | 密 | 良 | 褐色 | 内外面赤色塗彩 |
| 94 | 36 | 2区 SS15 | 弥生土器 高坏 | ※19.8 | － | △6.9 | 外面：ナデ<br>内面：ナデ | 密 | やや良 | 橙褐色 | |
| 95 | 37 | 2区 SS16 | 弥生土器 甕 | ※13.2 | － | △2.6 | 外面：口縁端部２条の凹線、ナデ<br>内面：ナデ | 密 | 良 | 橙褐色 | |
| 96 | 37 | 2区 SS16 | 弥生土器 甕 | ※18.6 | － | △4.1 | 外面：口縁端部４条の凹線、ナデ<br>内面：ナデ | 密 | やや良 | 褐色 | 外面煤付着 |
| 97 | 37 | 2区 SS16 | 弥生土器 甕 | ※13.6 | － | △3.0 | 外面：口縁端部５条の凹線、ナデ<br>内面：ナデ | 密 | 良 | 橙褐色 | |
| 98 | 37 | 2区 SS16 | 弥生土器 甕 | ※16.6 | － | △3.0 | 外面：口縁端部７条の凹線、ナデ<br>内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ | 密 | 良 | 褐色 | |
| 99 | 37 | 2区 SS16 | 弥生土器 底部 | － | ※7.9 | △7.1 | 外面：ハケ<br>内面：ケズリ後ナデ | 密 | 良 | 褐色 | |
| 100 | 37 | 2区 SS16 | 弥生土器 底部 | － | ※8.4 | △8.3 | 外面：ハケ<br>内面：ケズリ | 密 | 良 | 褐色 | |
| 101 | 37 | 2区 SS16 | 弥生土器 底部 | － | ※5.4 | △2.8 | 外面：ケズリ、指押さえ<br>内面：ケズリ後ナデ | 密 | 良 | 褐色 | |
| 102 | 37 | 2区 SS16 | 弥生土器 底部 | － | ※5.4 | △4.8 | 外面：ケズリ<br>内面：ケズリ | 密 | 良 | 褐色 | |
| 103 | 37 | 2区 SS16 | 弥生土器 高坏 | ※17.6 | － | △3.9 | 外面：摩耗のため調整不明<br>内面：摩耗のため調整不明 | 密 | 良 | 褐色 | |
| 104 | 40 | 3区 SI3A | 弥生土器 甕 | ※19.8 | － | △5.1 | 外面：口縁端部刻み目、頸部９条のクシ描沈線<br>内面：ハケ、指押さえ | 密 | 良 | 淡褐色 | |
| 105 | 40 | 3区 SI3A | 土師器 低脚坏 | ※17.8 | ※6.6 | 6.4 | 外面：ハケ<br>内面：ナデ、指押さえ | 密 | やや良 | 橙褐色 | |
| 106 | 41 | 3区 SI3B | 土師器 甕 | ※15.6 | － | △7.5 | 外面：ナデ<br>内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ | 密 | やや良 | 淡褐色 | |
| 107 | 41 | 3区 SI3B | 土師器 壺 | ※22.4 | － | 38.1 | 外面：ハケ<br>内面：口縁部ヨコハケ、頸部指押さえ後ナデ、胴部ケズリ | 密 | やや良 | 黄灰白色 | 外面赤色塗彩 |
| 108 | 42 | 3区 SI3B | 弥生土器 甕 | ※15.7 | － | △3.9 | 外面：口縁部２条の凹線、頸部ナデ<br>内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ | 密 | 良 | 淡褐色 | |

| 遺物番号 | 挿図番号 | 遺構層位 | 種別器種 | 法量(cm) 口径 | 底径 | 器高 | 調整・文様 | 胎土 | 焼成 | 色調 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 109 | 42 | 3区 SI3B | 弥生土器 甕 | ※17.8 | － | △3.4 | 外面：口縁部５条の凹線、頸部ナデ<br>内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ | 密 | やや良 | 淡褐色 | |
| 110 | 42 | 3区 SI3B | 土師器 甕 | ※17.8 | － | △6.7 | 外面：ナデ<br>内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ | 密 | 良 | 褐色 | |
| 111 | 42 | 3区 SI3B | 土師器 甕 | ※13.6 | － | △4.6 | 外面：ナデ<br>内面：ナデ | 密 | やや良 | 黄灰白色 | |
| 112 | 42 | 3区 SI3B | 土師器 甕 | ※17.6 | － | △4.5 | 外面：ナデ<br>内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ | 密 | 良 | 淡褐色 | |
| 113 | 42 | 3区 SI3B | 土師器 甕 | ※15.8 | － | △3.9 | 外面：ナデ<br>内面：ナデ | 密 | 良 | 淡褐色 | 外面煤付着 |
| 114 | 42 | 3区 SI3B | 土師器 甕 | ※14.8 | － | △4.9 | 外面：ナデ<br>内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ | 密 | 良 | 淡褐色 | |
| 115 | 42 | 3区 SI3B | 土師器 甕 | ※13.6 | － | △4.6 | 外面：ナデ<br>内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ | 密 | 良 | 淡褐色 | |
| 116 | 42 | 3区 SI3B | 土師器 甕 | ※19.4 | － | △5.0 | 外面：ナデ<br>内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ | 密 | 良 | 淡褐色 | |
| 117 | 42 | 3区 SI3B | 土師器 甕 | ※21.6 | － | △4.3 | 外面：ハケ後ナデ<br>内面：ハケ | 密 | 良 | 淡褐色 | |
| 118 | 42 | 3区 SI3B | 土師器 甕 | ※17.2 | － | △8.7 | 外面：口縁部ナデ、胴部ハケ<br>内面：口縁部ナデ、胴部ケズリ | 密 | 良 | 黒褐色 | |
| 119 | 42 | 3区 SI3B | 土師器 小型丸底壺 | ※10.8 | － | △6.0 | 外面：ナデ<br>内面：口縁部ナデ、胴部ケズリ | 密 | 良 | 淡褐色 | |
| 120 | 42 | 3区 SI3B | 土師器 小型丸底壺 | ※10.8 | － | △7.6 | 外面：口縁部ナデ、胴部ハケ後ナデ<br>内面：口縁部ナデ、胴部ケズリ、指押さえ | 密 | やや良 | 淡褐色 | |
| 121 | 42 | 3区 SI3B | 土師器 小型丸底壺 | ※13.8 | － | △6.6 | 外面：口縁部ナデ、胴部ハケ後ナデ、指押さえ<br>内面：口縁部ナデ、指押さえ、胴部ケズリ | 密 | 良 | 淡褐色 | |
| 122 | 42 | 3区 SI3B | 土師器 小型丸底壺 | ※8.4 | － | △9.6 | 外面：口縁部ナデ、胴部ハケ後ナデ<br>内面：口縁部ナデ、胴部ケズリ、底部工具による圧痕 | 密 | 良 | 淡褐色 | |
| 123 | 42 | 3区 SI3B | 土師器 小型丸底壺 | ※10.8 | － | △7.0 | 外面：ハケ後ナデ<br>内面：口縁部ナデ、胴部ケズリ、ナデ、指押さえ | 密 | 良 | 橙褐色 | |
| 124 | 42 | 3区 SI3B | 土師器 小型丸底壺 | 6.3 | － | 7.1 | 外面：口縁部ナデ、胴部ハケ後ナデ、指押さえ<br>内面：口縁部ナデ、胴部ケズリ | 密 | 良 | 淡褐色 | |
| 125 | 42 | 3区 SI3B | 土師器 埦 | 13.0 | － | 4.1 | 外面：ケズリ後ナデ、指押さえ<br>内面：ケズリ後ナデ、指押さえ | 密 | 良 | 褐色 | |
| 126 | 42 | 3区 SI3B | 土師器 高坏 | ※14.3 | ※10.2 | 12.5 | 外面：坏部ミガキ、脚部ケズリ後ミガキ、指押さえ<br>内面：坏部ミガキ、脚部ケズリ | 密 | 良 | 淡褐色 | |
| 127 | 42 | 3区 SI3B | 土師器 高坏 | － | ※9.3 | △3.1 | 外面：ナデ、指押さえ<br>内面：ナデ、指押さえ | 密 | 良 | 橙褐色 | |
| 128 | 42 | 3区 SI3B | 土師器 高坏 | － | ※10.8 | △5.2 | 外面：ハケ、ミガキ<br>内面：ケズリ | 密 | 良 | 淡褐色 | |
| 129 | 42 | 3区 SI3B | 土師器 高坏 | － | ※10.9 | △7.3 | 外面：ケズリ後ハケ後ミガキ<br>内面：ケズリ、ハケ後ナデ | 密 | やや良 | 淡褐色 | |
| 130 | 42 | 3区 SI3B | 土師器 高坏 | － | ※11.2 | △7.2 | 外面：ハケ後ミガキ<br>内面：ケズリ、ハケ | 密 | 良 | 橙褐色 | |
| 131 | 42 | 3区 SI3B | 土師器 高坏 | － | ※9.2 | △6.3 | 外面：ケズリ後ナデ<br>内面：ケズリ、ナデ、指押さえ | 密 | 良 | 橙褐色 | |
| 132 | 42 | 3区 SI3B | 土師器 高坏 | － | ※11.4 | △6.9 | 外面：ケズリ後ナデ<br>内面：ケズリ | 密 | 良 | 橙褐色 | |
| 133 | 42 | 3区 SI3B | 手づくね土器 | 8.3 | － | 3.8 | 外面：ハケ、ナデ、指押さえ<br>内面：ハケ、ナデ、指押さえ | 密 | 良 | 褐色 | |
| 134 | 42 | 3区 SI3B | 須恵器 坏蓋 | ※12.2 | － | △4.3 | 外面：天井部回転ヘラケズリ、口縁部回転ナデ<br>内面：回転ナデ | 密 | 良 | 青灰色 | |
| 135 | 45 | 3区 SI8 | 土師器 甕 | ※10.2 | － | △7.6 | 外面：口縁部ナデ、胴部ハケ後ナデ<br>内面：口縁部ナデ、胴部ケズリ | 密 | 良 | 灰褐色 | |

| 遺物番号 | 挿図番号 | 遺構層位 | 種別器種 | 法量(cm) 口径 | 底径 | 器高 | 調整・文様 | 胎土 | 焼成 | 色調 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 136 | 45 | 3区 SI8 | 土師器 甕 | ※11.0 | － | △15.0 | 外面：ナデ<br>内面：口縁部ナデ、胴部ケズリ、指押さえ | 密 | 良 | 黄灰白色 | |
| 137 | 45 | 3区 SI8 | 土師器 甕 | ※13.0 | － | △3.9 | 外面：ハケ<br>内面：口縁部ハケ、頸部ケズリ | 密 | 良 | 橙褐色 | |
| 138 | 45 | 3区 SI8 | 土師器 小型丸底壺 | ※8.8 | － | △4.6 | 外面：ナデ<br>内面：口縁部ナデ、指押さえ、胴部ケズリ | 密 | 良 | 橙褐色 | |
| 139 | 45 | 3区 SI8 | 土師器 小型丸底壺 | － | － | △4.3 | 外面：ナデ<br>内面：ハケ後ナデ、指押さえ | 密 | 良 | 橙褐色 | |
| 140 | 45 | 3区 SI8 | 土師器 小型丸底壺 | － | － | △8.2 | 外面：口縁部ナデ、胴部ハケ後ナデ<br>内面：口縁部ナデ、胴部ケズリ、指押さえ | 密 | 良 | 褐色 | |
| 141 | 45 | 3区 SI8 | 土師器 高坏 | ※16.3 | － | △4.1 | 外面：摩耗のため調整不明<br>内面：ハケ、指押さえ | 密 | やや良 | 橙褐色 | |
| 142 | 45 | 3区 SI8 | 土師器 高坏 | － | ※7.0 | △1.7 | 外面：ナデ、指押さえ<br>内面：ケズリ | 密 | 良 | 褐色 | |
| 143 | 45 | 3区 SI8 | ミニチュア土器 | 5.2 | － | 2.8 | 外面：ケズリ後ナデ<br>内面：ケズリ後指押さえ | 密 | 良 | 橙褐色 | |
| 144 | 48 | 2区 SI6 | 土師器 甕 | ※28.8 | － | △2.8 | 外面：ナデ、指押さえ<br>内面：ナデ | 密 | 良 | 褐色 | |
| 145 | 48 | 2区 SI6 | 甑 把手 | 長さ4.2 | 幅3.3 | 厚さ2.0 | 外面：ケズリ後ナデ<br>内面：ケズリ、指押さえ | 密 | 良 | 褐色 | |
| 146 | 48 | 2区 SI6 | 須恵器 坏身 | ※12.6 | － | △2.4 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ | 密 | 良好 | 青灰色 | |
| 147 | 48 | 2区 SI6 | 須恵器 平瓶 | ※8.8 | － | △5.2 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ | 密 | 良好 | 青灰色 | |
| 148 | 50 | 2区 SI14 | 土師器 甕 | 15.8 | － | △16.0 | 外面：ナデ<br>内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ | 密 | 良 | 橙褐色 | |
| 149 | 50 | 2区 SI14 | 土師器 甕 | ※21.6 | － | △4.9 | 外面：口縁部ナデ、頸部ハケ<br>内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ | 密 | 良 | 橙褐色 | |
| 150 | 50 | 2区 SI14 | 土師器 甕 | ※27.6 | － | △10.3 | 外面：口縁部ナデ、指押さえ、頸部ハケ<br>内面：ハケ、指押さえ | 密 | やや良 | 橙褐色 | |
| 151 | 50 | 2区 SI14 | 土師器 甕 | ※23.6 | － | △7.1 | 外面：ナデ、指押さえ<br>内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ | 密 | 良 | 黄褐色 | |
| 152 | 50 | 2区 SI14 | 須恵器 坏蓋 | ※14.8 | － | △2.9 | 外面：天井部回転ヘラケズリ、口縁部回転ナデ<br>内面：回転ナデ | 密 | 良好 | 灰色 | |
| 153 | 50 | 2区 SI14 | 須恵器 坏身 | 10.8 | － | 4.1 | 外面：口縁部回転ナデ、底部回転ヘラケズリ<br>内面：口縁部回転ナデ、底部ナデ | 密 | 良好 | 青灰色 | |
| 154 | 50 | 2区 SI14 | 須恵器 坏身 | 11.5 | － | 3.8 | 外面：口縁部回転ナデ、底部回転ヘラケズリ<br>内面：口縁部回転ナデ、底部ナデ | 密 | 良好 | 青灰色 | 底部穿孔あり |
| 155 | 50 | 2区 SI14 | 須恵器 坏身 | ※15.8 | － | △2.7 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ | 密 | 良好 | 青灰色 | |
| 156 | 52 | 2区 SI5 | 土師器 甕 | ※17.4 | － | △3.5 | 外面：ナデ<br>内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ | 密 | 良 | 橙褐色 | |
| 157 | 52 | 2区 SI5 | 土師器 甕 | ※20.0 | － | △6.0 | 外面：口縁部ナデ、頸部ハケ、指押さえ<br>内面：口縁部ナデ、指押さえ、頸部ケズリ | 密 | 良 | 橙褐色 | |
| 158 | 52 | 2区 SI5 | 土師器 甕 | ※27.8 | － | △2.9 | 外面：ハケ後ナデ、指押さえ<br>内面：ナデ、指押さえ | 密 | 良 | 橙褐色 | |
| 159 | 52 | 2区 SI5 | 須恵器 坏身 | ※11.0 | － | △1.7 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ | 密 | 良好 | 青灰色 | |
| 160 | 52 | 2区 SI5 | 須恵器 坏身 | ※12.4 | － | △3.5 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ | 密 | 良好 | 青灰色 | |
| 161 | 52 | 2区 SI5 | 須恵器 高坏 | － | ※14.0 | △1.4 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ | 密 | 良好 | 灰色 | |
| 162 | 52 | 2区 SI5 | 須恵器 壺 | － | － | △9.9 | 外面：胴部回転ナデ、底部回転ヘラケズリ<br>内面：胴部回転ナデ、底部ナデ | 密 | 良好 | 灰色 | |

| 遺物番号 | 挿図番号 | 遺構層位 | 種別器種 | 法量(cm) 口径 | 底径 | 器高 | 調整・文様 | 胎土 | 焼成 | 色調 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 163 | 54 | 2区 SI9 | 土師器 高坏 | — | ※17.8 | △2.7 | 外面：ナデ<br>内面：ナデ | 密 | 良 | 褐色 | |
| 164 | 55 | 2区 SI10 | 土師器 甕 | ※15.2 | — | △3.5 | 外面：摩耗のため調整不明<br>内面：摩耗のため調整不明 | 密 | 良 | 橙褐色 | |
| 165 | 55 | 2区 SI10 | 土師器 皿 | ※19.0 | — | △2.3 | 外面：摩耗のため調整不明<br>内面：摩耗のため調整不明 | 密 | 良 | 橙褐色 | |
| 166 | 58 | 2区 SS13 | 土師器 甕 | ※19.2 | — | △8.6 | 外面：ハケ<br>内面：口縁部ナデ、指押さえ、頸部ケズリ | 密 | 良 | 褐色 | |
| 167 | 58 | 2区 SS13 | 土師器 甕 | ※26.5 | — | △6.5 | 外面：ハケ<br>内面：口縁部ナデ、指押さえ、頸部ケズリ | 密 | 良 | 褐色 | |
| 168 | 58 | 2区 SS13 | 甑 把手 | 長さ9.9 | 幅4.1 | 厚さ3.6 | ケズリ、指押さえ | 密 | 良 | 褐色 | 黒斑 |
| 169 | 58 | 2区 SS13 | 須恵器 坏蓋 | ※10.2 | — | 3.7 | 外面：天井部ヘラケズリ後ナデ、口縁部回転ナデ<br>内面：天井部ナデ、口縁部回転ナデ | 密 | 良好 | 青灰色 | 天井部外面「×」の線刻あり |
| 170 | 58 | 2区 SS13 | 須恵器 坏身 | ※11.4 | — | △2.8 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ | 密 | 良好 | 灰色 | |
| 171 | 58 | 2区 SS13 | 須恵器 坏身 | ※12.0 | — | △3.0 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ | 密 | 良好 | 青灰色 | |
| 172 | 60 | 3区 SI1 | 土師器 壺 | ※12.6 | — | △7.5 | 外面：ナデ<br>内面：ナデ | 密 | 良 | 灰褐色 | |
| 173 | 60 | 3区 SI1 | 土師器 甕 | ※14.2 | — | △4.2 | 外面：ナデ<br>内面：ハケ後ナデ | 密 | 良 | 灰褐色 | |
| 174 | 60 | 3区 SI1 | 須恵器 坏蓋 | ※14.8 | — | △2.5 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ | 密 | 良好 | 青灰色 | |
| 175 | 60 | 3区 SI1 | 須恵器 坏蓋 | ※13.7 | — | △7.8 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ | 密 | 良好 | 灰色 | |
| 176 | 60 | 3区 SI1 | 須恵器 坏身 | ※10.7 | — | △3.5 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ | 密 | 良好 | 青灰色 | |
| 177 | 60 | 3区 SI1 | 須恵器 坏身 | ※12.2 | — | △3.2 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ | 密 | 良好 | 灰色 | |
| 178 | 60 | 3区 SI1 | 須恵器 坏身 | ※13.0 | — | 4.3 | 外面：口縁部回転ナデ、底部ヘラケズリ<br>内面：口縁部回転ナデ、底部ナデ | 密 | 良好 | 灰色 | |
| 179 | 61 | 3区 SI2 | 土師器 甕 | ※16.6 | — | △3.0 | 外面：ナデ<br>内面：ナデ | 密 | 良 | 橙褐色 | |
| 180 | 61 | 3区 SI2 | 須恵器 坏蓋 | ※13.2 | — | △2.7 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ | 密 | 良好 | 青灰色 | |
| 181 | 61 | 3区 SI2 | 須恵器 坏身 | ※11.0 | — | △2.9 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ | 密 | 良好 | 灰色 | |
| 182 | 61 | 3区 SI2 | 須恵器 坏身 | ※12.2 | — | △2.8 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ | 密 | 良好 | 淡灰色 | |
| 183 | 63 | 3区 SI10 | 須恵器 坏蓋 | ※13.2 | — | △3.1 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ | 密 | 良好 | 灰色 | |
| 184 | 63 | 3区 SI10 | 須恵器 坏蓋 | ※10.0 | — | △2.2 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ | 密 | 良好 | 灰色 | |
| 185 | 65 | 3区 SI7 | 土師器 甕 | ※13.1 | — | △5.6 | 外面：ナデ<br>内面：口縁部ナデ、胴部ケズリ | 密 | 良 | 灰褐色 | |
| 186 | 65 | 3区 SI7 | 土師器 甕 | ※18.0 | — | △6.2 | 外面：ナデ<br>内面：口縁部ナデ、胴部ケズリ | 密 | 良 | 灰茶色 | |
| 187 | 65 | 3区 SI7 | 土師器 甕 | ※15.8 | — | △3.2 | 外面：ナデ<br>内面：ナデ | 密 | やや良 | 黄灰白色 | |
| 188 | 65 | 3区 SI7 | 土師器 埦 | — | — | — | 外面：ナデ<br>内面：ナデ | 密 | 良 | 橙褐色 | 内外面赤色塗彩 |
| 189 | 65 | 3区 SI7 | 土師器 高坏 | 16.0 | — | △10.1 | 外面：坏部摩耗のため調整不明、脚部ナデ<br>内面：坏部摩耗のため調整不明、脚部ケズリ | 密 | 良 | 橙褐色 | |

| 遺物番号 | 挿図番号 | 遺構層位 | 種別器種 | 法量(cm) 口径 | 底径 | 器高 | 調整・文様 | 胎土 | 焼成 | 色調 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 190 | 65 | 3区 SI7 | 須恵器 坏身 | － | ※7.4 | △3.0 | 外面：胴部回転ナデ、底部回転糸切り<br>内面：胴部回転糸切り、底部ナデ | 密 | 良好 | 青灰色 | 転用硯<br>底部内面黒墨、朱墨付着 |
| 191 | 66 | 3区 SI9 | 須恵器 坏蓋 | ※16.0 | － | △3.1 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ | 密 | 良好 | 青灰色 | |
| 192 | 66 | 3区 SI9 | 須恵器 坏身 | ※10.0 | － | △2.3 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ | 密 | 良好 | 灰色 | |
| 193 | 67 | 3区 SI12 | 土師器 甕 | ※18.6 | － | △4.5 | 外面：口縁端部刻み目、口縁部ナデ<br>内面：ナデ、指押さえ | 密 | 良 | 橙褐色 | |
| 194 | 67 | 3区 SI12 | 土師器 甕 | ※13.0 | － | △4.1 | 外面：口縁部ナデ、肩部ハケ<br>内面：口縁部ナデ、胴部ケズリ | 密 | 良 | 黄灰白色 | |
| 195 | 67 | 3区 SI12 | 土師器 埦 | ※12.0 | － | △3.0 | 外面：ナデ<br>内面：ナデ | 密 | 良 | 橙褐色 | 内外面赤色塗彩 |
| 196 | 67 | 3区 SI12 | 須恵器 高坏 | ※10.2 | － | △5.2 | 外面：口縁部回転ナデ、底部回転ヘラケズリ<br>内面：口縁部回転ナデ、底部ナデ | 密 | 良好 | 灰色 | |
| 197 | 69 | 2区 SS10 | 弥生土器 甕 | ※15.4 | － | △2.3 | 外面：口縁端部３条の凹線、ナデ<br>内面：ナデ | 密 | 良 | 橙褐色 | |
| 198 | 70 | 2区 SS14 | 土師器 甕 | ※24.8 | － | △4.7 | 外面：ハケ、指押さえ<br>内面：口縁部ナデ、指押さえ、頸部ケズリ | 密 | 良 | 褐色 | |
| 199 | 70 | 2区 SS14 | 須恵器 坏蓋 | ※9.6 | － | △2.8 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ | 密 | 良好 | 灰色 | |
| 200 | 72 | 2区 SS6 | 土師器 甕 | ※11.4 | － | △4.5 | 外面：ナデ、ハケ、指押さえ<br>内面：口縁部ハケ、指押さえ、頸部ケズリ | 密 | 良 | 橙褐色 | |
| 201 | 72 | 2区 SS6 | 甑 | ※26.8 | － | △5.6 | 外面：ハケ、指押さえ<br>内面：口縁部ナデ、胴部ケズリ | 密 | 良 | 褐色 | |
| 202 | 72 | 2区 SS6 | 土製支脚 | － | － | △12.7 | ケズリ、指押さえ | 密 | 良 | 褐色 | |
| 203 | 72 | 2区 SS6 | 土製支脚 | 長さ4.8 | 幅3.0 | 厚さ3.2 | ケズリ | 密 | 良 | 褐色 | |
| 204 | 72 | 2区 SS6 | 移動式竈 | － | － | △30.1 | 外面：ハケ<br>内面：ケズリ | 密 | 良 | 橙褐色 | |
| 205 | 72 | 2区 SS6 | 移動式竈 | － | ※28.3 | △4.2 | 外面：ナデ<br>内面：ケズリ | 密 | 良 | 橙褐色 | |
| 206 | 72 | 2区 SS6 | 須恵器 坏蓋 | ※13.6 | － | △2.2 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ | 密 | 良好 | 青灰色 | |
| 207 | 72 | 2区 SS6 | 須恵器 坏蓋 | ※9.5 | － | △3.2 | 外面：天井部ケズリ後ナデ、口縁部回転ナデ<br>内面：天井部ナデ、口縁部回転ナデ | 密 | 良好 | 青灰色 | |
| 208 | 72 | 2区 SS6 | 須恵器 坏身 | ※10.6 | － | △3.6 | 外面：口縁部回転ナデ、底部回転ヘラケズリ<br>内面：回転ナデ | 密 | 良好 | 青灰色 | |
| 209 | 72 | 2区 SS6 | 須恵器 坏身 | ※9.5 | － | △2.4 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ | 密 | 良好 | 青灰色 | |
| 210 | 72 | 2区 SS6 | 須恵器 坏身 | ※10.9 | － | 4.9 | 外面：口縁部回転ナデ、底部ヘラ切り後雑なナデ<br>内面：口縁部回転ナデ、底部ナデ | 密 | 良好 | 灰褐色 | |
| 211 | 72 | 2区 SS6 | 須恵器 坏身 | ※11.9 | － | 4.2 | 外面：口縁部回転ナデ、底部ヘラ切り後ナデ<br>内面：口縁部回転ナデ、底部ナデ | 密 | 良好 | 灰褐色 | |
| 212 | 72 | 2区 SS6 | 須恵器 高坏 | － | － | △2.5 | 外面：回転ナデ<br>内面：ナデ | 密 | 良好 | 灰色 | 外面三股状の刻書あり |
| 213 | 72 | 2区 SS6 | 須恵器 高坏 | － | ※10.2 | △3.0 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ | 密 | 良好 | 青灰色 | |
| 214 | 72 | 2区 SS6 | 須恵器 高坏 | － | ※9.8 | △4.8 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ | 密 | やや良 | 灰色 | |
| 215 | 74 | 2区 SS7 | 土師質土器 坏身 | ※12.8 | ※7.0 | 4.4 | 外面：口縁部回転ナデ、底部回転糸切り<br>内面：口縁部回転ナデ、底部ナデ | 密 | 良好 | 橙褐色 | |
| 216 | 76 | 2区 SS8 | 弥生土器 甕 | ※23.4 | － | △3.4 | 外面：口縁端部３条の凹線、頸部ナデ<br>内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ | 密 | 良 | 黄褐色 | |

| 遺物番号 | 挿図番号 | 遺構層位 | 種別器種 | 法量(cm) 口径 | 底径 | 器高 | 調整・文様 | 胎土 | 焼成 | 色調 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 217 | 76 | 2区 SS8 | 土師器 甕 | ※21.6 | － | △5.0 | 外面：ナデ<br>内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ | 密 | 良 | 褐色 | 内外面煤付着 |
| 218 | 76 | 2区 SS8 | 土師器 甕 | ※16.0 | － | △6.7 | 外面：ナデ<br>内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ | 密 | 良 | 橙褐色 | |
| 219 | 76 | 2区 SS8 | 土師器 甕 | ※16.8 | － | △4.0 | 外面：口縁部ナデ、頸部ハケ<br>内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ | 密 | 良 | 橙褐色 | |
| 220 | 76 | 2区 SS8 | 土師器 甕 | ※13.6 | － | △5.3 | 外面：口縁部ナデ、指押さえ、頸部ハケ<br>内面：口縁部ハケ、頸部ケズリ | 密 | 良 | 橙褐色 | |
| 221 | 76 | 2区 SS8 | 土師器 甕 | ※29.4 | － | △5.3 | 外面：口縁部ナデ、頸部ケズリ後ナデ<br>内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ | 密 | 良 | 橙褐色 | |
| 222 | 76 | 2区 SS8 | 土師器 甕 | ※13.6 | － | △2.9 | 外面：ナデ<br>内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ | 密 | 良 | 褐色 | |
| 223 | 76 | 2区 SS8 | 土師器 甕 | ※18.6 | － | △4.3 | 外面：ナデ<br>内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ | 密 | やや良 | 赤褐色 | |
| 224 | 76 | 2区 SS8 | 土師器 甕 | ※20.6 | － | △4.0 | 外面：ナデ<br>内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ | 密 | 良 | 褐色 | |
| 225 | 76 | 2区 SS8 | 土師器 甕 | ※21.4 | － | △4.3 | 外面：ナデ<br>内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ | 密 | 良 | 橙褐色 | |
| 226 | 76 | 2区 SS8 | 土師器 甕 | ※21.6 | － | △2.9 | 外面：ナデ<br>内面：口縁部ハケ、頸部ケズリ | 密 | 良 | 橙褐色 | |
| 227 | 76 | 2区 SS8 | 土師器 甕 | ※24.6 | － | △4.9 | 外面：ナデ、指押さえ<br>内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ | 密 | 良 | 淡褐色 | |
| 228 | 76 | 2区 SS8 | 土師器 甕 | ※16.6 | － | △5.1 | 外面：ナデ<br>内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ | 密 | 良 | 褐色 | |
| 229 | 76 | 2区 SS8 | 土師器 甕 | ※20.2 | － | △4.7 | 外面：ハケ<br>内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ | 密 | 良 | 橙褐色 | |
| 230 | 76 | 2区 SS8 | 土師器 甕 | ※20.6 | － | △5.2 | 外面：ハケ<br>内面：口縁部ハケ、頸部ケズリ | 密 | 良 | 橙褐色 | |
| 231 | 76 | 2区 SS8 | 土師器 甕 | ※24.6 | － | △6.1 | 外面：ナデ<br>内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ | 密 | やや良 | 淡褐色 | |
| 232 | 76 | 2区 SS8 | 土師器 甕 | ※12.8 | － | △4.8 | 外面：ナデ<br>内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ | 密 | やや良 | 橙褐色 | |
| 233 | 76 | 2区 SS8 | 土師器 埦 | ※14.8 | － | △3.6 | 外面：ミガキ<br>内面：ミガキ | 密 | 良 | 橙褐色 | |
| 234 | 76 | 2区 SS8 | 甑 把手 | 長さ5.1 | 幅4.2 | 厚さ3.7 | ケズリ後ナデ | 密 | 良 | 橙褐色 | |
| 235 | 77 | 2区 SS8 | 移動式竈 | － | － | △8.1 | 外面：ケズリ後ナデ<br>内面：ケズリ後ナデ | 密 | 良 | 橙褐色 | |
| 236 | 77 | 2区 SS8 | 移動式竈 | － | － | △8.1 | 外面：ケズリ後ナデ<br>内面：ケズリ | 密 | 良 | 橙褐色 | 内外面煤付着 |
| 237 | 77 | 2区 SS8 | 須恵器 坏蓋 | ※12.8 | － | △2.8 | 外面：天井部回転ヘラケズリ、口縁部回転ナデ<br>内面：回転ナデ | 密 | 良好 | 青灰色 | |
| 238 | 77 | 2区 SS8 | 須恵器 坏蓋 | ※12.8 | － | 4.6 | 外面：天井部回転ヘラケズリ、口縁部回転ナデ<br>内面：天井部ナデ、口縁部回転ナデ | 密 | 良好 | 青灰色 | |
| 239 | 77 | 2区 SS8 | 須恵器 坏蓋 | ※10.8 | － | △2.8 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ | 密 | 良好 | 青灰色 | |
| 240 | 77 | 2区 SS8 | 須恵器 坏蓋 | ※11.0 | － | △2.1 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ | 密 | 良好 | 青灰色 | |
| 241 | 77 | 2区 SS8 | 須恵器 坏身 | ※11.2 | － | △3.9 | 外面：口縁部回転ナデ、底部回転ヘラケズリ<br>内面：口縁部回転ナデ、底部ナデ | 密 | 良好 | 青灰色 | |
| 242 | 77 | 2区 SS8 | 須恵器 坏身 | ※11.2 | － | △3.9 | 外面：口縁部回転ナデ、底部回転ヘラケズリ<br>内面：口縁部回転ナデ、底部ナデ | 密 | 良好 | 青灰色 | |
| 243 | 77 | 2区 SS8 | 須恵器 坏身 | ※10.2 | － | △4.0 | 外面：口縁部回転ナデ、底部回転ヘラケズリ<br>内面：口縁部回転ナデ、底部ナデ | 密 | 良好 | 青灰色 | |

| 遺物番号 | 挿図番号 | 遺構層位 | 種別器種 | 法量(cm) 口径 | 底径 | 器高 | 調整・文様 | 胎土 | 焼成 | 色調 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 244 | 77 | 2区 SS8 | 須恵器 坏身 | ※10.6 | － | 3.5 | 外面：口縁部回転ナデ、底部回転ヘラケズリ<br>内面：口縁部回転ナデ、底部ナデ | 密 | 良好 | 青灰色 | |
| 245 | 77 | 2区 SS8 | 須恵器 坏身 | 10.7 | － | 3.7 | 外面：口縁部回転ナデ、底部回転ヘラケズリ<br>内面：口縁部回転ナデ、底部ナデ | 密 | 良好 | 青灰色 | 底部穿孔あり |
| 246 | 77 | 2区 SS8 | 須恵器 坏身 | ※12.2 | － | △2.6 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ | 密 | 良好 | 青灰色 | |
| 247 | 77 | 2区 SS8 | 須恵器 坏身 | ※9.8 | － | △3.3 | 外面：口縁部回転ナデ、底部回転ヘラケズリ<br>内面：口縁部回転ナデ、底部ナデ | 密 | 良好 | 青灰色 | |
| 248 | 78 | 2区 SS9 | 土師器 甕 | ※14.4 | － | △5.6 | 外面：口縁部ナデ、指押さえ、胴部ハケ<br>内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ | 密 | 良 | 橙褐色 | |
| 249 | 78 | 2区 SS9 | 土師器 甕 | ※22.0 | － | △5.4 | 外面：ナデ<br>内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ | 密 | 良 | 褐色 | |
| 250 | 78 | 2区 SS9 | 土師器 甕 | ※21.2 | － | △4.4 | 外面：ハケ<br>内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ | 密 | 良 | 橙褐色 | |
| 251 | 78 | 2区 SS9 | 土師器 甕 | ※20.2 | － | △5.1 | 外面：ナデ<br>内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ | 密 | 良 | 褐色 | |
| 252 | 78 | 2区 SS9 | 土師器 甕 | ※21.0 | － | △5.2 | 外面：ナデ<br>内面：口縁部ハケ、頸部ケズリ | 密 | 良 | 褐色 | |
| 253 | 78 | 2区 SS9 | 土師器 甕 | ※32.0 | － | △8.6 | 外面：ハケ<br>内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ | 密 | 良 | 褐色 | |
| 254 | 78 | 2区 SS9 | 土師器 甕 | ※36.2 | － | △8.5 | 外面：口縁部ナデ、頸部ハケ<br>内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ | 密 | やや良 | 橙褐色 | |
| 255 | 78 | 2区 SS9 | 須恵器 坏蓋 | ※13.7 | － | △3.5 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ | 密 | 良好 | 青灰色 | |
| 256 | 78 | 2区 SS9 | 須恵器 坏蓋 | ※14.4 | － | △3.4 | 外面：天井部回転ヘラケズリ、口縁部回転ナデ<br>内面：回転ナデ | 密 | 良好 | 青灰色 | |
| 257 | 78 | 2区 SS9 | 須恵器 坏蓋 | ※14.9 | － | △4.2 | 外面：天井部回転ヘラケズリ、口縁部回転ナデ<br>内面：天井部ナデ、口縁部回転ナデ | 密 | やや良 | 灰色 | |
| 258 | 78 | 2区 SS9 | 須恵器 坏蓋 | ※11.7 | － | △3.8 | 外面：天井部回転ヘラケズリ、口縁部回転ナデ<br>内面：天井部ナデ、口縁部回転ナデ | 密 | 良好 | 灰色 | |
| 259 | 78 | 2区 SS9 | 須恵器 坏身 | ※15.0 | － | △3.1 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ | 密 | 良好 | 灰色 | |
| 260 | 78 | 2区 SS9 | 須恵器 坏身 | ※12.1 | － | 3.9 | 外面：口縁部回転ナデ、底部回転ヘラケズリ<br>内面：口縁部回転ナデ、底部ナデ | 密 | 不良 | 灰色 | |
| 261 | 78 | 2区 SS9 | 須恵器 坏身 | ※11.1 | － | △3.3 | 外面：口縁部回転ナデ、底部回転ヘラケズリ<br>内面：回転ナデ | 密 | 良好 | 灰色 | |
| 262 | 78 | 2区 SS9 | 須恵器 坏身 | ※11.2 | － | △2.7 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ | 密 | 良好 | 灰色 | |
| 263 | 78 | 2区 SS9 | 須恵器 坏身 | ※11.2 | － | △2.9 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ | 密 | 良好 | 灰色 | |
| 264 | 78 | 2区 SS9 | 須恵器 坏身 | ※13.2 | － | △2.4 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ | 密 | 良好 | 灰色 | |
| 265 | 78 | 2区 SS9 | 須恵器 坏身 | ※11.4 | － | 4.2 | 外面：口縁部回転ナデ、底部回転ヘラケズリ後ナデ<br>内面：口縁部回転ナデ、底部ナデ | 密 | 良好 | 灰色 | |
| 266 | 78 | 2区 SS9 | 須恵器 高坏 | － | ※9.9 | △4.5 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ | 密 | 不良 | 灰褐色 | |
| 267 | 80 | 2区 SS11 | 土師器 甕 | ※15.6 | － | △5.1 | 外面：ナデ<br>内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ | 密 | 良 | 褐色 | |
| 268 | 80 | 2区 SS11 | 土師器 甕 | ※13.2 | － | △5.6 | 外面：口縁部ナデ、頸部ハケ<br>内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ、指押さえ | 密 | やや良 | 橙褐色 | |
| 269 | 80 | 2区 SS11 | 土師器 甕 | ※22.6 | － | △5.0 | 外面：ナデ<br>内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ | 密 | 良 | 褐色 | |
| 270 | 80 | 2区 SS11 | 土師器 甕 | ※23.2 | － | △4.3 | 外面：ナデ<br>内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ | 密 | 良 | 褐色 | |

| 遺物番号 | 挿図番号 | 遺構層位 | 種別器種 | 法量(cm) 口径 | 底径 | 器高 | 調整・文様 | 胎土 | 焼成 | 色調 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 271 | 80 | 2区 SS11 | 移動式竈 | － | － | △20.5 | 外面：ハケ<br>内面：ケズリ | 密 | 良 | 黄灰色 | |
| 272 | 80 | 2区 SS11 | 須恵器 坏蓋 | － | － | △2.1 | 外面：天井部回転ヘラケズリ、胴部回転ナデ<br>内面：天井部ナデ、胴部回転ナデ | 密 | 良好 | 青灰色 | |
| 273 | 80 | 2区 SS11 | 須恵器 坏蓋 | ※11.8 | － | 3.7 | 外面：天井部回転ヘラケズリ、口縁部回転ナデ<br>内面：天井部ナデ、口縁部回転ナデ | 密 | 良好 | 灰色 | |
| 274 | 80 | 2区 SS11 | 須恵器 坏身 | ※13.8 | － | △4.6 | 外面：口縁部回転ナデ、底部回転ヘラケズリ<br>内面：回転ナデ | 密 | 良好 | 灰色 | |
| 275 | 82 | 3区 SS1 | 土製支脚 | － | ※9.6 | △5.6 | 外面：ケズリ | 密 | 良 | 橙褐色 | |
| 276 | 84 | 3区 SS2 | 土師器 壺 | ※10.0 | － | △5.6 | 外面：ナデ<br>内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ | 密 | 良 | 灰褐色 | |
| 277 | 84 | 3区 SS2 | 土師器 甕 | ※9.6 | － | △4.7 | 外面：ナデ<br>内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ | 密 | 良 | 灰褐色 | |
| 278 | 84 | 3区 SS2 | 土師器 甕 | ※11.7 | － | △3.8 | 外面：ナデ<br>内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ | 密 | 良 | 灰褐色 | |
| 279 | 84 | 3区 SS2 | 土師器 甕 | ※14.8 | － | △3.2 | 外面：ナデ<br>内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ | 密 | 良 | 橙褐色 | |
| 280 | 84 | 3区 SS2 | 甑 把手 | 長さ7.6 | 幅4.9 | 厚さ4.1 | ケズリ後ナデ | 密 | 良 | 灰褐色 | |
| 281 | 84 | 3区 SS2 | 須恵器 坏身 | ※11.0 | － | △3.7 | 外面：口縁部回転ナデ、底部回転ヘラケズリ<br>内面：回転ナデ | 密 | 良好 | 青灰色 | |
| 282 | 84 | 3区 SS2 | 須恵器 高坏 | － | ※14.8 | △3.3 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ | 密 | 良好 | 青灰色 | |
| 283 | 85 | 3区 SS3 | 土師器 甕 | ※17.4 | － | △4.0 | 外面：ナデ<br>内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ | 密 | 良 | 褐色 | |
| 284 | 85 | 3区 SS3 | 土師器 甕 | ※19.6 | － | △5.3 | 外面：ナデ<br>内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ | 密 | 良 | 褐色 | |
| 285 | 85 | 3区 SS3 | 土師器 甕 | ※20.8 | － | △7.4 | 外面：ナデ、肩部ハケ<br>内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ | 密 | 良 | 灰褐色 | 内面赤色塗彩 |
| 286 | 85 | 3区 SS3 | 土師器 甕 | ※23.4 | － | △4.7 | 外面：ナデ<br>内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ | 密 | やや良 | 橙褐色 | 内外面赤色塗彩 |
| 287 | 85 | 3区 SS3 | 土師器 甕 | ※26.6 | － | △3.7 | 外面：ナデ<br>内面：摩耗のため調整不明 | 密 | 良 | 橙褐色 | |
| 288 | 85 | 3区 SS3 | 土師器 甕 | ※28.0 | － | △5.1 | 外面：ナデ<br>内面：ナデ、指押さえ | 密 | 良 | 褐色 | |
| 289 | 85 | 3区 SS3 | 土師器 甕 | ※31.4 | － | △5.2 | 外面：ナデ<br>内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ | 密 | 良 | 褐色 | |
| 290 | 85 | 3区 SS3 | 土師器 甕 | ※20.1 | － | △3.7 | 外面：ナデ<br>内面：口縁部ハケ、頸部ケズリ | 密 | 良 | 橙褐色 | |
| 291 | 85 | 3区 SS3 | 土師器 坏身 | ※13.0 | － | △3.0 | 外面：ナデ<br>内面：ナデ | 密 | やや良 | 橙褐色 | 内外面赤色塗彩 |
| 292 | 85 | 3区 SS3 | 甑 把手 | 長さ5.8 | 幅3.0 | 厚さ3.4 | ナデ、指押さえ | 密 | 良 | 橙褐色 | |
| 293 | 85 | 3区 SS3 | 甑 把手 | 長さ8.3 | 幅4.4 | 厚さ4.5 | ケズリ後ナデ | 密 | 良 | 灰褐色 | |
| 294 | 85 | 3区 SS3 | 移動式竈 | － | － | △12.3 | 外面：ハケ、ナデ<br>内面：ケズリ後ナデ | 密 | 良 | 褐色 | |
| 295 | 85 | 3区 SS3 | 須恵器 坏蓋 | ※13.0 | － | △4.6 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ | 密 | 良好 | 灰色 | |
| 296 | 85 | 3区 SS3 | 須恵器 坏蓋 | ※15.2 | － | △3.5 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ | 密 | 良好 | 青灰色 | |
| 297 | 85 | 3区 SS3 | 須恵器 坏蓋 | ※14.0 | － | △5.0 | 外面：天井部回転ヘラケズリ、口縁部回転ナデ<br>内面：天井部ナデ、口縁部回転ナデ | 密 | 良好 | 淡青灰色 | |

| 遺物番号 | 挿図番号 | 遺構層位 | 種別器種 | 法量(cm) 口径 | 底径 | 器高 | 調整・文様 | 胎土 | 焼成 | 色調 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 298 | 85 | 3区 SS3 | 須恵器 坏蓋 | ※11.9 | － | △4.4 | 外面：天井部回転ヘラケズリ、口縁部回転ナデ<br>内面：天井部ナデ、口縁部回転ナデ | 密 | 良好 | 灰色 | |
| 299 | 85 | 3区 SS3 | 須恵器 坏蓋 | ※13.6 | － | △3.8 | 外面：天井部回転ヘラケズリ、口縁部回転ナデ<br>内面：回転ナデ | 密 | 良好 | 灰色 | |
| 300 | 85 | 3区 SS3 | 須恵器 坏蓋 | ※12.6 | － | △3.5 | 外面：天井部回転ヘラケズリ、口縁部回転ナデ<br>内面：回転ナデ | 密 | 良好 | 灰色 | |
| 301 | 85 | 3区 SS3 | 須恵器 坏蓋 | ※13.6 | － | △2.9 | 外面：天井部回転ヘラケズリ、口縁部回転ナデ<br>内面：回転ナデ | 密 | 良好 | 灰色 | |
| 302 | 85 | 3区 SS3 | 須恵器 坏蓋 | ※13.0 | － | △3.7 | 外面：天井部回転ヘラケズリ、口縁部回転ナデ<br>内面：天井部ナデ、口縁部回転ナデ | 密 | 良好 | 青灰色 | |
| 303 | 85 | 3区 SS3 | 須恵器 坏身 | ※13.3 | － | △3.5 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ | 密 | 良好 | 青灰色 | |
| 304 | 85 | 3区 SS3 | 須恵器 坏身 | ※15.6 | － | △2.7 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ | 密 | 良好 | 淡青灰色 | |
| 305 | 85 | 3区 SS3 | 須恵器 坏身 | ※12.5 | － | △3.4 | 外面：口縁部回転ナデ、底部回転ヘラケズリ<br>内面：回転ナデ | 密 | 良好 | 灰色 | |
| 306 | 85 | 3区 SS3 | 須恵器 坏身 | ※12.0 | － | △2.9 | 外面：口縁部回転ナデ、底部回転ヘラケズリ<br>内面：回転ナデ | 密 | 良好 | 暗赤灰色 | |
| 307 | 85 | 3区 SS3 | 須恵器 坏身 | ※11.4 | － | 3.2 | 外面：口縁部回転ナデ、底部回転ヘラケズリ<br>内面：口縁部回転ナデ、底部ナデ | 密 | 良好 | 青灰色 | |
| 308 | 85 | 3区 SS3 | 須恵器 坏身 | ※11.5 | － | △3.9 | 外面：口縁部回転ナデ、底部回転ヘラケズリ<br>内面：口縁部回転ナデ、底部ナデ | 密 | 良好 | 灰色 | |
| 309 | 85 | 3区 SS3 | 須恵器 坏身 | ※11.2 | － | △3.2 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ | 密 | 良好 | 灰色 | |
| 310 | 85 | 3区 SS3 | 須恵器 平瓶 | ※12.0 | － | △4.7 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ | 密 | 良好 | 青灰色 | 灰かぶり |
| 311 | 85 | 3区 SS3 | 須恵器 甕 | － | － | △6.3 | 外面：回転ナデ、波状文<br>内面：回転ナデ | 密 | 良好 | 青灰色 | |
| 312 | 86 | 3区 SB1 | 須恵器 坏身 | ※14.0 | － | △3.5 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ | 密 | 良好 | 灰色 | |
| 313 | 86 | 3区 SB1 | 須恵器 高坏 | ※16.7 | － | △3.8 | 外面：回転ナデ、波状文<br>内面：回転ナデ | 密 | 良好 | 灰色 | |
| 314 | 87 | 3区 SB2 | 土師器 甕 | ※27.6 | － | △5.2 | 外面：ナデ<br>内面：口縁部ナデ、頸部ナデ、指押さえ | 密 | 良 | 褐色 | |
| 315 | 89 | 3区 SK1 | 土師器 甕 | ※28.4 | － | △9.1 | 外面：口縁部ナデ、肩部ハケ<br>内面：口縁部ハケ、ナデ、指押さえ、頸部ケズリ | 密 | 良 | 橙褐色 | |
| 316 | 89 | 3区 SK1 | 土師器 甕 | ※22.6 | － | △9.3 | 外面：ナデ、指押さえ<br>内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ、指押さえ | 密 | 良 | 褐色 | |
| 317 | 92 | 2区 SI11 | 弥生土器 甕 | ※20.0 | － | △2.8 | 外面：口縁部５条の凹線、ナデ<br>内面：ナデ | 密 | 良 | 黄灰白色 | |
| 318 | 92 | 2区 SI11 | 弥生土器 甕 | ※17.2 | － | △2.6 | 外面：ナデ<br>内面：ナデ | 密 | やや良 | 橙褐色 | |
| 319 | 92 | 2区 SI11 | 土師器 坏身 | ※10.4 | － | 7.2 | 外面：ナデ<br>内面：ナデ | 密 | 良 | 赤褐色 | 内外面赤色塗彩 |
| 320 | 92 | 2区 SI11 | 土師器 高坏 | － | ※9.4 | △2.4 | 外面：ナデ<br>内面：ナデ、指押さえ | 密 | 良 | 橙褐色 | |
| 321 | 92 | 2区 SI11 | 須恵器 坏蓋 | ※10.8 | － | △2.6 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ | 密 | 良好 | 灰色 | |
| 322 | 92 | 2区 SI11 | 須恵器 高坏 | － | － | △7.0 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ | 密 | 良好 | 灰色 | |
| 323 | 94 | 2区 SS2 | 土師器 甕 | ※25.8 | － | △5.3 | 外面：ナデ<br>内面：ナデ | 密 | 良 | 褐色 | 外面煤付着 |
| 324 | 94 | 2区 SS2 | 土師器 甕 | ※17.8 | － | △4.0 | 外面：口縁部ナデ、頸部ハケ<br>内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ | 密 | 良 | 褐色 | |

| 遺物番号 | 挿図番号 | 遺構<br>層位 | 種別<br>器種 | 法量（cm）<br>口径 | 底径 | 器高 | 調整・文様 | 胎土 | 焼成 | 色調 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 325 | 94 | 2区<br>SS2 | 土師器<br>甕 | ※18.2 | － | △4.8 | 外面：口縁部ナデ、頸部ハケ後ナデ<br>内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ | 密 | 良 | 褐色 | |
| 326 | 94 | 2区<br>SS2 | 土師器<br>甕 | ※18.2 | － | △11.0 | 外面：口縁部ナデ、頸部ハケ後指押さえ<br>内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ、指押さえ | 密 | 良 | 褐色 | |
| 327 | 94 | 2区<br>SS2 | 土師器<br>甕 | ※19.0 | － | △4.5 | 外面：ナデ<br>内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ | 密 | 良 | 褐色 | |
| 328 | 94 | 2区<br>SS2 | 土師器<br>甕 | ※32.6 | － | △2.7 | 外面：ナデ<br>内面：ナデ | 密 | 良 | 橙褐色 | |
| 329 | 94 | 2区<br>SS2 | 土師器<br>甕 | ※35.0 | － | △2.6 | 外面：口縁部ナデ、指押さえ、頸部ハケ<br>内面：口縁部ナデ、指押さえ、頸部ケズリ | 密 | 良 | 褐色 | |
| 330 | 94 | 2区<br>SS2 | 土師器<br>甕 | ※31.2 | － | △3.1 | 外面：ナデ、指押さえ<br>内面：ナデ、指押さえ | 密 | 良 | 褐色 | |
| 331 | 94 | 2区<br>SS2 | 土師器<br>甕 | ※36.3 | － | △8.7 | 外面：口縁部ナデ、指押さえ、肩部ハケ後ナデ、指押さえ<br>内面：口縁部ナデ、指押さえ、頸部ケズリ、指押さえ | 密 | 良 | 褐色 | 外面煤付着 |
| 332 | 94 | 2区<br>SS2 | 土師器<br>皿 | ※15.8 | － | △2.2 | 外面：口縁部ナデ、底部ケズリ<br>内面：ナデ | 密 | 良 | 橙褐色 | 内外面赤色塗彩 |
| 333 | 94 | 2区<br>SS2 | 土師器<br>坏身 | － | ※8.8 | △2.1 | 外面：ナデ<br>内面：ナデ | 密 | 良 | 褐色 | 内外面赤色塗彩 |
| 334 | 94 | 2区<br>SS2 | 土師器<br>坏身 | － | ※9.4 | △2.8 | 外面：高台部ナデ、底部ケズリ後ナデ、指押さえ<br>内面：ナデ、線刻 | 密 | 良 | 褐色 | 外面赤色塗彩<br>底部内面線刻あり |
| 335 | 94 | 2区<br>SS2 | 須恵器<br>坏蓋 | ※10.5 | － | 2.7 | 外面：天井部ケズリ、口縁部回転ナデ<br>内面：天井部ナデ、口縁部回転ナデ | 密 | 良好 | 青灰色 | |
| 336 | 94 | 2区<br>SS2 | 須恵器<br>坏身 | － | 9.4 | △1.7 | 外面：胴部回転ナデ、底部回転糸切り後ナデ<br>内面：ナデ | 密 | 良好 | 青灰色 | |
| 337 | 94 | 2区<br>SS2 | 須恵器<br>横瓶 | ※11.2 | － | 21.2 | 外面：口縁部回転ナデ、胴部平行叩き<br>内面：口縁部回転ナデ、胴部車輪状の当て具痕 | 密 | 良好 | 青灰色 | |
| 338 | 96 | 3区<br>P1 | 須恵器<br>坏蓋 | ※14.2 | － | △4.5 | 外面：天井部回転ヘラケズリ、口縁部回転ナデ<br>内面：天井部ナデ、口縁部回転ナデ | 密 | 良好 | 青灰色 | |
| 339 | 96 | 3区<br>P1 | 土師器<br>甕 | ※18.8 | － | △6.6 | 外面：ナデ<br>内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ | 密 | 良 | 褐色 | |
| 340 | 97 | 3区－B<br>トレンチ | 弥生土器<br>甕 | ※27.4 | － | △10.5 | 外面：口縁端部刻み目、頸部6条のヘラ描沈線、胴部ハケ<br>内面：ハケ、指押さえ | 密 | 良 | 灰褐色 | |
| 341 | 97 | 3区－C<br>Ⅳ層 | 弥生土器<br>壺 | ※18.4 | － | △5.7 | 外面：口縁端部2条の凹線、頸部ナデ、列点文<br>内面：ナデ | 密 | 良 | 灰褐色 | |
| 342 | 97 | 3区－A<br>Ⅴ層 | 弥生土器<br>甕 | ※18.4 | － | △4.4 | 外面：口縁端部4条の凹線、頸部ナデ<br>内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ | 密 | 良 | 黄褐色 | |
| 343 | 97 | 2区<br>Ⅲ層 | 弥生土器<br>甕 | ※12.8 | － | △2.3 | 外面：口縁端部4条の凹線、頸部ナデ<br>内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ | 密 | 良 | 褐色 | 穿孔あり |
| 344 | 97 | 2区<br>Ⅲ層 | 弥生土器<br>甕 | ※17.0 | － | △3.1 | 外面：口縁端部3条の凹線、頸部ナデ<br>内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ | 密 | 良 | 褐色 | 外面煤付着 |
| 345 | 97 | 2区<br>Ⅲ層 | 弥生土器<br>甕 | ※22.4 | － | △9.3 | 外面：口縁端部6条の凹線、頸部摩耗のため調整不明<br>内面：口縁部ナデ、頸部摩耗のため調整不明 | 密 | 良 | 橙褐色 | |
| 346 | 97 | 3区－B<br>Ⅵ層 | 弥生土器<br>甕 | ※16.8 | － | △4.8 | 外面：口縁端部5条の凹線、頸部ナデ、櫛状工具による押引文<br>内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ | 密 | 良 | 橙褐色 | |
| 347 | 97 | 3区－A<br>Ⅳ層 | 弥生土器<br>甕 | ※29.3 | － | △6.5 | 外面：口縁端部凹線、頸部ナデ<br>内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ | 密 | 良 | 褐色 | |
| 348 | 97 | 2区<br>Ⅲ層 | 弥生土器<br>甕 | ※15.8 | － | △10.1 | 外面：口縁端部8条の凹線、頸部ヘラ状工具と貝殻状工具による列点文、胴部ハケ<br>内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ | 密 | 良 | 橙褐色 | |
| 349 | 97 | 3区－B<br>Ⅵ層 | 弥生土器<br>底部 | － | ※16.1 | △8.0 | 外面：ハケ<br>内面：ケズリ後ナデ | 密 | 良 | 橙褐色 | |
| 350 | 97 | 3区－B<br>Ⅵ層 | 弥生土器<br>底部 | － | ※9.4 | △3.4 | 外面：ハケ後ナデ<br>内面：ナデ、指押さえ | 密 | 良 | 橙褐色 | |
| 351 | 97 | 3区－C<br>Ⅳ層 | 弥生土器<br>底部 | － | ※6.9 | △2.3 | 外面：ナデ、指押さえ<br>内面：ハケ | 密 | 良 | 橙褐色 | |

| 遺物番号 | 挿図番号 | 遺構層位 | 種別器種 | 法量(cm) 口径 | 底径 | 器高 | 調整・文様 | 胎土 | 焼成 | 色調 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 352 | 97 | 3区－B Ⅵ層 | 弥生土器 底部 | － | ※7.1 | △4.4 | 外面：ナデ<br>内面：ナデ、指押さえ | 密 | 良 | 橙褐色 | |
| 353 | 97 | 3区－A Ⅴ層 | 弥生土器 底部 | － | ※6.2 | △2.7 | 外面：ケズリ後ナデ<br>内面：ケズリ後ナデ | 密 | 良 | 橙褐色 | |
| 354 | 97 | 3区－B Ⅳ層 | 弥生土器 底部 | － | ※7.5 | △4.5 | 外面：ケズリ後ナデ<br>内面：ケズリ後ナデ、指押さえ | 密 | 良 | 褐色 | |
| 355 | 97 | 3区－B Ⅵ層 | 弥生土器 底部 | － | ※3.3 | △4.4 | 外面：ミガキ<br>内面：ケズリ | 密 | 良 | 灰褐色 | |
| 356 | 97 | 3区－B Ⅵ層 | 弥生土器 底部 | － | ※5.6 | △3.0 | 外面：ミガキ、指押さえ<br>内面：指押さえ | 密 | 良 | 橙褐色 | |
| 357 | 97 | 3区－B Ⅵ層 | 弥生土器 壺 | － | － | △3.3 | 外面：刻み目、３条の沈線、竹管文、渦巻きスタンプ文<br>内面：ケズリ | 密 | 良 | 褐色 | |
| 358 | 97 | 3区－B Ⅵ層 | 土師器 甕 | ※10.8 | － | △4.1 | 外面：ナデ<br>内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ | 密 | 良 | 褐色 | |
| 359 | 97 | 3区－A Ⅴ層 | 土師器 甕 | ※17.3 | － | △5.5 | 外面：ナデ<br>内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ | 密 | 良 | 灰褐色 | |
| 360 | 97 | 3区－B Ⅵ層 | 土師器 甕 | ※11.0 | － | △4.2 | 外面：ナデ<br>内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ | 密 | 良 | 褐色 | |
| 361 | 97 | 3区－B Ⅴ層 | 土師器 甕 | ※17.8 | － | △3.9 | 外面：ナデ<br>内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ | 密 | 良 | 淡褐色 | |
| 362 | 97 | 3区－B Ⅵ層 | 土師器 甕 | ※16.7 | － | △5.4 | 外面：ナデ<br>内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ | 密 | 良 | 灰褐色 | |
| 363 | 97 | 3区－B Ⅵ層 | 土師器 甕 | ※18.0 | － | △5.3 | 外面：口縁部ナデ、頸部ハケ<br>内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ | 密 | 良 | 黒茶色 | |
| 364 | 97 | 3区－B Ⅴ層 | 土師器 甕 | ※23.2 | － | △4.9 | 外面：ナデ、指押さえ<br>内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ | 密 | 良 | 橙褐色 | 内外面煤付着 |
| 365 | 97 | 3区－C Ⅳ層 | 土師器 甕 | ※17.4 | － | △6.0 | 外面：ナデ<br>内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ | やや密 | 良 | 橙褐色 | |
| 366 | 97 | 3区 トレンチ | 土師器 甕 | ※16.2 | － | △7.5 | 外面：口縁部ナデ、頸部ハケ<br>内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ | 密 | 良 | 灰褐色 | |
| 367 | 98 | 3区－C Ⅳ層 | 土師器 甕 | ※17.6 | － | △6.3 | 外面：ハケ後ナデ<br>内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ | 密 | 良 | 橙褐色 | |
| 368 | 98 | 3区－B Ⅴ層 | 土師器 甕 | ※15.6 | － | △4.8 | 外面：ハケ後ナデ<br>内面：口縁部ナデ、指押さえ、頸部ケズリ | 密 | 良 | 淡褐色 | |
| 369 | 98 | 3区－B Ⅵ層 | 土師器 甕 | ※14.7 | － | △3.9 | 外面：ハケ<br>内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ | 密 | 良 | 橙褐色 | |
| 370 | 98 | 3区－A Ⅴ層 | 土師器 甕 | ※19.8 | － | △5.4 | 外面：ナデ、指押さえ<br>内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ | 密 | 良 | 褐色 | |
| 371 | 98 | 3区－C Ⅲ層 | 土師器 甕 | ※15.6 | － | △4.2 | 外面：口縁部ナデ、頸部ハケ<br>内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ | 密 | 良 | 褐色 | |
| 372 | 98 | 3区－B Ⅳ層 | 土師器 甕 | ※17.6 | － | △6.0 | 外面：口縁部ナデ、指押さえ、頸部ハケ<br>内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ | 密 | 良 | 褐色 | |
| 373 | 98 | 3区－B Ⅴ層 | 土師器 甕 | ※9.4 | － | △4.2 | 外面：ハケ<br>内面：口縁部ハケ、頸部ケズリ後指押さえ | 密 | 良 | 淡褐色 | |
| 374 | 98 | 3区－A Ⅴ層 | 土師器 甕 | ※9.8 | － | △6.3 | 外面：ナデ<br>内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ後ナデ | 密 | やや良 | 黄褐色 | |
| 375 | 98 | 3区－A Ⅴ層 | 土師器 甕 | ※11.8 | － | △5.0 | 外面：ハケ後ナデ<br>内面：口縁部ハケ、頸部ケズリ | 密 | 良 | 淡褐色 | |
| 376 | 98 | 3区－B Ⅵ層 | 土師器 甕 | ※14.1 | － | △10.9 | 外面：ハケ、指押さえ<br>内面：口縁部ハケ、頸部ケズリ、指押さえ | 密 | 良 | 灰褐色 | |
| 377 | 98 | 3区－A Ⅳ層 | 土師器 甕 | ※15.2 | － | △3.8 | 外面：ハケ<br>内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ | 密 | 良 | 褐色 | |

| 遺物番号 | 挿図番号 | 遺構<br>層位 | 種別<br>器種 | 法量（cm）<br>口径 | 底径 | 器高 | 調整・文様 | 胎土 | 焼成 | 色調 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 378 | 98 | 3区－B<br>Ⅴ層 | 土師器<br>甕 | ※15.6 | － | △4.4 | 外面：ナデ<br>内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ | 密 | 良 | 淡褐色 | |
| 379 | 98 | 3区－B<br>Ⅳ層 | 土師器<br>甕 | ※16.6 | － | △3.4 | 外面：ナデ、指押さえ<br>内面：ナデ | 密 | 良 | 褐色 | |
| 380 | 98 | 3区－B<br>Ⅳ層 | 土師器<br>甕 | ※17.4 | － | △4.4 | 外面：口縁部ナデ、指押さえ、頸部ハケ<br>内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ | 密 | 良 | 灰褐色 | |
| 381 | 98 | 3区－B<br>Ⅳ層 | 土師器<br>甕 | ※17.4 | － | △3.8 | 外面：ナデ<br>内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ | 密 | 良 | 褐色 | |
| 382 | 98 | 3区－C<br>Ⅳ層 | 土師器<br>甕 | ※18.4 | － | △4.9 | 外面：ハケ後ナデ、指押さえ<br>内面：口縁部ハケ、頸部ケズリ | 密 | 良 | 褐色 | |
| 383 | 98 | 3区－A<br>Ⅴ層 | 土師器<br>甕 | ※18.6 | － | △5.9 | 外面：ナデ<br>内面：口縁部ナデ、指押さえ、頸部ケズリ | 密 | 良 | 褐色 | |
| 384 | 98 | 3区－B<br>Ⅳ層 | 土師器<br>甕 | ※18.8 | － | △5.9 | 外面：ハケ<br>内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ | 密 | 良 | 褐色 | |
| 385 | 98 | 3区－B<br>Ⅳ層 | 土師器<br>甕 | ※19.4 | － | △3.0 | 外面：ナデ<br>内面：ナデ | 密 | 良 | 褐色 | |
| 386 | 98 | 3区－A<br>Ⅲ層 | 土師器<br>甕 | ※20.8 | － | △4.8 | 外面：ナデ<br>内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ | 密 | 良 | 褐色 | |
| 387 | 98 | 3区－A<br>Ⅴ層 | 土師器<br>甕 | ※21.8 | － | △10.7 | 外面：ハケ<br>内面：口縁部ハケ、頸部ケズリ | 密 | 良 | 灰褐色 | |
| 388 | 98 | 3区－B<br>Ⅴ層 | 土師器<br>甕 | ※23.6 | － | △4.1 | 外面：ナデ、指押さえ<br>内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ | 密 | 良 | 橙褐色 | |
| 389 | 98 | 3区－A<br>Ⅳ層 | 土師器<br>甕 | ※25.4 | － | △4.8 | 外面：ハケ後指押さえ<br>内面：口縁部ナデ、指押さえ、頸部ケズリ | 密 | 良 | 灰褐色 | |
| 390 | 98 | 3区－C<br>Ⅳ層 | 土師器<br>甕 | ※26.0 | － | △4.2 | 外面：ナデ<br>内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ | 密 | 良 | 灰褐色 | |
| 391 | 98 | 3区－B<br>Ⅳ層 | 土師器<br>甕 | ※17.5 | － | △5.8 | 外面：口縁部ナデ、頸部ハケ<br>内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ | 密 | 良 | 褐色 | |
| 392 | 99 | 3区－A<br>Ⅳ層 | 土師器<br>甕 | ※20.2 | － | △7.0 | 外面：口縁部ナデ、指押さえ、胴部ハケ、指押さえ<br>内面：口縁部ナデ、指押さえ、頸部ケズリ | 密 | 良 | 褐色 | |
| 393 | 99 | 3区－A<br>Ⅴ層 | 土師器<br>甕 | ※24.6 | － | △4.9 | 外面：ナデ<br>内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ | 密 | やや良 | 橙褐色 | |
| 394 | 99 | 3区－A<br>Ⅵ層 | 土師器<br>壺 | ※9.8 | － | △4.8 | 外面：ミガキ<br>内面：口縁部ミガキ、頸部ケズリ | 密 | 良 | 赤褐色 | 内外面赤色塗彩 |
| 395 | 99 | 3区－A<br>Ⅴ層 | 土師器<br>高坏 | ※21.8 | － | △5.3 | 外面：ミガキ<br>内面：ミガキ | 密 | 良 | 橙褐色 | |
| 396 | 99 | 3区－A<br>Ⅴ層 | 土師器<br>高坏 | ※16.8 | － | △5.1 | 外面：ナデ<br>内面：ミガキ | 密 | やや良 | 橙褐色 | |
| 397 | 99 | 3区－B<br>Ⅵ層 | 土師器<br>高坏 | ※26.6 | － | △7.0 | 外面：ミガキ<br>内面：ミガキ | 密 | 良 | 灰褐色 | |
| 398 | 99 | 2区<br>Ⅲ層 | 土師器<br>高坏 | ※15.8 | － | △3.7 | 外面：ミガキ<br>内面：ミガキ | 密 | 良 | 褐色 | 内外面赤色塗彩 |
| 399 | 99 | 3区－B<br>トレンチ | 土師器<br>高坏 | － | 10.6 | △8.6 | 外面：坏部ナデ、脚部ミガキ、裾部ケズリ後ナデ<br>内面：坏部ナデ、脚部ケズリ、裾部ナデ | 密 | 良 | 橙褐色 | |
| 400 | 99 | 3区－C<br>Ⅳ層 | 土師器<br>高坏 | － | 10.1 | △2.6 | 外面：ナデ、指押さえ<br>内面：ケズリ後ナデ | 密 | 良 | 橙褐色 | |
| 401 | 99 | 3区－A<br>Ⅵ層 | 土師器<br>高坏 | － | ※6.6 | △3.1 | 外面：ミガキ、指押さえ<br>内面：ケズリ後ナデ | 密 | 良 | 橙褐色 | |
| 402 | 99 | 3区－A<br>Ⅳ層 | 土師器<br>高坏 | － | ※10.2 | △3.5 | 外面：ミガキ<br>内面：指押さえ | 密 | 良 | 褐色 | |
| 403 | 99 | 3区－C<br>Ⅴ層 | 土師器<br>高坏 | － | － | △5.9 | 外面：ケズリ後ミガキ<br>内面：ケズリ | 密 | 良 | 橙褐色 | |
| 404 | 99 | 3区－A<br>Ⅴ層 | 土師器<br>高坏 | － | ※10.6 | △7.2 | 外面：ナデ<br>内面：ケズリ、ナデ、指押さえ | 密 | 良 | 灰褐色 | |

| 遺物番号 | 挿図番号 | 遺構層位 | 種別器種 | 法量(cm) 口径 | 底径 | 器高 | 調整・文様 | 胎土 | 焼成 | 色調 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 405 | 99 | 3区－A Ⅴ層 | 土師器 高坏 | － | ※10.6 | △6.4 | 外面：ケズリ後ミガキ<br>内面：脚部ケズリ、裾部ナデ | やや密 | やや良 | 橙褐色 | |
| 406 | 99 | 3区－B Ⅵ層 | 土師器 低脚坏 | － | ※5.0 | △1.3 | 外面：ナデ<br>内面：ナデ | 密 | 良 | 褐色 | |
| 407 | 99 | 3区－C Ⅲ層 | 甑 把手 | 長さ5.3 | 幅5.6 | 厚さ2.4 | ハケ、ケズリ後ナデ | 密 | 良 | 褐色 | |
| 408 | 99 | 3区－A Ⅳ層 | 甑 把手 | 長さ7.5 | 幅6.2 | 厚さ3.1 | ケズリ後ナデ | 密 | 良 | 褐色 | |
| 409 | 99 | 3区－A Ⅳ層 | 甑 把手 | 長さ8.1 | 幅6.5 | 厚さ3.0 | ハケ、ケズリ後ナデ | 密 | 良 | 褐色 | |
| 410 | 99 | 3区－A Ⅴ層 | 甑 把手 | 長さ10.8 | 幅7.4 | 厚さ3.9 | ケズリ後指押さえ | 密 | 良 | 灰褐色 | |
| 411 | 99 | 3区－A Ⅴ層 | 甑 把手 | 長さ10.2 | 幅7.0 | 厚さ3.6 | ケズリ後ナデ | 密 | 良 | 灰褐色 | |
| 412 | 99 | 3区－A Ⅴ層 | 土製支脚 | － | － | △14.6 | ケズリ、ナデ | 密 | 良 | 橙褐色 | |
| 413 | 100 | 2区 Ⅲ層 | 移動式竈 | － | － | △9.0 | 外面：ハケ、指押さえ<br>内面：ケズリ後指押さえ | 密 | 良 | 褐色 | |
| 414 | 100 | 3区－C Ⅳ層 | 移動式竈 | － | － | △28.7 | 外面：ハケ<br>内面：ケズリ | 密 | やや良 | 灰褐色 | |
| 415 | 100 | 3区－B Ⅴ層 | 移動式竈 | － | － | △5.2 | 外面：ケズリ後指押さえ<br>内面：ケズリ後指押さえ | 密 | 良 | 淡褐色 | |
| 416 | 100 | 3区－B Ⅴ層 | 移動式竈 | － | － | △8.7 | 外面：ハケ後ナデ、指押さえ<br>内面：ケズリ | 密 | 良 | 褐色 | |
| 417 | 100 | 3区 Ⅴ層 | ミニチュア土器 | 2.7 | － | 3.2 | 外面：指押さえ<br>内面：指押さえ | 密 | 良 | 淡褐色 | |
| 418 | 100 | 3区－A Ⅴ層 | 土玉 | 径3.6 | － | 2.6 | 指押さえ後ナデ | 密 | 良 | 褐色 | |
| 419 | 100 | 3区－B Ⅳ層 | 須恵器 蓋 | ※9.8 | － | 4.1 | 外面：天井部回転ヘラケズリ、口縁部回転ナデ<br>内面：天井部ナデ、口縁部回転ナデ | 密 | 良好 | 青灰色 | |
| 420 | 100 | 3区－C Ⅵ層 | 須恵器 坏蓋 | ※11.8 | － | △3.1 | 外面：天井部回転ヘラケズリ、口縁部回転ナデ<br>内面：天井部ナデ、口縁部回転ナデ | 密 | 良好 | 青灰色 | |
| 421 | 100 | 3区－B Ⅳ層 | 須恵器 坏蓋 | ※13.6 | － | △3.8 | 外面：天井部回転ヘラケズリ、口縁部回転ナデ<br>内面：天井部ナデ、口縁部回転ナデ | 密 | 良好 | 青灰色 | |
| 422 | 100 | 3区－D Ⅳ層 | 須恵器 坏蓋 | ※19.1 | － | △3.2 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ | 密 | 良好 | 灰色 | |
| 423 | 100 | 3区－C Ⅵ層 | 須恵器 坏蓋 | 13.3 | － | 4.5 | 外面：天井部回転ヘラケズリ、口縁部回転ナデ<br>内面：天井部ナデ、口縁部回転ナデ | 密 | 良好 | 青灰色 | 天井部内面線刻あり |
| 424 | 100 | 3区－B Ⅳ層 | 須恵器 坏蓋 | ※13.2 | － | △3.2 | 外面：天井部回転ヘラケズリ、口縁部回転ナデ<br>内面：天井部ナデ、口縁部回転ナデ | 密 | 良好 | 暗赤灰色 | |
| 425 | 100 | 3区－B Ⅴ層 | 須恵器 坏蓋 | ※13.8 | － | 4.1 | 外面：天井部回転ヘラケズリ、口縁部回転ナデ<br>内面：天井部ナデ、口縁部回転ナデ | 密 | 良好 | 青灰色 | |
| 426 | 100 | 3区－A Ⅳ層 | 須恵器 坏身 | ※9.7 | － | △3.5 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ | 密 | 良好 | 青灰色 | |
| 427 | 100 | 3区－B Ⅴ層 | 須恵器 坏身 | ※11.8 | － | △4.9 | 外面：回転ナデ<br>内面：口縁部回転ナデ、底部ナデ | 密 | 良好 | 灰色 | |
| 428 | 100 | 3区－A Ⅴ層 | 須恵器 坏身 | ※14.4 | － | △3.1 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ | 密 | 良好 | 青灰色 | |
| 429 | 100 | 3区－D Ⅳ層 | 須恵器 坏身 | ※15.4 | － | △4.7 | 外面：口縁部回転ナデ、底部回転ヘラケズリ<br>内面：口縁部回転ナデ、底部ナデ | 密 | 良好 | 灰色 | |
| 430 | 100 | 3区－B Ⅳ層 | 須恵器 坏身 | ※10.2 | － | △4.2 | 外面：口縁部回転ナデ、底部回転ヘラケズリ<br>内面：口縁部回転ナデ、底部ナデ | 密 | 良好 | 青灰色 | |
| 431 | 100 | 3区－A Ⅳ層 | 須恵器 坏身 | ※12.6 | － | 5.5 | 外面：口縁部回転ナデ、底部回転ヘラケズリ<br>内面：口縁部回転ナデ、底部ナデ | 密 | 良好 | 灰色 | |

| 遺物番号 | 挿図番号 | 遺構<br>層位 | 種別<br>器種 | 法量（cm）<br>口径 | 底径 | 器高 | 調整・文様 | 胎土 | 焼成 | 色調 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 432 | 100 | 3区－A<br>Ⅳ層 | 須恵器<br>坏身 | ※10.9 | － | △6.4 | 外面：口縁部回転ナデ、底部回転ヘラケズリ<br>内面：口縁部回転ナデ、底部ナデ | 密 | 良好 | 青灰色 | |
| 433 | 100 | 3区－A<br>Ⅳ層 | 須恵器<br>坏身 | ※11.5 | － | △4.2 | 外面：口縁部回転ナデ、底部回転ヘラケズリ<br>内面：口縁部回転ナデ、底部ナデ | 密 | 良好 | 青灰色 | |
| 434 | 100 | 3区－A<br>Ⅳ層 | 須恵器<br>坏身 | ※11.6 | － | △2.7 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ | 密 | 良好 | 青灰色 | |
| 435 | 101 | 3区－C<br>Ⅳ層 | 須恵器<br>坏身 | ※13.2 | － | △2.8 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ | 密 | 良好 | 青灰色 | |
| 436 | 101 | 3区－B<br>Ⅳ層 | 須恵器<br>坏身 | ※13.2 | － | △4.1 | 外面：口縁部回転ナデ、底部回転ヘラケズリ<br>内面：口縁部回転ナデ、底部ナデ | 密 | 良好 | 青灰色 | |
| 437 | 101 | 3区－C<br>Ⅳ層 | 須恵器<br>坏身 | ※13.6 | － | △3.3 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ | 密 | 良好 | 灰色 | |
| 438 | 101 | 3区－B<br>Ⅵ層 | 須恵器<br>坏身 | ※11.4 | － | 4.0 | 外面：口縁部回転ナデ、底部回転ヘラケズリ<br>内面：口縁部回転ナデ、底部ナデ | 密 | 良好 | 青灰色 | |
| 439 | 101 | 3区－C<br>Ⅵ層 | 須恵器<br>坏身 | ※11.7 | － | △7.6 | 外面：口縁部回転ナデ、底部回転ヘラケズリ<br>内面：口縁部回転ナデ、底部ナデ | 密 | 良好 | 灰色 | |
| 440 | 101 | 3区－A<br>Ⅵ層 | 須恵器<br>坏身 | ※13.7 | － | △2.8 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ | 密 | 良好 | 青灰色 | |
| 441 | 101 | 3区－A<br>Ⅳ層 | 須恵器<br>坏身 | ※11.3 | － | △2.5 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ | 密 | 良好 | 青灰色 | |
| 442 | 101 | 3区－A<br>Ⅳ層 | 須恵器<br>坏身 | ※14.4 | － | △2.8 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ | 密 | 良好 | 青灰色 | |
| 443 | 101 | 3区－A<br>Ⅳ層 | 須恵器<br>坏身 | ※8.9 | － | △2.4 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ | 密 | 良好 | 青灰色 | |
| 444 | 101 | 3区－A<br>Ⅴ層 | 須恵器<br>坏身 | － | ※7.0 | △2.6 | 外面：胴部回転ナデ、底部回転糸切り<br>内面：回転ナデ | 密 | 良好 | 青灰色 | |
| 445 | 101 | 3区－A<br>Ⅳ層 | 須恵器<br>高坏 | ※16.2 | － | △9.0 | 外面：口縁部～胴部回転ナデ、胴部波状文、底部回転ヘラケズリ<br>内面：口縁部～胴部回転ナデ、底部ナデ | 密 | 良 | 青灰色 | |
| 446 | 101 | 3区－A<br>Ⅴ層 | 須恵器<br>高坏 | ※10.8 | ※9.7 | 8.9 | 外面：坏部口縁部～胴部回転ナデ、底部回転ヘラケズリ、脚部回転ナデ<br>内面：回転ナデ | 密 | 良好 | 青灰色 | |
| 447 | 101 | 3区－B<br>Ⅳ層 | 須恵器<br>高坏 | ※13.9 | 7.6 | 8.2 | 外面：回転ナデ<br>内面：坏部口縁部回転ナデ、底部ナデ、脚部回転ナデ | 密 | 良好 | 青灰色 | 方形２方向透かし |
| 448 | 101 | 3区－B<br>Ⅳ層 | 須恵器<br>高坏 | － | ※7.8 | △5.7 | 外面：回転ナデ<br>内面：坏部底部ナデ、脚部回転ナデ | 密 | 良好 | 青灰色 | 方形２方向透かし |
| 449 | 101 | 3区－A<br>Ⅳ層 | 須恵器<br>高坏 | － | ※9.4 | △7.4 | 外面：回転ナデ、竹管文<br>内面：坏部底部ナデ、脚部回転ナデ | 密 | 良好 | 青灰色 | 方形３方向透かし |
| 450 | 101 | 3区－A<br>Ⅴ層 | 須恵器<br>高坏 | － | ※11.1 | △7.4 | 外面：回転ナデ、竹管文<br>内面：坏部底部ナデ、脚部回転ナデ | 密 | 良好 | 青灰色 | 方形２方向透かし |
| 451 | 101 | 3区－B<br>Ⅳ層 | 須恵器<br>高坏 | － | － | △3.3 | 外面：回転ナデ、竹管文<br>内面：坏部底部ナデ、脚部回転ナデ | 密 | 良好 | 青灰色 | 三角形３方向透かし |
| 452 | 101 | 3区－B<br>Ⅳ層 | 須恵器<br>高坏 | － | － | △3.1 | 外面：回転ナデ、竹管文<br>内面：坏部底部ナデ、脚部回転ナデ | 密 | 良好 | 青灰色 | 方形２方向透かし |
| 453 | 101 | 2区<br>Ⅲ層 | 須恵器<br>高坏 | － | ※11.5 | △1.3 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ | 密 | 良好 | 青灰色 | |
| 454 | 101 | 3区－B<br>Ⅴ層 | 須恵器<br>器台 | － | － | △5.3 | 外面：回転ナデ、波状文<br>内面：回転ナデ | 密 | 良好 | 黒褐色 | 自然釉<br>三角形２段透かし |
| 455 | 101 | 3区－A<br>Ⅴ層 | 須恵器<br>壺 | ※18.8 | － | △4.8 | 外面：回転ナデ<br>内面：回転ナデ | 密 | 良好 | 灰色 | |
| 456 | 101 | 3区－A<br>Ⅴ層 | 須恵器<br>壺 | － | ※8.0 | △3.1 | 外面：ケズリ<br>内面：ケズリ後ナデ | 密 | 良好 | 青灰色 | |
| 457 | 101 | 3区－A<br>Ⅴ層 | 須恵器<br>壺 | － | ※12.6 | △8.0 | 外面：ケズリ後ナデ<br>内面：回転ナデ | 密 | 良好 | 青灰色 | |

| 遺物番号 | 挿図番号 | 遺構層位 | 種別器種 | 法量(cm) 口径 | 底径 | 器高 | 調整・文様 | 胎土 | 焼成 | 色調 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 458 | 101 | 3区－A Ⅳ層 | 須恵器 甕 | ※15.9 | － | △4.5 | 外面：回転ナデ<br>内面：口縁部回転ナデ、胴部同心円の当て具痕 | 密 | 良好 | 暗灰色 | |
| 459 | 101 | 3区－A Ⅳ層 | 須恵器 甕 | ※16.6 | － | △5.3 | 外面：回転ナデ<br>内面：口縁部回転ナデ、胴部同心円の当て具痕 | 密 | 良好 | 青灰色 | |
| 460 | 101 | 3区－B Ⅲ層 | 青磁 Ⅲ | ※15.8 | － | △3.1 | 内面：劃割花 | 密 | 良好 | 淡緑色 | 景徳鎮産 |

## 第37表　石器観察表

| 遺物番号 | 挿図番号 | 遺構層位 | 種別 | 法量(cm) 最大長 | 最大幅 | 最大厚 | 重量（g） | 石材 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| S１ | 18 | 2区　SI３ | 砥　石 | 14.0 | 6.0 | 5.6 | 609.7 | 凝灰岩 | |
| S２ | 24 | 2区　SS３ | 磨石・敲石 | 12.6 | 6.1 | 6.0 | 638.2 | 花崗岩 | |
| S３ | 24 | 2区　SS３ | 磨　石 | 12.3 | 5.8 | 5.6 | 497.0 | 角閃石安山岩 | |
| S４ | 26 | 2区　SK１ | 台　石 | 7.3 | 11.2 | 3.8 | 275.2 | デイサイト | |
| S５ | 28 | 2区　SK２ | 台　石 | 10.6 | 9.9 | 5.8 | 695.4 | デイサイト | |
| S６ | 32 | 2区　SS１ | 砥　石 | 6.3 | 2.9 | 2.5 | 58.4 | 凝灰岩 | |
| S７ | 32 | 2区　SS１ | 磨石・敲石 | 7.0 | 6.6 | 2.7 | 171.9 | デイサイト | |
| S８ | 32 | 2区　SS１ | 台　石 | 8.6 | 6.3 | 8.5 | 551.0 | 角閃石安山岩 | |
| S９ | 43 | 3区　SI３B | 磨製石斧 | 4.4 | 3.9 | 3.2 | 55.6 | デイサイト | |
| S10 | 43 | 3区　SI３B | 砥　石 | 8.9 | 4.2 | 3.0 | 99.5 | 凝灰岩 | |
| S11 | 60 | 3区　SI１ | 磨石・敲石 | 6.6 | 7.9 | 5.1 | 313.1 | デイサイト | |
| S12 | 66 | 3区　SI９ | 砥　石 | 8.9 | 6.3 | 4.9 | 262.0 | 花崗岩 | |
| S13 | 67 | 3区　SI12 | 砥　石 | 5.0 | 5.6 | 2.1 | 52.4 | 玄武岩 | |
| S14 | 72 | 2区　SS６ | 砥　石 | 4.9 | 4.0 | 2.0 | 51.0 | 砂　岩 | |
| S15 | 77 | 2区 SS８ P４ | 尖頭器 | 5.4 | 2.4 | 0.7 | 9.3 | サヌカイト | |
| S16 | 94 | 2区　SS２ | 砥　石 | 6.4 | 3.3 | 1.4 | 38.8 | 凝灰岩 | |
| S17 | 96 | 2区　P277 | 磨　石 | 15.8 | 8.6 | 4.7 | 827.6 | デイサイト | |
| S18 | 102 | 3区－A　Ⅴ層 | 楔形石器 | 1.7 | 2.8 | 0.9 | 3.3 | 黒曜石 | |
| S19 | 102 | 3区－B　Ⅵ層 | 砥　石 | 5.6 | 3.2 | 1.85 | 35.7 | 凝灰岩 | |
| S20 | 102 | 3区－A　Ⅳ層 | 磨　石 | 9.0 | 8.2 | 5.2 | 475.3 | デイサイト | |
| S21 | 102 | 3区 | 磨　石 | 7.8 | 6.4 | 2.9 | 197.9 | デイサイト | |
| S22 | 102 | 2区　Ⅲ層 | 磨　石 | 8.1 | 6.8 | 3.7 | 248.3 | デイサイト | |

## 第38表　鉄製品観察表

| 遺物番号 | 挿図番号 | 遺構層位 | 器種 | 法量(cm) 長さ | 幅 | 厚さ | 重量（g） | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| F１ | 101 | 3区－A　Ⅴ層 | 鉄　鑿 | 16.4 | 1.3 | 1.0 | 98.7 | 鹿角製の柄 |

# 写 真 図 版

２・３区調査前（南東から）

２区調査前（南東から）

図版2

２区調査前（北西から）

３区調査前（北西から）

２区調査前（北から）

２区調査前（北から）

図版4

調査地遠景（東から）

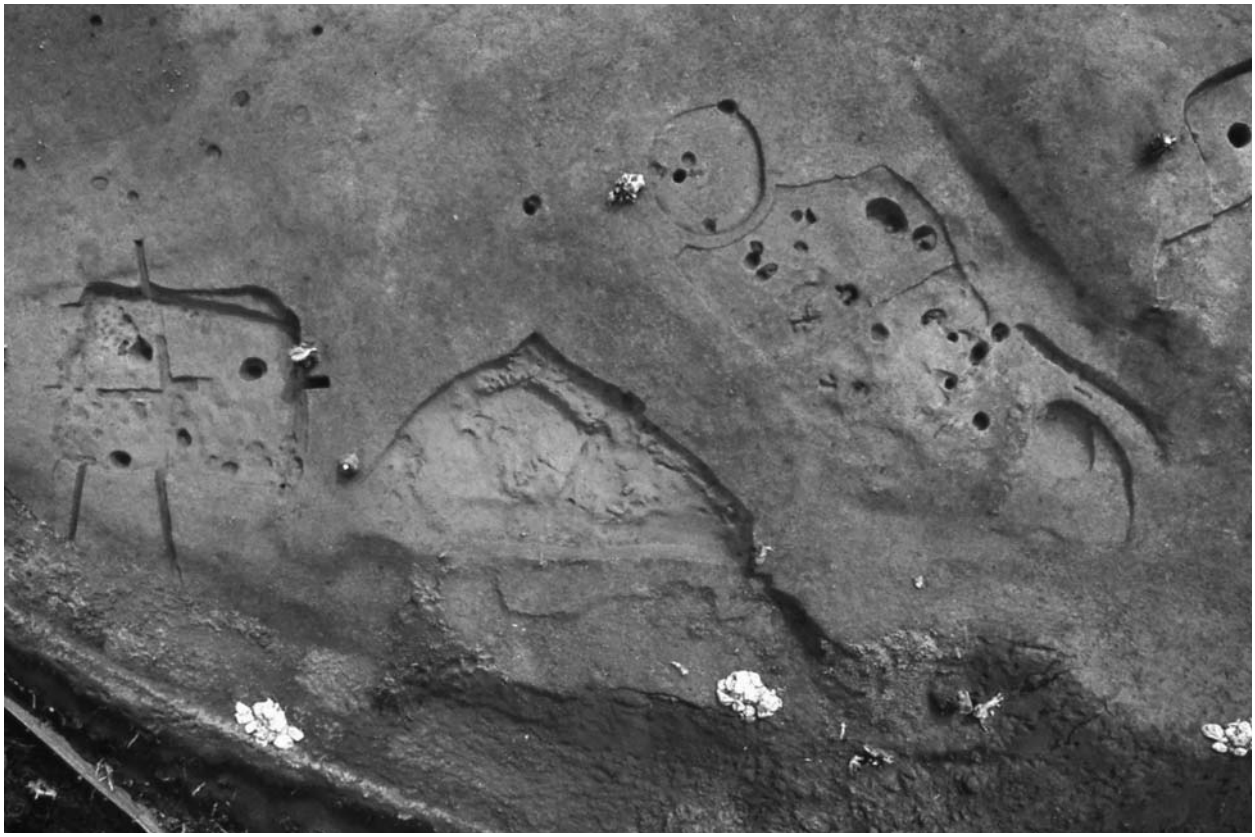
調査地遠景（北西から）

調査地全景（上空から）

調査地全景（東から）

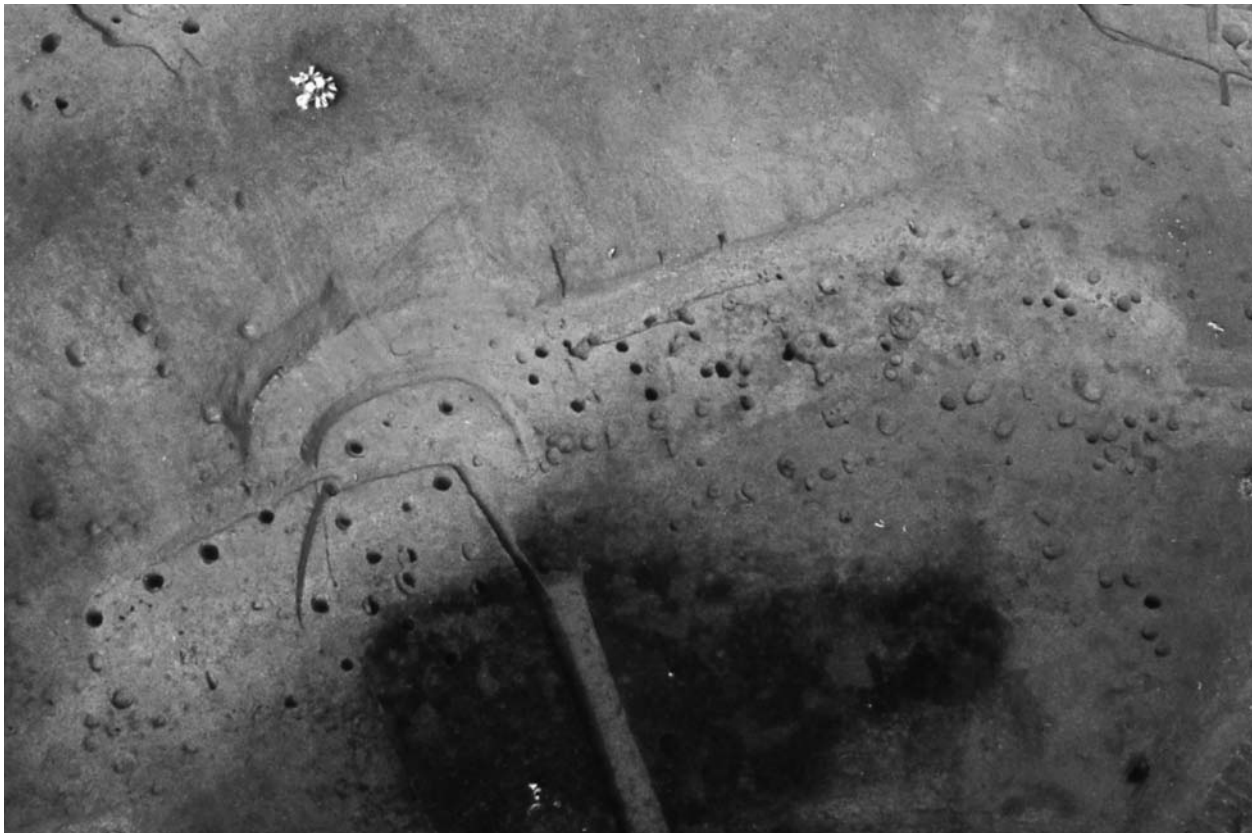
図版6

２区ＳＩ１・３・７・８、ＳＳ３・４・５・18、ＳＫ１・２・３、ＳＤ２（上空から）



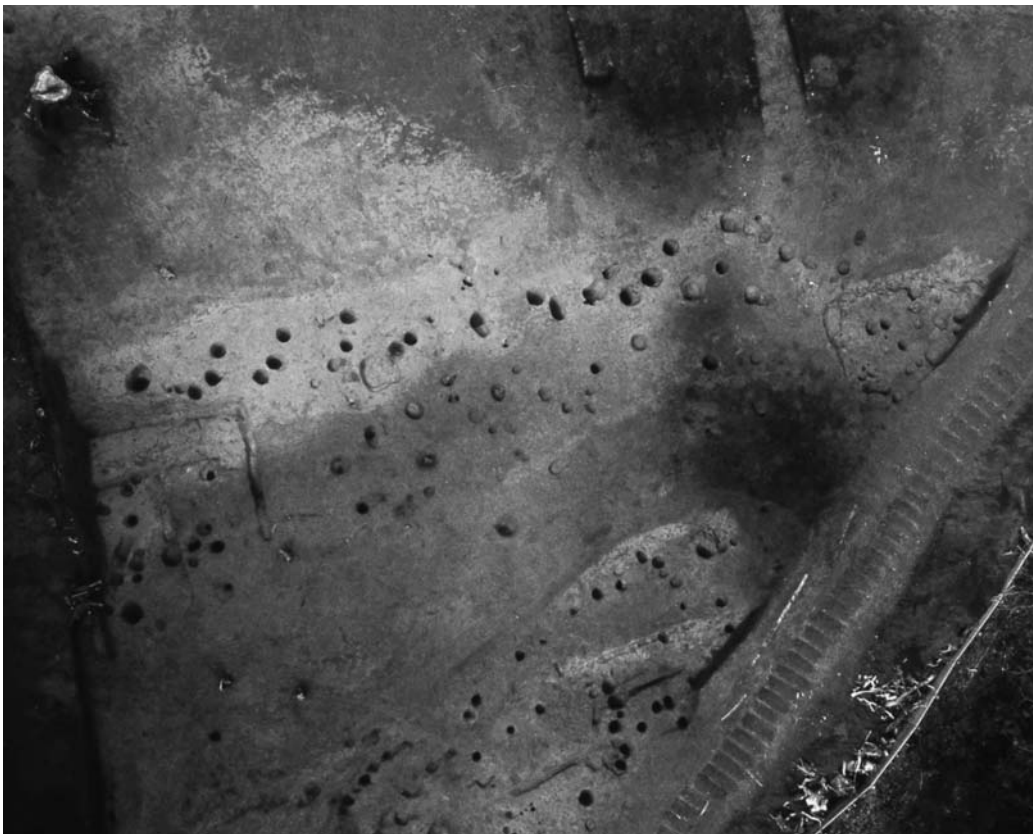
２区ＳＩ６、ＳＳ３・４・５、ＳＫ１・２・３、ＳＤ２（上空から）

２区東側斜面全景（上空から）



２区ＳＩ 13、ＳＳ１・15・16・17（上空から）

図版8



２区ＳＩ５・11・12、ＳＳ２（上空から）

２区ＳＩ９・10・15、ＳＳ６～９・11・12・13（上空から）

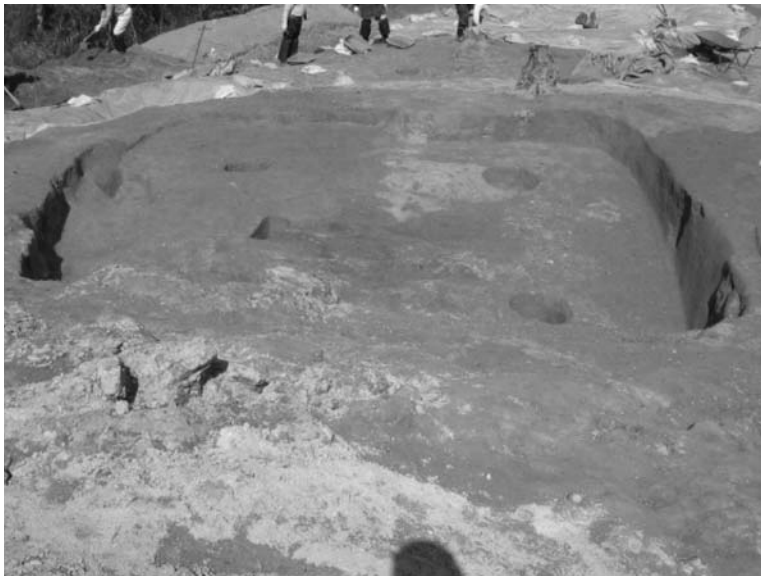
３区全景（南東から）

３区全景（北西から）

図版10

２区ＳＫ５（北西から）

２区ＳＩ１（南西から）



２区ＳＩ３（西から）

２区ＳＩ７・８（西から）

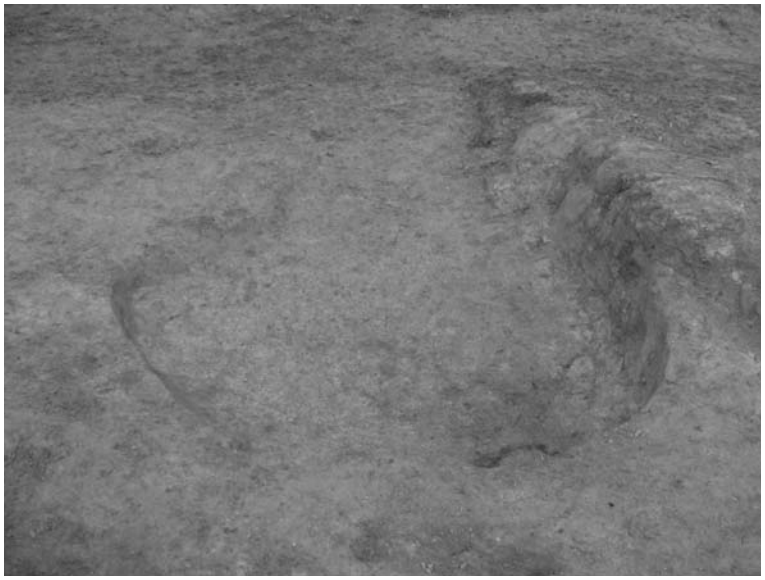
２区ＳＩ７（西から）

２区ＳＩ８（西から）

図版12

２区ＳＫ１（西から）

２区ＳＫ２・３、ＳＤ２（南東から）



２区ＳＫ３（南東から）

２区ＳＳ４・５（南西から）

２区ＳＳ４土器（59）出土状況

２区ＳＳ１・15・16・17、ＳＩ13
（北東から）

２区ＳＳ１（北東から）

図版14

２区ＳＳ17（北から）

２区ＳＳ15・16、ＳＩ13（北西から）

２区ＳＳ16、ＳＩ13（西から）

３区ＳＩ３Ａ（南から）

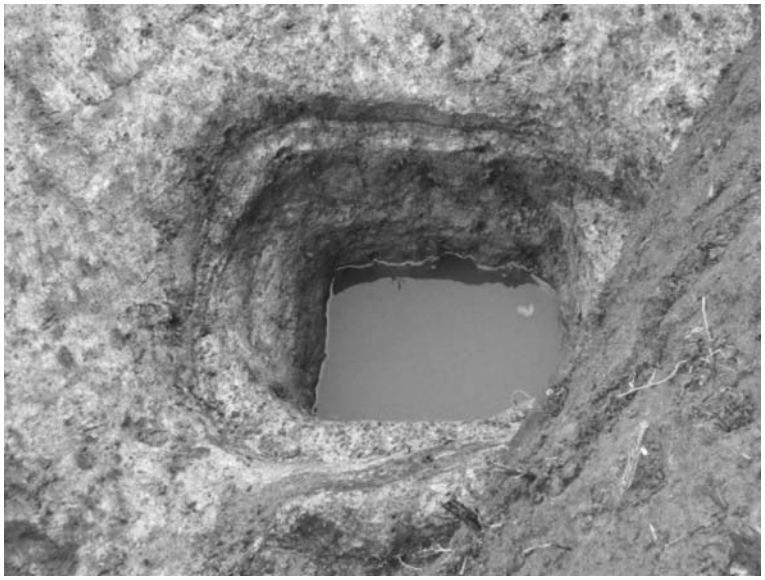
３区ＳＩ３Ｂ（西から）

３区ＳＩ３Ｂ（南から）

図版16

３区ＳＩ３Ｂ特殊ピット土器
（106・107）出土状況（西から）

３区ＳＩ３Ｂ特殊ピット土器
（106・107）出土状況（西から）



３区ＳＩ３Ｂ特殊ピット完掘（西から）

２区ＳＩ６（北東から）

２区ＳＩ14（北から）

２区ＳＩ14Ｐ５～７（北から）

図版18

２区ＳＩ５（南から）

２区ＳＩ５・12（南から）

２区ＳＩ12（南から）

３区ＳＩ１（東から）

３区ＳＩ１・２（東から）

３区ＳＩ１・２・10（東から）

図版20

３区ＳＩ７・９（東から）

３区ＳＩ７（東から）

３区ＳＩ７土器（189）出土状況

３区ＳＩ９（東から）

3区ＳＩ12（北から）

2区ＳＳ10（南から）

2区ＳＳ10・14（南から）

図版22

２区ＳＳ６～９（北から）

２区ＳＳ６～９（南から）

２区ＳＳ７（南から）

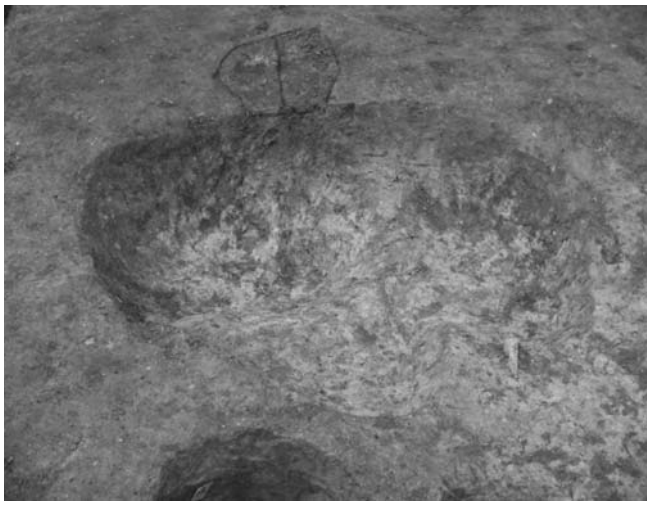
２区ＳＳ８（南から）

２区ＳＳ11・12（北から）

図版24

３区ＳＳ２・３、ＳＩ７・９（南から）

３区ＳＳ２・３、ＳＩ７・９（北から）



３区ＳＫ１

３区ＳＫ１土器出土状況

２区ＳＩ11Ａ（北東から）

２区ＳＩ11Ｂ（北東から）

図版26

２区ＳＳ２（南から）

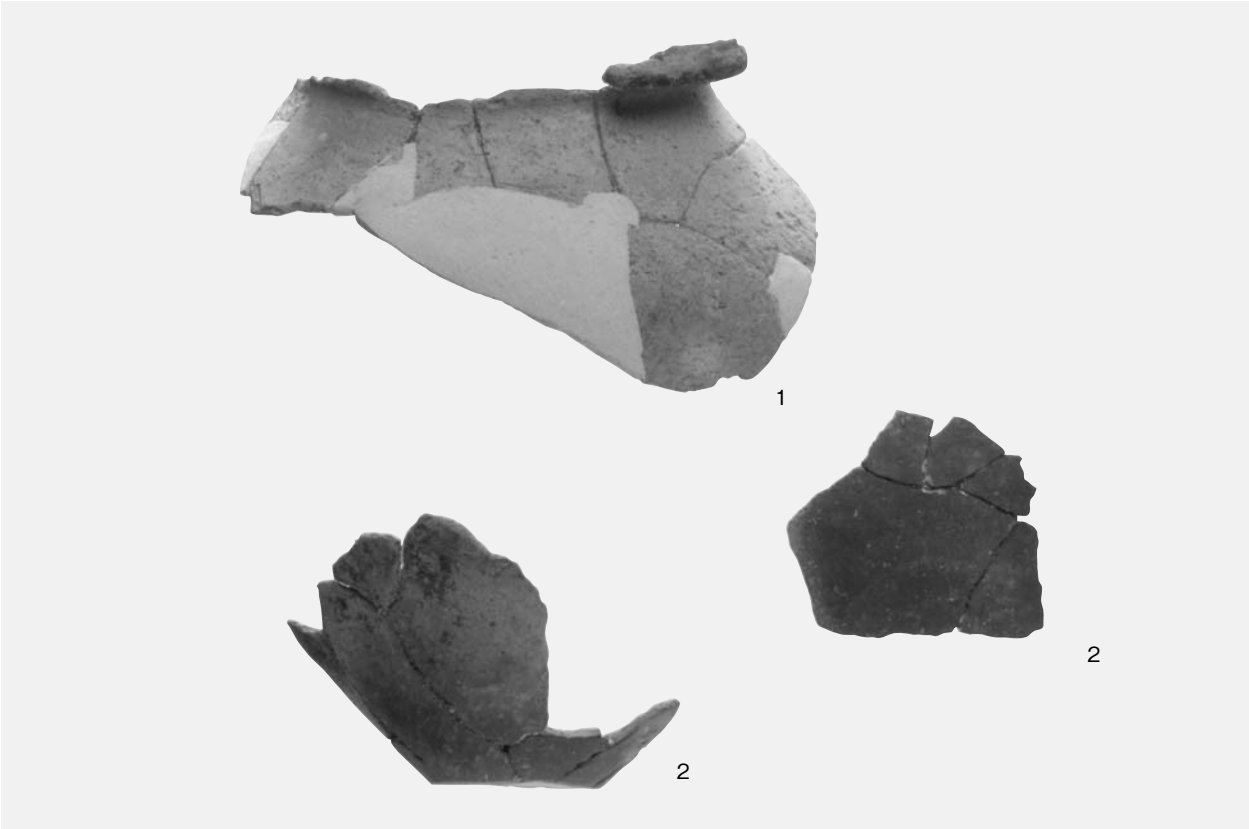
２区ＳＳ２（北から）

２区ＳＢ１～３（南から）

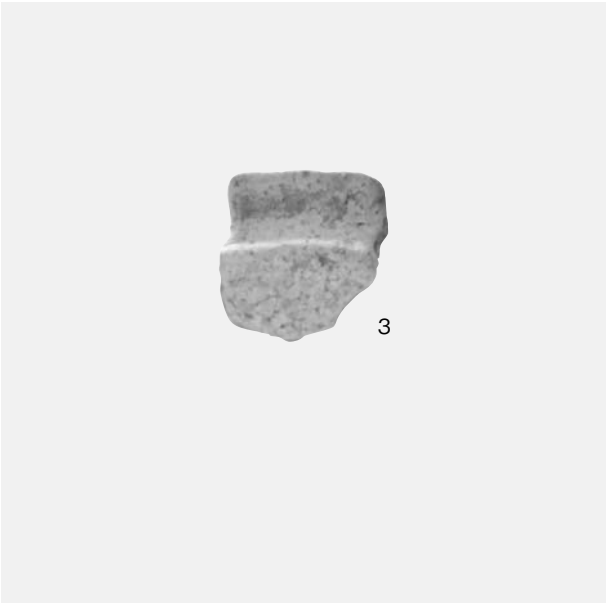
２区ＳＢ４（北から）

２区ＳＤ４（北西から）

図版28

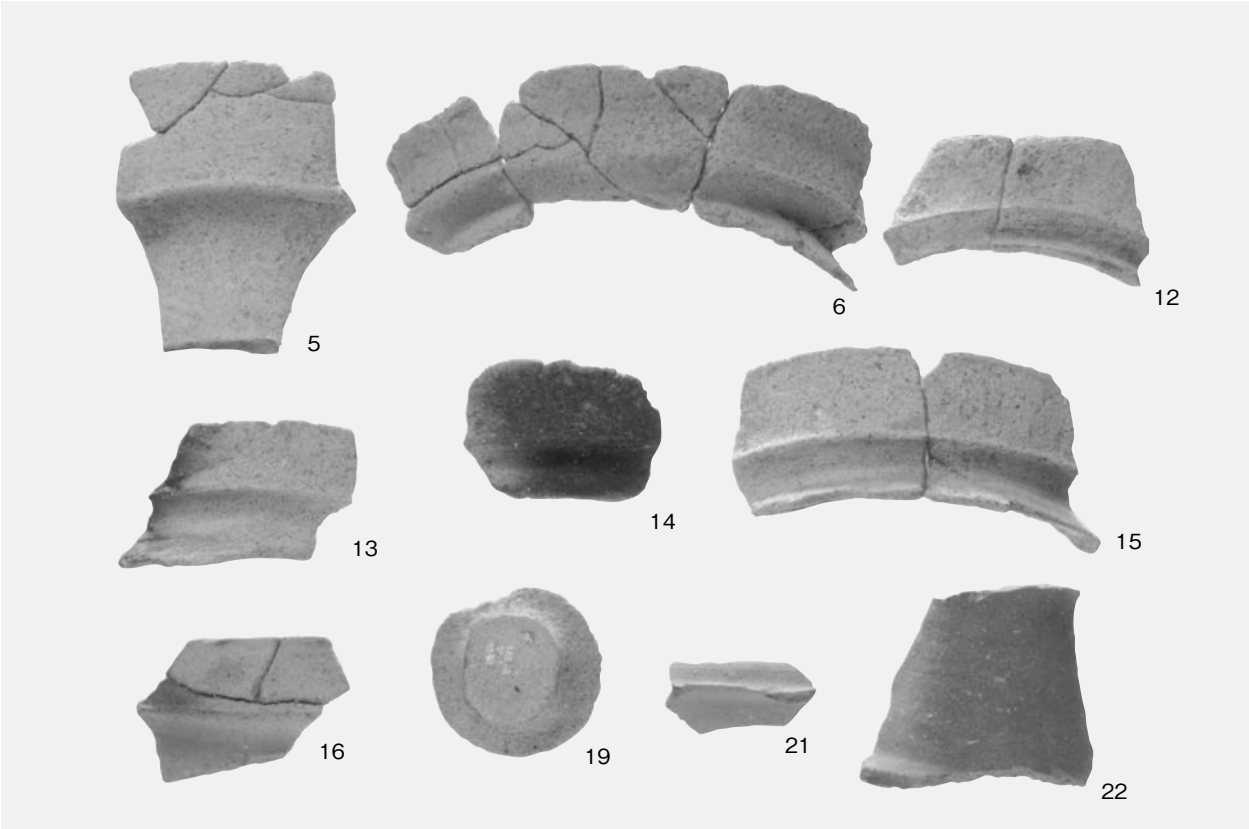



２区ＳＫ５出土遺物



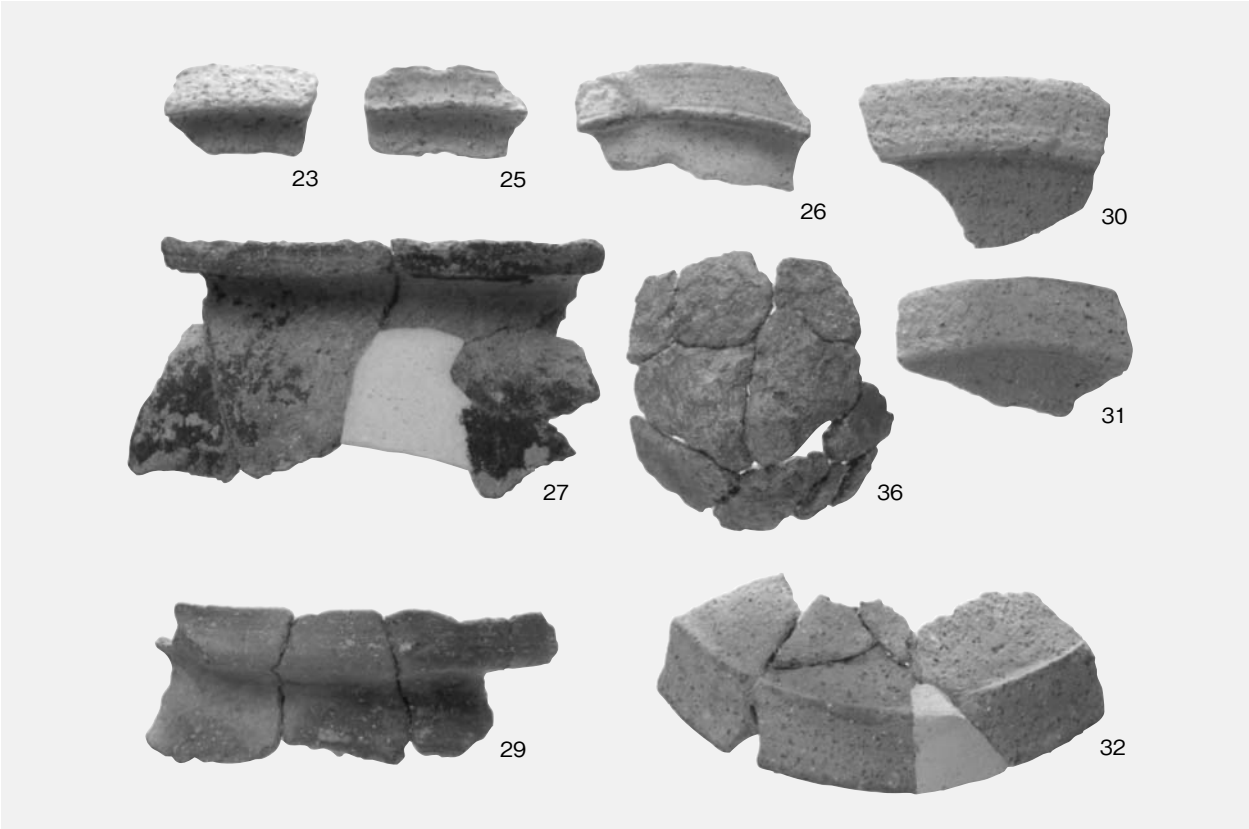

２区ＳＩ１出土遺物

２区ＳＩ３出土石器

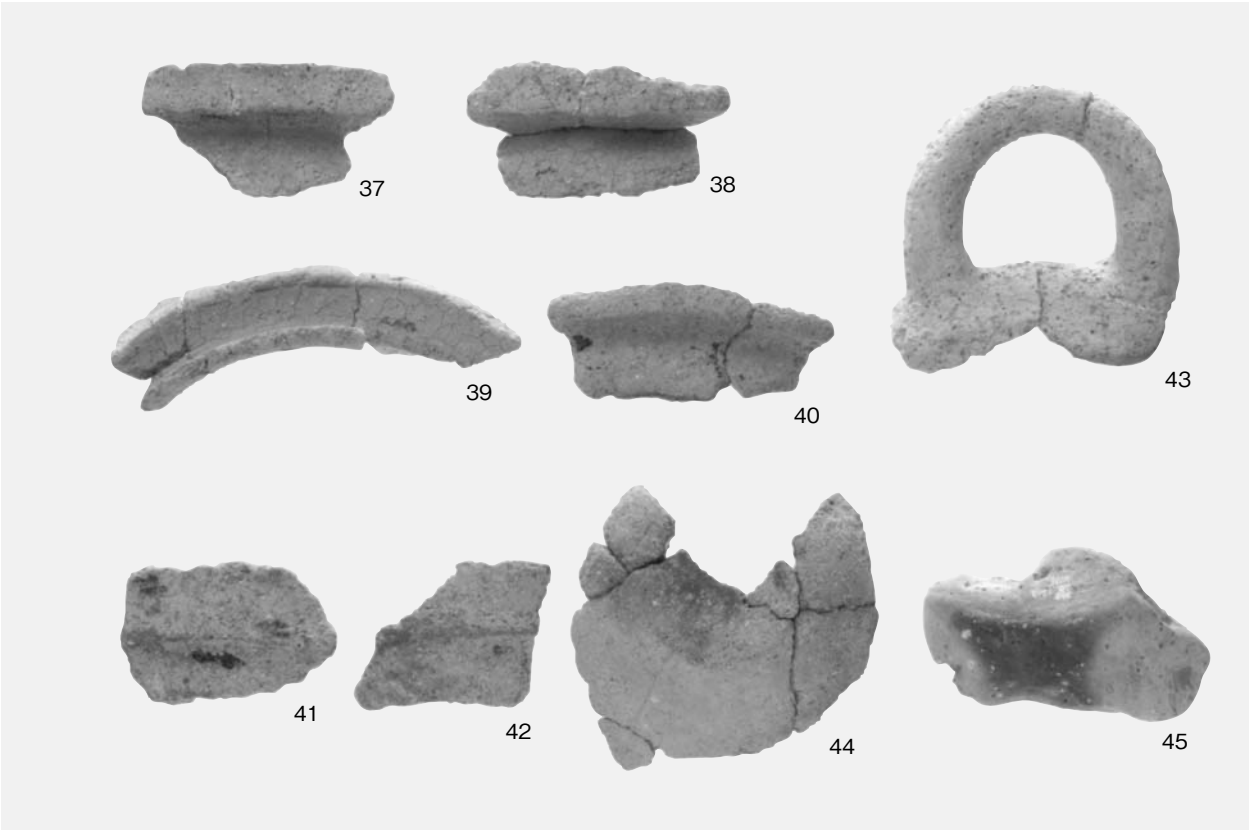



２区ＳＩ３出土遺物（１）

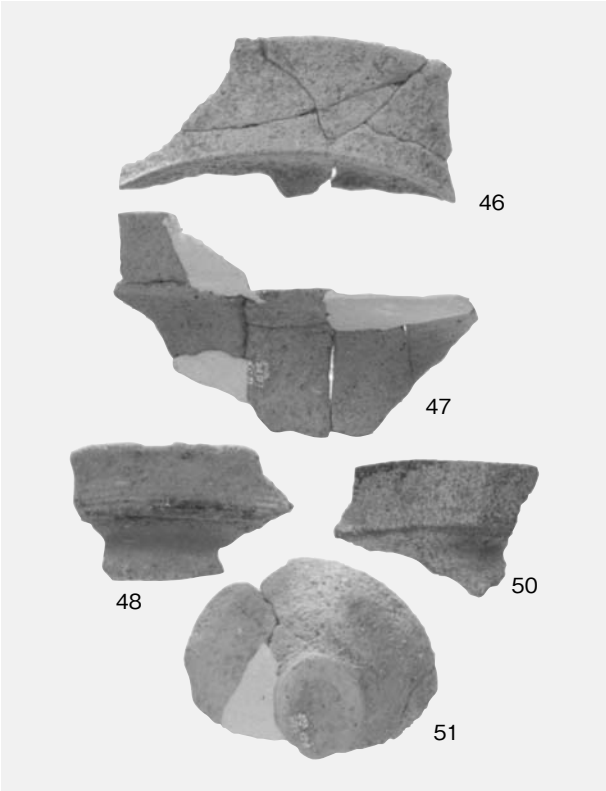
２区ＳＩ３出土遺物（２）




２区ＳＩ７出土遺物

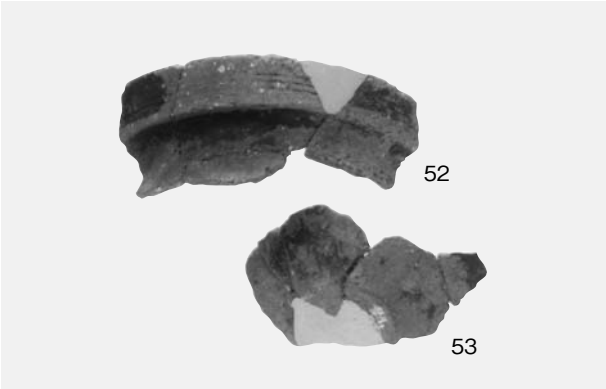



２区ＳＩ８出土遺物




２区ＳＳ３出土土器

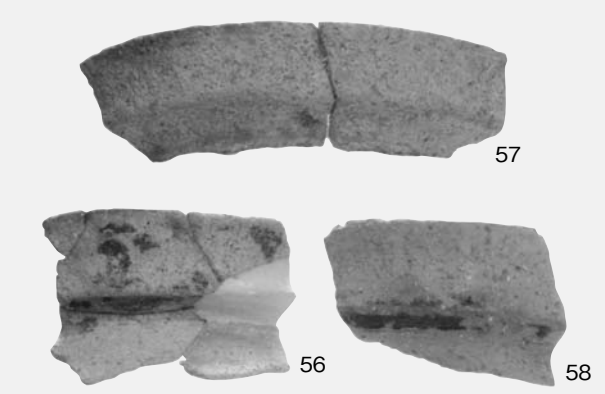
２区ＳＳ３出土石器




２区ＳＫ１出土土器

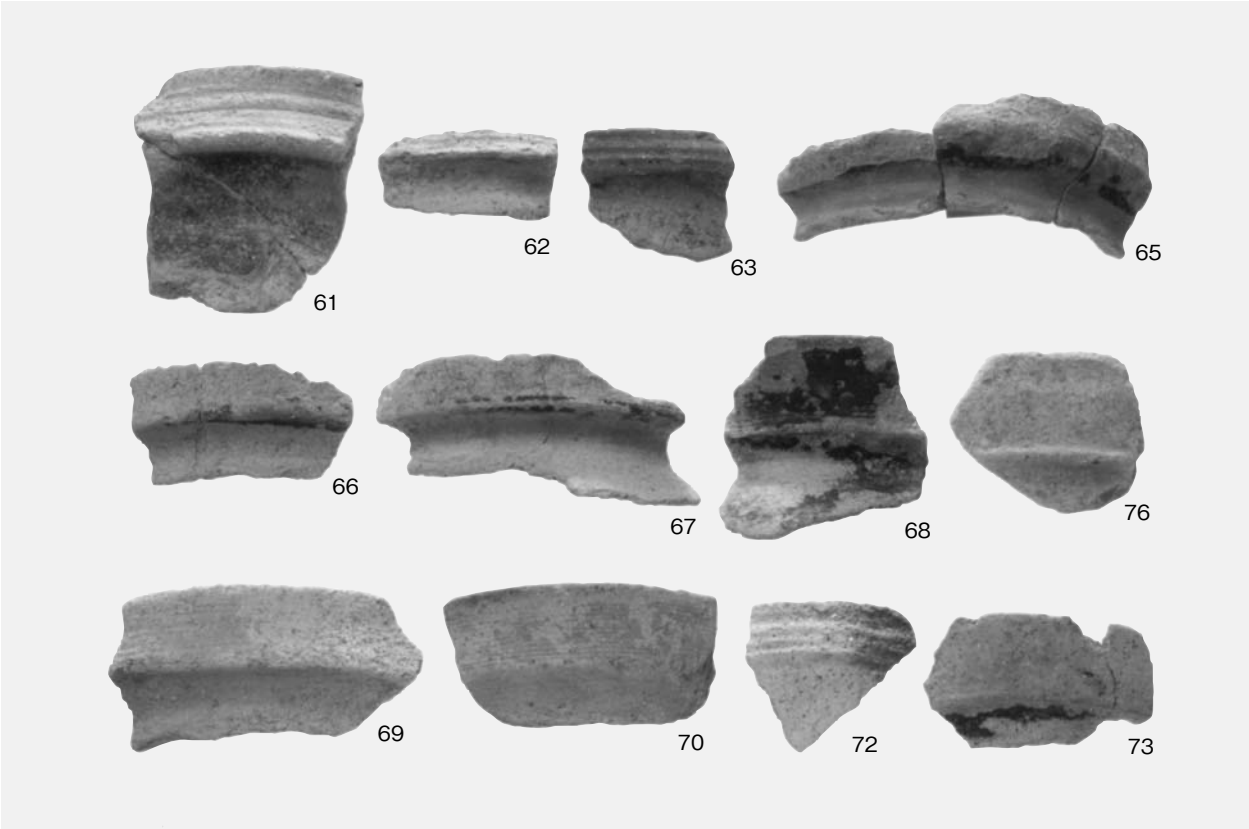
２区ＳＫ１出土石器

２区ＳＫ２出土石器



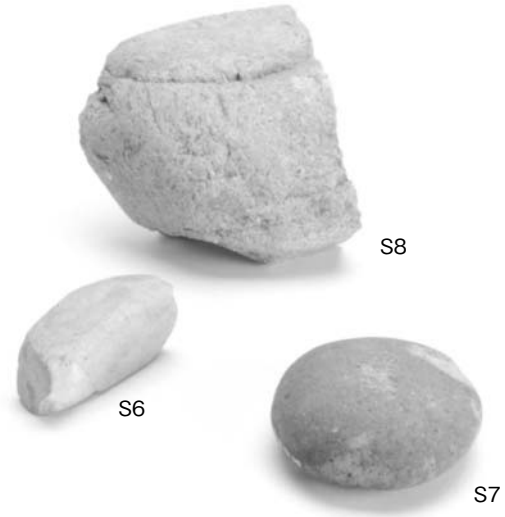

２区ＳＳ４・５出土遺物

図版32

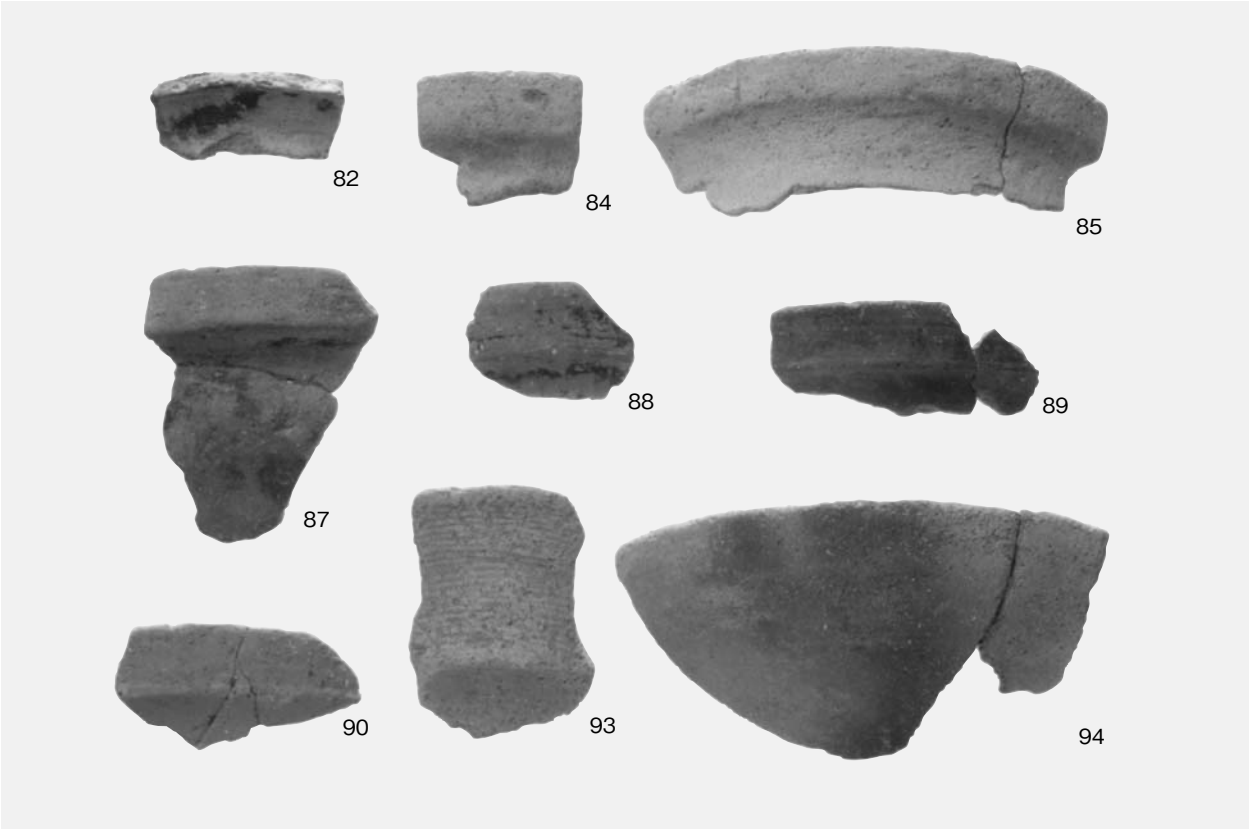



２区ＳＳ１出土土器（１）

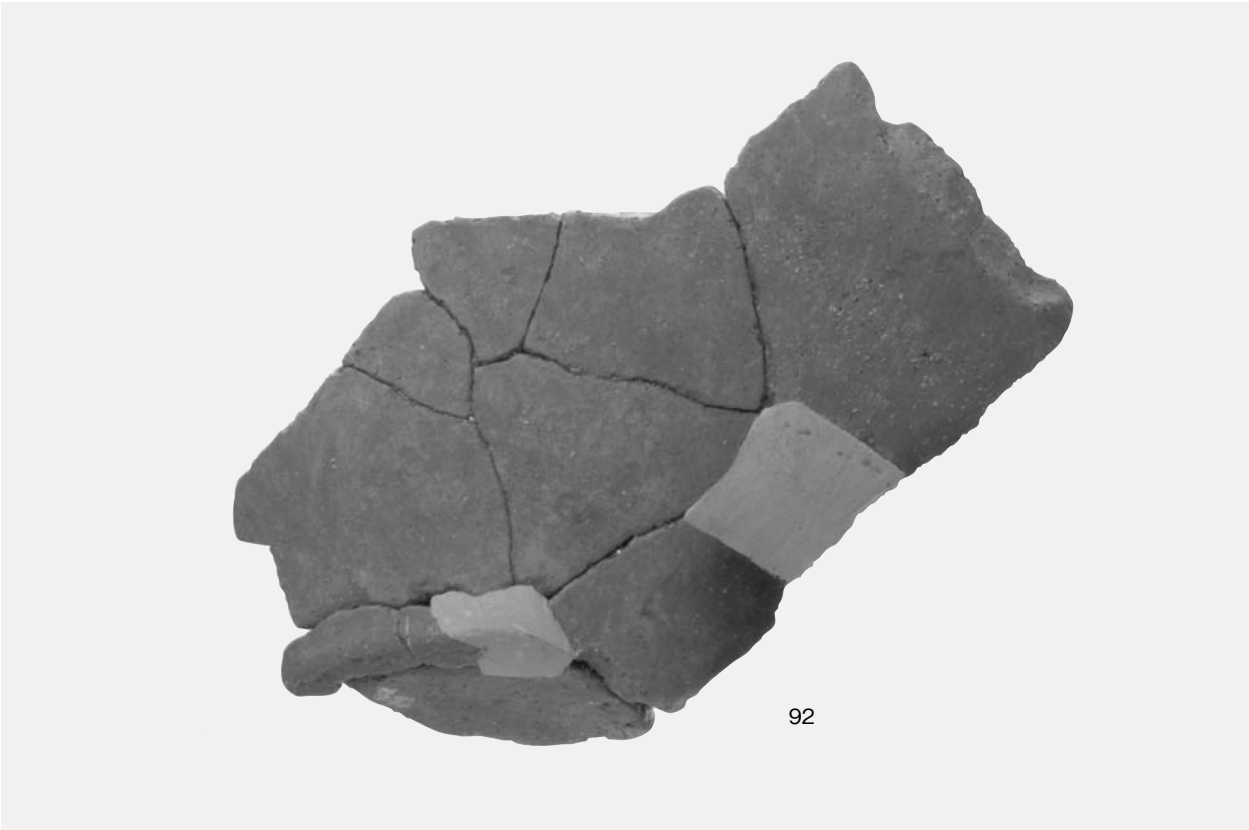
２区ＳＳ１出土土器（２）




２区ＳＳ１出土石器

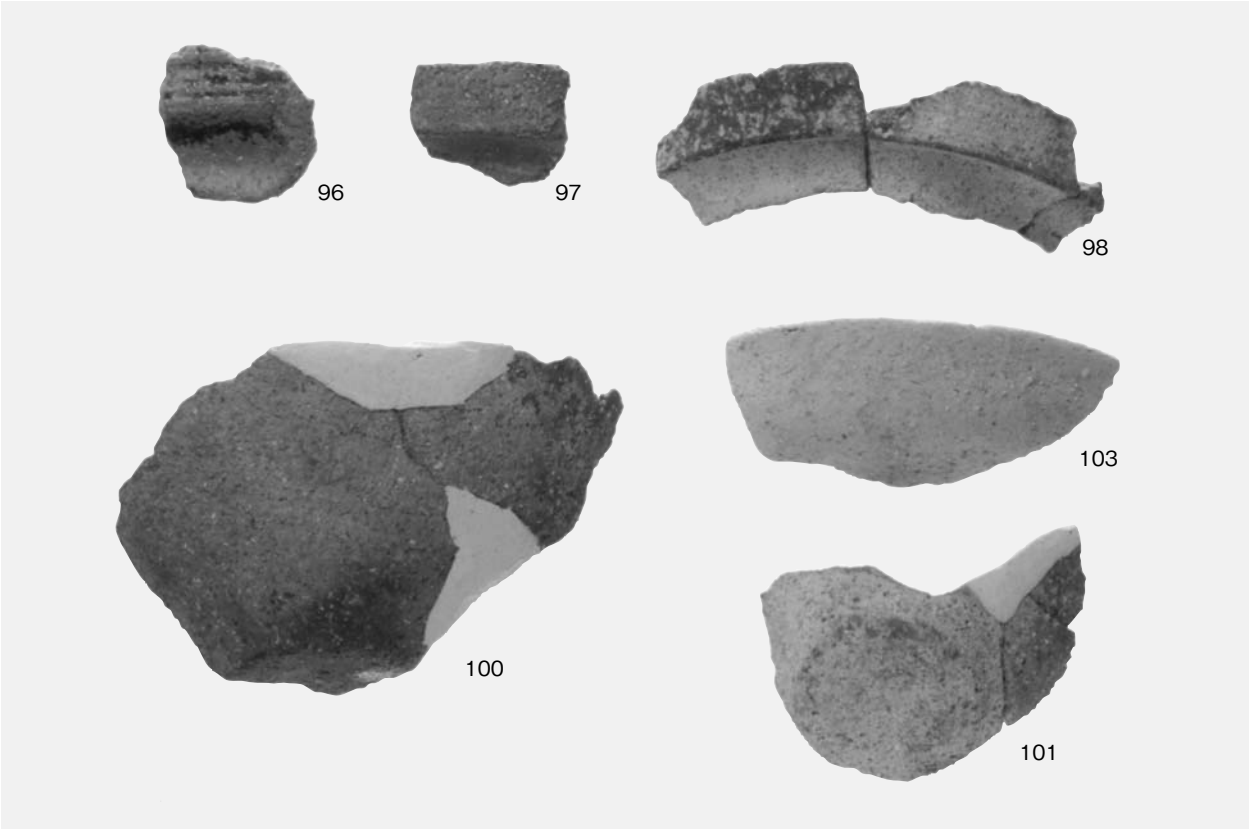



２区ＳＳ１５出土遺物（１）

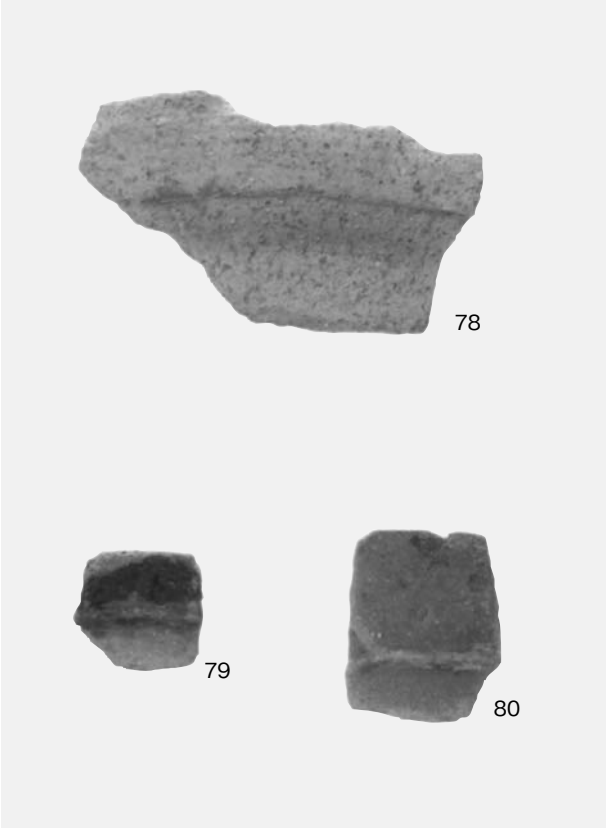



２区ＳＳ１５出土遺物（２）

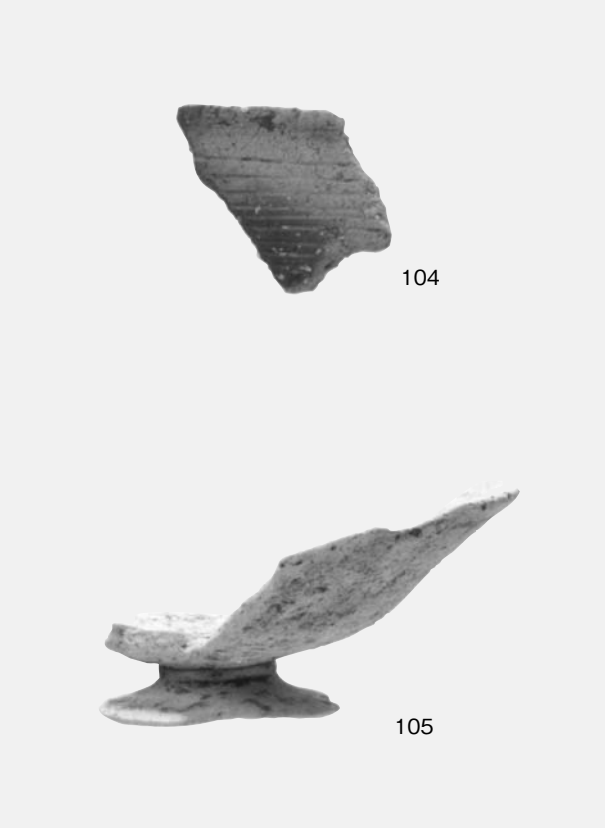
図版34



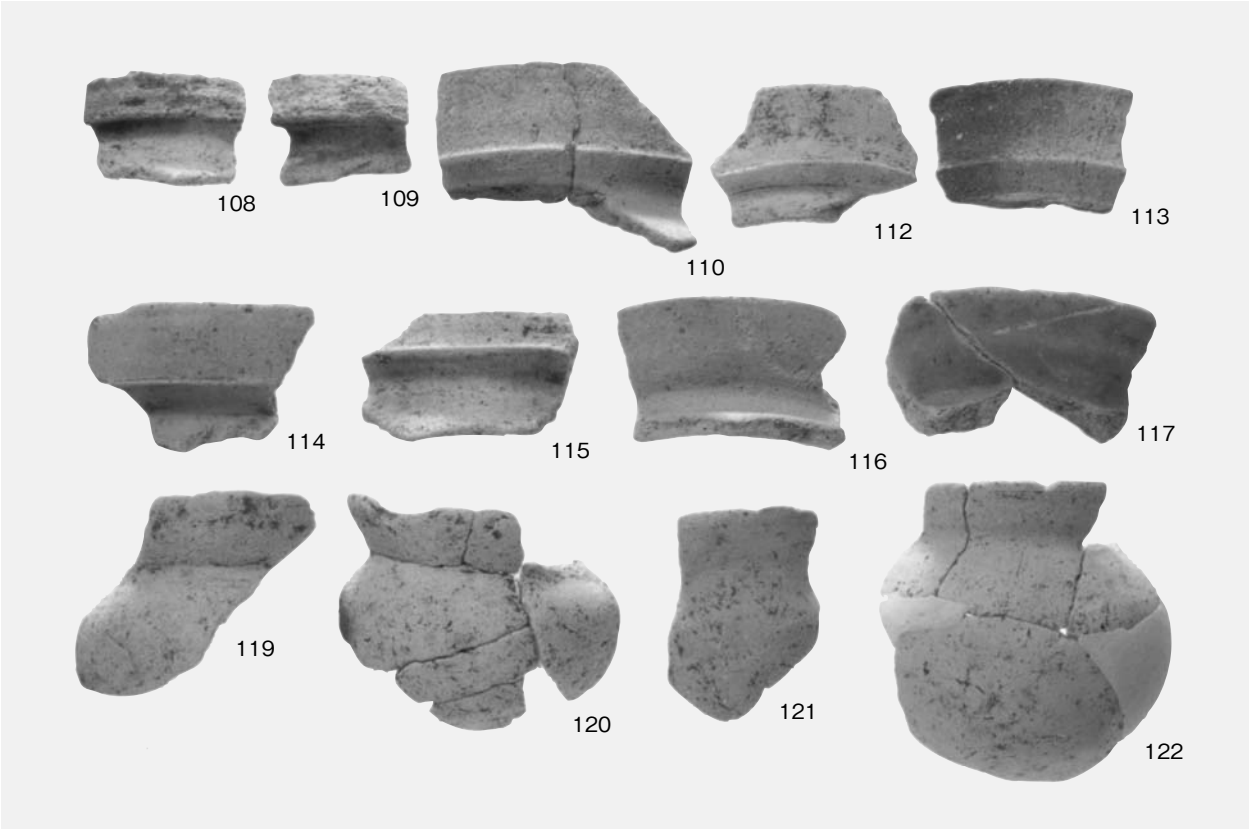

２区ＳＳ１６出土遺物




２区ＳＳ１７出土遺物




３区ＳＩ３Ａ出土遺物



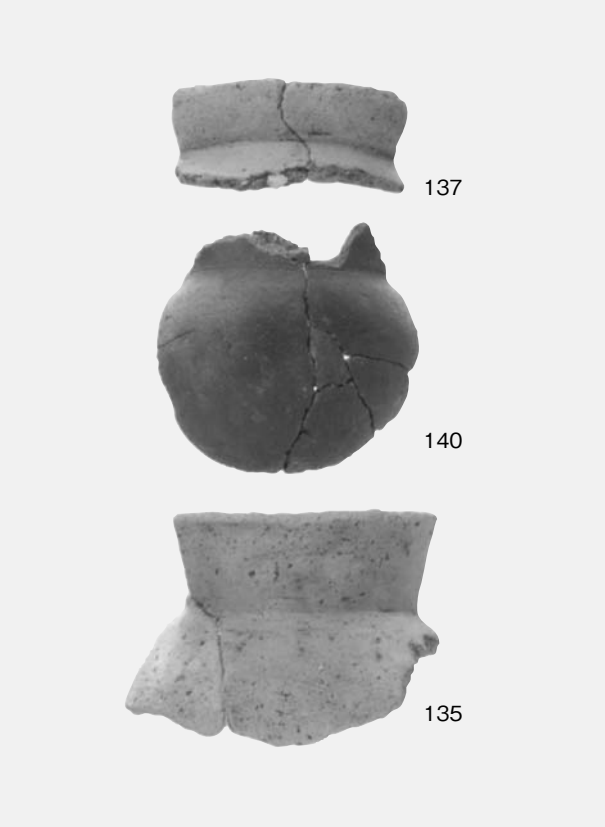

３区ＳＩ３Ｂ出土土器（１）

３区ＳＩ３Ｂ出土土器（２）

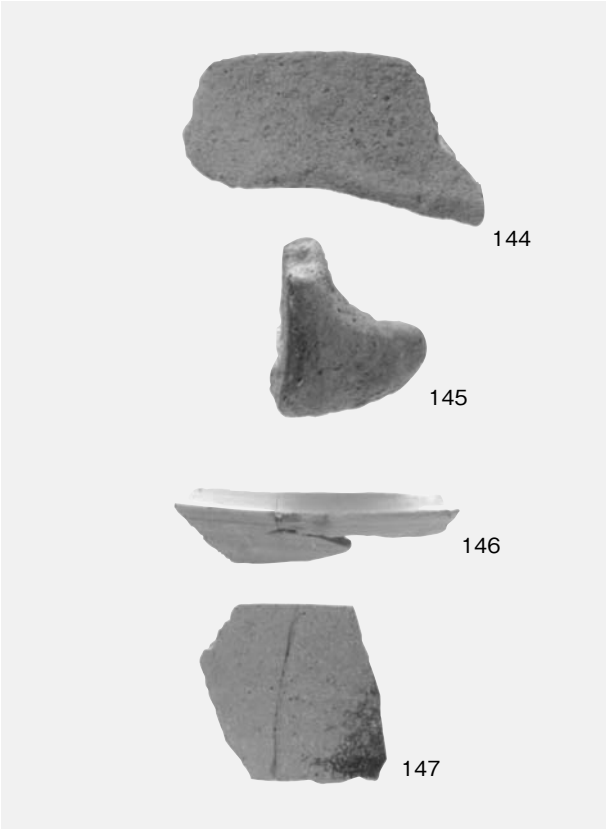
図版36

３区ＳＩ３Ｂ特殊ピット出土遺物

３区ＳＩ３Ｂ出土石器




３区ＳＩ８出土遺物

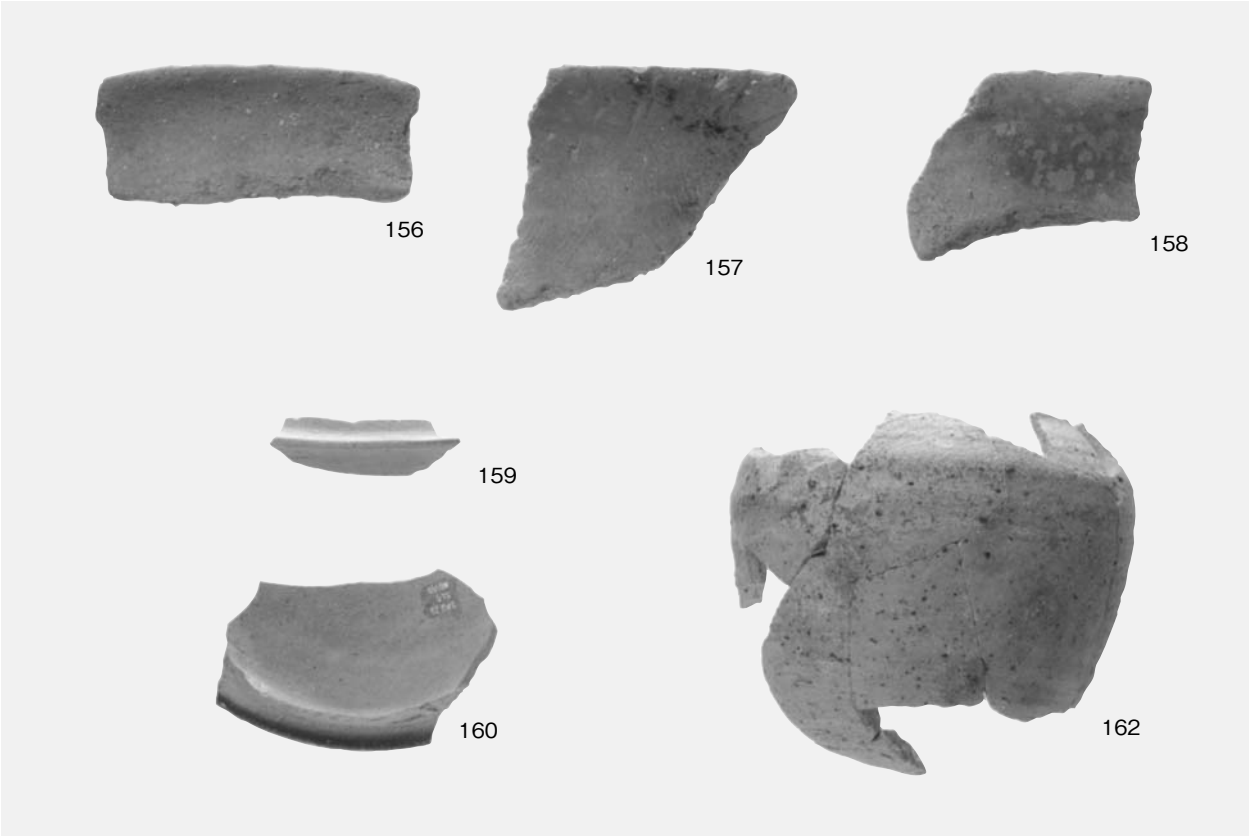



２区ＳＩ６出土遺物

２区ＳＩ14出土遺物（154底部穿孔拡大）

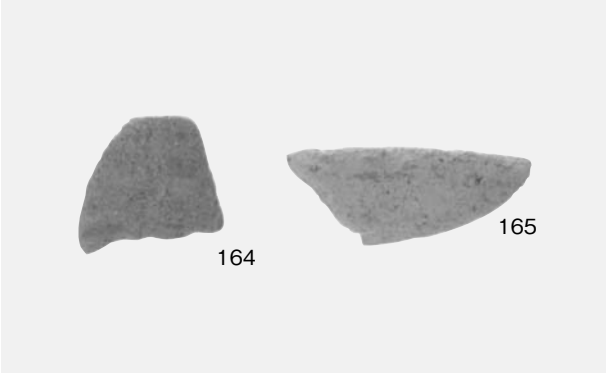
２区ＳＩ１４出土遺物

図版38

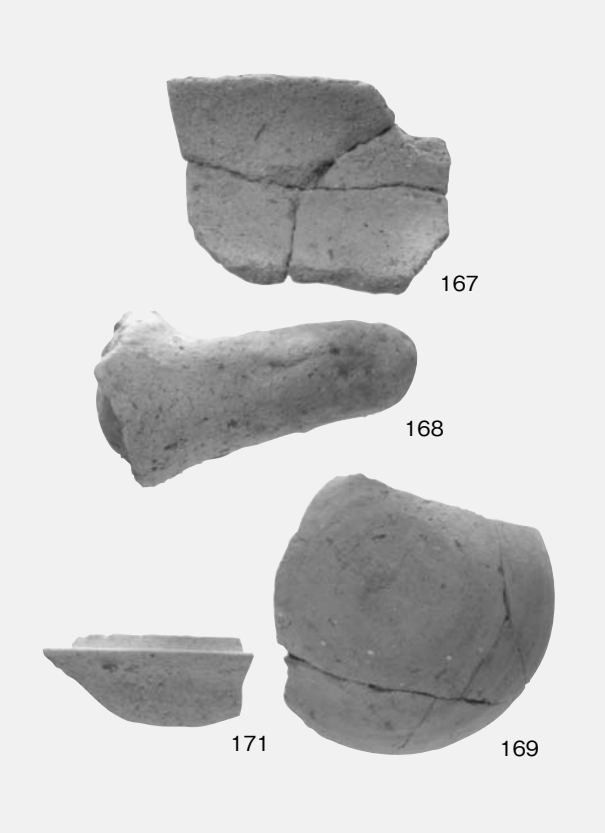



２区ＳＩ５出土遺物

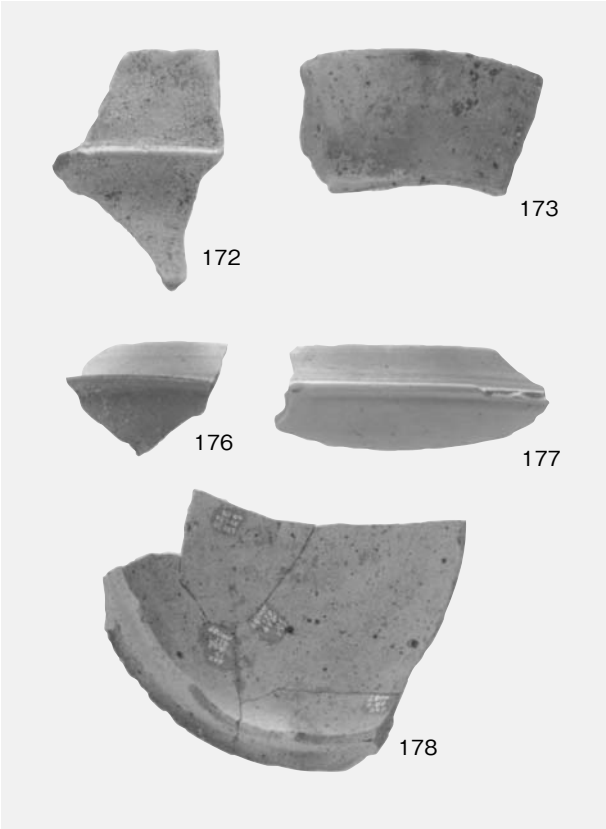
２区ＳＩ９出土遺物



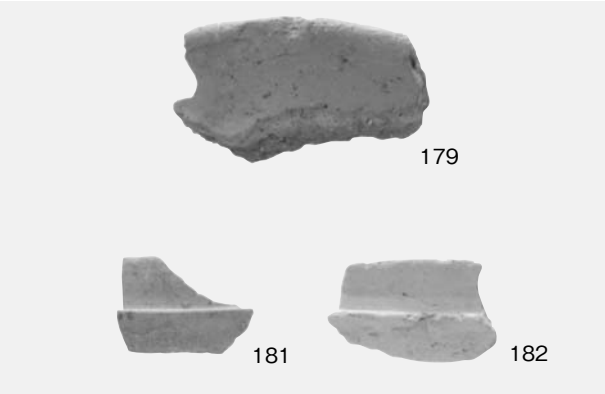

２区ＳＩ１０出土遺物



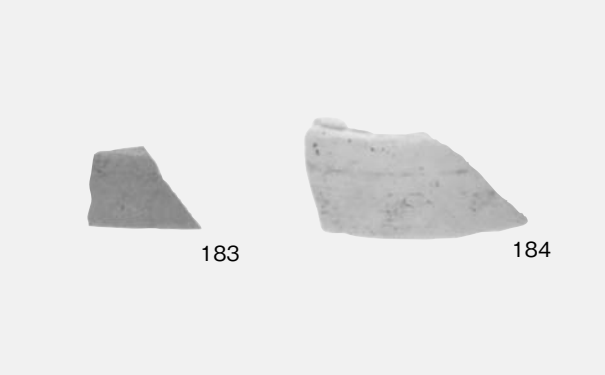

２区ＳＳ１３出土遺物



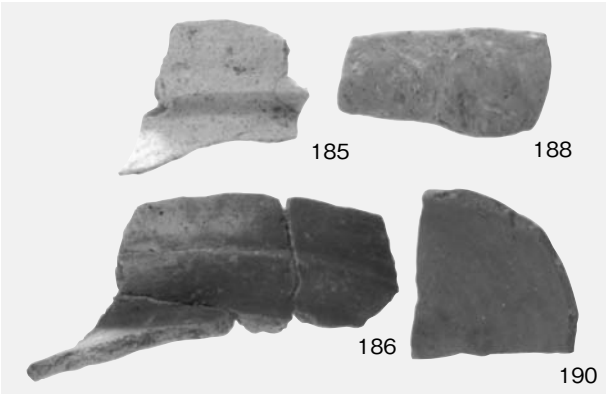

３区ＳＩ１出土遺物




３区ＳＩ２出土遺物

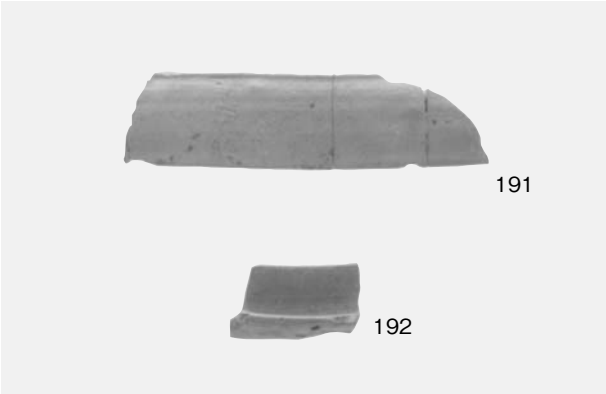



３区ＳＩ１０出土遺物




３区ＳＩ７出土遺物（１）

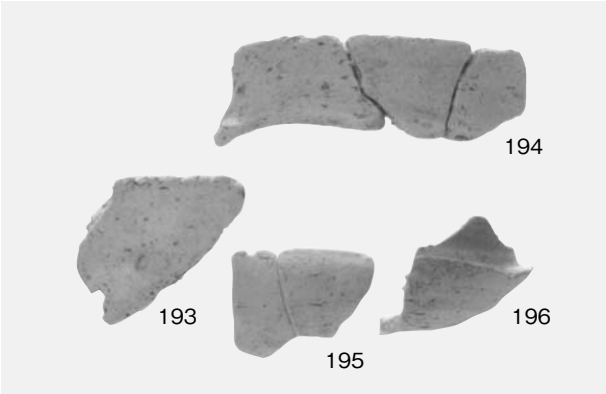
３区ＳＩ７出土遺物（２）




３区ＳＩ９出土土器

３区ＳＩ９出土石器

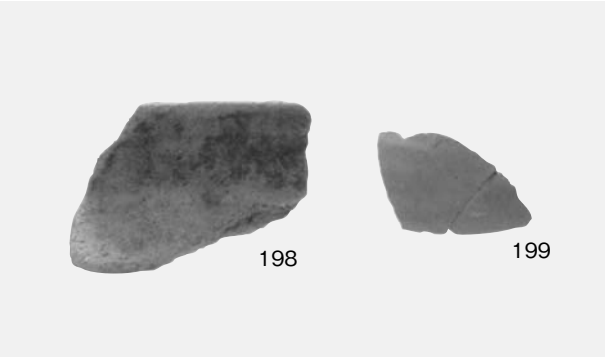
図版40



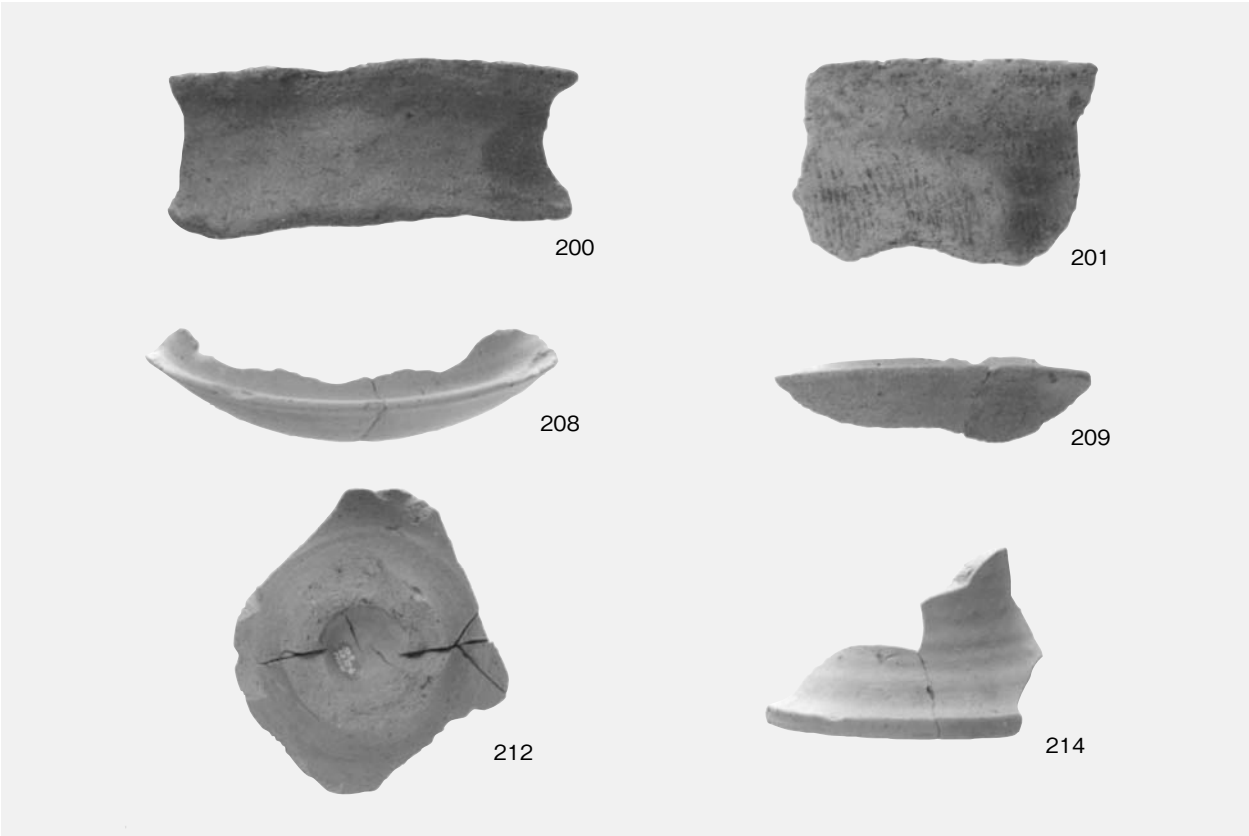

３区ＳＩ１２出土土器

３区ＳＩ１２出土石器

２区ＳＳ１０出土遺物




２区ＳＳ１４出土遺物




２区ＳＳ６出土遺物（１）

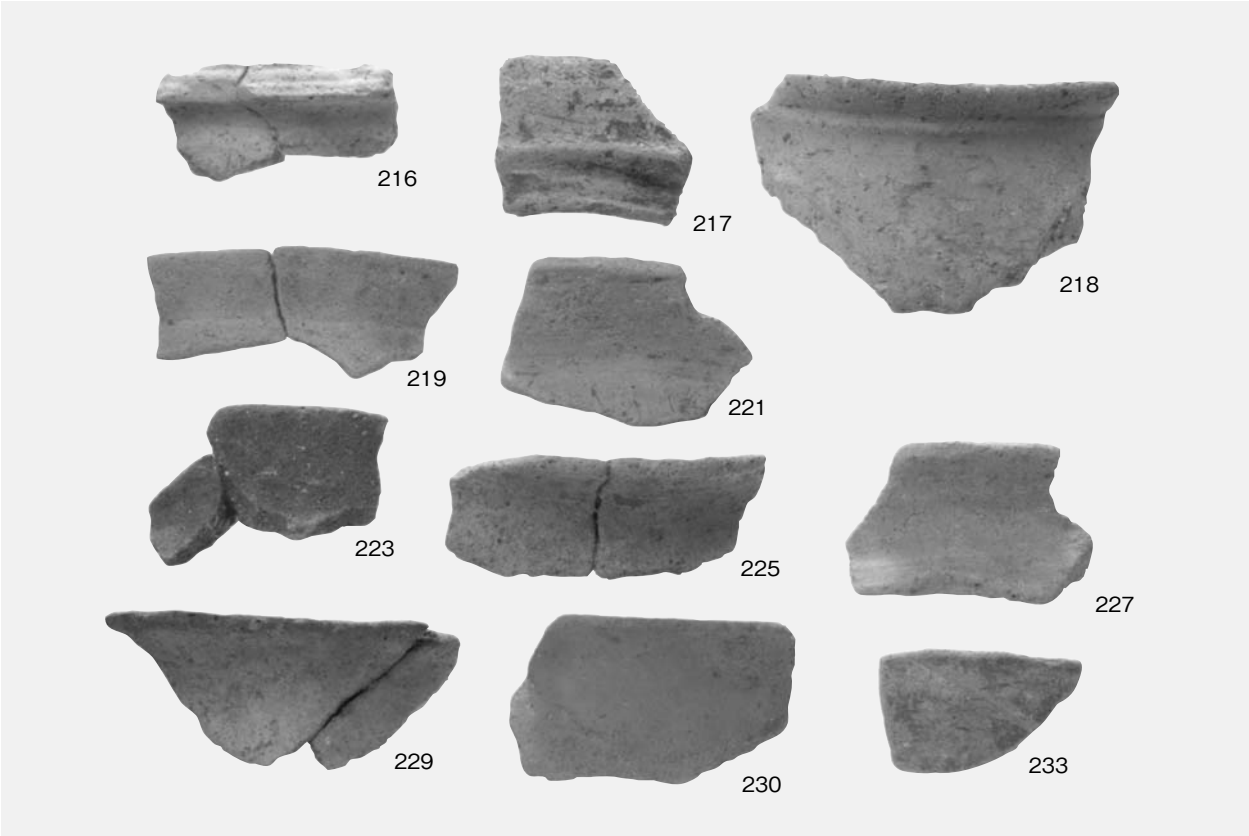
２区ＳＳ６出土遺物（２）

２区ＳＳ６出土石器

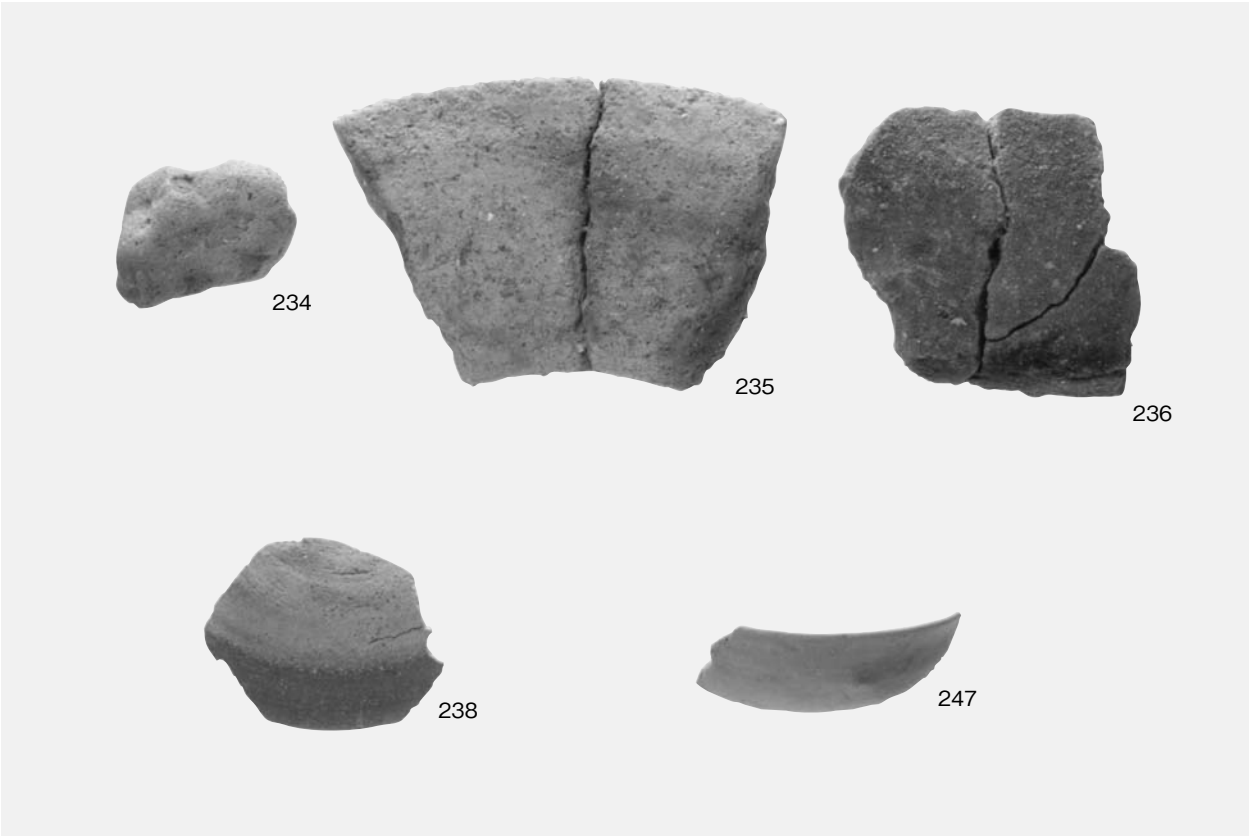
２区ＳＳ７出土遺物

２区ＳＳ６出土遺物（３）

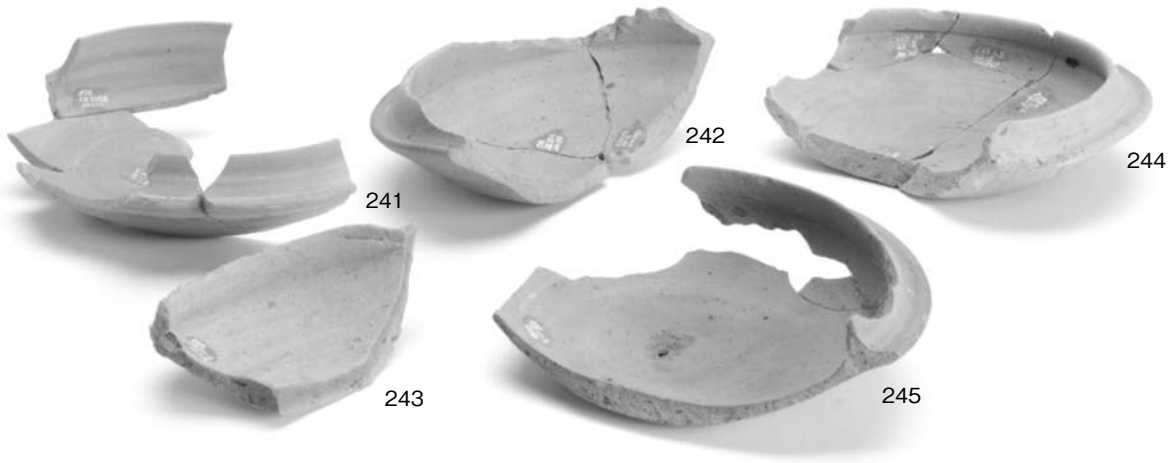
２区ＳＳ８出土尖頭器



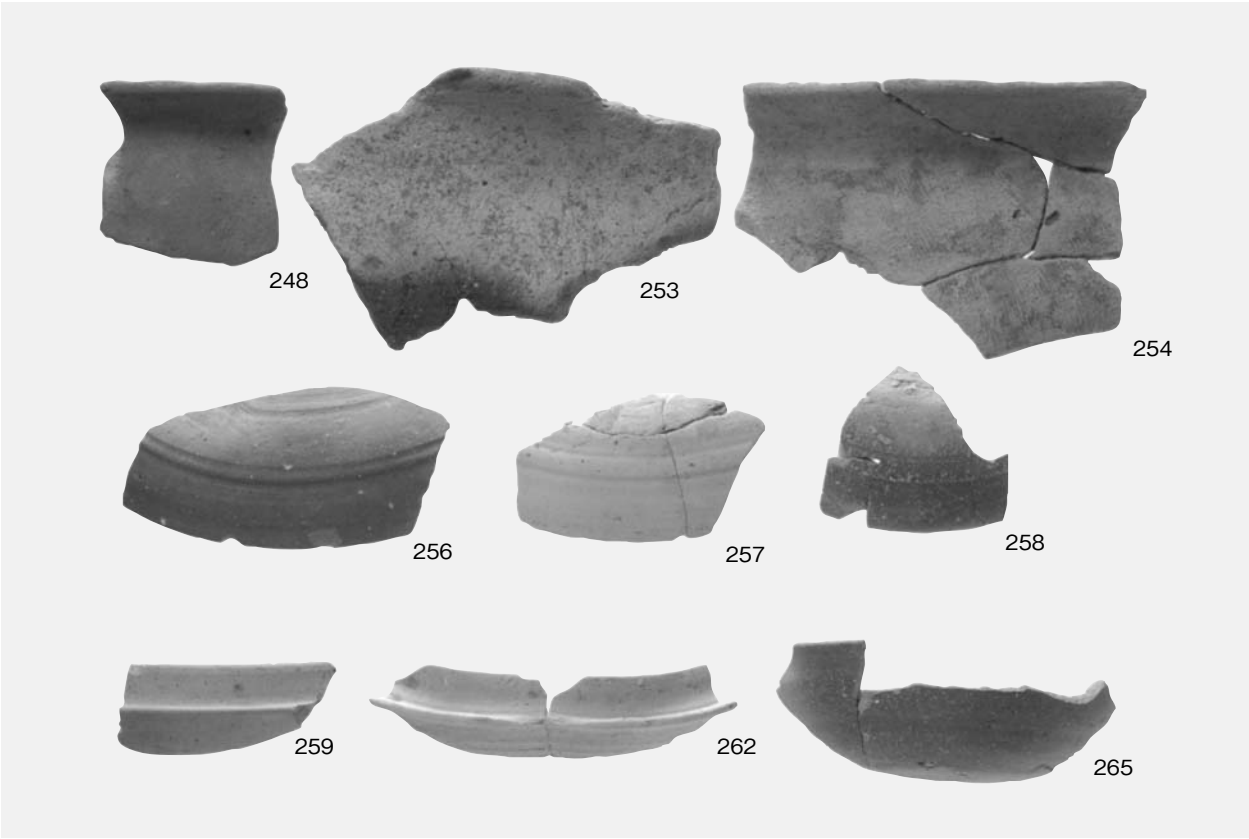

２区ＳＳ８出土遺物（１）




２区ＳＳ８出土遺物（２）

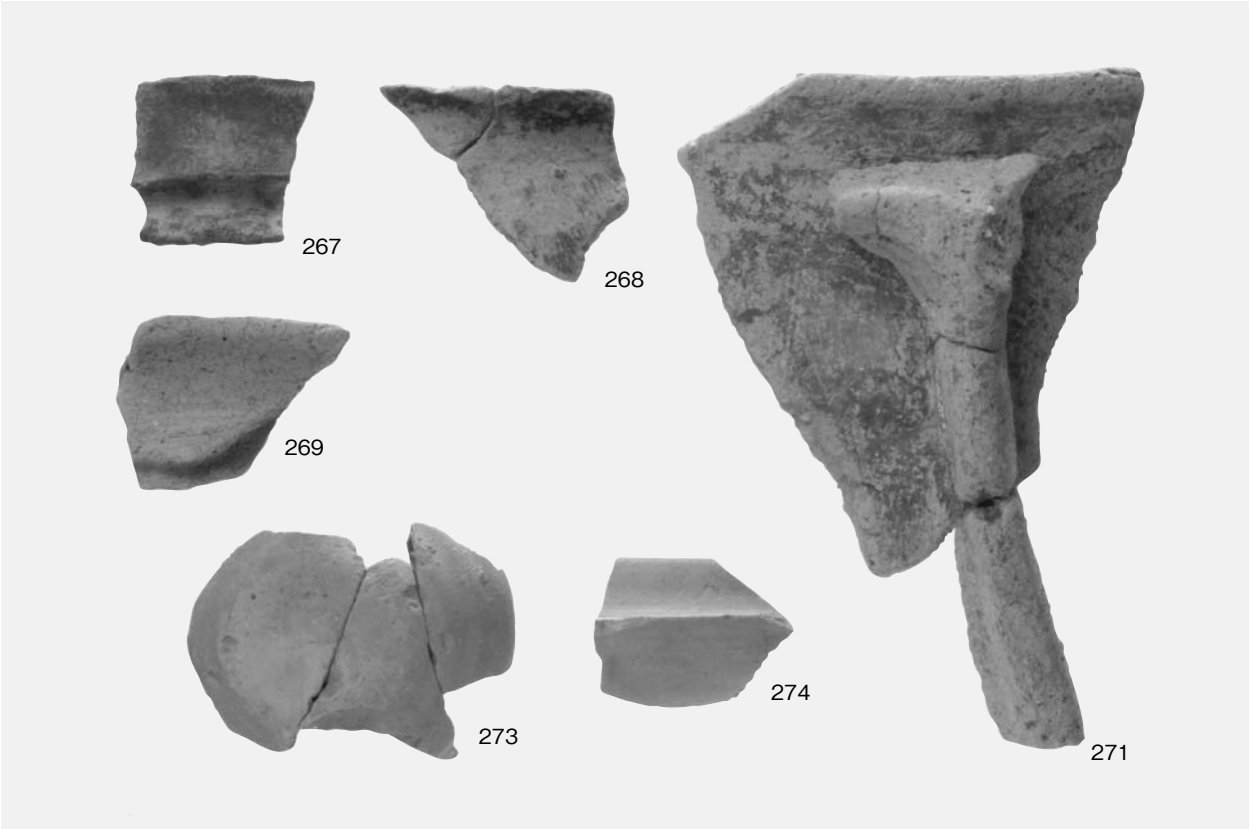



２区ＳＳ８出土遺物（３）



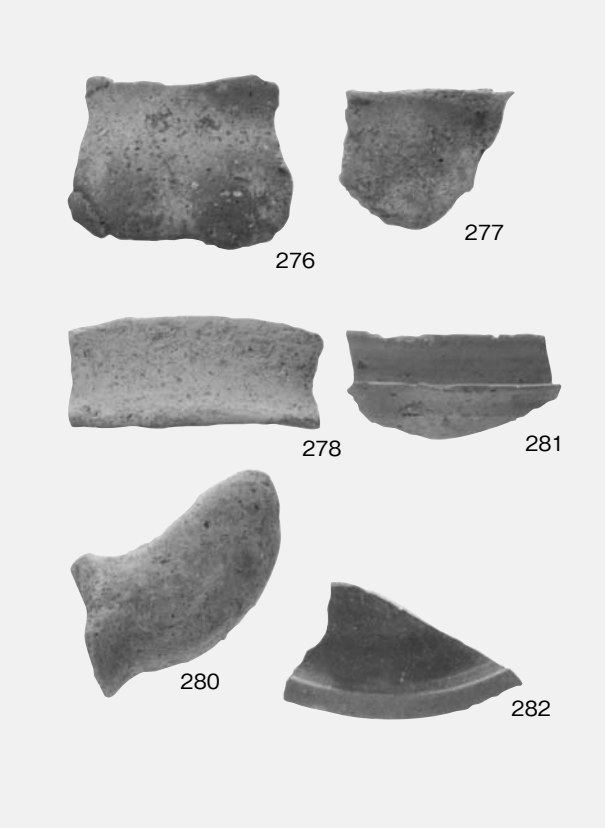

２区ＳＳ９出土遺物

図版44

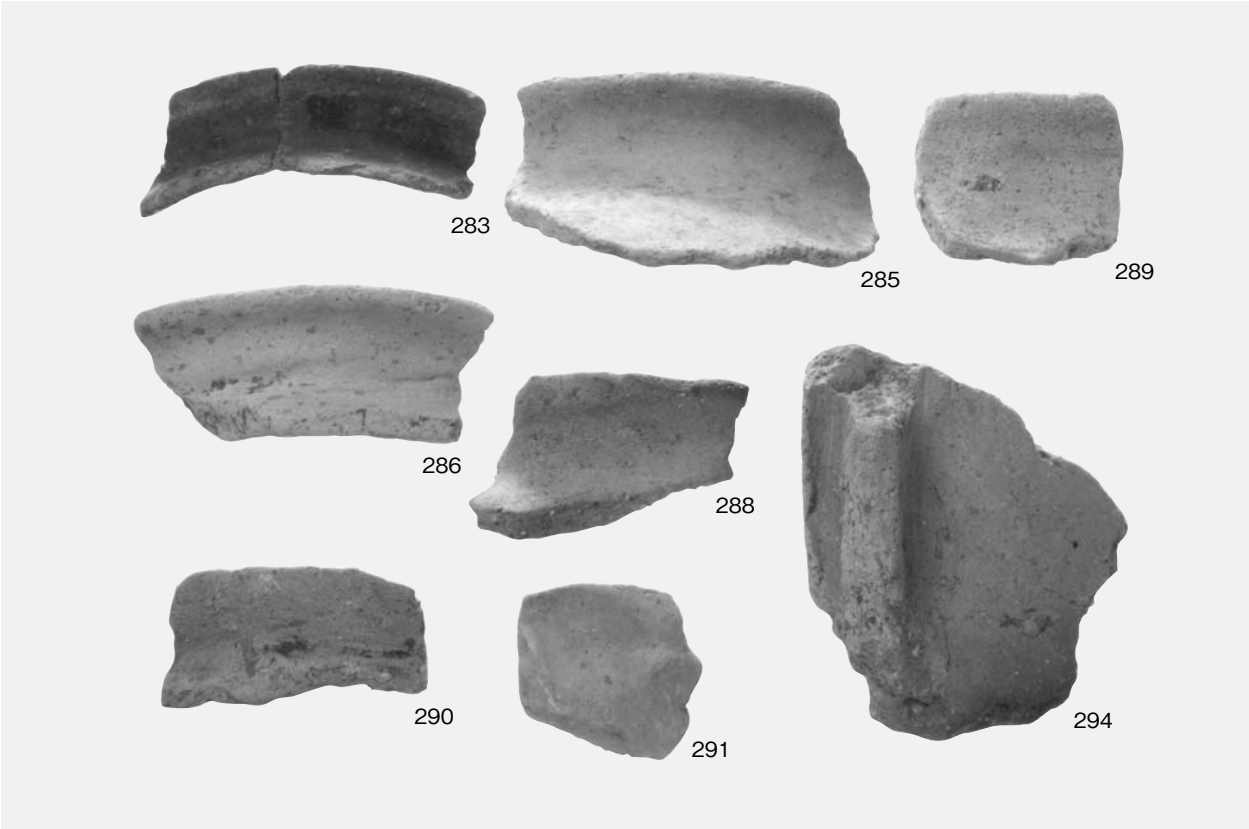



２区ＳＳ１１出土遺物

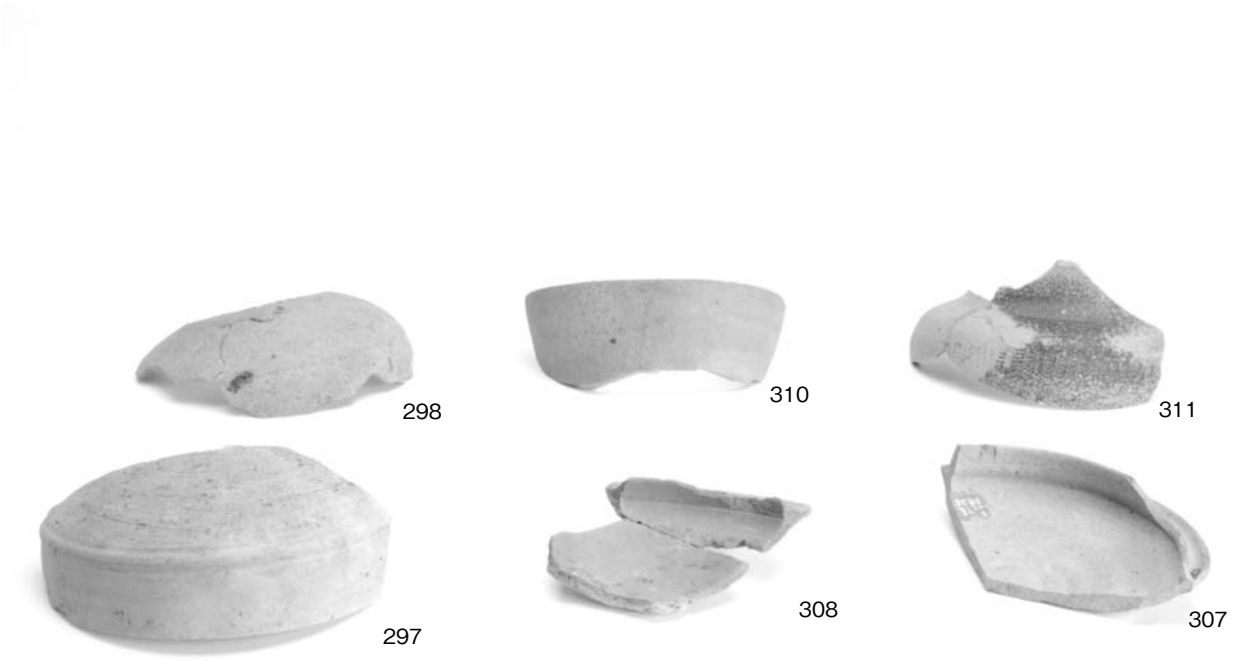
３区ＳＳ１出土遺物




３区ＳＳ２出土遺物

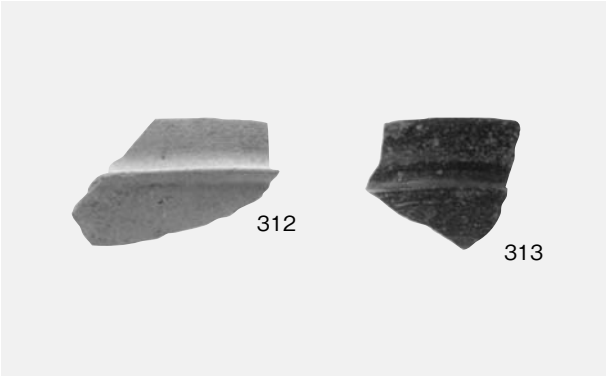



３区ＳＳ３出土遺物（１）



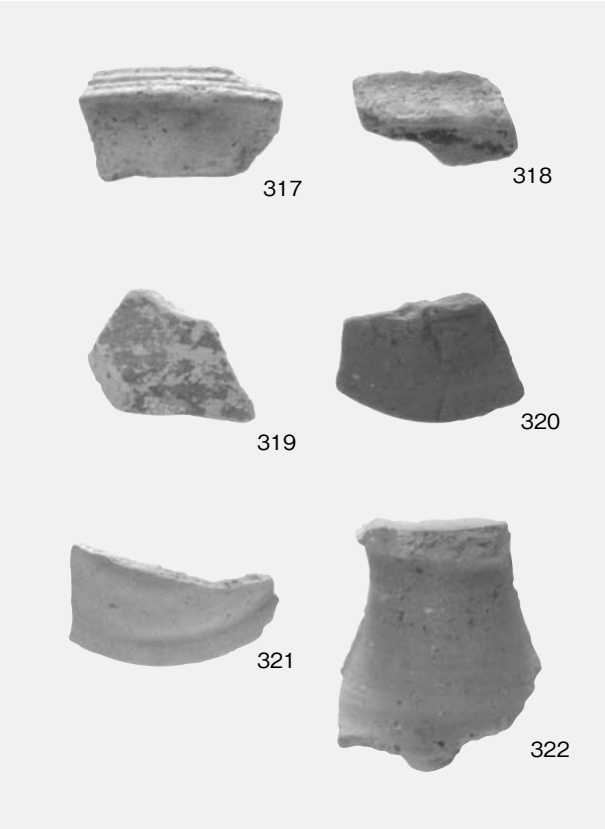

３区ＳＳ３出土遺物（２）

図版46



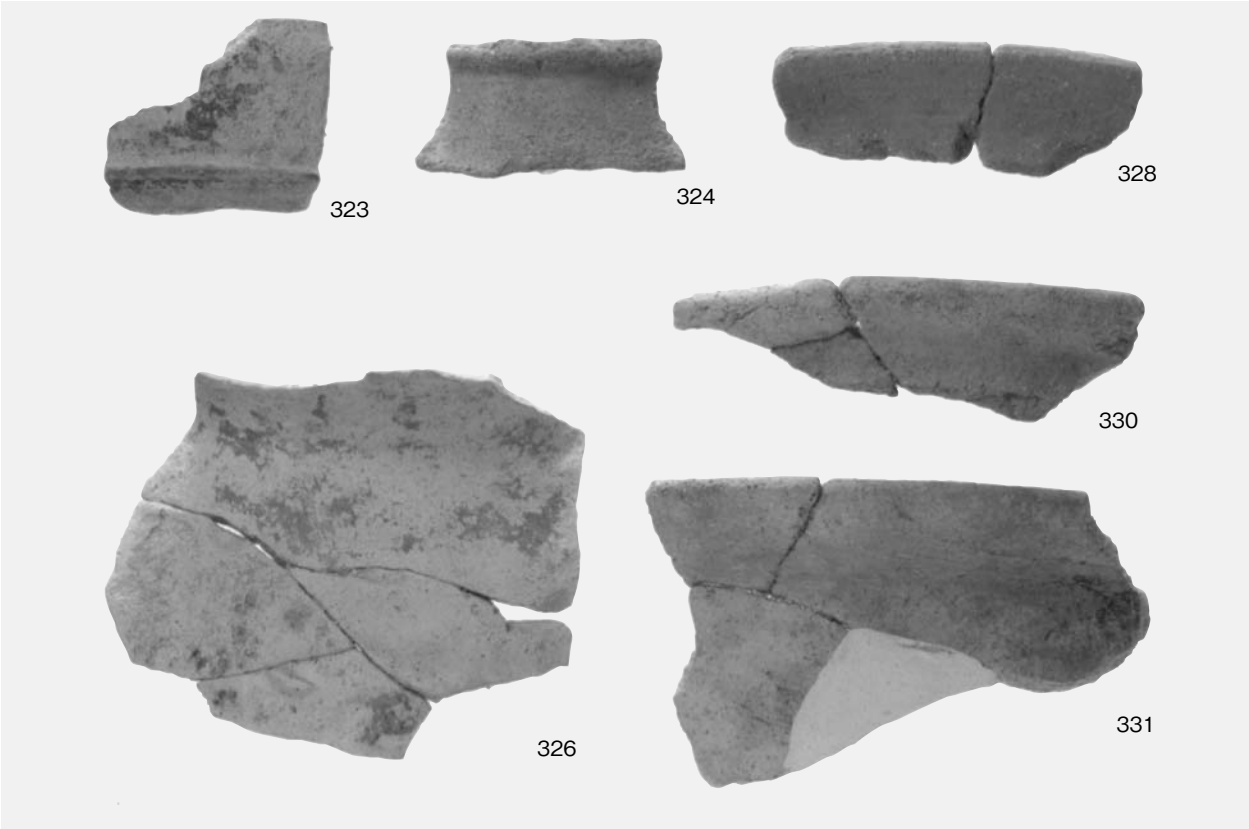

３区ＳＢ１出土遺物

３区ＳＢ２出土遺物



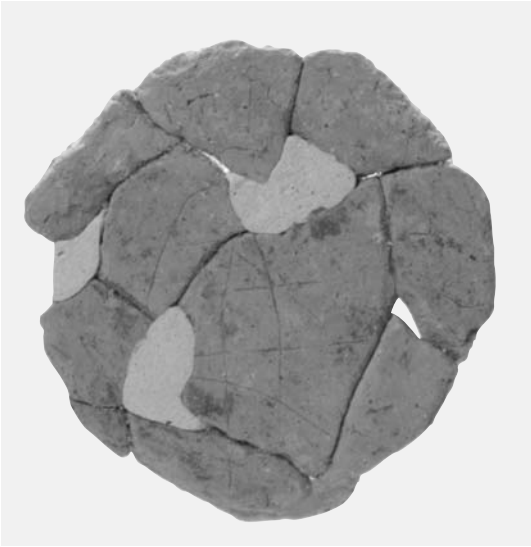

２区ＳＩ１１出土遺物

３区ＳＫ１出土遺物



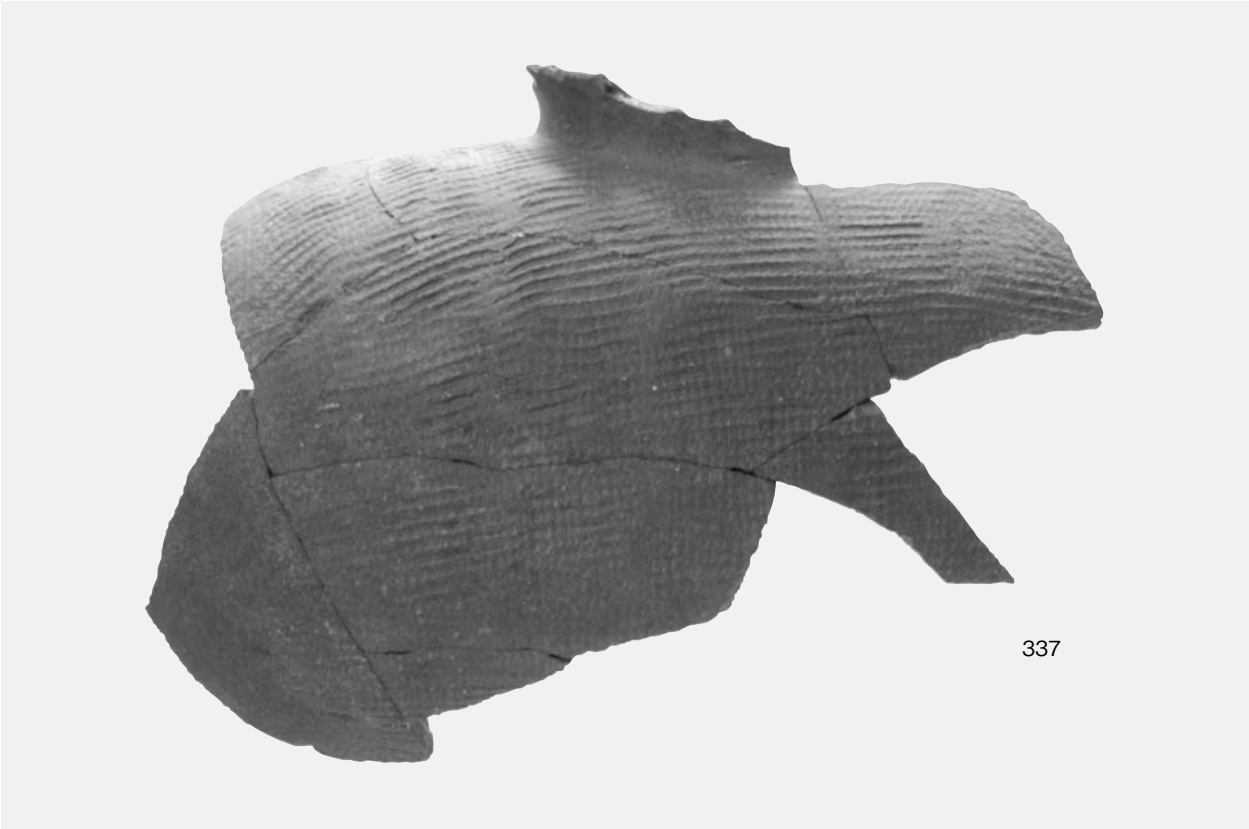

２区ＳＳ２出土土器（１）

２区ＳＳ２出土土器（２）

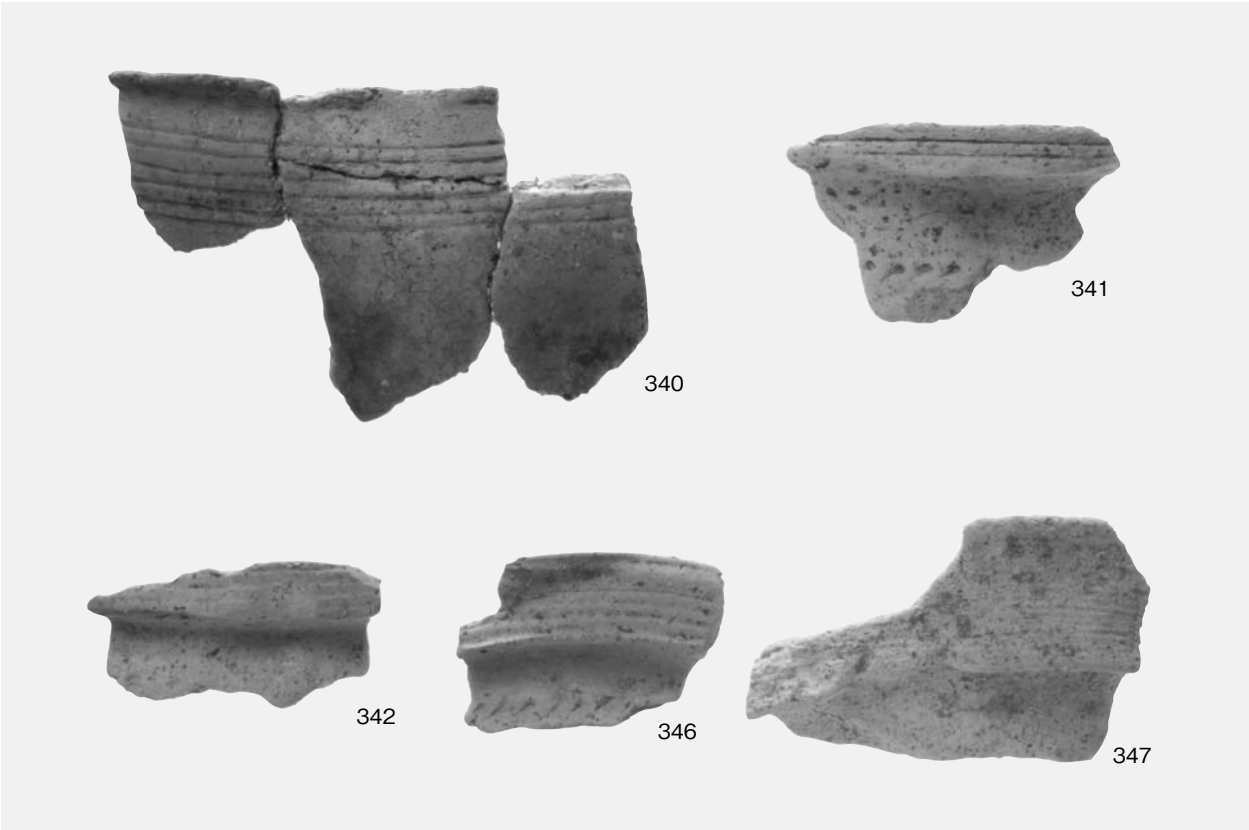


２区ＳＳ２出土土器
（334底部内面線刻拡大）

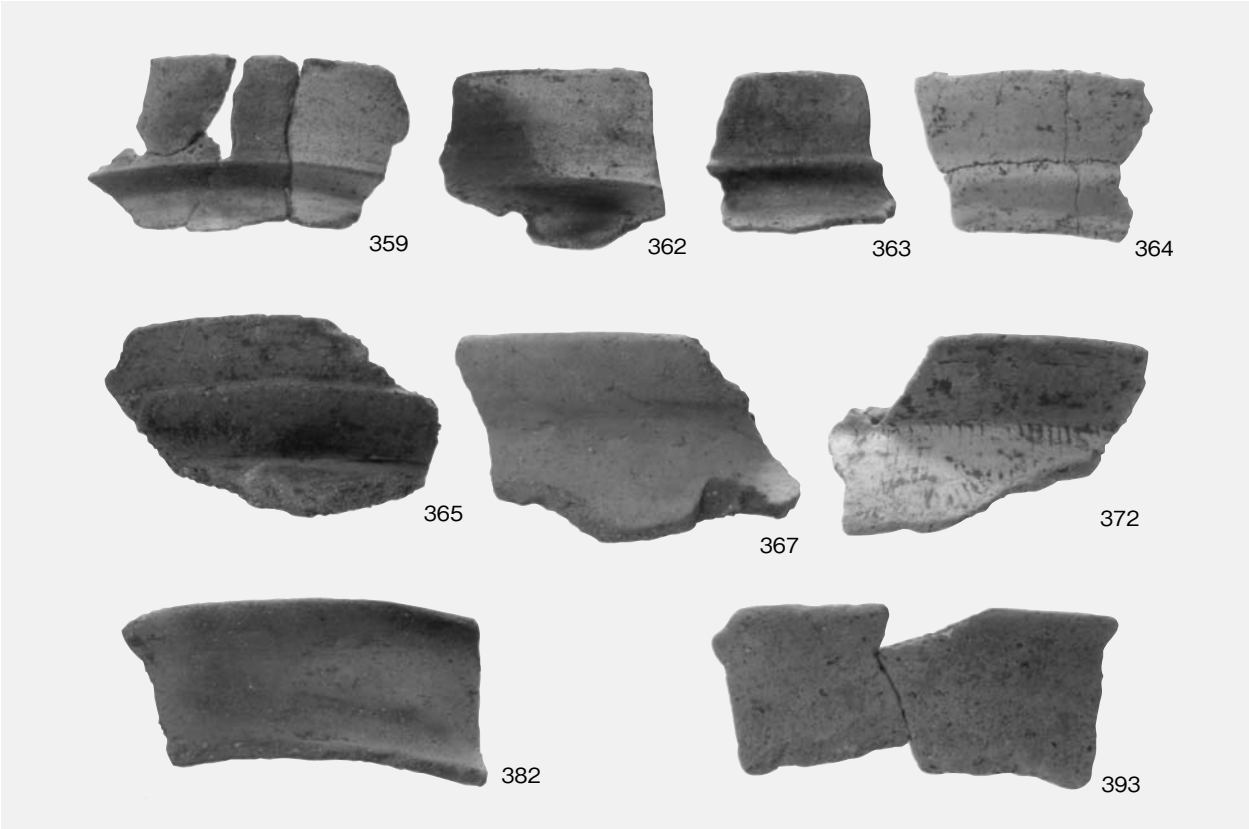
２区ＳＳ２出土石器




２区ＳＳ２出土土器（３）



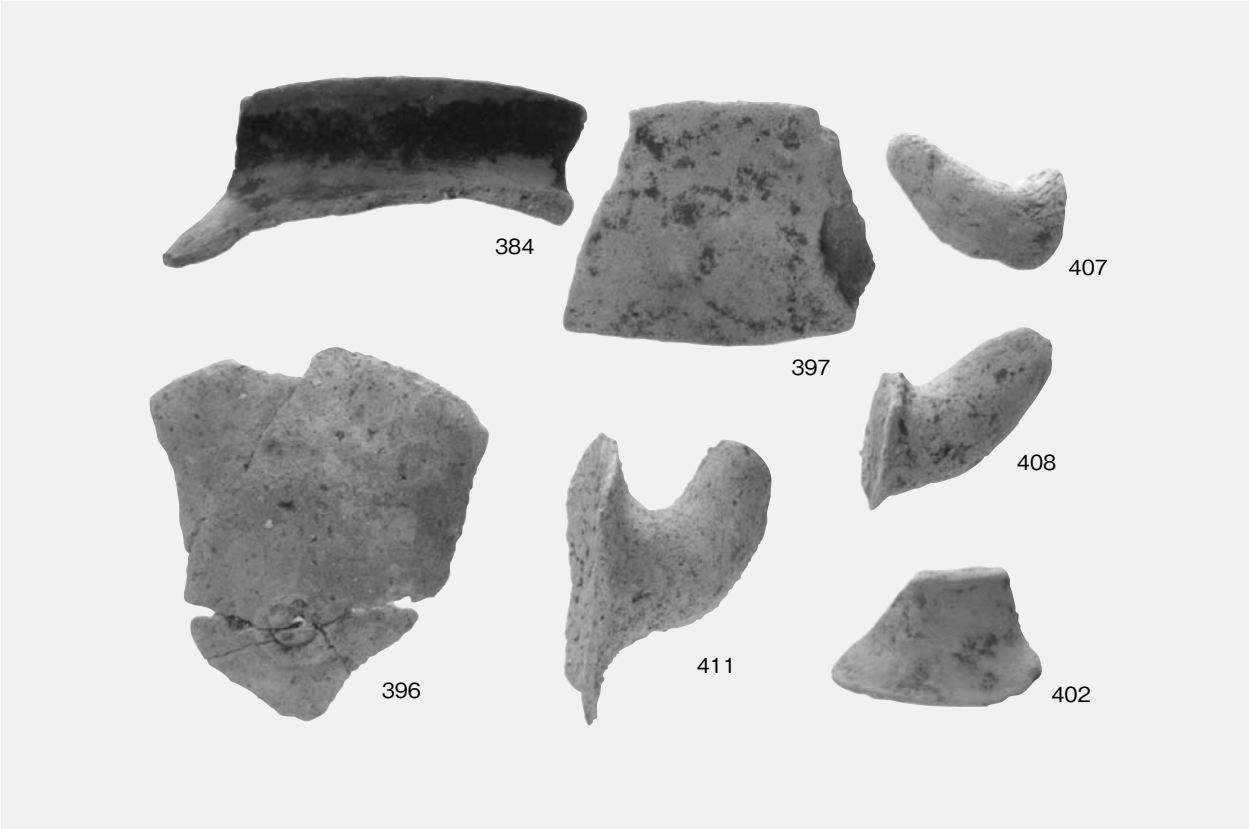

遺構外出土土器（１）




遺構外出土土器（２）

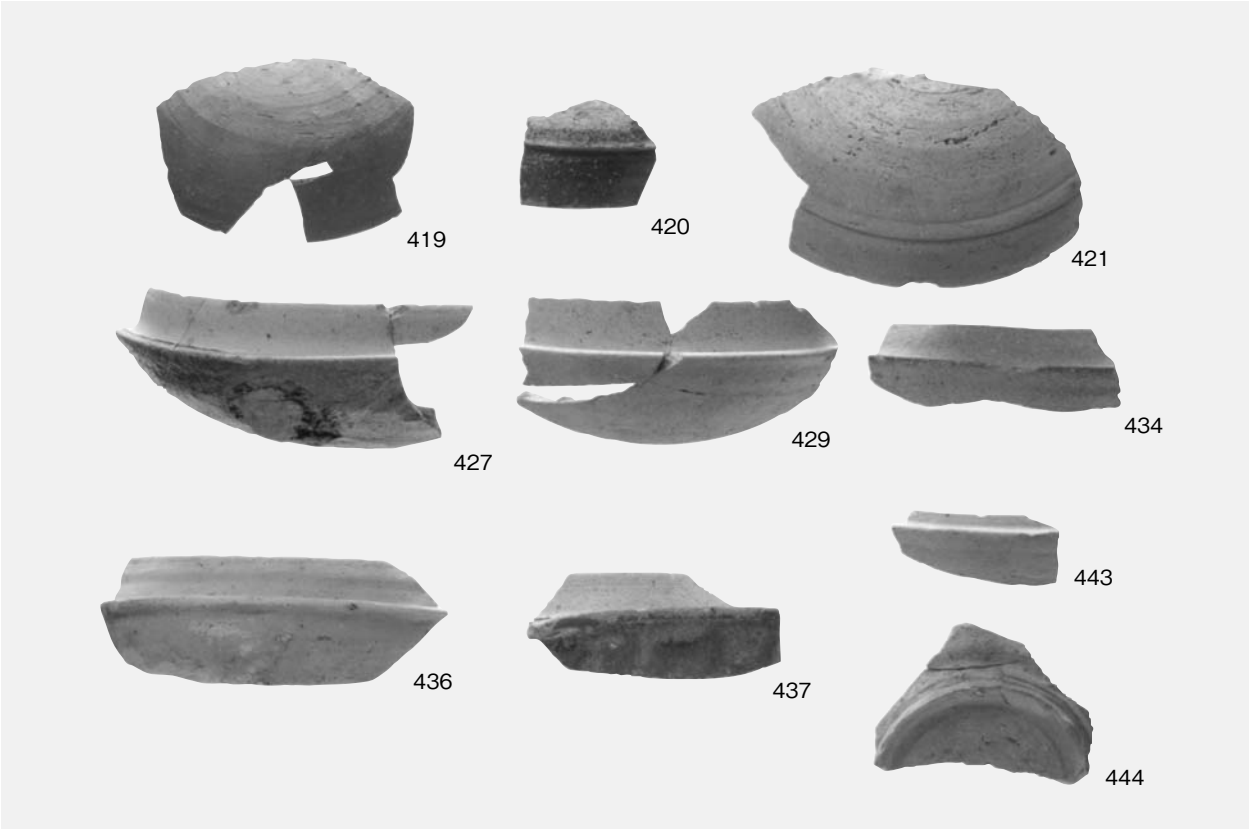
遺構外出土土器（３）

図版50



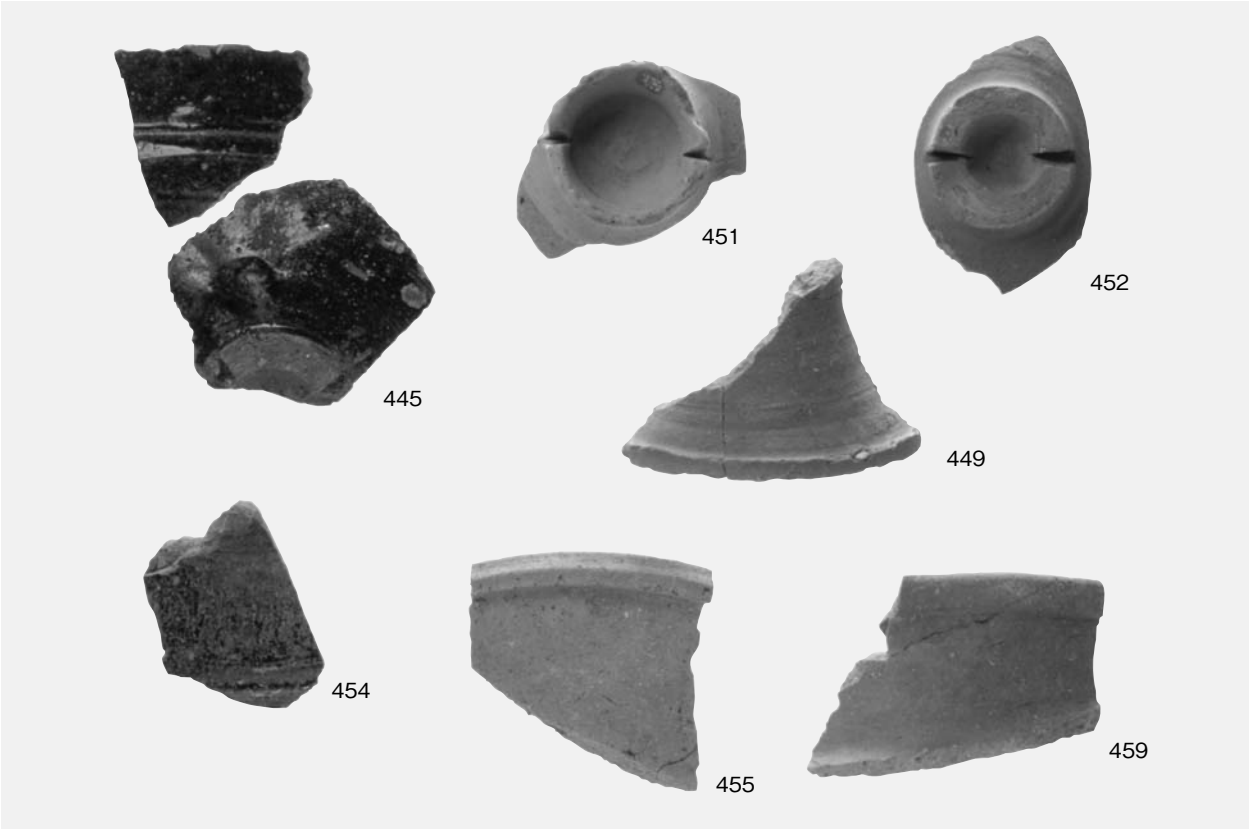

遺構外出土土器（4）

遺構外出土土器（5）




遺構外出土土器（6）

遺構外出土土器（7）



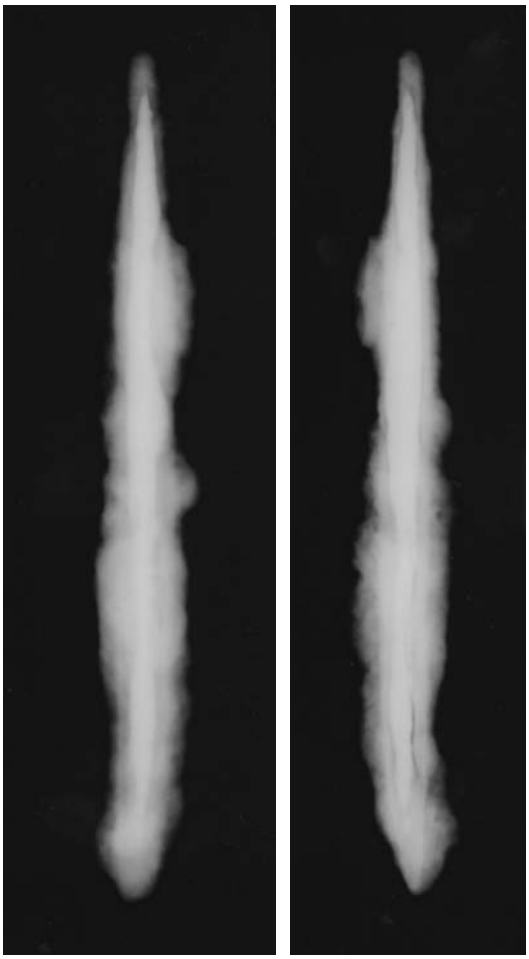

遺構外出土土器（8）

遺構外出土移動式竈

遺構外出土土玉

遺構外出土青磁

遺構外出土鉄鑿



鉄鑿Ｘ線写真（左：平面　右：右側面）

鉄鑿柄部拡大

遺構外出土石器（１）

遺構外出土石器（２）

遺構外出土石器（３）

# 報　告　書　抄　録

| | |
|---|---|
| ふりがな | さかいきたいざこいせき |
| 書名 | 境北井埒遺跡 |
| 副書名 | 一般国道180号(南部バイパス）道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 |
| 巻次 | Ⅱ |
| シリーズ名 | 一般財団法人米子市文化財団埋蔵文化財発掘調査報告書 |
| シリーズ番号 | ２ |
| 編著者名 | 高橋浩樹 |
| 編集機関 | 一般財団法人 米子市文化財団 埋蔵文化財調査室 |
| 所在地 | 〒683－0011　鳥取県米子市福市281番地　　TEL・FAX 0859-26-0455<br>eメールアドレス　　yonagomaibun@clear.ocn.ne.jp |
| 発行年月日 | 西暦２０１３年１２月２７日　　平成２５年１２月２７日 |

| 所収遺跡名 | 所在地 | コード | | 北緯 | 東経 | 調査期間 | 調査面積 | 調査原因 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 市町村 | 遺跡番号 | | | | | |
| 境北井埒遺跡 | 鳥取県西伯郡<br>南部町境 | 31389 | 南部町<br>６５０ | 35度<br>22分<br>58秒 | 133度<br>20分<br>18秒 | 2009年10月5日<br>～<br>2010年3月20日 | 5,000㎡ | 道路建設<br>工事 |

| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | 特記事項 |
|---|---|---|---|---|---|
| 境北井埒遺跡 | 集落跡 | 縄文時代 | 落し穴 | | |
| | | 弥生時代後期<br>～<br>古墳時代前期 | 竪穴住居跡<br>竪穴状遺構<br>段状遺構<br>溝状遺構<br>土　坑 | 弥生土器、土師器、石器 | |
| | | 古墳時代後期 | 竪穴住居跡<br>段状遺構<br>掘立柱建物跡<br>土　坑 | 土師器、須恵器、石器 | |
| | | 古　　代 | 段状遺構<br>掘立柱建物跡 | 土師器、須恵器 | |

## 要　　約


境北井埒遺跡は、法勝寺川中流域の左岸にあり、標高34～53ｍの丘陵と谷部に位置する。

調査の結果、縄文時代の落し穴、弥生時代後期から古墳時代前期、古墳時代後期、古代の集落跡を確認した。

弥生時代後期から古墳時代前期前葉にかけては、丘陵上部に集落が形成されるが、古墳時代前期後葉になると集落は低地へと移動する。古墳時代後期になると、再び丘陵上に集落が形成され、古代には丘陵の中腹に遺構は限定され、時期によって遺構の立地が変遷している。また、いずれの時期も竪穴住居跡と段状遺構は、同じような位置に複数回建て替えられている。

一般財団法人米子市文化財団埋蔵文化財発掘調査報告書２
一般国道180号（南部バイパス）道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ

鳥取県西伯郡南部町

境北井埼遺跡

２０１３年１２月

編集・発行　一般財団法人　米子市文化財団

〒６８３－００１１　鳥取県米子市福市２８１番地

ＴＥＬ　０８５９－２６－０４５５

印　　刷　有限会社米子プリント社